



- 1. 改訂情報
- 2. はじめに
 - 2.1. 本書の目的
 - 2.2. 前提条件
 - 2.3. 対象読者
 - 2.4. 本書の構成
- 3. 機能一覧
 - 3.1. プロジェクトの管理
 - 3.1.1. プロジェクトの概要
 - 3.1.2. プロジェクト画面
 - 3.1.3. プロジェクトの登録
 - 3.1.4. プロジェクトの更新
 - 3.1.5. プロジェクトの認可設定
 - 3.1.6. プロジェクトの削除
 - 3.2. プロセス定義/ケース定義の管理
 - 3.2.1. プロジェクト詳細エリア
 - 3.2.2. ケース定義の新規作成
 - 3.2.3. プロセス定義の新規作成
 - 3.2.4. プロセス定義/ケース定義のアップロード
 - 3.2.5. プロセス定義の説明の変更
 - 3.2.6. プロセス定義/ケース定義の編集
 - 3.2.7. プロセス定義/ケース定義のダウンロード
 - 3.2.8. プロセス定義の参照
 - 3.2.9. プロセス定義/ケース定義の削除
 - 3.3. リソースの管理
 - 3.3.1. リソース管理エリア
 - 3.3.2. リソースのアップロード・更新
 - 3.3.3. リソースのダウンロード
 - 3.3.4. リソースの削除
 - 3.4. プロセス定義の設計書出力
 - 3.4.1. プロセス定義の設計書出力の実行
 - 3.4.2. 出力される設計書の構成
 - 3.5. プロセス定義/ケース定義のデプロイ
 - 3.5.1. デプロイ情報の入力
 - 3.6. プロジェクトの履歴
 - 3.6.1. プロジェクトの履歴一覧
 - 3.6.2. 作業コメントを編集する
 - 3.6.3. リソースを復元する
 - 3.6.4. リソースを比較する
 - 3.7. プロセス定義の履歴
 - 3.7.1. プロセス定義の履歴一覧
 - 3.7.2. 作業コメントを編集する
 - 3.7.3. リソースを復元する
 - 3.7.4. リソースの差分を比較する
 - 3.8. プロセス定義の比較
 - 3.8.1. プロセス定義の比較機能
- 4. プロセスエディタ
 - 4.1. 基本機能
 - 4.1.1. プロセスエディタの詳細
 - 4.1.1.1. コンソールの詳細
 - 4.1.2. ヘッダメニューの詳細
 - 4.1.2.1. ファイル

- 4.1.2.1.1. 名前を付けて保存
- 4.1.2.1.2. 上書き保存
- 4.1.2.1.3. 名前を付けて保存（チェックなし）
- 4.1.2.1.4. 上書き保存（チェックなし）
- 4.1.2.1.5. チェックを実行
- 4.1.2.1.6. 詳細情報
- 4.1.2.1.7. XMLを表示
- 4.1.2.1.8. 終了
- 4.1.2.2. 編集
 - 4.1.2.2.1. 元に戻す
 - 4.1.2.2.2. やり直し
 - 4.1.2.2.3. すべて選択
 - 4.1.2.2.4. 選択を解除
 - 4.1.2.2.5. 選択した要素を削除
- 4.1.2.3. 表示
 - 4.1.2.3.1. 拡大
 - 4.1.2.3.2. 縮小
 - 4.1.2.3.3. 拡大/縮小をリセット
 - 4.1.2.3.4. パレット
 - 4.1.2.3.5. アウトライン
 - 4.1.2.3.6. プロパティ
 - 4.1.2.3.7. コンソール
- 4.1.2.4. 設定
 - 4.1.2.4.1. プロパティ表示位置
 - 4.1.2.4.2. キー割り当て
 - 4.1.2.4.3. コネクションの折れ方を変更
- 4.2. プロセス定義のプロパティ
 - 4.2.1. 基本情報
 - 4.2.1.1. 基本情報の設定
 - 4.2.1.2. 「コンテナの表示順」ダイアログ
 - 4.2.1.3. 「タスクの表示順」ダイアログ
 - 4.2.2. プロセス
 - 4.2.2.1. プロセスの設定
 - 4.2.3. メッセージ&シグナル
 - 4.2.3.1. メッセージ&シグナルの設定
 - 4.2.3.2. メッセージの設定
 - 4.2.3.3. シグナルの設定
- 4.3. フローエレメントとそのプロパティ
 - 4.3.1. コネクション
 - 4.3.1.1. シーケンスフロー
 - 4.3.1.1.1. シーケンスフローの配置
 - 4.3.1.1.2. 基本情報の設定
 - 4.3.1.1.3. メインコンフィグの設定
 - 4.3.1.2. 関連コネクタ
 - 4.3.1.2.1. 関連コネクタの配置
 - 4.3.1.2.2. 基本情報の設定
 - 4.3.1.3. メッセージフロー
 - 4.3.1.3.1. メッセージフローの配置
 - 4.3.1.3.2. 基本情報の設定
 - 4.3.2. コンテナ
 - 4.3.2.1. イベントサブプロセス
 - 4.3.2.1.1. イベントサブプロセスの配置
 - 4.3.2.1.2. 基本情報の設定
 - 4.3.2.1.3. 「タスクの表示順」ダイアログ
 - 4.3.2.2. サブプロセス

- 4.3.2.2.1. サブプロセスの配置
- 4.3.2.2.2. 基本情報の設定
- 4.3.2.2.3. 「タスクの表示順」ダイアログ
- 4.3.2.3. プール・レーン
 - 4.3.2.3.1. プール
 - 4.3.2.3.2. レーン
- 4.3.3. 開始イベント
 - 4.3.3.1. 開始イベント
 - 4.3.3.1.1. 開始イベントの配置
 - 4.3.3.1.2. 基本情報の設定
 - 4.3.3.1.3. メインコンフィグの設定
 - 4.3.3.2. タイマ開始イベント
 - 4.3.3.2.1. タイマ開始イベントの配置
 - 4.3.3.2.2. 基本情報の設定
 - 4.3.3.2.3. メインコンフィグの設定
 - 4.3.3.3. シグナル開始イベント
 - 4.3.3.3.1. シグナル開始イベントの配置
 - 4.3.3.3.2. 基本情報の設定
 - 4.3.3.3.3. メインコンフィグの設定
 - 4.3.3.4. メッセージ開始イベント
 - 4.3.3.4.1. メッセージ開始イベントの配置
 - 4.3.3.4.2. 基本情報の設定
 - 4.3.3.4.3. メインコンフィグの設定
 - 4.3.3.5. エラー開始イベント
 - 4.3.3.5.1. エラー開始イベントの配置
 - 4.3.3.5.2. 基本情報の設定
 - 4.3.3.5.3. メインコンフィグの設定
- 4.3.4. 終了イベント
 - 4.3.4.1. 終了イベント
 - 4.3.4.1.1. 終了イベントの配置
 - 4.3.4.1.2. 基本情報の設定
 - 4.3.4.2. エラー終了イベント
 - 4.3.4.2.1. エラー終了イベントの配置
 - 4.3.4.2.2. 基本情報の設定
 - 4.3.4.2.3. メインコンフィグの設定
 - 4.3.4.3. 強制終了イベント
 - 4.3.4.3.1. 強制終了イベントの配置
 - 4.3.4.3.2. メインコンフィグの設定
 - 4.3.4.3.3. 基本情報の設定
- 4.3.5. タスク
 - 4.3.5.1. アブストラクトタスク
 - 4.3.5.1.1. アブストラクトタスクの配置
 - 4.3.5.1.2. 基本情報の設定
 - 4.3.5.1.3. 「タスク追加時のパラメータ」ダイアログ
 - 4.3.5.2. ユーザタスク
 - 4.3.5.2.1. ユーザタスクの配置
 - 4.3.5.2.2. 基本情報の設定
 - 4.3.5.2.3. 「タスク追加時のパラメータ」ダイアログ
 - 4.3.5.2.4. メインコンフィグの設定
 - 4.3.5.3. スクリプトタスク
 - 4.3.5.3.1. スクリプトタスクの配置
 - 4.3.5.3.2. 基本情報の設定
 - 4.3.5.3.3. 「タスク追加時のパラメータ」ダイアログ
 - 4.3.5.3.4. メインコンフィグの設定
 - 4.3.5.4. サービスタスク

- 4.3.5.4.1. サービスタスクの配置
- 4.3.5.4.2. 基本情報の設定
- 4.3.5.4.3. 「タスク追加時のパラメータ」ダイアログ
- 4.3.5.4.4. メインコンフィグの設定
- 4.3.5.4.5. フィールドの設定
- 4.3.5.5. メールタスク
 - 4.3.5.5.1. メールタスクの配置
 - 4.3.5.5.2. 基本情報の設定
 - 4.3.5.5.3. 「タスク追加時のパラメータ」ダイアログ
 - 4.3.5.5.4. メインコンフィグの設定
- 4.3.5.6. マニュアルタスク
 - 4.3.5.6.1. マニュアルタスクの配置
 - 4.3.5.6.2. 基本情報の設定
 - 4.3.5.6.3. 「タスク追加時のパラメータ」ダイアログ
- 4.3.5.7. 受信タスク
 - 4.3.5.7.1. 受信タスクの配置
 - 4.3.5.7.2. 基本情報の設定
 - 4.3.5.7.3. 「タスク追加時のパラメータ」ダイアログ
- 4.3.5.8. コールアクティビティ
 - 4.3.5.8.1. コールアクティビティの配置
 - 4.3.5.8.2. 基本情報の設定
 - 4.3.5.8.3. 「タスク追加時のパラメータ」ダイアログ
 - 4.3.5.8.4. メインコンフィグの設定
- 4.3.6. ゲートウェイ
 - 4.3.6.1. パラレルゲートウェイ
 - 4.3.6.1.1. パラレルゲートウェイの配置
 - 4.3.6.1.2. パラレルゲートウェイによる分岐と結合
 - 4.3.6.1.3. 基本情報の設定
 - 4.3.6.2. 排他ゲートウェイ
 - 4.3.6.2.1. 排他ゲートウェイの配置
 - 4.3.6.2.2. 排他ゲートウェイによる分岐と結合
 - 4.3.6.2.3. 基本情報の設定
 - 4.3.6.3. 包括ゲートウェイ
 - 4.3.6.3.1. 包括ゲートウェイの配置
 - 4.3.6.3.2. 包括ゲートウェイによる分岐と結合
 - 4.3.6.3.3. 基本情報の設定
 - 4.3.6.4. イベントゲートウェイ
 - 4.3.6.4.1. イベントゲートウェイの配置
 - 4.3.6.4.2. イベントゲートウェイによる分岐
 - 4.3.6.4.3. 基本情報の設定
 - 4.3.6.5. デフォルトフロー
 - 4.3.6.5.1. デフォルトフローによる分岐
- 4.3.7. 境界イベント
 - 4.3.7.1. タイマ境界イベント
 - 4.3.7.1.1. タイマ境界イベントの配置
 - 4.3.7.1.2. 基本情報の設定
 - 4.3.7.1.3. メインコンフィグの設定
 - 4.3.7.2. エラー境界イベント
 - 4.3.7.2.1. エラー境界イベントの配置
 - 4.3.7.2.2. 基本情報の設定
 - 4.3.7.2.3. メインコンフィグの設定
 - 4.3.7.3. メッセージ境界イベント
 - 4.3.7.3.1. メッセージ境界イベントの配置
 - 4.3.7.3.2. 基本情報の設定
 - 4.3.7.3.3. メインコンフィグの設定

- 4.3.7.4. シグナル境界イベント
 - 4.3.7.4.1. シグナル境界イベントの配置
 - 4.3.7.4.2. 基本情報の設定
 - 4.3.7.4.3. メインコンフィグの設定
- 4.3.8. 中間イベント
 - 4.3.8.1. タイマキャッチイベント
 - 4.3.8.1.1. タイマキャッチイベントの配置
 - 4.3.8.1.2. 基本情報の設定
 - 4.3.8.1.3. メインコンフィグの設定
 - 4.3.8.2. シグナルキャッチイベント
 - 4.3.8.2.1. シグナルキャッチイベントの配置
 - 4.3.8.2.2. 基本情報の設定
 - 4.3.8.2.3. メインコンフィグの設定
 - 4.3.8.3. メッセージキャッチイベント
 - 4.3.8.3.1. メッセージキャッチイベントの配置
 - 4.3.8.3.2. 基本情報の設定
 - 4.3.8.3.3. メインコンフィグの設定
 - 4.3.8.4. シグナルスローイベント
 - 4.3.8.4.1. シグナルスローイベントの配置
 - 4.3.8.4.2. 基本情報の設定
 - 4.3.8.4.3. メインコンフィグの設定
 - 4.3.8.5. 無処理イベント
 - 4.3.8.5.1. 無処理イベントの配置
 - 4.3.8.5.2. 基本情報の設定
- 4.3.9. アーティファクト
 - 4.3.9.1. 注釈
 - 4.3.9.1.1. 注釈の配置
 - 4.3.9.1.2. 基本情報の設定
 - 4.3.9.1.3. メインコンフィグの設定
 - 4.3.9.2. データオブジェクト
 - 4.3.9.2.1. データオブジェクトの配置
 - 4.3.9.2.2. データオブジェクトの矢印の方向
 - 4.3.9.2.3. 基本情報の設定
 - 4.3.9.3. データストア
 - 4.3.9.3.1. データストアの配置
 - 4.3.9.3.2. データストアの矢印の方向
 - 4.3.9.3.3. 基本情報の設定
- 4.3.10. intra-mart
 - 4.3.10.1. IM-LogicDesignerタスク
 - 4.3.10.1.1. IM-LogicDesignerタスクの配置
 - 4.3.10.1.2. 基本情報の設定
 - 4.3.10.1.3. 「タスク追加時のパラメータ」ダイアログ
 - 4.3.10.1.4. メインコンフィグの設定
 - 4.3.10.1.5. 入力データの設定
 - 4.3.10.2. 申請タスク
 - 4.3.10.2.1. 申請タスクの配置
 - 4.3.10.2.2. 基本情報の設定
 - 4.3.10.2.3. 「タスク追加時のパラメータ」ダイアログ
 - 4.3.10.2.4. メインコンフィグの設定
 - 4.3.10.2.5. 入力データの設定
 - 4.3.10.3. 起票タスク
 - 4.3.10.3.1. 起票タスクの配置
 - 4.3.10.3.2. 基本情報の設定
 - 4.3.10.3.3. 「タスク追加時のパラメータ」ダイアログ
 - 4.3.10.3.4. メインコンフィグの設定

- 4.3.10.3.5. 申請ノード処理対象者の設定
- 4.3.10.3.6. 入力データの設定
- 4.4. 共通のプロパティ
 - 4.4.1. 説明
 - 4.4.1.1. 説明の設定
 - 4.4.2. データオブジェクト
 - 4.4.2.1. データオブジェクトの設定
 - 4.4.2.2. データプロパティの設定
 - 4.4.3. タスクリスナ
 - 4.4.3.1. タスクリスナの設定
 - 4.4.3.2. 入力データの設定
 - 4.4.3.3. フィールドの設定
 - 4.4.4. 実行リスナ
 - 4.4.4.1. 実行リスナの設定
 - 4.4.4.2. 入力データの設定
 - 4.4.4.3. フィールドの設定
 - 4.4.5. フォーム
 - 4.4.5.1. フォームプロパティの設定
 - 4.4.5.2. フォーム値の設定
 - 4.4.6. マルチインスタンス
 - 4.4.6.1. マルチインスタンスの設定
 - 4.4.7. 関連ドキュメント
 - 4.4.7.1. 関連ドキュメントの設定
 - 4.4.8. 表現
 - 4.4.8.1. 表現の設定
- 5. プロセスデザイナー（デスクトップ版）
 - 5.1. プロセスデザイナー（デスクトップ版）を取得する
 - 5.2. プロセスデザイナー（デスクトップ版）をインストールする
 - 5.2.1. Windows
 - 5.3. プロセスデザイナー（デスクトップ版）を使用する
- 6. ケースエディタ
 - 6.1. 基本機能
 - 6.1.1. ケースエディタの詳細
 - 6.1.1.2. ヘッダメニューの詳細
 - 6.1.1.2.1. ファイル
 - 6.1.1.2.1.1. 名前を付けて保存
 - 6.1.1.2.1.2. 上書き保存
 - 6.1.1.2.1.3. 名前を付けて保存（チェックなし）
 - 6.1.1.2.1.4. 上書き保存（チェックなし）
 - 6.1.1.2.1.5. チェックを実行
 - 6.1.1.2.2. 設定
 - 6.1.1.2.2.1. ケース定義プロパティ
 - 6.1.1.2.3. ツール
 - 6.1.1.2.3.1. ビューア
 - 6.1.1.2.4. 元に戻す/やり直し
 - 6.1.1.2.4.1. 元に戻す
 - 6.1.1.2.4.2. やり直し
 - 6.1.2. 設定
 - 6.1.2.3. ツール
 - 6.1.2.3.1. ビューア
 - 6.1.2.4. 元に戻す/やり直し
 - 6.1.2.4.1. 元に戻す
 - 6.1.2.4.2. やり直し
 - 6.2. 各要素とそのプロパティ
 - 6.2.1. ステージ
 - 6.2.1.1. 追加方法
 - 6.2.1.2. プロパティ
 - 6.2.2. 例外ステージ
 - 6.2.2.1. 追加方法
 - 6.2.2.2. プロパティ
 - 6.2.3. 関係者

- [6.2.3.1. 追加方法](#)
- [6.2.3.2. プロパティ](#)
- [6.2.4. タスク](#)
 - [6.2.4.1. 追加方法](#)
 - [6.2.4.2. プロパティ](#)

変更年月日	変更内容
2018-12-01	初版
2019-04-01	第2版 下記を追加・変更しました。 ■ 「プール・レーン」プールの説明を加筆しました。 ■ 「プール」プールの説明を加筆しました。 ■ 「プロセス」プールの説明を加筆しました。 ■ 「データオブジェクト」データオブジェクトの説明を修正しました。 ■ 「アーティファクト」に「データストア」を追加しました。
2019-08-01	第3版 下記を追加・変更しました。 ■ 「オプションタスク」に関する説明を各ページに追記しました。
2019-12-01	第4版 下記を追加・変更しました。 ■ 「プロセス」にアドホックタスクに関する説明を追加しました。 ■ 「機能一覧」内の各ページに、ケース定義に関する説明を追加しました。 ■ 「ケースエディタ」を追加しました。
2020-04-01	第5版 下記を追加・変更しました。 ■ 「申請タスク」申請タスクの「優先度」の入力形式、説明を修正しました。 ■ 「起票タスク」起票タスクの「優先度」の入力形式、説明を修正しました。 ■ 「起票タスク」起票タスクのメインコンフィグに「参照可能な変数を継承する」と「入力データ」を追加しました。 ■ 「スクリプトタスク」の「スクリプトファイル」と「結果変数名」の説明を修正しました。 ■ 「スクリプトタスク」にスクリプトファイルをWARファイルに組み込む方法を追加しました。 ■ 「データオブジェクト」データオブジェクトの「型」と「値」の説明を修正しました。 ■ 「ケースエディタ」 - 「ヘッダメニューの詳細」に「元に戻す/やり直し」を追加しました。
2020-08-01	第6版 下記を追加・変更しました。 ■ 「タイマ境界イベント」メインコンフィグの設定の「周期」の説明を修正しました。 ■ 「タイマキャッチイベント」メインコンフィグの設定の「周期」の説明を修正しました。 ■ 「プロセス定義の比較」のアクションに「コネクション変更」を追加しました。 ■ 「プロセスエディタ」 - 「ヘッダメニューの詳細」に「コネクションの折れ方を変更」を追加しました。
2020-12-01	第7版 下記を変更しました。 ■ 「タスクリスナ」設定項目の名称を「最新バージョン」から「利用するバージョン」に変更しました。 ■ 「実行リスナ」設定項目の名称を「最新バージョン」から「利用するバージョン」に変更しました。 ■ 「ケース定義プロパティ」の「アドホックタスクのフォームキー」の説明を修正しました。

変更年月日	変更内容
2023-10-01	第8版 下記を変更しました。 ■ 「プロセスの設定」プロパティの詳細に「参加者」「参加者グループ」を追加しました。 ■ 「コールアクティビティ」プロパティの詳細に「利用するバージョン」「バージョン番号」を追加しました。 ■ 「プロセスデザイナー (デスクトップ版)」Mac版の廃止に伴ってMac版の記載を削除しました。 ■ 「タイマ開始イベント」プロパティの詳細に「日付計算方法」、および「カスタムカレンダーロジック」を追加しました。 ■ 「タイマ境界イベント」プロパティの詳細に「日付計算方法」、および「カスタムカレンダーロジック」を追加しました。 ■ 「タイマキャッチイベント」プロパティの詳細に「日付計算方法」、および「カスタムカレンダーロジック」を追加しました。

項目

- [本書の目的](#)
- [前提条件](#)
- [対象読者](#)
- [本書の構成](#)

本書の目的

本書は、プロセスデザイナーを利用してBPMN（Business Process Model and Notation）2.0「国際標準（ISO19510）」のビジネスプロセスの作成を始める開発者の皆様の支援を目的とした操作ガイドです。

プロセス定義の作成から、intra-mart Accel Platformのデプロイまでの基本的な操作を習得することを目的としています。

intra-mart Accel Platformにデプロイしたプロセス定義をシステム画面上で利用する方法や操作する方法については「[IM-BPM ユーザ操作ガイド](#)」を参照してください。

また、プロセス定義を作成する方法や運用する方法については「[IM-BPM チュートリアルガイド](#)」を参照してください。

前提条件

- プロセスデザイナーを使用するシステム要件は、利用するintra-mart Accel Platformの要件に準じます。

対象読者

本書では以下の目的で プロセスデザイナーを利用する開発者を対象としています。

- プロセスデザイナーを利用してBPMNによる業務を可視化し、BPMのプロセス定義を作成したい開発者
- IM-BPM for Accel Platformで業務を管理するためのプロセス定義を作成したい開発者

なお、本書では次の内容を理解していることを前提としています。

- BPMN2.0を利用したプロセス定義の基本的な知識

また必要に応じて下記の内容を理解していることで、より幅広く機能を利用できます。

- Java、または、JavaScriptを利用したプログラム開発の基本的な知識
- intra-mart Accel Platformを利用した開発の基礎知識
- 他のアプリケーションを利用したプロセス定義を作成する場合、対象となるアプリケーションの基礎知識
 - IM-LogicDesigner
 - IM-Workflow
 - IM-FormaDesigner for Accel Platform
 - IM-BIS for Accel Platform

本書の構成

- [機能一覧](#)

プロセスデザイナーを利用したプロジェクトおよびプロセスの管理、システムへのデプロイの方法について解説を行います。

- [プロセスエディタ](#)

プロセスエディタを扱う画面の機能について解説を行います。

- [ケースエディタ](#)

ケースエディタを扱う画面の機能について解説を行います。

プロセスデザイナーは、IM-BPMに用意されている以下のいずれかのロールを持つユーザにて操作が可能です。

- IM-BPM管理者
- IM-BPM開発者

本章では、プロセスデザイナーで利用できる機能や設定、プロセス定義/ケース定義を作成する流れについて説明します。

プロジェクトの管理

本項では、プロジェクトの概要、および、プロジェクトを登録・管理する方法について説明します。

プロジェクトの概要

プロジェクトとは、プロセス定義やケース定義、および、プロセス定義内で利用するリソースを格納するための管理単位です。

「プロジェクト」画面にて登録したプロジェクトは、intra-mart Accel Platform内に保存され、開発者間で共有されます。

認可設定をプロジェクトに対して適切に行うことで、開発者の処理権限を会社・組織・グループ・業務単位などに分けてコントロールすることが可能です。

i コラム

本機能を利用するユーザは「IM-BPM管理者」、または、「IM-BPM開発者」ロールを付与されている必要があります。
2つのロールには以下の違いがあります。

- 「IM-BPM管理者」は、全てのプロジェクトに対して、認可設定を除く全ての操作を実行可能です。
 - 「IM-BPM開発者」は、認可設定で許可されたプロジェクトに対して、許可された操作のみを実行可能です。
- 詳細は各機能のコラム、および「[プロジェクトの認可設定](#)」を参照してください。

プロジェクト画面

プロジェクトの一覧を表示する、「プロジェクト」画面を開きます。

1. 「サイトマップ」→「BPM」→「プロセスデザイナー」から、「プロジェクト」画面を表示します。
2. 登録されているプロジェクトの一覧が表示されます。

プロジェクト	
登録	
サンプルプロジェクト1	
ケース定義数	1
プロセス定義数	2
リソース数	2
最終更新者	tenant
最終更新日	2019/11/14 19:12:14
サンプルプロジェクト2	
ケース定義数	0
プロセス定義数	1
リソース数	0
最終更新者	tenant
最終更新日	2019/11/14 19:12:54

図：「プロジェクト」

コラム

「IM-BPM開発者」では、認可設定の「管理」「編集」「デプロイ」「参照」アクションのいずれかが許可されているプロジェクトのみが表示されます。

プロジェクトの登録

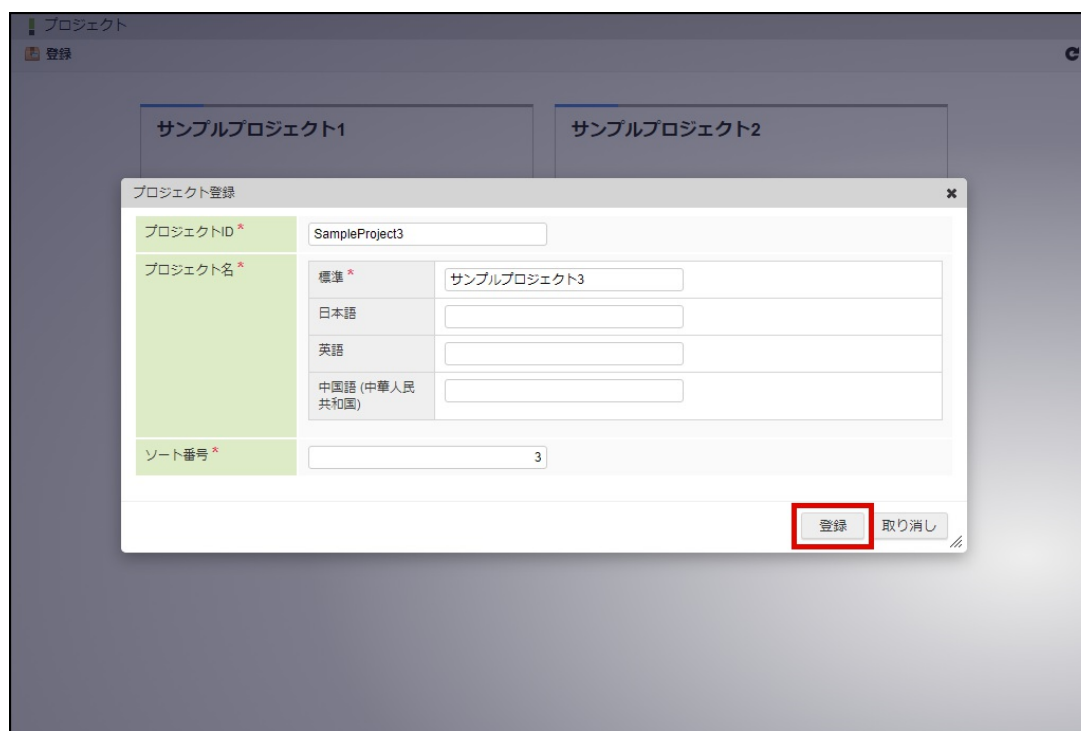
新規にプロジェクトを登録します。

1. 「サイトマップ」→「BPM」→「プロセスデザイナー」から、「プロジェクト」画面を表示します。
2. 「プロジェクト」画面、ツールバー内の「登録」をクリックします。
3. 「登録」をクリックします。



図：「プロジェクト」 - 「登録」

4. 必要な情報を入力し、「登録」をクリックします。



図：「プロジェクト」 - 「プロジェクト登録」

項目名	説明
プロジェクトID	プロジェクトのIDです。 全てのプロジェクトの中で一意である必要があります。 必須項目です。
プロジェクト名	プロジェクトの名称を入力します。 - 標準 標準の名称を入力します。 ユーザが利用するロケールのプロジェクト名が登録されていない場合に使用されます。 必須項目です。 - その他 システムで利用可能なロケールについて、それぞれ名称を入力します。
ソート番号	プロジェクト画面での各プロジェクトの表示順序です。 必須項目です。

5. 確認ダイアログにて「決定」をクリックします。

6. プロジェクトが新規に登録されます。

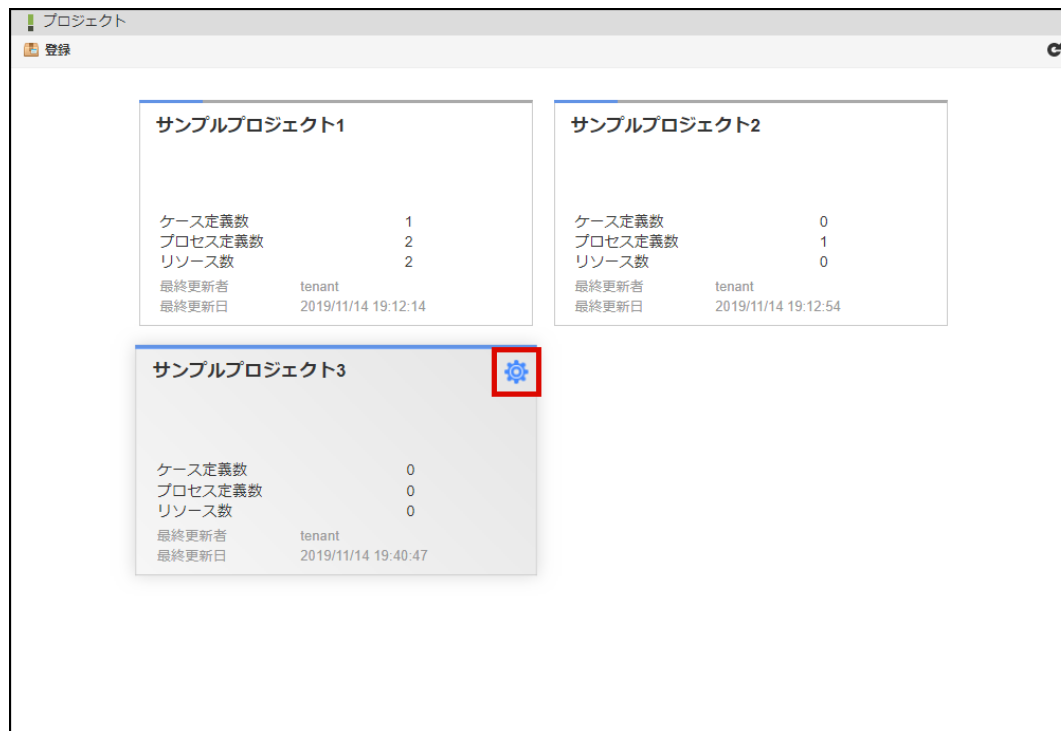


図：「プロジェクト」

プロジェクトの更新

登録済みのプロジェクトの情報を更新します。

- 「サイトマップ」→「BPM」→「プロセスデザイナー」から、「プロジェクト」画面を表示します。
- 更新したいプロジェクトにマウスカーソルを合わせ、出現する  をクリックします。



図：「プロジェクト」 - 「更新」



コラム

「IM-BPM開発者」では、このプロジェクトに対して認可設定の「管理」アクションが許可されている場合のみ、が表示されます。

3. 必要な情報を編集し、「更新」をクリックします。



図：「プロジェクト」 - 「プロジェクト更新」

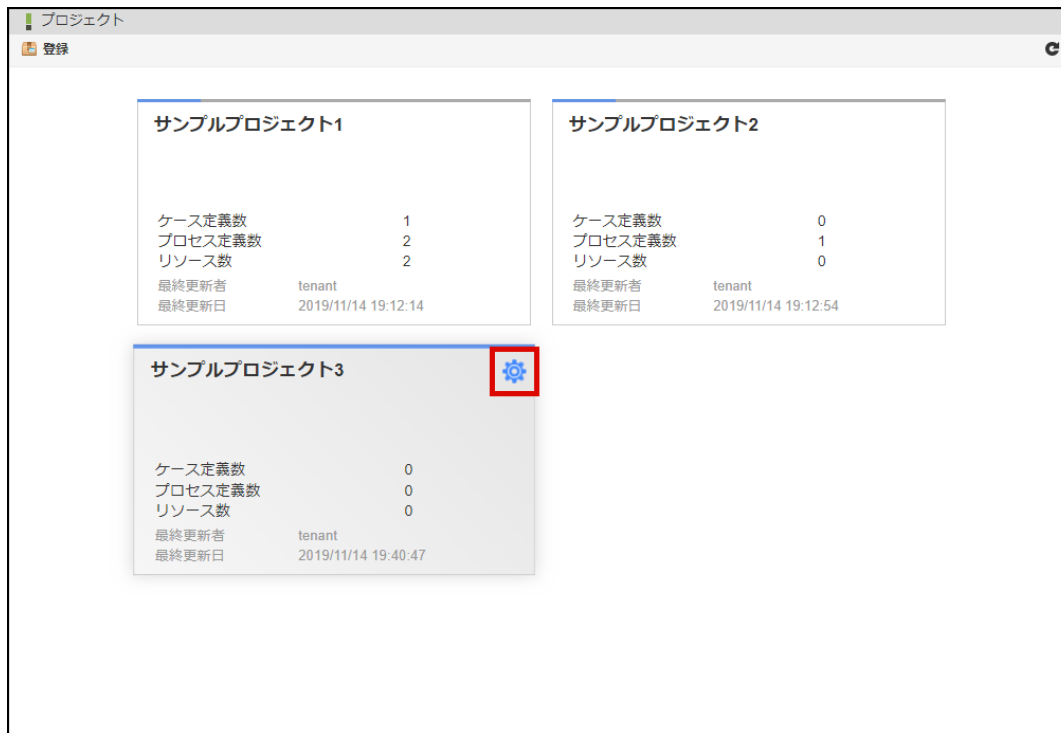
4. 確認ダイアログにて「決定」をクリックします。
5. プロジェクトが更新されます。

プロジェクトの認可設定

注意

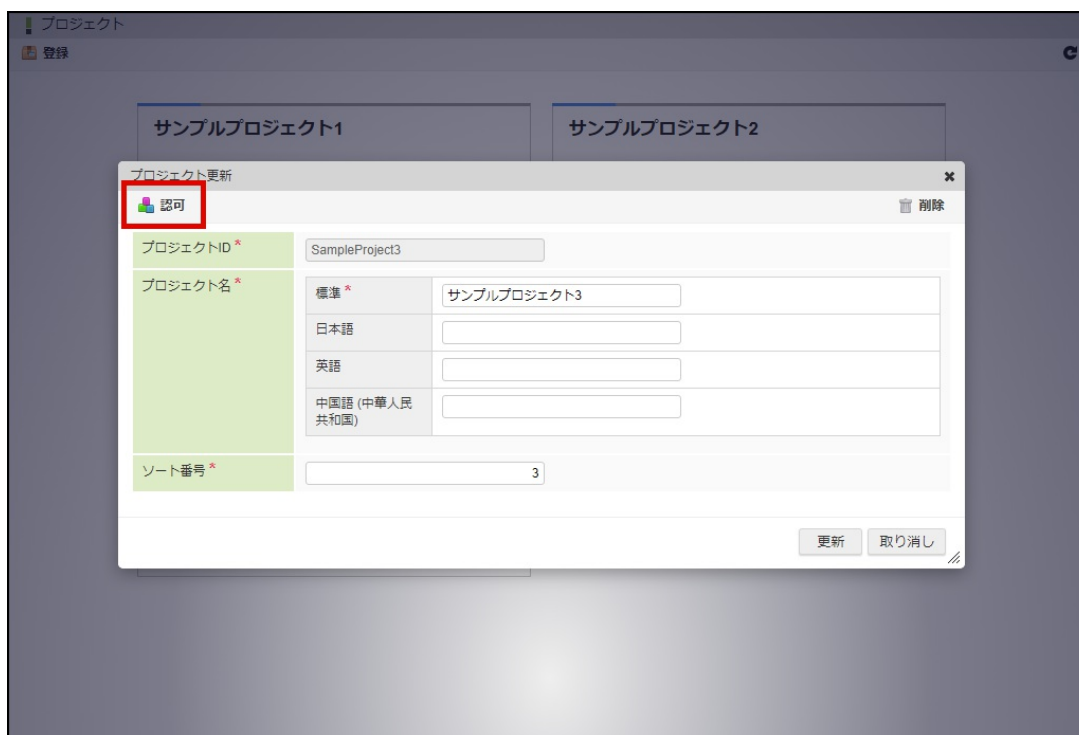
本操作を実行するためには「IM-BPM管理者」、または、「IM-BPM開発者」のロールのほかに、「テナント管理者」や「認可管理者」などの認可設定を行うことができるロールを持つユーザでアクセスする必要があります。

1. 「サイトマップ」→「BPM」→「プロセスデザイナー」から、「プロジェクト」画面を表示します。
2. 更新したいプロジェクトにマウスカーソルを合わせ、出現する  をクリックします。



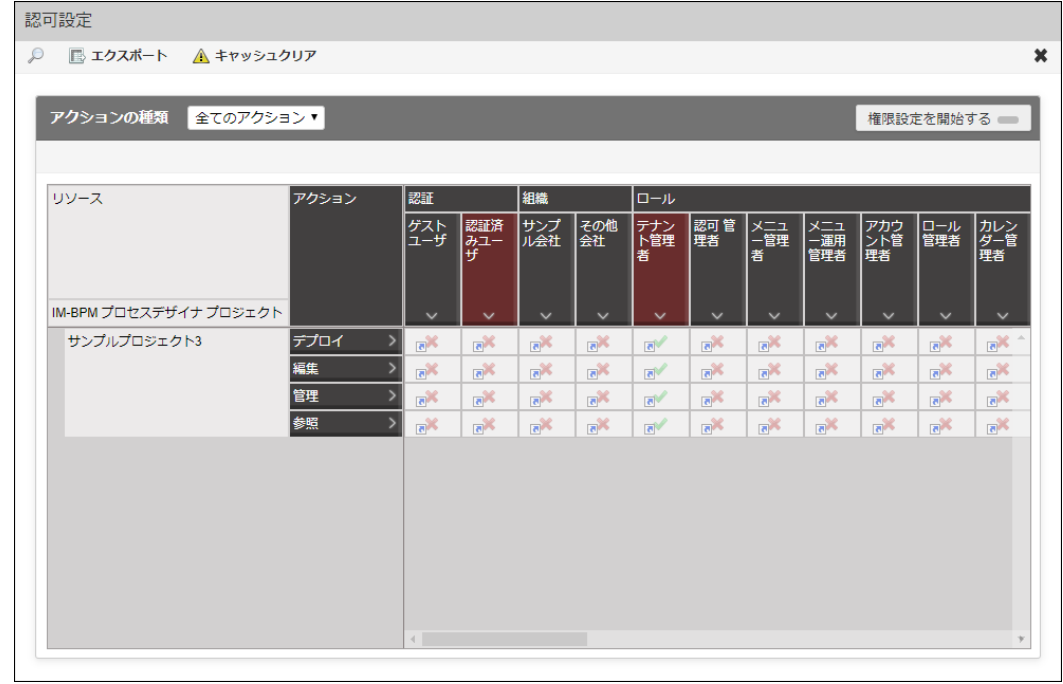
図：「プロジェクト」 - 「更新」

3. 「認可」をクリックし、「認可設定」ポップアップ画面を開きます。



図：「プロジェクト」 - 「プロジェクト更新」 - 「認可」

4. 任意のサブジェクトに対して、各アクション（管理・編集・デプロイ・参照）のポリシーを設定します。



図：「認可設定」

コラム

プロジェクトのリソースタイプは「IM-BPM プロセスデザイナー プロジェクト」です。
このリソースタイプで定義されているアクションは次の4つです。

- デプロイ
- 編集
- 管理
- 参照

標準では、「IM-BPM管理者」は全てのアクションが許可されています。

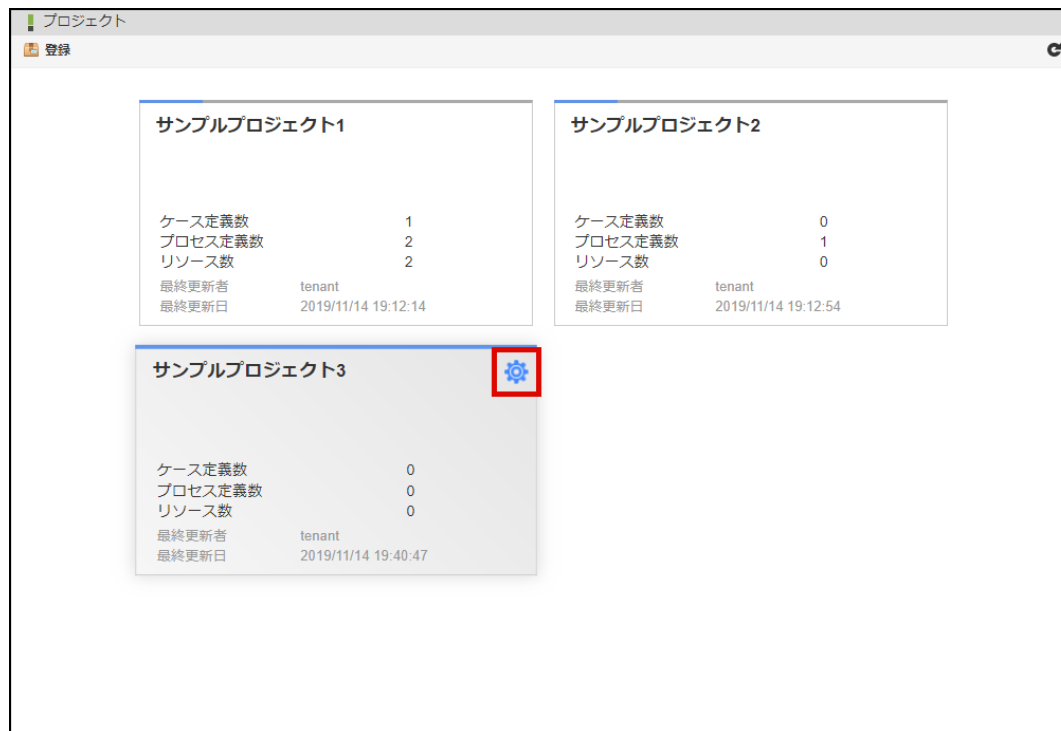
認可設定可能なユーザが各アクションを許可することで、「IM-BPM開発者」はそれぞれ以下の機能の操作が行えます。

機能名	デプロイ	編集	管理	参照
プロジェクトの表示	○	○	○	○
プロジェクトの更新・削除	×	×	○	×
プロセス定義の新規作成・アップロード	×	○	×	×
プロセス定義の情報設定・編集・削除	×	○	×	×
プロセス定義のダウンロード	×	○	×	×
リソースのアップロード・更新・削除	×	○	×	×
リソースのダウンロード	×	○	×	×
プロセス定義の設計書出力	×	○	×	×
プロセス定義のデプロイ	○	×	×	×
プロセス定義の参照	×	×	×	○
プロセス定義/リソースの履歴一覧の取得	×	×	×	○
プロセス定義の比較	×	×	×	○
プロセス定義・リソースの復元	×	○	×	×
プロセス定義/リソースの作業コメントの編集	×	○	×	×
ケース定義の新規作成・アップロード	×	○	×	×
ケース定義の編集・削除	×	○	×	×
ケース定義のダウンロード	×	○	×	×
ケース定義のデプロイ	○	×	×	×

プロジェクトの削除

登録済みのプロジェクトを削除します。

1. 「サイトマップ」→「BPM」→「プロセスデザイナー」をクリックし、「プロジェクト」画面を表示します。
2. 更新したいプロジェクトにマウスカーソルを合わせ、出現する  をクリックします。



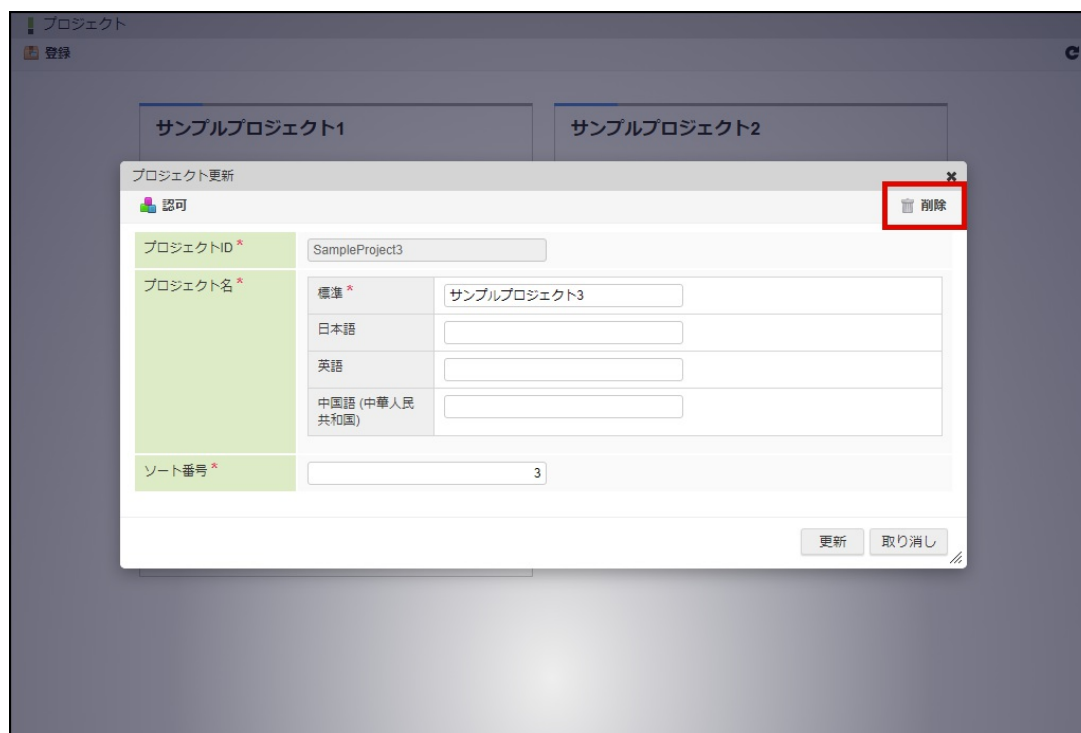
図：「プロジェクト」 - 「更新」



コラム

「IM-BPM開発者」では、このプロジェクトに対して認可設定の「管理」アクションが許可されている場合のみ、 が表示されます。

3. 「削除」をクリックします。



図：「プロジェクト」 - 「プロジェクト更新」 - 「削除」

4. 確認ダイアログにて「決定」をクリックします。
5. プロジェクトが削除されます。

プロセス定義/ケース定義の管理

本項では、プロセス定義とケース定義をプロジェクトに追加・管理する方法について説明します。

プロセス定義とケース定義はプロセスデザイナーに用意されているエディタで作成します。

「プロセスデザイナー（デスクトップ版）」で作成したプロセス定義ファイルを、アップロードすることでも追加できます。

i コラム

本機能を利用するユーザは「IM-BPM管理者」、または、「IM-BPM開発者」ロールを付与されている必要があります。
2つのロールには以下の違いがあります。

- 「IM-BPM管理者」は、全てのプロジェクトに対して、認可設定を除く全ての操作を実行可能です。
 - 「IM-BPM開発者」は、「IM-BPM管理者」によって認可設定で許可されたプロジェクトに対して、許可された操作のみを実行可能です。
- 詳細は各機能のコラム、および「[プロジェクトの認可設定](#)」を参照してください。

i コラム

「プロセスデザイナー（デスクトップ版）」を使用する場合は、「[プロセスデザイナー（デスクトップ版）](#)」を参照してください。

プロジェクト詳細エリア

プロセス定義/ケース定義を管理する、「プロジェクト詳細エリア」を開きます。

- 「サイトマップ」→「BPM」→「プロセスデザイナー」から、「プロジェクト」画面を表示します。
- 対象のプロジェクトをクリックします。



図：「プロジェクト」

- 「プロジェクト詳細エリア」が開きます。



図：「プロジェクト」 - 「プロジェクト詳細エリア」

4. ヘッダ行のアイコンは、プロジェクトに対しての操作を意味します。

アイコン	説明
	エディタを開き、ケース定義を新規に作成します。 「 ケース定義の新規作成 」を参照してください。
	エディタを開き、プロセス定義を新規に作成します。 「 プロセス定義の新規作成 」を参照してください。
	「プロセスデザイナー（デスクトップ版）」で作成したプロセス定義や、ダウンロードしたプロセス定義/ケース定義のファイルをアップロードして追加します。 「 プロセス定義/ケース定義のアップロード 」を参照してください。
	プロセス定義/ケース定義内で利用するリソースファイルを管理します。 「 リソース管理エリア 」を参照してください。
	プロセス定義の設計書を出力します。 「 プロセス定義の設計書出力の実行 」を参照してください。
	登録されているプロセス定義/ケース定義を、IM-BPMにデプロイします。 「 デプロイ情報の入力 」を参照してください。
	プロセス定義/ケース定義の一覧表示方法を切り替えます。
	プロジェクトの履歴一覧を新しいタブで表示します。 「 プロジェクトの履歴 」を参照してください。
	表示されている情報を更新します。
	プロジェクト詳細エリアを閉じます。

5. プロセス定義/ケース定義に付随するアイコンは、選択中のプロセス定義/ケース定義に対しての操作を意味します。

アイコン	説明
	プロセス定義の説明を変更します。 「 プロセス定義の説明の変更 」を参照してください。 このアイコンはケース定義には表示されません。
	エディタを開き、このプロセス定義/ケース定義を編集します。 「 プロセス定義/ケース定義の編集 」を参照してください。
	ビューアを開き、このプロセス定義を参照します。 「 プロセス定義の参照 」を参照してください。 このアイコンはケース定義には表示されません。
	このプロセス定義の履歴一覧を新しいタブで表示します。 「 プロセス定義の履歴 」を参照してください。 このアイコンはケース定義には表示されません。
	このプロセス定義/ケース定義をファイルとしてダウンロードします。 「 プロセス定義/ケース定義のダウンロード 」を参照してください。
	このプロセス定義/ケース定義を削除します。 「 プロセス定義/ケース定義の削除 」を参照してください。

ケース定義の新規作成

エディタを開いて、ケース定義を新規に作成します。
作成したケース定義は、このプロジェクトに登録されます。

1. 「サイトマップ」→「BPM」→「プロセスデザイナー」から、「プロジェクト」画面を表示します。
2. 対象のプロジェクトをクリックし、プロジェクト詳細エリアを開きます。

3.  をクリックして、エディタ（新しいタブ）を開きます。



図：「ケースエディタ」

コラム

「IM-BPM開発者」では、このプロジェクトに対して認可設定の「編集」アクションが許可されている場合のみ、



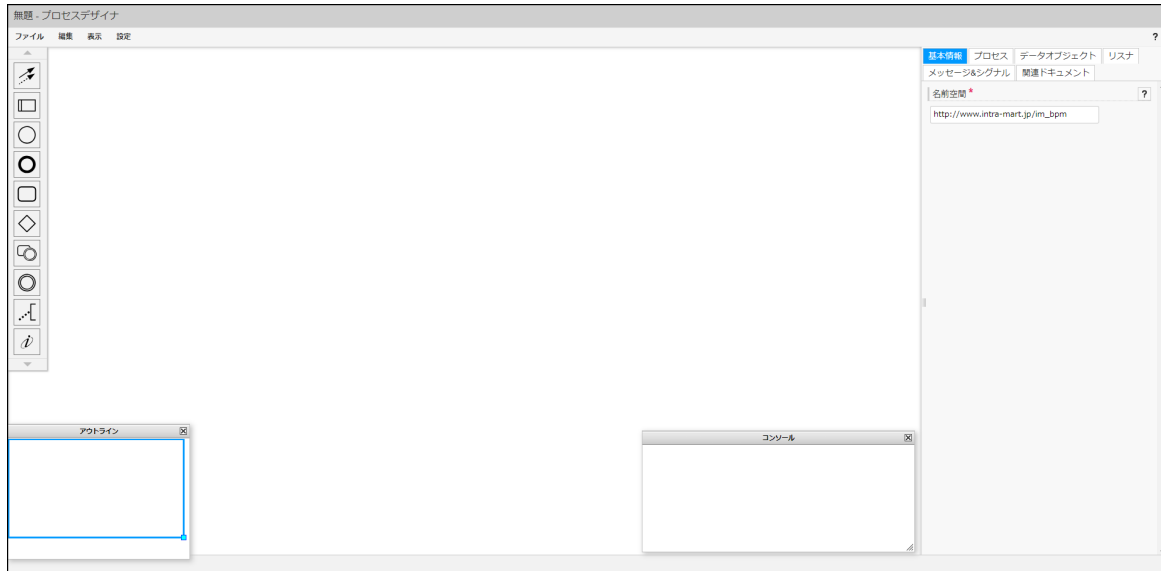
が表示

されます。

エディタを開いて、プロセス定義を新規に作成します。
作成したプロセス定義は、このプロジェクトに登録されます。

1. 「サイトマップ」→「BPM」→「プロセスデザイナー」から、「プロジェクト」画面を表示します。
2. 対象のプロジェクトをクリックし、プロジェクト詳細エリアを開きます。

3.  をクリックして、エディタ（新しいタブ）を開きます。



図：「プロセスエディタ」

コラム

「IM-BPM開発者」では、このプロジェクトに対して認可設定の「編集」アクションが許可されている場合のみ、 が表示されます。



が表示

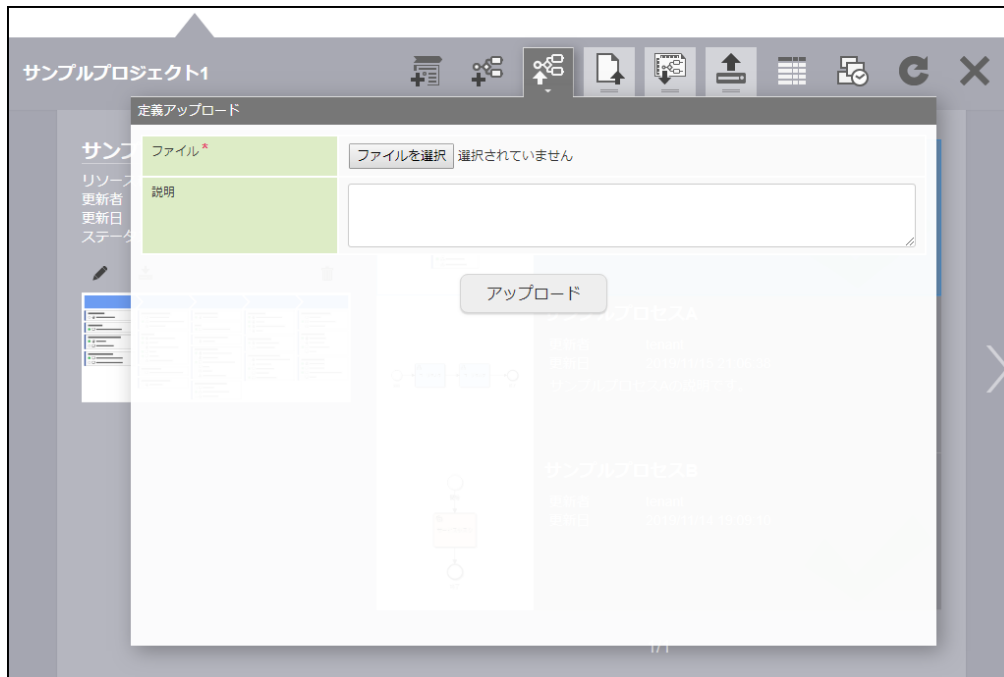
プロセス定義/ケース定義のアップロード

「プロセスデザイナー（デスクトップ版）」で作成したプロセス定義や、ダウンロードしたプロセス定義/ケース定義のファイルをアップロードして追加します。

アップロードしたプロセス定義/ケース定義はこのプロジェクトに登録されます。

1. 「サイトマップ」→「BPM」→「プロセスデザイナー」から、「プロジェクト」画面を表示します。
2. 対象のプロジェクトをクリックしてプロジェクト詳細エリアを開きます。

3.  をクリックします。



図：「プロジェクト詳細エリア」 - 「定義アップロード」

項目名	説明
ファイル	アップロードするプロセス定義/ケース定義のファイルを選択します。 必須項目です。
説明	このプロセス定義/ケース定義の説明を入力します。

- 必要な情報を入力し、「アップロード」をクリックします。
- 確認ダイアログにて「決定」をクリックします。

コラム

「IM-BPM開発者」では、このプロジェクトに対して認可設定の「編集」アクションが許可されている場合のみ、



が表示

されます。

注意

本機能によりアップロードされたプロセス定義については、サムネイル画像が生成されません。
サムネイル画像を生成するには、プロセスデザイナーで上書き保存を行ってください。

プロセス定義の説明の変更

登録済みのプロセス定義の説明を変更します。

- 「サイトマップ」→「BPM」→「プロセスデザイナー」から、「プロジェクト」画面を表示します。
- 対象のプロジェクトをクリックしてプロジェクト詳細エリアを開きます。
- 一覧から説明を変更したいプロセス定義を選択します。
-  をクリックし、プロセス定義の説明変更エリアを開きます。



図：「プロジェクト詳細エリア」 - 「説明の変更」

項目名	説明
説明	このプロセス定義/ケース定義の説明を入力します。

- 必要な情報を入力し、「変更」をクリックします。
- 確認ダイアログにて「決定」をクリックします。



コラム

ケース定義には  は表示されません。

「IM-BPM開発者」では、このプロジェクトに対して認可設定の「編集」アクションが許可されている場合のみ、 が表示されます。

プロセス定義/ケース定義の編集

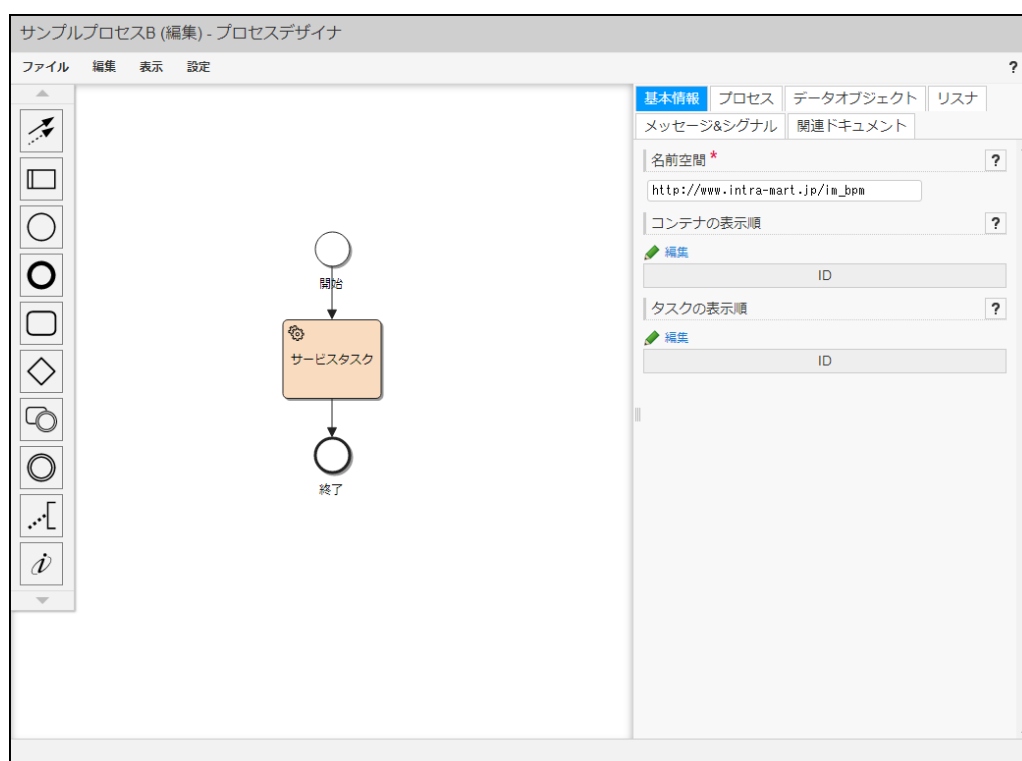
エディタを開いて、登録済みのプロセス定義/ケース定義を編集します。

- 「サイトマップ」→「BPM」→「プロセスデザイナー」から、「プロジェクト」画面を表示します。
- 対象のプロジェクトをクリックしてプロジェクト詳細エリアを開きます。
- 一覧から編集したいプロセス定義/ケース定義を選択します。



図：「プロジェクト詳細エリア」 - 「プロセス定義/ケース定義」

4.  をクリックして、エディタ（新しいタブ）を開きます。



図：「プロセスエディタ」

コラム

「IM-BPM開発者」では、このプロジェクトに対して認可設定の「編集」アクションが許可されている場合のみ、 が表示されます。

プロセス定義/ケース定義のダウンロード

登録済みのプロセス定義/ケース定義を、ファイルとしてダウンロードします。
ファイル名は以下の通りです。

定義名	ファイル名
プロセス定義	「プロセス定義名」 + 「.bpmn」
ケース定義	「ケース定義名」 + 「.zip」

1. 「サイトマップ」→「BPM」→「プロセスデザイナー」から、「プロジェクト」画面を表示します。
2. 対象のプロジェクトをクリックしてプロジェクト詳細エリアを開きます。
3. 一覧からダウンロードしたいプロセス定義/ケース定義を選択します。

4.  をクリックして、プロセス定義/ケース定義をファイルとしてダウンロードします。



コラム

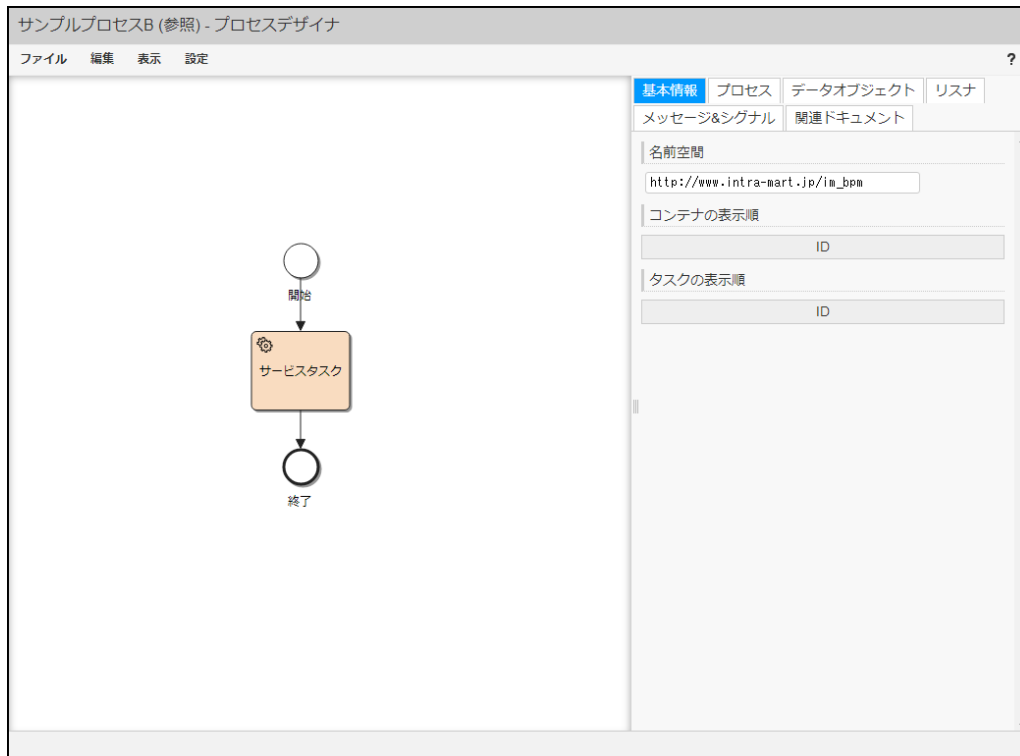
「IM-BPM開発者」では、このプロジェクトに対して認可設定の「編集」アクションが許可されている場合のみ、 が表示されます。

プロセス定義の参照

「ビューア」を開いて、登録済みのプロセス定義を参照します。
プロセス定義の内容を変更することはできません。

1. 「サイトマップ」→「BPM」→「プロセスデザイナー」から、「プロジェクト」画面を表示します。
2. 対象のプロジェクトをクリックしてプロジェクト詳細エリアを開きます。
3. 一覧から参照したいプロセス定義を選択します。

4.  をクリックして、「ビューア」（新しいタブ）を開きます。



図：「ビューア」

i コラム

ケース定義には  は表示されません。

「IM-BPM開発者」では、このプロジェクトに対して認可設定の「参照」アクションが許可されている場合のみ、 が表示されます。

プロセス定義/ケース定義の削除

登録済みのプロセス定義/ケース定義を削除します。

1. 「サイトマップ」→「BPM」→「プロセスデザイナー」から、「プロジェクト」画面を表示します。
2. 対象のプロジェクトをクリックしてプロジェクト詳細エリアを開きます。
3. 一覧から削除したいプロセス定義/ケース定義を選択します。
4.  をクリックします。
5. 確認ダイアログにて「決定」をクリックします。

i コラム

「IM-BPM開発者」では、このプロジェクトに対して認可設定の「編集」アクションが許可されている場合のみ、 が表示されます。

リソースの管理

本項では、プロジェクトにリソースを追加・管理する方法について説明します。

i コラム

本機能を利用するユーザは「IM-BPM管理者」、または、「IM-BPM開発者」ロールを付与されている必要があります。
2つのロールには以下の違いがあります。

- 「IM-BPM管理者」は、全てのプロジェクトに対して、認可設定を除く全ての操作を実行可能です。
- 「IM-BPM開発者」は、「IM-BPM管理者」によって認可設定で許可されたプロジェクトに対して、許可された操作のみを実行可能です。
詳細は各機能のコラム、および「[プロジェクトの認可設定](#)」を参照してください。

リソース管理エリア

プロジェクトに登録されているリソースを管理する、リソース管理エリアを開きます。

1. 「サイトマップ」→「BPM」→「プロセスデザイナー」から、「プロジェクト」画面を表示します。
2. 対象のプロジェクトをクリックしてプロジェクト詳細エリアを開きます。
3.  をクリックします。
4. 登録されているリソースの一覧が表示されます。



図：「プロジェクト詳細エリア」 - 「リソース管理」

項目名	説明
ダウンロード	このリソースをファイルとしてダウンロードします。 リソースのダウンロード を参照してください。
リソースタイプ	リソースの種類です。 ■ 関連ドキュメント プロセス定義/ケース定義内で利用する関連ドキュメントを意味します。
リソース名	このリソースの名称です。
説明	このリソースの説明です。
削除	このリソースを削除します。 リソースの削除 を参照してください。

コラム

「IM-BPM開発者」では、このプロジェクトに対して認可設定の「編集」アクションが許可されている場合のみ、



が表示

されます。

リソースのアップロード・更新

プロジェクトにリソースをアップロードします。

アップロードしたリソースファイルはこのプロジェクトに登録されます。

1. 「サイトマップ」→「BPM」→「プロセスデザイナー」から、「プロジェクト」画面を表示します。
2. 対象のプロジェクトをクリックしてプロジェクト詳細エリアを開きます。

3.  をクリックします。

4. 必要な情報を入力し、「アップロード」をクリックします。



図：「プロジェクト詳細エリア」 - 「リソース管理」 - 「アップロード」

項目名	説明
ファイル	アップロードするリソースのファイルを選択します。 必須項目です。
リソースタイプ	リソースのタイプを選択します。必須項目です。 ■ 関連ドキュメント プロセス定義/ケース定義内で使用する関連ドキュメントを意味します。
説明	このリソースの説明を入力します。

5. 確認ダイアログにて「決定」をクリックします。

6. リソースがアップロードされます。



図：「プロジェクト詳細エリア」 - 「リソース管理」

i コラム

アップロードするファイルの名称がリソース名として扱われます。
同一の名称のファイルのアップロードを行うことで、リソースの更新を行うことができます。

i コラム

「IM-BPM開発者」では、このプロジェクトに対して認可設定の「編集」アクションが許可されている場合のみ、が表示されます。

リソースのダウンロード

プロジェクトに登録されているリソースをダウンロードします。

1. 「サイトマップ」→「BPM」→「プロセスデザイナー」をクリックします。
2. 対象のプロジェクトをクリックしてプロジェクト詳細エリアを開きます。
3.  をクリックします。
4. 一覧から、ダウンロードしたいリソースの行の  をクリックします。



図：「プロジェクト詳細エリア」 - 「リソース管理」 - 「ダウンロード」

5. リソースがファイルとしてダウンロードされます。

i コラム

ダウンロードされるファイルの名称はリソース名と同一です。

i コラム

「IM-BPM開発者」では、このプロジェクトに対して認可設定の「編集」アクションが許可されている場合のみ、が表示されます。

リソースの削除

プロジェクトに登録されているリソースを削除します。

1. 「サイトマップ」→「BPM」→「プロセスデザイナー」をクリックします。
2. 対象のプロジェクトをクリックしてプロジェクト詳細エリアを開きます。
3.  をクリックします。
4. 一覧から、削除したいリソースの行の  をクリックします。



図：「プロジェクト詳細エリア」 - 「リソース管理」 - 「削除」

5. 確認ダイアログにて「決定」をクリックします。
6. リソースが削除されます。

コラム

「IM-BPM開発者」では、このプロジェクトに対して認可設定の「編集」アクションが許可されている場合のみ、 が表示されます。

が表示

プロセス定義の設計書出力

本項では、プロジェクトのプロセス定義の設計書を出力する方法について説明します。

コラム

本機能を利用するユーザは「IM-BPM管理者」、または、「IM-BPM開発者」ロールを付与されている必要があります。2つのロールには以下の違いがあります。

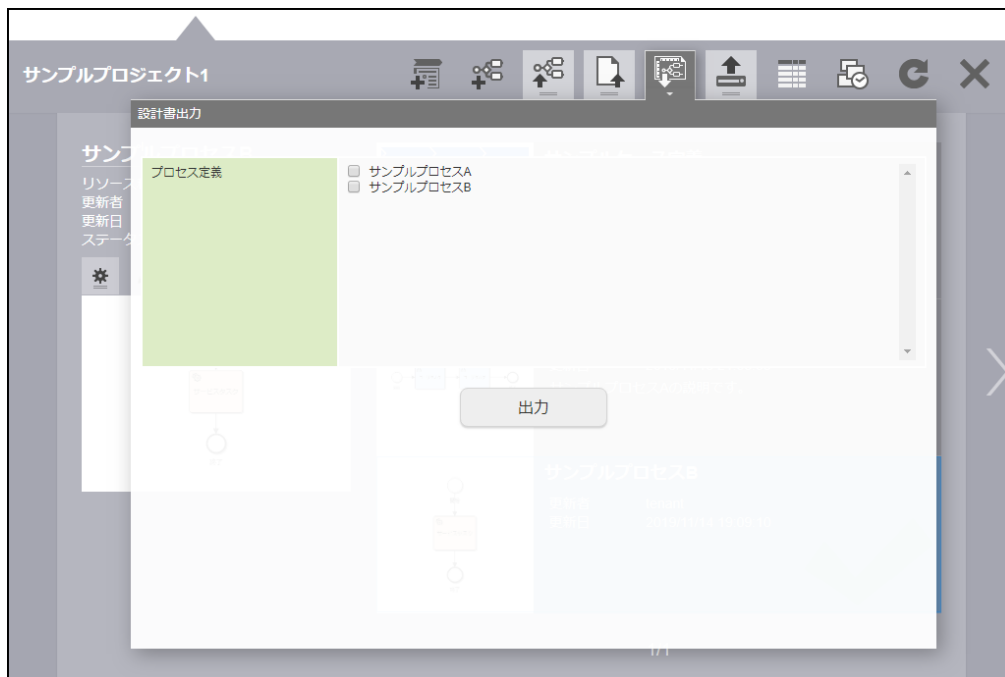
- 「IM-BPM管理者」は、全てのプロジェクトに対して、認可設定を除く全ての操作を実行可能です。
- 「IM-BPM開発者」は、「IM-BPM管理者」によって認可設定で許可されたプロジェクトに対して、許可された操作のみを実行可能です。

詳細は各機能のコラム、および「[プロジェクトの認可設定](#)」を参照してください。

プロセス定義の設計書出力の実行

プロジェクトに登録されているプロセスを選択する、設計書出力エリアを開きます。

1. 「サイトマップ」→「BPM」→「プロセスデザイナー」をクリックします。
2. 対象のプロジェクトをクリックしてプロジェクト詳細エリアを開きます。
3.  をクリックします。
4. 登録されているプロセス定義の一覧が表示されます。



図：「プロジェクト詳細エリア」 - 「設計書出力」

項目名	説明
プロセス定義	設計書出力対象のプロセス定義を選択します。 少なくとも1つは選択する必要があります。

5. 設計書を出力したいプロセス定義を選択し、「出力」をクリックします。
6. 選択したプロセス定義の設計書ファイルがzip形式で圧縮され、1つのファイルとしてダウンロードされます。



コラム

ダウンロードされるファイルの名称は `im_bpm_document.zip` です。

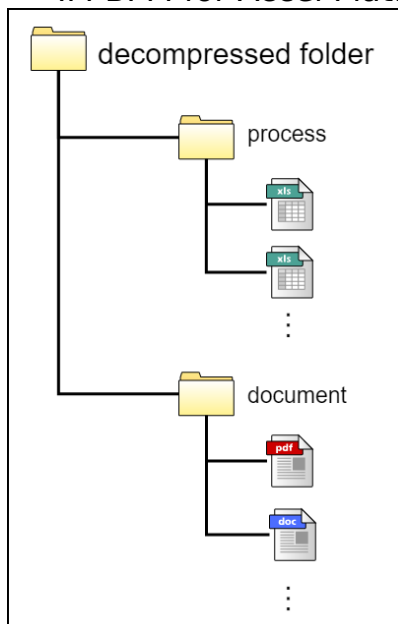


コラム

「IM-BPM開発者」では、このプロジェクトに対して認可設定の「編集」アクションが許可されている場合のみ、 が表示されます。

出力される設計書の構成

zipファイルを解凍すると、`process` と `document` の二つのフォルダが展開されます。



図：展開されたフォルダの構成

フォルダ名	説明
process	出力対象のプロセス定義の設計情報が出力されます。
document	上記のプロセス定義に関連しているドキュメントが出力されます。

出力されたプロセス定義の設計書は、大きく分けて4つのシートから構成されています。
 利用者は、この設計書をベースにして必要な情報の補填やカスタマイズを行うことが可能です。

■ 表紙

設計書の表紙です。

タイトルは「プロセス定義書」固定です。

■ 改訂情報

プロセス定義の改訂情報です。

プロセス定義の改訂情報は、プロセス定義の **履歴情報** から作成されます。

プロセス定義の履歴情報は、プロセス定義を修正する度に作成されます。そのため、改訂情報の日付は、プロセス定義を更新した日付です。

作業コメントが付与されている履歴情報のみ改訂情報として出力されます。

作業コメントが付与されている履歴情報が1件もない場合、版数は初版で固定です。



コラム

プロセス定義の履歴、および、作業コメントの詳細は [プロセス定義の履歴](#) を参照してください。

■ プロセス定義情報

各プロセスごとに定義されたフローエレメント情報を出力します。

プロセス定義ファイル中に複数のプールが指定されている場合、各プールごとに出力されます。

■ BPMプロセス図

プロセス定義の全体像を画像で出力します。

プロセス定義/ケース定義のデプロイ

本項では、プロジェクトに登録されているプロセス定義とケース定義をデプロイする方法について説明します。

i コラム

本機能を利用するユーザは「IM-BPM管理者」、または、「IM-BPM開発者」ロールを付与されている必要があります。
2つのロールには以下の違いがあります。

- 「IM-BPM管理者」は、全てのプロジェクトに対して、認可設定を除く全ての操作を実行可能です。
 - 「IM-BPM開発者」は、「IM-BPM管理者」によって認可設定で許可されたプロジェクトに対して、許可された操作のみを実行可能です。
- 詳細は各機能のコラム、および「[プロジェクトの認可設定](#)」を参照してください。

デプロイ情報の入力

必要な情報を入力してプロセス定義/ケース定義をデプロイします。

- 「サイトマップ」→「BPM」→「プロセスデザイナー」をクリックします。
- 対象のプロジェクトをクリックしてプロジェクト詳細エリアを開きます。

-  をクリックします。



図：「プロジェクト詳細エリア」 - 「デプロイ」

項目名	説明						
定義一覧	デプロイしたいプロセス定義、または、ケース定義を選択します。 少なくとも1つは選択する必要があります。						
	<table> <tr> <th>項目名</th><th>説明</th></tr> <tr> <td>定義名</td><td>プロセス定義/ケース定義のリソース名です。</td></tr> <tr> <td>リソース種別</td><td>プロセス定義、または、ケース定義と表示されます。</td></tr> </table>	項目名	説明	定義名	プロセス定義/ケース定義のリソース名です。	リソース種別	プロセス定義、または、ケース定義と表示されます。
項目名	説明						
定義名	プロセス定義/ケース定義のリソース名です。						
リソース種別	プロセス定義、または、ケース定義と表示されます。						
デプロイ名	デプロイ名を入力します。 必須項目です。						
カテゴリ	カテゴリを入力します。または、既存のカテゴリから選択します。						
コメント	デプロイのコメントを入力します。						

- 必要な情報を入力し、「デプロイ」をクリックします。

5. 確認ダイアログにて「決定」をクリックします。



注意

IDが同一であるプロセス定義/ケース定義を1つのデプロイに同時に含めることはできません。
プロセス定義/ケース定義のIDはユニークであるようにしてください。



コラム

「IM-BPM開発者」では、このプロジェクトに対して認可設定の「デプロイ」アクションが許可されている場合のみ、



が表示されます。

プロジェクトの履歴

本項では、プロジェクトの履歴を参照する方法、および履歴情報を編集する方法について説明します。
本機能は、プロジェクト内のプロセス定義やリソースの更新履歴を参照、および、編集する機能です。
その他の作業履歴は、参照できません。



コラム

本機能を利用するユーザは「IM-BPM管理者」、または、「IM-BPM開発者」ロールを付与されている必要があります。
2つのロールには以下の違いがあります。

- 「IM-BPM管理者」は、全てのプロジェクトに対して、認可設定を除く全ての操作を実行可能です。
- 「IM-BPM開発者」は、「IM-BPM管理者」によって認可設定で許可されたプロジェクトに対して、許可された操作のみを実行可能です。
詳細は各機能のコラム、および「[プロジェクトの認可設定](#)」を参照してください。

プロジェクトの履歴一覧

プロジェクト内のプロセス定義やリソースの更新履歴を参照します。

1. 「サイトマップ」→「BPM」→「プロセスデザイナー」をクリックします。
2. 対象のプロジェクトをクリックします。
3. プロジェクト詳細エリアが開きます。

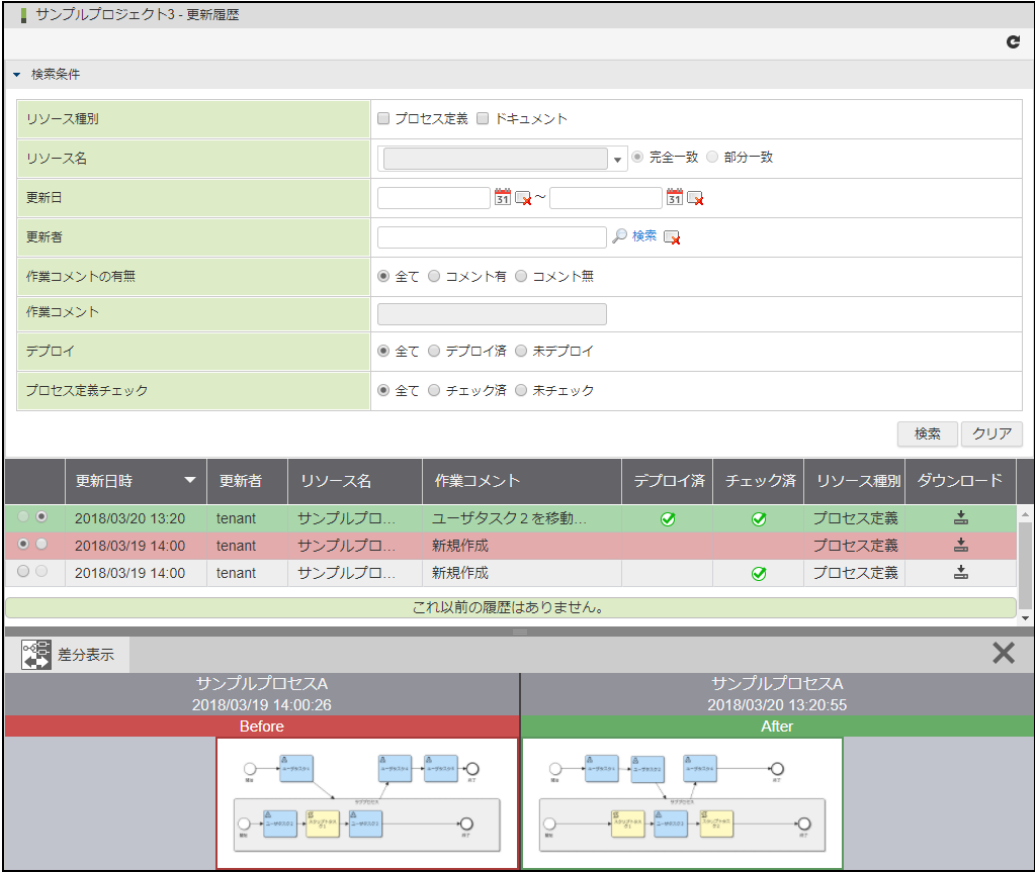


4. をクリックします。



図：「プロジェクト詳細エリア」 - 「プロジェクトの履歴」

5. プロジェクトの「更新履歴」画面が新しいタブで開きます。



図：「更新履歴」

画面イメージは、検索条件を開いたものです。

項目名	説明	検索条件
-----	----	------

項目名	説明	検索条件
選択	選択すると画面下部にプロセス図が表示されます。 左のプロセス図が古い履歴、右のプロセス図が新しい履歴です。 履歴が一件の場合は選択できません。 プロセス定義以外を選択した場合、画面下部にプロセス図は表示されません。 プロセスデザイナー上でプロセス定義が作成されていない場合、画面下部にプロセス図は表示されません。	-
更新日時	更新日時が表示されます。	範囲
更新者	更新者が表示されます。	完全一致
リソース名	リソース名が表示されます。 をクリックするとビューアが開き、対象の行のプロセス定義を参照できます。	リソース種別を一つだけ選択した場合のみ設定できます。 完全一致か部分一致
作業コメント	作業コメントが表示されます。 をクリックすると、ダイアログが開き作業コメントが表示されます。 本機能に関しては、作業コメントを編集するを参照してください。	有無、部分一致
デプロイ済	デプロイされたか、されていないかが表示されます。 デプロイされている場合、が表示されます。	デプロイ済・未デプロイ
チェック済	プロセス定義がバリデーションチェックされたか、されていないかが表示されます。 バリデーションチェックされている場合、が表示されます。	チェック済・未チェック
リソース種別	リソース種別が表示されます。	プロセス定義・ドキュメント
ダウンロード	 をクリックすると、対象の行のリソースがダウンロードされます。	-

作業コメントを編集する

作業コメントは、本画面で編集できます。

1. 「サイトマップ」→「BPM」→「プロセスデザイナー」をクリックします。
2. 対象のプロジェクトをクリックします。
3. プロジェクト詳細エリアが開きます。
4.  をクリックします。
5. プロジェクトの「更新履歴」画面が新しいタブで開きます。
6. 作業コメントを編集したいリソースの  をクリックします。

サンプルプロジェクト3 - 更新履歴

検索条件

リソース種別 ☐ プロセス定義 ☐ ドキュメント

リソース名 完全一致 部分一致

更新日 ~

更新者 検索

作業コメントの有無 ☒ 全て ☐ コメント有 ☐ コメント無

作業コメント

デプロイ ☒ 全て ☐ デプロイ済 ☐ 未デプロイ

プロセス定義チェック ☒ 全て ☐ チェック済 ☐ 未チェック

検索 クリア

	更新日時	更新者	リソース名	作業コメント	デプロイ済	チェック済	リソース種別	ダウンロード
☒	2018/03/20 13:20	tenant	サンプルプロ...	ユーザタスク2を移動	☒	☒	プロセス定義	ダウンロード
☐	2018/03/19 14:00	tenant	サンプルプロ...	新規作成			プロセス定義	ダウンロード
☐	2018/03/19 14:00	tenant	サンプルプロ...	新規作成		☒	プロセス定義	ダウンロード

図：「更新履歴」 - 「作業コメント」

7. 「編集モード」をクリックします。

サンプルプロジェクト3 - 更新履歴

検索条件

リソース種別 ☐ プロセス定義 ☐ ドキュメント

リソース名 完全一致 部分一致

更新日 ~

更新者 検索

作業コメントの有無 ☒ 全て ☐ コメント有 ☐ コメント無

作業コメント

デプロイ ☒ 全て ☐ デプロイ済 ☐ 未デプロイ

プロセス定義チェック ☒ 全て ☐ チェック済 ☐ 未チェック

検索 クリア

作業コメント(参照)

編集モード

作業コメント

ユーザタスク2を移動しました。
スクリプトタスク2を追加しました。

閉じる

	更新日時	更新者	リソース名	作業コメント	デプロイ済	チェック済	リソース種別	ダウンロード
☒	2018/03/20 13:20	tenant	サンプルプロ...	ユーザタスク2を移動	☒	☒	プロセス定義	ダウンロード
☐	2018/03/19 14:00	tenant	サンプルプロ...	新規作成			プロセス定義	ダウンロード
☐	2018/03/19 14:00	tenant	サンプルプロ...	新規作成		☒	プロセス定義	ダウンロード

図：「作業コメント（参照）」

8. 任意の作業コメントを入力し、「更新」ボタンをクリックします。

サンプルプロジェクト3 - 更新履歴

検索条件

リソース種別 ☐ プロセス定義 ☐ ドキュメント

リソース名 完全一致 部分一致

更新日 ~

更新者 検索

作業コメントの有無 ☒ 全て ☐ コメント有 ☐ コメント無

作業コメント

デプロイ ☒ 全て ☐ デプロイ済 ☐ 未デプロイ

プロセス定義チェック ☒ 全て ☐ チェック済 ☐ 未チェック

検索 クリア

作業コメント(編集)

← キャンセル

作業コメント

ユーザタスク2を移動しました。
スクリプトタスク2を追加しました。
ユーザタスク5を削除しました。

更新 閉じる

	更新日時	更新者	リソース名	作業コメント	デプロイ済	チェック済	リソース種別	ダウンロード
☒	2018/03/20 13:20	tenant	サンプルプロ...	ユーザタスク2を移動	☒	☒	プロセス定義	ダウンロード
☐	2018/03/19 14:00	tenant	サンプルプロ...	新規作成			プロセス定義	ダウンロード
☐	2018/03/19 14:00	tenant	サンプルプロ...	新規作成		☒	プロセス定義	ダウンロード

図：「作業コメント（編集）」

9. 確認ダイアログにて「決定」をクリックします。



コラム

プロジェクトの認可リソースのアクション「編集」が許可されているユーザのみ、作業コメントを編集できます。

リソースを復元する

過去のリソースを復元できます。

復元することにより、リソースを過去の状態に戻します。

復元は、その履歴を移動するわけではなく、最新の履歴としてコピーして履歴を積み上げます。

1. 「サイトマップ」→「BPM」→「プロセスデザイナー」をクリックします。
2. 対象のプロジェクトをクリックします。
3. プロジェクト詳細エリアが開きます。



4. をクリックします。

5. プロジェクトの「更新履歴」画面が新しいタブで開きます。

6. 検索条件の「リソース名」を完全一致で検索します。

サンプルプロジェクト3 - 更新履歴

▼ 検索条件

リソース種別	☒ プロセス定義 ☐ ドキュメント
リソース名	サンプルプロセスA ☒ 完全一致 ☐ 部分一致
更新日	3/31 ~ 3/31
更新者	検索
作業コメントの有無	☒ 全て ☐ コメント有 ☐ コメント無
作業コメント	
デプロイ	☒ 全て ☐ デプロイ済 ☐ 未デプロイ
プロセス定義チェック	☒ 全て ☐ チェック済 ☐ 未チェック

	更新日時	更新者	リソース名	作業コメント	デプロイ済	チェック済	リソース種別	ダウンロード	復元
☐	2018/03/20 13:20	tenant	サンプル...	ユーザタスク2...	✓	✓	プロセス定義		...
☐	2018/03/19 14:00	tenant	サンプル...	新規作成			プロセス定義		

これ以前の履歴はありません。

図：「更新履歴」 - 「リソース名」

7. 復元する履歴の をクリックします。最新の履歴は が表示されません。

サンプルプロジェクト3 - 更新履歴

検索条件

リソース種別 ☒ プロセス定義 ☐ ドキュメント

リソース名 サンプルプロセスA 完全一致 部分一致

更新日 2018/03/20 13:20 ~ 2018/03/31 検索

更新者

作業コメントの有無 ☒ 全て ☐ コメント有 ☐ コメント無

作業コメント

デプロイ ☒ 全て ☐ デプロイ済 ☐ 未デプロイ

プロセス定義チェック ☒ 全て ☐ チェック済 ☐ 未チェック

検索 クリア

	更新日時	更新者	リソース名	作業コメント	デプロイ済	チェック済	リソース種別	ダウンロード	復元
	2018/03/20 13:20	tenant	サンプル...	ユーザタスク2...	✓	✓	プロセス定義	ダウンロード	...
	2018/03/19 14:00	tenant	サンプル...	新規作成			プロセス定義	ダウンロード	復元

これ以前の履歴はありません。

図：「更新履歴」 - 「復元」

8. 復元する内容を確認し、任意の作業コメントを入力し、「決定」をクリックします。

サンプルプロジェクト3 - 更新履歴

リソースの復元

リソース名 サンプルプロセスA

リソース種別 プロセス定義

更新日 2018/03/19 14:00:26

更新者 tenant

デプロイ 未デプロイ

プロセス定義チェック 未チェック

作業コメント 新規作成したプロセスを復元する

プロセス定義の復元を実行した場合、復元後のプロセス定義は、未チェックになります。チェック済みにする場合、プロセスデザイナーで「上書き保存」を実行する必要があります。

決定 閉じる

図：「リソースの復元」

9. 確認ダイアログにて「決定」をクリックします。



コラム

誤った履歴を復元しても履歴が削除されることはないため、再度復元を行えば元に戻すことが可能です。



コラム

プロジェクトの認可リソースのアクション「編集」が許可されているユーザのみ、リソースを復元できます。

リソースを比較する

プロセス図やプロパティの差分を確認し、プロセス定義を比較できます。

プロセス定義以外のリソースを比較することはできません。

1. 「サイトマップ」→「BPM」→「プロセスデザイナー」をクリックします。
2. 対象のプロジェクトをクリックします。
3. プロジェクト詳細エリアが開きます。
4.  をクリックします。
5. プロジェクトの「更新履歴」画面が新しいタブで開きます。
6. 比較対象の履歴を選択することで、サムネイル表示によるプロセス図の差分を確認できます。

詳細な差分を参照する場合は、後述する「比較」画面を開いてください。

プロセス図の上部のスライダーを上下に移動させることで、拡大や縮小が可能です。

サンプルプロジェクト3 - 更新履歴

検索条件

リソース種別	☐ プロセス定義 ☐ ドキュメント
リソース名	完全一致 ☐ 部分一致
更新日	3/11 ~ 3/11
更新者	検索
作業コメントの有無	☒ 全て ☐ コメント有 ☐ コメント無
作業コメント	
デプロイ	☒ 全て ☐ デプロイ済 ☐ 未デプロイ
プロセス定義チェック	☒ 全て ☐ チェック済 ☐ 未チェック

検索 クリア

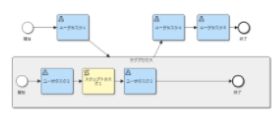
	更新日時	更新者	リソース名	作業コメント	デプロイ済	チェック済	リソース種別	ダウンロード
☒	2018/03/20 13:20	tenant	サンプルプロ...	ユーザタスク2を移動...	✓	✓	プロセス定義	
☒	2018/03/19 14:00	tenant	サンプルプロ...	新規作成		✓	プロセス定義	
☐	2018/03/19 14:00	tenant	サンプルプロ...	新規作成			プロセス定義	

これ以前の履歴はありません。

差分表示

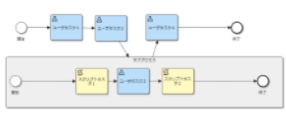
サンプルプロセスA
2018/03/19 14:00:26

Before



サンプルプロセスA
2018/03/20 13:20:55

After



図：「更新履歴」 - 「選択」

7. 「差分表示」をクリックします。

サンプルプロジェクト3 - 更新履歴

検索条件

リソース種別	☐ プロセス定義 ☐ ドキュメント
リソース名	完全一致 部分一致
更新日	31 12 ~ 31 12
更新者	検索
作業コメントの有無	☒ 全て ☐ コメント有 ☐ コメント無
作業コメント	
デプロイ	☒ 全て ☐ デプロイ済 ☐ 未デプロイ
プロセス定義チェック	☒ 全て ☐ チェック済 ☐ 未チェック

検索 クリア

	更新日時	更新者	リソース名	作業コメント	デプロイ済	チェック済	リソース種別	ダウンロード
☒	2018/03/20 13:20	tenant	サンプルプロ...	ユーザタスク2を移動...	✓	✓	プロセス定義	ダウンロード
☒	2018/03/19 14:00	tenant	サンプルプロ...	新規作成			プロセス定義	ダウンロード
☐	2018/03/19 14:00	tenant	サンプルプロ...	新規作成		✓	プロセス定義	ダウンロード

これ以前の履歴はありません。

差分表示

サンプルプロセスA
2018/03/19 14:00:26
Before

サンプルプロセスA
2018/03/20 13:20:55
After

図：「更新履歴」 - 「差分表示」

8. 「比較」画面が新しいタブで開きます。

比較 (サンプルプロセスA [2018/03/19 14:00:26] - サンプルプロセスA [2018/03/20 13:20:55])

基本情報 メインコンフィグ 説明 フォーム リスナ

マルチインスタンス 関連ドキュメント 表現

優先度 80

カテゴリ

No.	アクション	ID	プロパティ	変更内容
1	プロパティ変更	user-task_1	優先度	プロパティの値が変更されました。
2	サイズ変更	sub-process_1	---	エレメントのサイズが変更されました。
3	移動	user-task_2	---	エレメントが [sub-process_1] から [プロセス] へ移動されました。
4	移動	end-event_2	---	エレメントの位置が変更されました。
5	移動	sequence-flow_4	---	コネクタの接続が [user-task_2] から [script-task_1] へ変更されました。
6	削除	sequence-flow_5	---	エレメントが削除されました。

図：「比較」



コラム

「比較」画面の詳細は、「プロセス定義の比較」を参照してください。

本項では、プロセス定義の履歴を参照する方法、および履歴情報を編集する方法について説明します。

i コラム

本機能を利用するユーザは「IM-BPM管理者」、または、「IM-BPM開発者」ロールを付与されている必要があります。
2つのロールには以下の違いがあります。

- 「IM-BPM管理者」は、全てのプロジェクトに対して、認可設定を除く全ての操作を実行可能です。
 - 「IM-BPM開発者」は、「IM-BPM管理者」によって認可設定で許可されたプロジェクトに対して、許可された操作のみを実行可能です。
- 詳細は各機能のコラム、および「[プロジェクトの認可設定](#)」を参照してください。

プロセス定義の履歴一覧

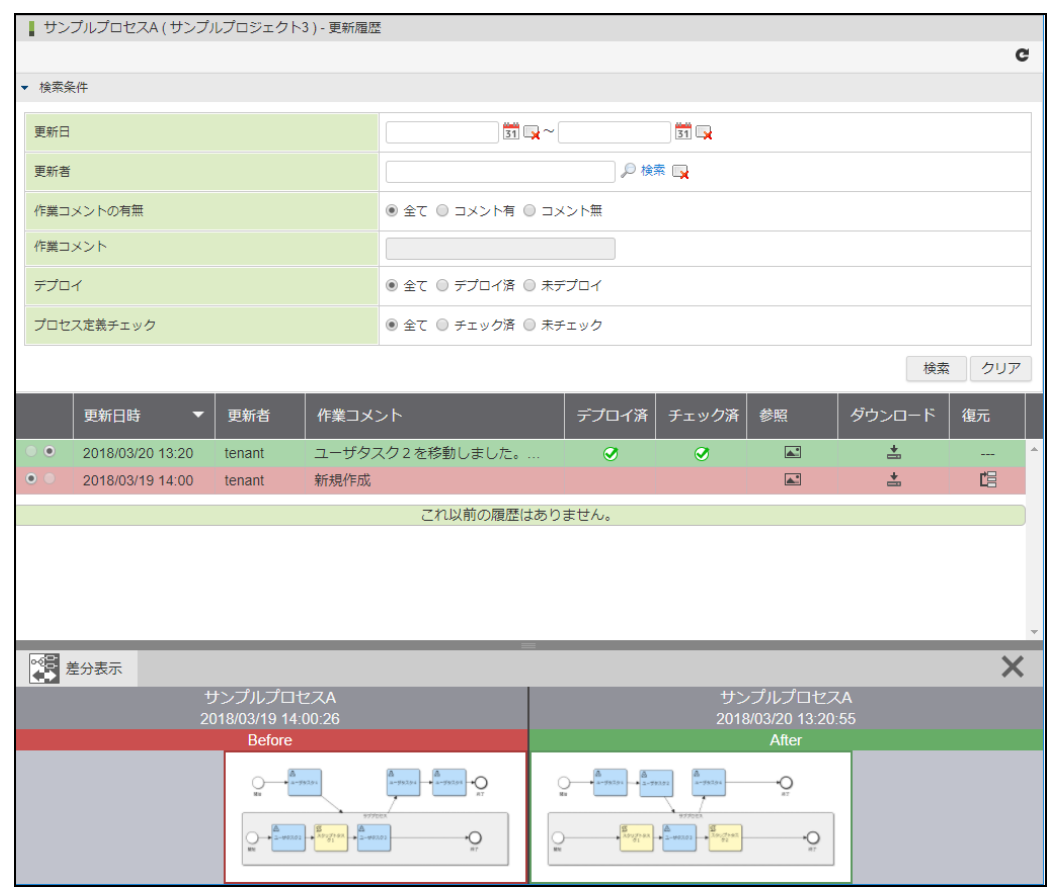
プロセス定義の履歴を参照します。

- 「サイトマップ」→「BPM」→「プロセスデザイナー」をクリックします。
- 対象のプロジェクトをクリックします。
- プロジェクト詳細エリアが開きます。
- プロセス定義を選択します。
-  をクリックします。



図：「プロジェクト詳細エリア」 - 「プロセス定義の履歴」

- プロセス定義の「更新履歴」画面が新しいタブで開きます。



図：「更新履歴」

画面イメージは、検索条件を開いたものです。

項目名	説明	検索条件
選択	選択すると画面下部にプロセス図が表示されます。 左のプロセス図が古い履歴、右のプロセス図が新しい履歴です。 履歴が一件の場合は選択できません。 プロセスデザイナー上でプロセス定義が作成されていない場合、画面下部にプロセス図は表示されません。	-
更新日時	更新日時が表示されます。	範囲
更新者	更新者が表示されます。	完全一致
作業コメント	作業コメントが表示されます。  をクリックすると、ダイアログが開き作業コメントが表示されます。 本機能に関しては、 作業コメントを編集する を参照してください。	有無、部分一致
デプロイ済	デプロイされたか、されていないかが表示されます。 デプロイされている場合、  が表示されます。	デプロイ済・未デプロイ
チェック済	プロセス定義がバリデーションチェックされたか、されていないかが表示されます。 バリデーションチェックされている場合、  が表示されます。	チェック済・未チェック
参照	 をクリックするとビューアが開き、対象の行のプロセス定義を参照できます。	-
ダウンロード	 をクリックすると、対象の行のプロセス定義がダウンロードされます。	-
復元	 をクリックすると、リソースを復元するためのダイアログを開きます。 本機能に関しては リソースを復元する を参照してください。	-

作業コメントは、本画面で編集できます。

本機能はプロジェクト履歴一覧と同様の機能のため、「[プロジェクトの履歴](#)」 - 「[作業コメントを編集する](#)」を参照してください。

リソースを復元する

過去のリソースを復元できます。

復元することにより、リソースを過去の状態に戻します。

復元は、その履歴を移動するわけではなく、最新の履歴としてコピーして履歴を積み上げます。

本機能はプロジェクト履歴一覧と同様の機能のため、「[プロジェクトの履歴](#)」 - 「[リソースを復元する](#)」を参照してください。

リソースの差分を比較する

プロセス定義のプロセス図の差分やプロパティの差分を比較して確認できます。

本機能はプロジェクト履歴一覧と同様の機能のため、「[プロジェクトの履歴](#)」 - 「[リソースを比較する](#)」を参照してください。

プロセス定義の比較

本項では、プロセス定義の差分を比較する画面について説明します。

コラム

本機能を利用するユーザは「IM-BPM管理者」、または、「IM-BPM開発者」ロールを付与されている必要があります。

2つのロールには以下の違いがあります。

- 「IM-BPM管理者」は、全てのプロジェクトに対して、認可設定を除く全ての操作を実行可能です。
- 「IM-BPM開発者」は、「IM-BPM管理者」によって認可設定で許可されたプロジェクトに対して、許可された操作のみを実行可能です。

詳細は各機能のコラム、および「[プロジェクトの認可設定](#)」を参照してください。

プロセス定義の比較機能

本画面の表示方法は、「[プロジェクトの履歴](#)」 - 「[リソースを比較する](#)」を参照してください。

比較 (サンプルプロセスA [2018/03/19 14:00:26] - サンプルプロセスA [2018/03/20 13:20:55])

No.	アクション	ID	プロパティ	変更内容
1	プロパティ変更	user-task_1	優先度	プロパティの値が変更されました。
2	サイズ変更	sub-process_1	---	エレメントのサイズが変更されました。
3	移動	user-task_2	---	エレメントが [sub-process_1] から [プロセス] へ移動されました。
4	移動	end-event_2	---	エレメントの位置が変更されました。
5	移動	sequence-flow_4	---	コネクタの接続が [user-task_2] から [script-task_1] へ変更されました。
6	削除	sequence-flow_5	---	エレメントが削除されました。

図：「比較」

プロセス定義を比較します。

画面下部の差分の説明は、古い履歴のプロセス定義から、新しい履歴のプロセス定義に対しての変更内容が表示されます。
画面操作からの本画面の表示時には、左のプロセス定義は古い履歴、右のプロセス定義は新しい履歴で表示されます。

比較 (サンプルプロセスA [2018/03/19 14:00:26] - サンプルプロセスA [2018/03/20 13:20:55])

基本情報 メインコンフィグ 説明 フォーム リスナ

マルチインスタンス 関連ドキュメント 表現

優先度
80

カテゴリ

No.	アクション	ID	プロパティ	変更内容
1	プロパティ変更	user-task_1	優先度	プロパティの値が変更されました。
2	サイズ変更	sub-process_1	---	エレメントのサイズが変更されました。
3	移動	user-task_2	---	エレメントが [sub-process_1] から [プロセス] へ移動されました。
4	移動	end-event_2	---	エレメントの位置が変更されました。
5	移動	sequence-flow_4	---	コネクタの接続が [user-task_2] から [script-task_1] へ変更されました。
6	削除	sequence-flow_5	---	エレメントが削除されました。
7	移動	sequence-flow_12	---	コネクタの接続が [end-event_2] から [script-task_2] へ変更されました。
8	削除	user-task_5	---	エレメントが削除されました。
9	移動	sequence-flow_11	---	コネクタの接続が [sub-process_1] から [user-task_2] へ変更されました。
10	移動	sequence-flow_9	---	コネクタの接続が [user-task_5] から [end-event_1] へ変更されました。
11	移動	sequence-flow_13	---	エレメントが [プロセス] から [sub-process_1] へ移動されました。
12	移動	sequence-flow_13	---	コネクタの接続が [user-task_5] から [script-task_2] へ変更されました。
13	移動	sequence-flow_13	---	コネクタの接続が [end-event_1] から [end-event_2] へ変更されました。
14	追加	script-task_2	---	エレメントが追加されました。
15	追加	sequence-flow_14	---	エレメントが追加されました。

図：「比較」 - 「差分」

項目名	説明
No.	行番号が表示されます。
アクション	以下のアクションが表示されます。 追加：エレメントの追加 削除：エレメントの削除 プロパティ変更：プロパティの追加・変更・削除 移動：エレメントの位置が変更されたり、別のレーンやサブプロセスに移動 サイズ変更：エレメントのサイズの変更 コネクション変更：コネクションの折れ方の変更
ID	基本情報のIDが表示されます。 プロセスの場合は プロセス と表示されます。プロセスがプールの場合はプールの基本情報のIDが表示されます。
プロパティ	プロパティのラベルが表示されます。
変更内容	変更内容が表示されます。

行をクリックすると、クリックした行のエレメントと同じ上部のプロセス図のエレメントにフォーカスします。

アクションが **プロパティ変更** の場合は、そのプロパティのあるタブが表示されます。

アクションが **追加** や **削除** の場合は、存在する方だけのエレメントにフォーカスされます。

画面右上のアイコンの操作により、プロセス図の拡大・縮小が行えます。

拡大・縮小は、両プロセス図で同時に行われます。

比較 (サンプルプロセスA [2018/03/19 14:00:26] - サンプルプロセスA [2018/03/20 13:20:55])

No.	アクション	ID	プロパティ	変更内容
1	プロパティ変更	user-task_1	優先度	プロパティの値が変更されました。
2	サイズ変更	sub-process_1	---	エレメントのサイズが変更されました。
3	移動	user-task_2	---	エレメントが [sub-process_1] から [プロセス] へ移動されました。
4	移動	end-event_2	---	エレメントの位置が変更されました。
5	移動	sequence-flow_4	---	コネクタの接続が [user-task_2] から [script-task_1] へ変更されました。
6	削除	sequence-flow_5	---	エレメントが削除されました。

図：「比較」 - 「拡大・縮小」

コラム

プロセスデザイナーは、IM-BPMをセットアップするだけで利用可能なWebアプリケーションです。プロセス定義/ケース定義を作成する開発者がおのの自分の端末にインストールする必要はありません。さらに、プロセスデザイナーで管理するプロジェクトは、最初から開発者間で共有されています。これにより、開発の生産効率上昇を期待できます。

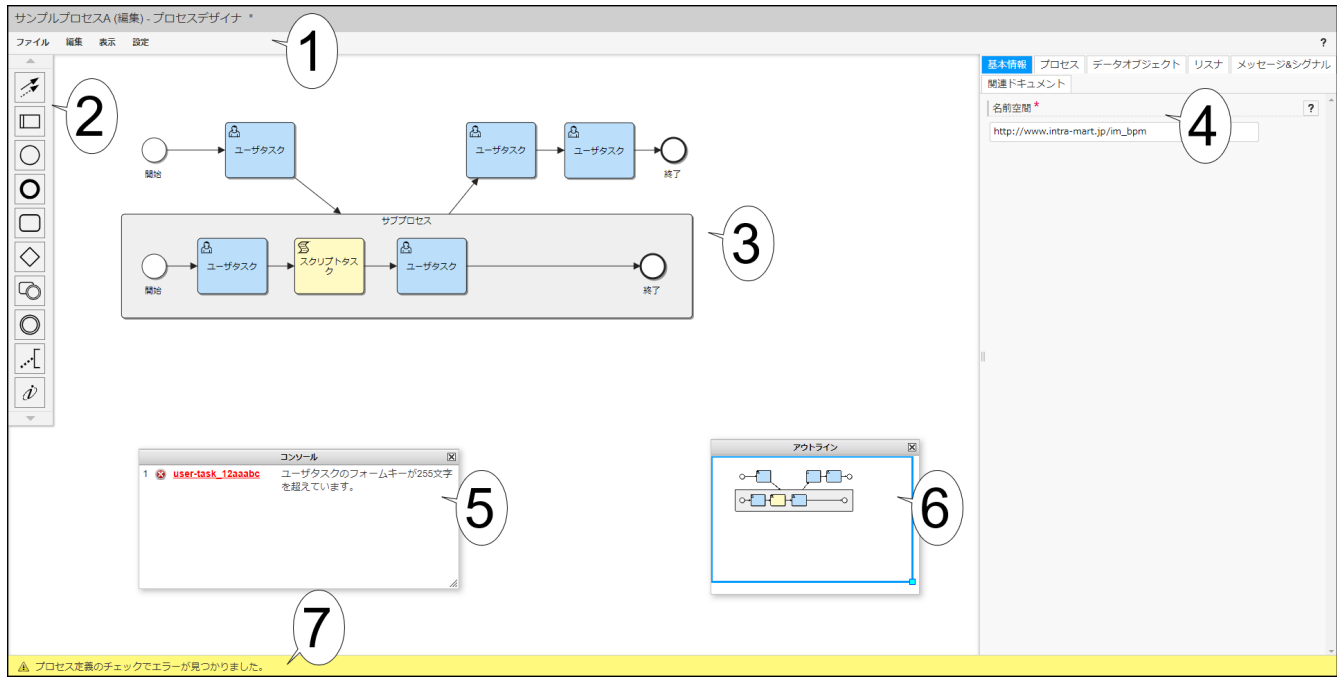
また、プロセスデザイナーはIM-BPMとは独立したアプリケーションでもあります。両者はプロセス定義/ケース定義のデプロイを通じて連携しますが、その他の点では互いの動作にまったく影響を与えません。したがって、プロセスデザイナーはすでに存在するIM-BPMと無理なく同時に利用することが可能です。

ここではIM-BPMでプロセスエディタを扱う画面の機能について説明します。

基本機能

本項では、プロセスエディタの基本機能について解説します。

プロセスエディタの詳細



項目名 (番号)	説明
ヘッダメニュー (1)	プロセスエディタの操作や設定を行うメニューです。 詳細については、「 ヘッダメニューの詳細 」を参照してください。
パレット (2)	キャンバスに配置するエレメントやコネクタの一覧です。 この一覧から、エレメントをドラッグ&ドロップする操作によりキャンバスに配置できます。
キャンバス (3)	エレメントを配置してプロセスを作成する領域です。
プロパティエリア (4)	エレメントのプロパティを設定する領域です。
コンソール (5)	プロセス定義のチェック時にエラーや警告が表示されます。 詳細については、「 コンソールの詳細 」を参照してください。
アウトライン (6)	プロセス全体を俯瞰表示する領域です。 表示領域の移動や、拡大縮小を行うことができます。
フッタ (7)	プロセスエディタの動作に関するメッセージを表示します。

コンソールの詳細



番号	説明
(1)	エラーが出ているエレメントのIDが表示されます。 エレメントのIDをクリックすることで、プロパティエリアに該当のエレメントのプロパティが表示されます。
(2)	エラーが出ているプロパティのタブが表示されます。 プロパティのタブをクリックすることで、プロパティエリアに該当のプロパティのタブが表示されます。
(3)	エラーが出ているプロパティの名前が表示されます。
(4)	エラーの内容が表示されます。

ヘッダメニューの詳細

プロセスエディタのヘッダメニューには、大きく分けて以下の4つの項目が存在します。

ファイル

プロセス定義の保存や、XML、詳細情報の確認などができます。

名前を付けて保存

プロセス定義に名前を付けて保存します。

作成したプロセス定義がデプロイ可能かチェックを行い、デプロイ可能と判定されるまで保存されません。

設定した「プロセス定義キー」が、別ファイルのプロセス、または、デプロイ済みのプロセスに設定されている「プロセス定義キー」と重複している場合、重複の許容を確認する警告が表示されます。

項目名	説明
名前	プロセス定義の名前を設定します。 必須項目です。
説明	プロセス定義の説明を記述します。 プロジェクト詳細エリアに記述内容が表示されます。
作業コメント	作業コメントを記述します。 プロセス定義の履歴に記述内容が表示されます。
重複を許容する	この項目にチェックを入れた場合、プロセス定義キーの重複を許容します。
「保存」ボタン	プロセス定義を保存します。

項目名	説明
「キャンセル」ボタン	プロセス定義の保存をキャンセルし、ダイアログを閉じます。

上書き保存

プロセス定義の内容を上書きして保存します。
作成したプロセス定義がデプロイ可能かチェックを行い、デプロイ可能と判定されるまで保存されません。

名前を付けて保存（チェックなし）

プロセス定義に名前を付けて保存します。
通常の名前を付けて保存との違いは、保存が可能となる最低限のチェックのみを行います。
プロセス定義キーの重複についても確認を行いません。
設定項目の詳細については、「[名前を付けて保存](#)」を参照してください。

上書き保存（チェックなし）

プロセス定義の内容を上書きして保存します。
保存が可能となる最低限のチェックのみを行います。

チェックを実行

作成したプロセス定義がデプロイ可能かチェックを行います。
エラーが出ている場合は、コンソールにエラーの内容が表示されます。

詳細情報

プロセス定義の詳細情報を表示します。

詳細情報

プロジェクト名

サンプルプロジェクト3

名前

サンプルプロセスA

説明

サンプルプロセスAです。

更新者

tenant

更新日

2018/08/28 13:52:58

設定

キャンセル

項目名	説明
プロジェクト名	プロジェクトの名前です。
名前	プロセス定義の名前です。
説明	プロセス定義の説明です。 編集が可能です。
更新者	最後にプロセス定義の更新を行ったユーザです。
更新日	最後にプロセス定義が更新された日時です。
「設定」ボタン	詳細情報の設定内容を反映させます。
「キャンセル」ボタン	詳細情報の設定をキャンセルし、ダイアログを閉じます。

XMLを表示

XMLビューアを開き、プロセス定義をXML形式で表示します。



項目名	説明
「閉じる」ボタン	XMLビューアを閉じます。

終了

プロセス定義の編集を終了します。

編集

プロセス定義の操作や、エレメントの選択状態などを編集できます。

元に戻す

プロセス定義に行った操作を元に戻します。

やり直し

元に戻した操作をやり直します。

すべて選択

すべての要素を選択した状態にします。

選択を解除

すべての要素の選択した状態を解除します。

選択した要素を削除

選択した要素をキャンバス上から削除します。

表示

プロセスエディタの表示を設定できます。

拡大

キャンバスの表示領域を拡大します。

縮小

キャンバスの表示領域を縮小します。

拡大/縮小をリセット

キャンバスの表示領域の拡大/縮小をリセットします。

パレット

パレットの表示、非表示を切り替えます。

アウトライン

アウトラインの表示、非表示を切り替えます。

プロパティ

プロパティエリアの表示、非表示を切り替えます。

コンソール

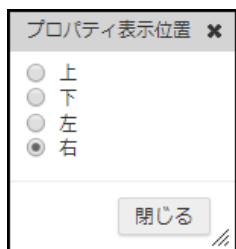
コンソールの表示、非表示を切り替えます。

設定

プロパティエリアの表示位置の切り替えや、キー割り当ての設定ができます。

プロパティ表示位置

プロパティエリアの表示位置を変更します。



項目名	説明
上	チェックを入れた場所にプロパティの表示位置を変更します。
下	
左	
右	
「閉じる」ボタン	プロパティ表示位置の設定ダイアログを閉じます。

キー割り当て

プロセスエディタで行う操作に、ショートカットキーを割り当てます。

任意のキーに対して「Ctrl」、「Alt」、「Shift」のキーをそれぞれを組み合わせることができます。

キー割当て

+ 初期設定に戻す

Ctrl	Alt	Shift	キー	機能	削除
☒	☐	☐	Z	元に戻る	✖
☒	☐	☐	Y	やり直し	✖
☒	☐	☐	S	上書き保存(チェックなし)	✖
☒	☐	☒	S	名前を付けて保存(チェックなし)	✖
☒	☒	☐	C	チェックを実行	✖
☒	☐	☐	A	すべて選択	✖
☒	☐	☐	NUMPAD"+"	拡大	✖
☒	☐	☐	+	拡大	✖
☒	☐	☐	NUMPAD"-"	縮小	✖
☒	☐	☐	-	縮小	✖
☒	☐	☐	0	拡大/縮小をリセット	✖
☒	☐	☐	NUMPAD0	拡大/縮小をリセット	✖

設定 キャンセル

項目名	説明
	キーの割り当てを追加します。
初期設定に戻す	すべてのキー割り当てを削除し、初期設定に戻します。
Ctrl	設定するキーに「Ctrl」キーを組み合わせます。
Alt	設定するキーに「Alt」キーを組み合わせます。
Shift	設定するキーに「Shift」キーを組み合わせます。
キー	任意のキーを指定します。
機能	プロセスエディタで行う操作を選択します。
削除	キーの割り当てを削除します。
「設定」ボタン	キー割り当ての設定内容を反映させます。
「キャンセル」ボタン	キー割り当ての設定をキャンセルし、ダイアログを閉じます。

コネクションの折れ方を変更

コネクションの折れ方を変更します。

コネクションの折れ方を変更

コネクションの折れ方を直線に変更します。

 この操作を行うとプロセス定義が保存されます。
ここまでの操作の「元に戻る」、「やり直し」が行えなくなります。
よろしいですか？

決定 取り消し

図：「コネクションの折れ方を変更」コンファーム

項目名	説明
-----	----

項目名	説明
「決定」ボタン	コネクションの折れ方を変更します。 プロセス定義が保存され、画面が更新されます。 そのため、ここまでの操作の「元に戻す」、「やり直し」が行えなくなります。
「閉じる」ボタン	「コネクションの折れ方を変更」コンファームを閉じます。



コラム

フローエレメントを配置しているプロセス定義のみ、コネクションの折れ方を変更できます。



注意

コネクションの折れ方を変更すると、プロセス図全体のコネクションの折れ方が変更されます。そのため、プロセス図が大きく崩れる場合があります。

プロセス定義のプロパティ

本項では、プロセス定義に設定可能なプロパティについて説明します。
設定可能な項目は以下のとおりです。

- プロセス定義固有のプロパティ

基本情報

プロセス定義全体に対する基本情報を設定します。

基本情報の設定

基本情報の設定について解説します。

1. エディタ上で設定を行いたいフローエレメントをクリックします。
2. プロパティエリアから「基本情報」タブを選択します。

The screenshot shows the '基本情報' (Basic Information) tab in the IM-BPM Process Designer. The tab is selected, and the following fields are visible:

- 名前空間 *** (Name Space): A text input field containing the URL `http://www.intra-mart.jp/im_bpm`. A help icon (?) is to the right.
- コンテナの表示順** (Container Display Order): A text input field. A help icon (?) is to the right.
- タスクの表示順** (Task Display Order): A text input field. A help icon (?) is to the right.

Below each field is a table with 'ID' and two example values:

- Under '名前空間 *': A table with 'ID' and values 'xxx-xxxxxxx_1' and 'xxx-xxxxxxx_2'.
- Under 'コンテナの表示順': A table with 'ID' and values 'xxxx-xxxx_1' and 'xxxx-xxxx_2'.
- Under 'タスクの表示順': A table with 'ID' and values 'xxxx-xxxx_1' and 'xxxx-xxxx_2'.

プロパティの詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
名前空間	必須	任意の文字列を設定します。 通常はURI形式の名前空間を設定します。	設定した名前空間がプロセス定義のカテゴリに設定されます。
コンテナの表示順	任意		「タスク追加」画面で表示されるコンテナの順番を変更します。 「編集」リンクをクリックすると、「コンテナの表示順」ダイアログが表示されます。
タスクの表示順	任意		「タスク追加」画面で表示されるタスクの順番を変更します。 「編集」リンクをクリックすると、「タスクの表示順」ダイアログが表示されます。

「コンテナの表示順」ダイアログ

「コンテナの表示順」について説明します。

コンテナの表示順

↑ 上へ ↓ 下へ リセット

選択	名前	ID
☐	XXXXXX_1	xxx-xxxxxxx_1
☐	XXXXXXXXXX_1	xxxxx-xxx-xxxxxxx_1

決定 取り消し

項目名	説明
リセット	表示順をリセットします。
選択	「上へ」、および、「下へ」でコンテナを並び替えます。 並び替えたいコンテナを選択した後、「上へ」、および、「下へ」をクリックしてください。
名前	コンテナの名前が表示されます。
ID	コンテナのIDが表示されます。
「決定」ボタン	表示されている順番に並び替えます。
「取り消し」ボタン	コンテナの表示順の変更をキャンセルし、ダイアログを閉じます。

「タスクの表示順」ダイアログ

「タスクの表示順」について説明します。

タスクの表示順

↑ 上へ ↓ 下へ リセット

選択	名前	ID	アクティビティ種別	オプション
☐	XXXXXX_1	xxx-xxx_1	ユーザタスク	オプション
☐	XXXXXXXX_1	xxxxxx-xxx_1	スクリプトタスク	

決定 取り消し

項目名	説明
リセット	表示順をリセットします。
選択	「上へ」、および、「下へ」でタスクを並び替えます。 並び替えたいタスクを選択した後、「上へ」、および、「下へ」をクリックしてください。

項目名	説明
名前	タスクの名前が表示されます。
ID	タスクのIDが表示されます。
アクティビティ種別	アクティビティ種別が表示されます。
オプション	オプションタスクである場合、「オプション」と表示されます。
「決定」ボタン	表示されている順番に並び替えます。
「取り消し」ボタン	タスクの表示順の変更をキャンセルし、ダイアログを閉じます。

プロセス

プロセスの設定ができます。

プロセスの設定

プロセスの設定について解説します。

1. プロセスエディタの空白部分をクリックします。
2. プロパティエリアの中から、「プロセス」タブを選択します。

The screenshot shows the 'プロセス' (Process) tab in the Properties panel. The panel is divided into several sections:

- プロセス定義キー ***: A text field containing 'process_test_20230914130749835'.
- 名前**: A text field containing 'プロセス_20230914130749835'.
- 処理対象ユーザ**: A search field with a magnifying glass icon and the text 'ユーザ検索'.
- 処理対象グループ**: A search field with a magnifying glass icon and the text 'ロール検索'.
- 参加者**: A search field with a magnifying glass icon and the text '参加者検索'.
- 参加者グループ**: A search field with a magnifying glass icon and the text 'ロール検索'.
- チェックボックス**: Three checked boxes with labels:
 - ユーザに業務キーの設定を許可しない
 - 開始時にオプションタスクの追加を行う
 - アドホックタスクを使用する
- アドホックタスクのフォームキー ***: A search field with a magnifying glass icon and the text 'チケットマスタ検索'.
- 説明**: A large text area for notes.

Each section has a question mark icon in the top right corner. At the bottom left of the '説明' section, there is a green pencil icon and the text '編集' (Edit).

プロパティの詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
プロセス定義キー	必須	任意の文字列を設定します。 英数字と一部の記号のみ使用できます。	プロセス定義を一意に特定するためのIDを設定します。 自動で他のプロセス定義との重複チェックがかかります。
名前	任意	任意の文字列を設定します。	プロセス定義の名前を設定します。
処理対象ユーザ	任意	ユーザは、ユーザコードで設定します。 複数設定する場合は、ユーザ毎にカンマで区切ることで設定可能です。	定義したプロセスインスタンスを開始できるユーザを設定します。 「ユーザ検索」でユーザの検索ができます。
処理対象グループ	任意	グループはロールIDで設定し、対象となるユーザは指定したロールを保持するユーザです。 複数設定する場合は、グループ毎にカンマで区切ることで設定可能です。	定義したプロセスインスタンスを開始できるグループを設定します。 「ロール検索」でロールの検索ができます。
参加者	任意	ユーザは、ユーザコードで設定します。 複数設定する場合は、ユーザ毎にカンマで区切ることで設定可能です。	プロセスインスタンスの参加ユーザを設定します。 「参加者検索」でユーザの検索ができます。
参加者グループ	任意	グループはロールIDで設定し、対象となるユーザは指定したロールを保持するユーザです。 複数設定する場合は、グループ毎にカンマで区切ることで設定可能です。	プロセスインスタンスの参加グループを設定します。 「ロール検索」でロールの検索ができます。
ユーザに業務キーの設定を許可しない			チェックを入れた場合、プロセス開始時に業務キーの入力を許可しません。
開始時にオプションタスクの追加を行う			チェックを入れた場合、プロセス開始時に「タスク追加」画面が表示されます。 なお、この設定を有効にした場合は開始イベントの「フォームキー」の設定は無視されます。 「タスク追加」画面については、「 IM-BPM ユーザ操作ガイド 」 - 「 タスクを追加する 」を参照してください。
アドホックタスクを使用する			チェックを入れた場合、プロセス開始後の「タスク追加」画面にて、プロセスとサブプロセスに対してアドホックタスクの追加を行えます。 アドホックタスクについては、「 IM-BPM 仕様書 」 - 「 アドホックタスク 」を参照してください。
アドホックタスクのフォームキー	必須	<code>ticket:</code> から始まる文字列です。	「アドホックタスクを使用する」にチェックを入れた場合に入力します。 アドホックタスクのフォームを指定します。 チケットマスタ検索画面を開き、チケットマスタを選択して入力することも可能です。 チケットマスタについては、「 チケットモジュール管理者操作ガイド 」を参照してください。
説明	任意	任意の文字列を設定します。	プロセス定義についての詳細や備考を記載します。 「編集」で編集ダイアログが開きます。



コラム

フローエレメントが一つも配置されていない場合、「プロセス」タブの設定項目は非活性状態となり、入力を行えません。フローエレメントを配置してから、「プロセス」タブの設定を行ってください。

ただし、フローエレメントとしての「[プール](#)」は、この制限の対象外です。

プールを配置した場合は、その外部にフローエレメントを一つ以上配置してください。

外部にフローエレメントを配置していない場合、「プロセス」タブには、最初に配置したプール内部のプロセスの設定内容が非活性状態で表示されます。

メッセージ&シグナル

プロセス定義のメッセージ、および、シグナルが設定できます。

メッセージ&シグナルの設定

1. プロセスエディタの空白部分をクリックします。
2. プロパティエリアの中から、「メッセージ&シグナル」タブを選択します。

メッセージ			
☐		message01	message01
☐		message02	message02

シグナル			
☐		signal01	signal01
☐		signal02	signal02

- 「追加」で新しくメッセージ、およびシグナルを追加します。
- 「」でメッセージ、およびシグナルを編集します。
- 「選択済みの項目を削除」で選択済みのメッセージ、およびシグナルを削除します。

削除したいメッセージ、およびシグナルを選択した後、「選択済みの項目を削除」をクリックしてください。

メッセージの設定

メッセージ

ID *

message

名前 *

message

決定 取り消し

設定項目の詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
ID	必須	任意の文字列を設定します。 英数字と一部の記号のみ使用 できます。	フローエレメントを一意に特定するためのIDを設定します。
名前	必須	任意の文字列を設定します。	メッセージを一意に特定するためのキーを設定します。
「決定」ボタン			メッセージを作成します。
「取り消し」ボタン			メッセージの作成をキャンセルし、ダイアログを閉じます。

シグナルの設定

設定項目の詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
ID	必須	任意の文字列を設定します。 英数字と一部の記号のみ使用 できます。	フローエレメントを一意に特定するためのIDを設定します。
名前	必須	任意の文字列を設定します。	シグナルを一意に特定するためのキーを設定します。
「決定」ボタン			シグナルを作成します。
「取り消し」ボタン			シグナルの作成をキャンセルし、ダイアログを閉じます。

- 共通のプロパティ
 - [データオブジェクト](#)
 - [実行リスナ](#)
 - [関連ドキュメント](#)

フローエレメントとそのプロパティ

本項では、プロセスエディタにおいてフローを表現するのに利用可能なフローエレメントについて説明します。
プロセスエディタのパレットでは大きく分けて以下のメニューが用意されています。

コネクション

コネクションは、フローの流れや補足情報の関連付けを表現するために用いられます。

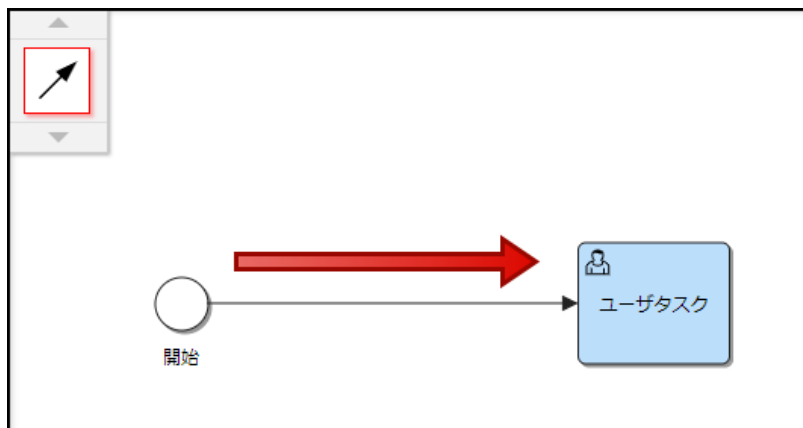
シーケンスフロー

シーケンスフローとは、アクティビティやイベント、ゲートウェイなどを接続して、プロセス定義の処理の流れを矢印つきの実線によって示したものです。

設定可能な項目は以下のとおりです。

- [基本情報](#)
- [メインコンフィグ](#)
- [説明](#)
- [実行リスナ](#)

1. 「パレット」から、「」にカーソルを合わせます。
2. 「パレット」の右側に現れる一覧から「」をクリックし、コネクションモードを開始します。
3. シーケンスフローの接続を定義したいフローエレメントをクリックし、接続先のフローエレメントをクリックします。



基本情報の設定

基本情報の設定について解説します。

1. エディタ上で設定を行いたいフローエレメントをクリックします。
2. プロパティエリアから「基本情報」タブを選択します。

プロパティの詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
ID	必須	任意の文字列を設定します。 英数字と一部の記号のみ使用できます。	フローエレメントを一意に特定するためのIDを設定します。
名前	任意	任意の文字列を設定します。	フローエレメントの名前を設定します。 プロセス定義で表示されます。

メインコンフィグの設定

シーケンスフローのメインコンフィグの設定について解説します。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
スキップ条件	任意	EL式を設定します。	「スキップ条件」がtrueと評価された場合、シーケンスフローは進みます。 また、「スキップ条件」がtrueと評価された場合、「条件」がfalseと評価されてもシーケンスフローは進みます。 「スキップ条件」が評価された場合、「条件」は評価されません。 そのため、「スキップ条件」がfalseと評価された場合、「条件」がtrueと評価されてもシーケンスフローは進みません。 「スキップ条件」は参照できるスコープ内の変数 「<code>_ACTIVITY_SKIP_EXPRESSION_ENABLED</code>」に、<code>true</code> が設定されている場合のみ有効です。
条件	任意	任意の文字列を設定します。 EL式による設定が可能です。	進行条件を設定します。 例：<code>billingAmount</code>というプロセスの変数があり、請求額が10万円を超過したらという条件を設定する場合 → <code>\${ billingAmount > 100000 }</code> 条件がtrueと評価された場合のみ、シーケンスフローは進みます。 この条件は、分岐が行われる場合にのみ評価されます。 「編集」で編集ダイアログが開きます。

i コラム

スキップ条件を有効にする変数を、データオブジェクトのデータプロパティで設定する場合、以下の設定を行います。

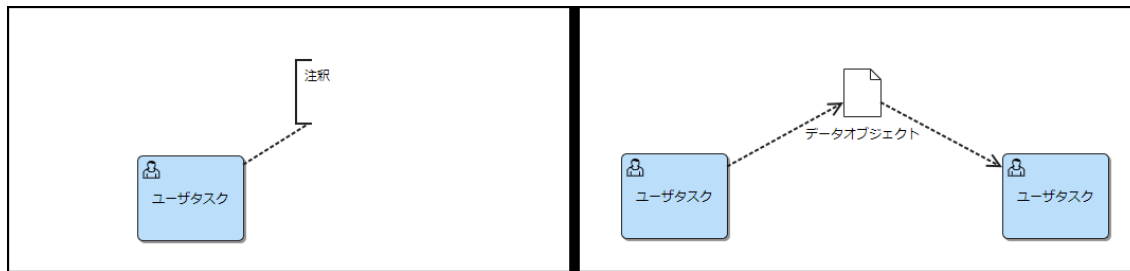
- ID : 任意
- 名前 : `_ACTIVITY_SKIP_EXPRESSION_ENABLED`
- 型 : `boolean`
- 値 : `true`

データオブジェクトの詳細は「[データオブジェクト](#)」を参照してください。

関連コネクタ

関連コネクタとは、アクティビティに対しての注釈やデータオブジェクトの関連付けを破線によって示したものです。アクティビティに対して説明の補足や関連成果物があることを表し、システム上のフローの動作に影響はありません。

接続先が注釈の場合は単なる破線で、データオブジェクトの場合は矢印の破線で表現されます。



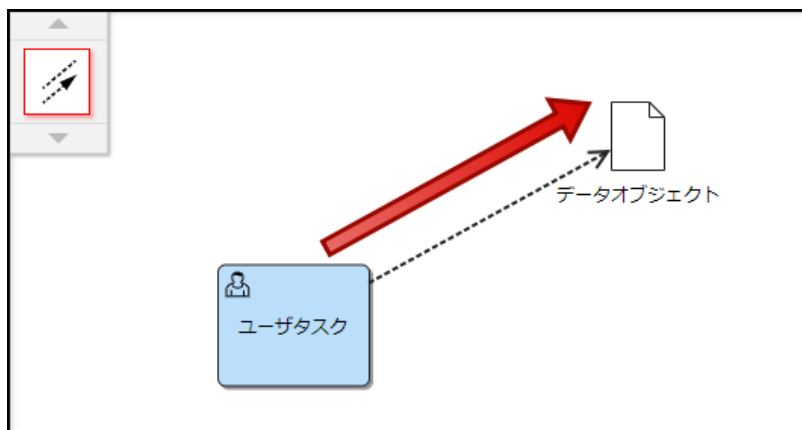
左：破線、右：矢印の破線

設定可能な項目は以下のとおりです。

■ 基本情報

関連コネクタの配置

1. 「パレット」から、「」にカーソルを合わせます。
2. 「パレット」の右側に現れる一覧から「」をクリックし、コネクションモードを開始します。
3. 関連コネクタを接続したいアクティビティをクリックし、接続先の注釈やデータオブジェクトをクリックします。



基本情報の設定

基本情報の設定について解説します。

1. エディタ上で設定を行いたいフローエレメントをクリックします。
2. プロパティエリアから「基本情報」タブを選択します。

プロパティの詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
ID	必須	任意の文字列を設定します。 英数字と一部の記号のみ使用できます。	フローエレメントを一意に特定するためのIDを設定します。

メッセージフロー

メッセージフローとは、プロセス定義における関係者（プール）間で情報が送受信されることを破線の矢印によって示したものです。プロセス定義の図上の表現であり、システム上のフローの動作に影響はありません。

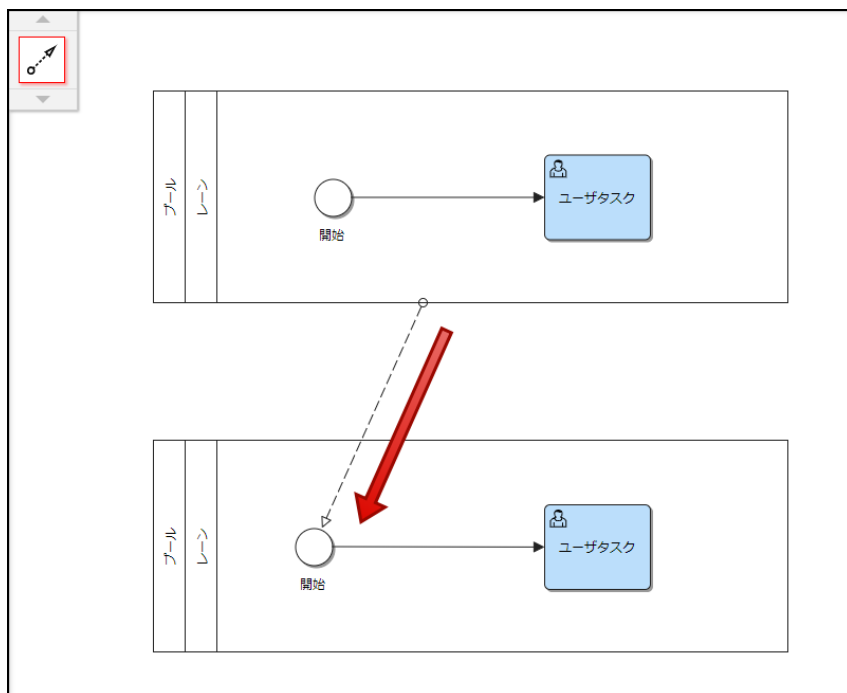
同じプール内のフローエレメント同士で、メッセージフローを接続することはできません。

設定可能な項目は以下のとおりです。

■ 基本情報

メッセージフローの配置

1. 「パレット」から、「」にカーソルを合わせます。
2. 「パレット」の右側に現れる一覧から「」をクリックし、コネクションモードを開始します。
3. メッセージフローの接続を定義したいフローエレメントをクリックし、接続先のフローエレメントをクリックします。



基本情報の設定

基本情報の設定について解説します。

1. エディタ上で設定を行いたいフローエレメントをクリックします。
2. プロパティエリアから「基本情報」タブを選択します。

プロパティの詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
ID	必須	任意の文字列を設定します。 英数字と一部の記号のみ使用できます。	フローエレメントを一意に特定するためのIDを設定します。
名前	任意	任意の文字列を設定します。	フローエレメントの名前を設定します。 プロセス定義で表示されます。

コンテナに配置されているコンポーネントは、フロー中のタスクに対する特定のグループの割り当ての表現や、特定の条件が発生した場合に実施されるサブフローを表現するために利用されます。

イベントサブプロセス

イベントを受信した場合にのみ実行される、破線のサブプロセスです。
イベントサブプロセスの内部には、イベントを受信した際に実行するプロセスのフローを定義します。

イベントサブプロセスには、いくつかの制限があります。

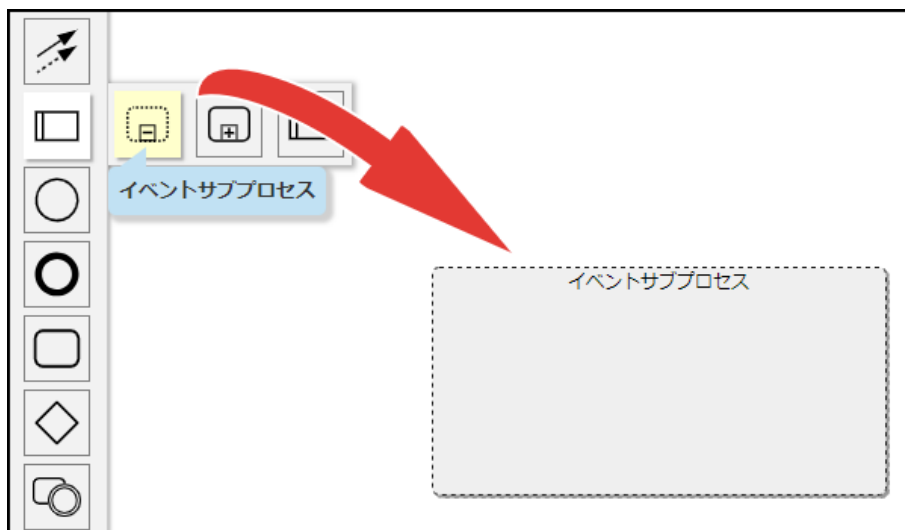
- イベントを受信して実行されるため、通常の開始イベントは定義できません。
- 開始イベントにエラー開始イベント、または、メッセージ開始イベントを使用します。

設定可能な項目は以下のとおりです。

- [基本情報](#)
- [説明](#)
- [データオブジェクト](#)
- [実行リスナ](#)
- [マルチインスタンス](#)

イベントサブプロセスの配置

1. 「パレット」から、「」にカーソルを合わせます。
2. 「パレット」の右側に現れる一覧から、「」をドラッグ&ドロップの操作でキャンバス上に配置します。



基本情報の設定

基本情報の設定について解説します。

1. エディタ上で設定を行いたいフローエレメントをクリックします。
2. プロパティエリアから「基本情報」タブを選択します。

基本情報説明データオブジェクトリスナ

マルチインスタンス

ID *

XXXX-XXX-XXXXX_1

名前

XXXXXXXXXX_1

実行モード

同期

非同期

制御モード

排他

非排他

タスクの表示順

編集

ID

XXXX-XXX_1

XXXXXX-XXXX_1

プロパティの詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
ID	必須	任意の文字列を設定します。 英数字と一部の記号のみ使用できます。	フローエレメントを一意に特定するためのIDを設定します。
名前	任意	任意の文字列を設定します。	フローエレメントの名前を設定します。 プロセス定義で表示されます。
実行モード			非同期実行を行うための設定です。
制御モード			排他制御を行うための設定です。
タスクの表示順	任意		「タスク追加」画面で表示されるタスクの順番を変更します。 「編集」リンクをクリックすると、「タスクの表示順」ダイアログが表示されます。

「タスクの表示順」ダイアログ

「タスクの表示順」について説明します。

タスクの表示順

上へ下へ

リセット

選択	名前	ID	アクティビティ種別	オプショナル
☐	XXXXXX_1	XXXX-XXXX_1	ユーザタスク	オプショナル
☐	XXXXXXXX_1	XXXXXX-XXXX_1	スクリプトタスク	

決定

取り消し

項目名	説明
リセット	表示順をリセットします。
選択	「上へ」、および、「下へ」でタスクを並び替えます。 並び替えたいタスクを選択した後、「上へ」、および、「下へ」をクリックしてください。
名前	タスクの名前が表示されます。
ID	タスクのIDが表示されます。

項目名	説明
アクティビティ種別	アクティビティ種別が表示されます。
オプション	オプションタスクである場合、「オプション」と表示されます。
「決定」ボタン	表示されている順番に並び替えます。
「取り消し」ボタン	タスクの表示順の変更をキャンセルし、ダイアログを閉じます。

サブプロセス

サブプロセスとは、特定のプロセス定義内で利用されるプロセス定義であり、実線の長方形によって表現されます。サブプロセスに対してマルチインスタンスの指定を行う事もできます。

サブプロセスには、いくつかの制約があります。

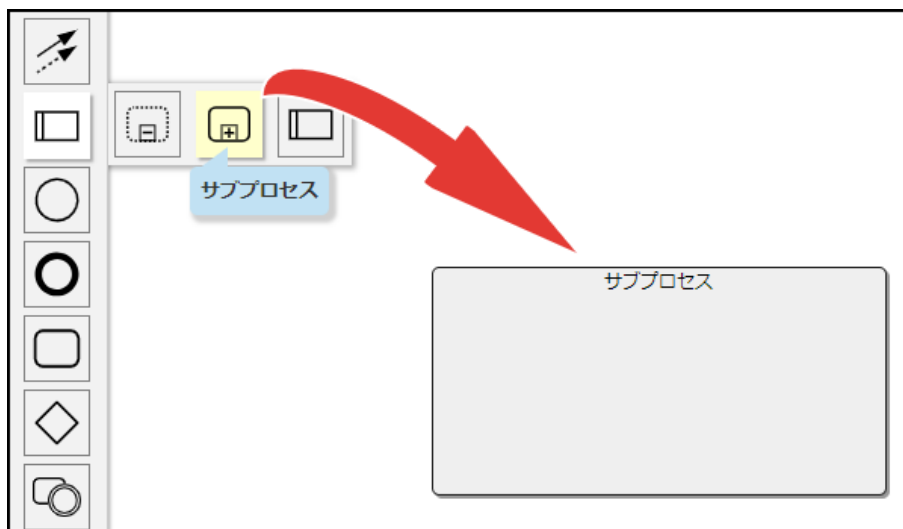
- 開始イベントは通常の開始イベントのみを定義できます。
タイマ開始イベント、シグナル開始イベント、メッセージ開始イベント、エラー開始イベントは利用できません。
- 複数の開始イベントを持つ事はできません。
- サブプロセスの境界を越えてシーケンスフローを定義する事はできません。

設定可能な項目は以下のとおりです。

- [基本情報](#)
- [説明](#)
- [データオブジェクト](#)
- [実行リスナ](#)
- [マルチインスタンス](#)

サブプロセスの配置

1. 「パレット」から、「」にカーソルを合わせます。
2. 「パレット」の右側に現れる一覧から、「」をドラッグ&ドロップの操作でキャンバス上に配置します。



基本情報の設定

基本情報の設定について解説します。

1. エディタ上で設定を行いたいフローエレメントをクリックします。
2. プロパティエリアから「基本情報」タブを選択します。

基本情報

説明

データオブジェクト

リスナ

マルチインスタンス

ID *

?

XXXX-XXXXXX_1

名前

XXXXXX_1

デフォルトフロー

?

実行モード

?

☒ 同期
☐ 非同期

制御モード

?

☒ 排他
☐ 非排他

タスクの表示順

?

編集

ID
XXXX-XXXX_1
XXXXXXXX-XXXX_1

プロパティの詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
ID	必須	任意の文字列を設定します。 英数字と一部の記号のみ使用できます。	フローエレメントを一意に特定するためのIDを設定します。
名前	任意	任意の文字列を設定します。	フローエレメントの名前を設定します。 プロセス定義で表示されます。
実行モード			非同期実行を行うための設定です。
制御モード			排他制御を行うための設定です。
タスクの表示順	任意		「タスク追加」画面で表示されるタスクの順番を変更します。 「編集」リンクをクリックすると、「タスクの表示順」ダイアログが表示されます。

「タスクの表示順」ダイアログ

「タスクの表示順」について説明します。

タスクの表示順

↑ 上へ ↓ 下へ

リセット

選択	名前	ID	アクティビティ種別	オプション
☐	XXXXXX_1	XXXX-XXXX_1	ユーザタスク	オプション
☐	XXXXXXXX_1	XXXXXXXX-XXXX_1	スクリプトタスク	

決定

取り消し

項目名	説明
リセット	表示順をリセットします。
選択	「上へ」、および、「下へ」でタスクを並び替えます。 並び替えたいタスクを選択した後、「上へ」、および、「下へ」をクリックしてください。

項目名	説明
名前	タスクの名前が表示されます。
ID	タスクのIDが表示されます。
アクティビティ種別	アクティビティ種別が表示されます。
オプション	オプションタスクである場合、「オプション」と表示されます。
「決定」ボタン	表示されている順番に並び替えます。
「取り消し」ボタン	タスクの表示順の変更をキャンセルし、ダイアログを閉じます。

プール・レーン

プールとは、プロセス定義における関係者の境界線を表現したフローエレメントです。
1つのプールの内部には、その外部とは独立したプロセス定義を1つ定義可能です。

レーンは、プールの中でさらに役割を区分したい場合に使用します。
プロセス定義を設計する時に、プロセス定義中に複数の関係者が登場するときにプールとレーンを利用して表現します。

プール

プールとは、プロセス定義における関係者を表すための境界線です。
境界線の内部には、その外部とは独立したプロセス定義を1つ定義可能です。

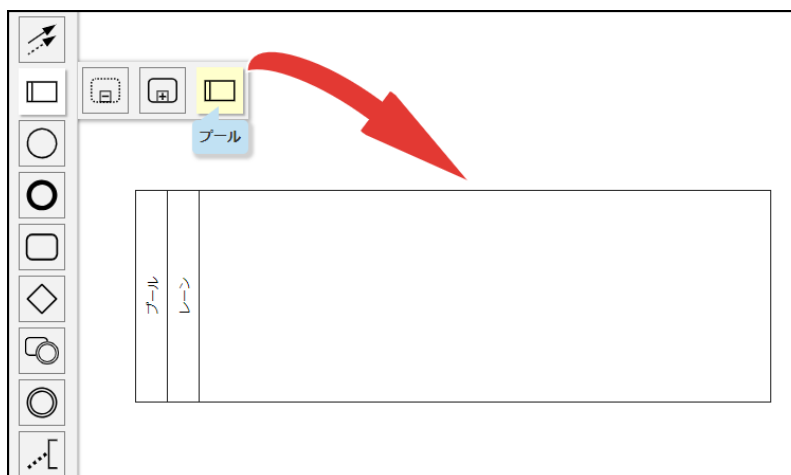
プールおよびレーンの名称として、関係者を設定することを想定しています。
関係者の範囲として、会社、組織、役職、人等を指定することで、内部のプロセス定義の役割を明確にできます。

設定可能な項目は以下のとおりです。

- [基本情報](#)
- [プロセス](#)
- [データオブジェクト](#)
- [実行リスナ](#)
- [関連ドキュメント](#)

プールの配置

1. 「パレット」から、「」にカーソルを合わせます。
2. 「パレット」の右側に現れる一覧から、「」をドラッグ&ドロップの操作でキャンバス上に配置します。



プールを配置すると自動的に1つのレーンがプール内に配置されます。

基本情報の設定

基本情報の設定について解説します。

1. エディタ上で設定を行いたいフローエレメントをクリックします。
2. プロパティエリアから「基本情報」タブを選択します。

プロパティの詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
ID	必須	任意の文字列を設定します。 英数字と一部の記号のみ使用できます。	フローエレメントを一意に特定するためのIDを設定します。
名前	任意	任意の文字列を設定します。	フローエレメントの名前を設定します。 プロセス定義で表示されます。
コンテナの表示順			オプションタスクを設置したプロセス定義で使用します。 「タスク追加」画面で表示されるコンテナの順番を変更します。 「編集」リンクをクリックし、「コンテナの表示順」ダイアログが表示されます。
タスクの表示順			オプションタスクを設置したプロセス定義で使用します。 「タスク追加」画面で表示されるタスクの順番を変更します。 「編集」リンクをクリックすると、「タスクの表示順」ダイアログが表示されます。

「コンテナの表示順」ダイアログ

「コンテナの表示順」について説明します。

項目名	説明
リセット	表示順をリセットします。
選択	「上へ」、および、「下へ」でコンテナを並び替えます。 並び替えたいコンテナを選択した後、「上へ」、および、「下へ」をクリックしてください。

項目名	説明
名前	コンテナの名前が表示されます。
ID	コンテナのIDが表示されます。
「決定」ボタン	表示されている順番に並び替えます。
「取り消し」ボタン	コンテナの表示順の変更をキャンセルし、ダイアログを閉じます。

「タスクの表示順」ダイアログ

「タスクの表示順」について説明します。

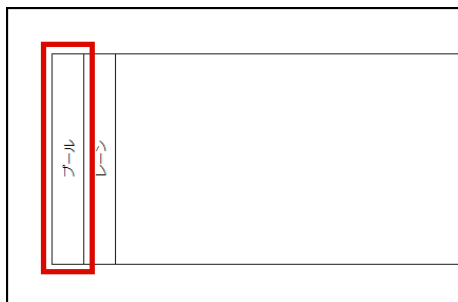
選択	名前	ID	アクティビティ種別	オプション
☐	XXXXXX_1	XXXX-XXXX_1	ユーザタスク	オプション
☐	XXXXXXXX_1	XXXXXX-XXXX_1	スクリプトタスク	

項目名	説明
リセット	表示順をリセットします。
選択	「上へ」、および、「下へ」でタスクを並び替えます。 並び替えたいタスクを選択した後、「上へ」、および、「下へ」をクリックしてください。
名前	タスクの名前が表示されます。
ID	タスクのIDが表示されます。
アクティビティ種別	アクティビティ種別が表示されます。
オプション	オプションタスクである場合、「オプション」と表示されます。
「決定」ボタン	表示されている順番に並び替えます。
「取り消し」ボタン	タスクの表示順の変更をキャンセルし、ダイアログを閉じます。

プロセスの設定

プール内部に配置したプロセス定義の設定について解説します。

1. プールのヘッダ部分をクリックして、選択します。



図：プールの選択

2. プロパティエリアから「プロセス」タブを選択します。

基本情報	プロセス	データオブジェクト	リスナ
関連ドキュメント			
プロセス定義キー *			?
☒ process_test_20230914131100918			
名前			?
プロセス_test_20230914131100918			
処理対象ユーザ			?
ユーザ検索			
処理対象グループ			?
ロール検索			
参加者			?
参加者検索			
参加者グループ			?
ロール検索			
☒ ユーザに業務キーの設定を許可しない			?
☒ 開始時にオプションタスクの追加を行う			?
☒ アドホックタスクを使用する			?
アドホックタスクのフォームキー *			?
チケットマスタ検索			
ticket::ticket_master_id			
説明			?
☒ 編集			

i コラム

プール内部のプロセス定義の設定項目は、ファイル全体のプロセス定義の設定項目と同一です。
詳細については、[プロセス](#) を参照してください。

レーン

レーンは、プール内で任意の区分を定義します。

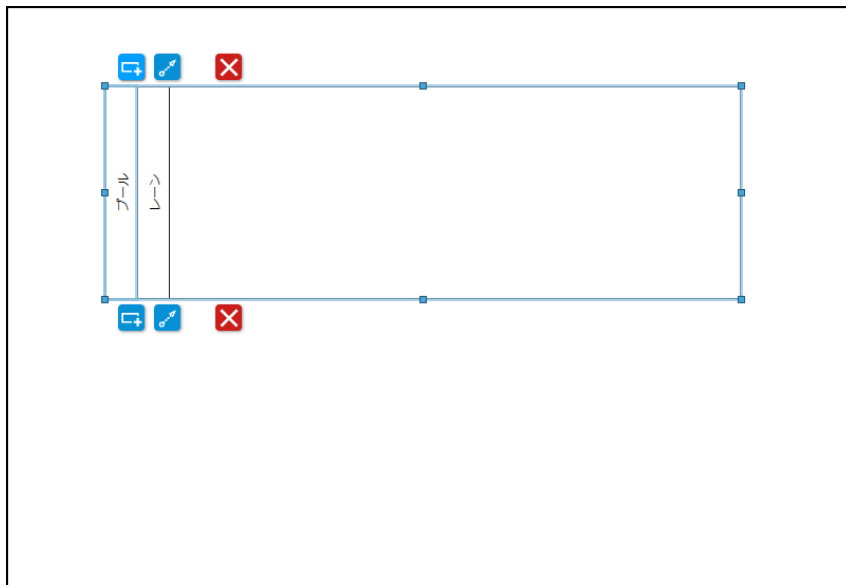
レーンを配置する場合は、事前にプールが設定されていることが前提です。
プロセス定義中にプールが配置されていない状態では、レーンを配置できません。

設定可能な項目は以下のとおりです。

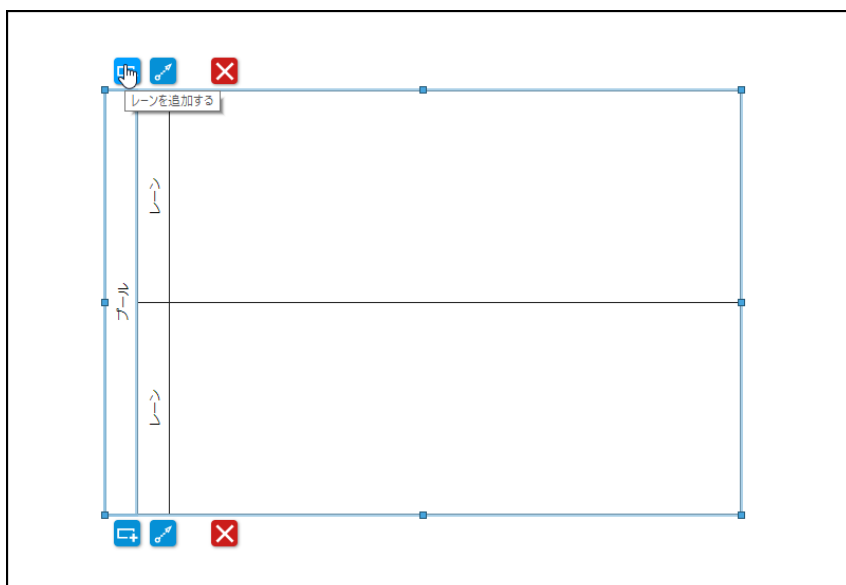
- [基本情報](#)
- [表現](#)

レーンの追加

1. キャンバス上に配置されているプール、または、レーンをクリックします。

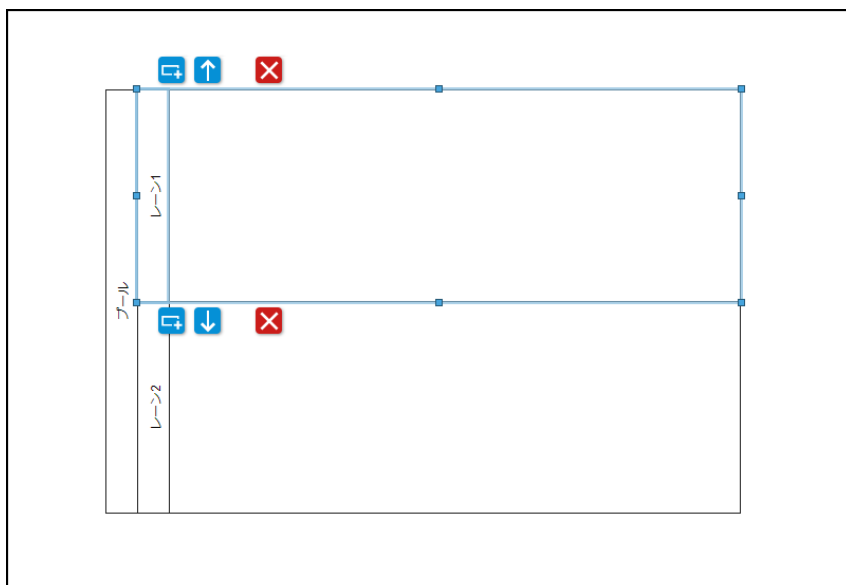


2. 「」をクリックします。

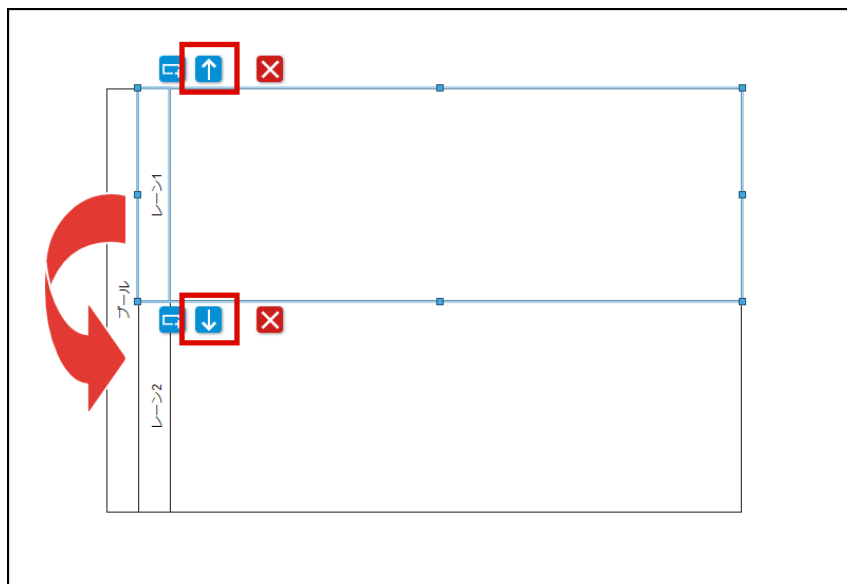


レーンの移動

1. キャンバス上に配置されているレーンをクリックします。



2. 選択したレーンを上に移動する場合は「↑」をクリック、下に移動する場合は「↓」をクリックします。



基本情報の設定

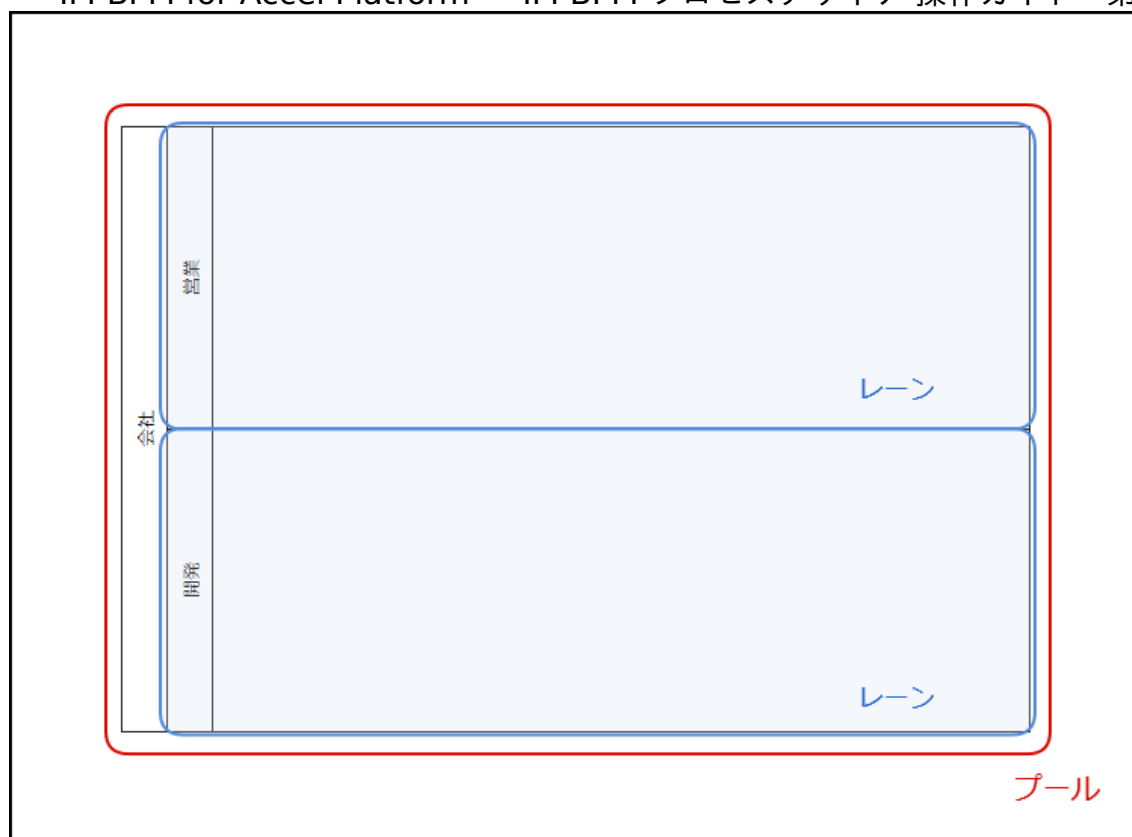
基本情報の設定について解説します。

1. エディタ上で設定を行いたいフローエレメントをクリックします。
2. プロパティエリアから「基本情報」タブを選択します。

プロパティの詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
ID	必須	任意の文字列を設定します。 英数字と一部の記号のみ使用できます。	フローエレメントを一意に特定するためのIDを設定します。
名前	任意	任意の文字列を設定します。 EL式による設定が可能です。	フローエレメントの名前を設定します。 プロセス定義で表示されます。

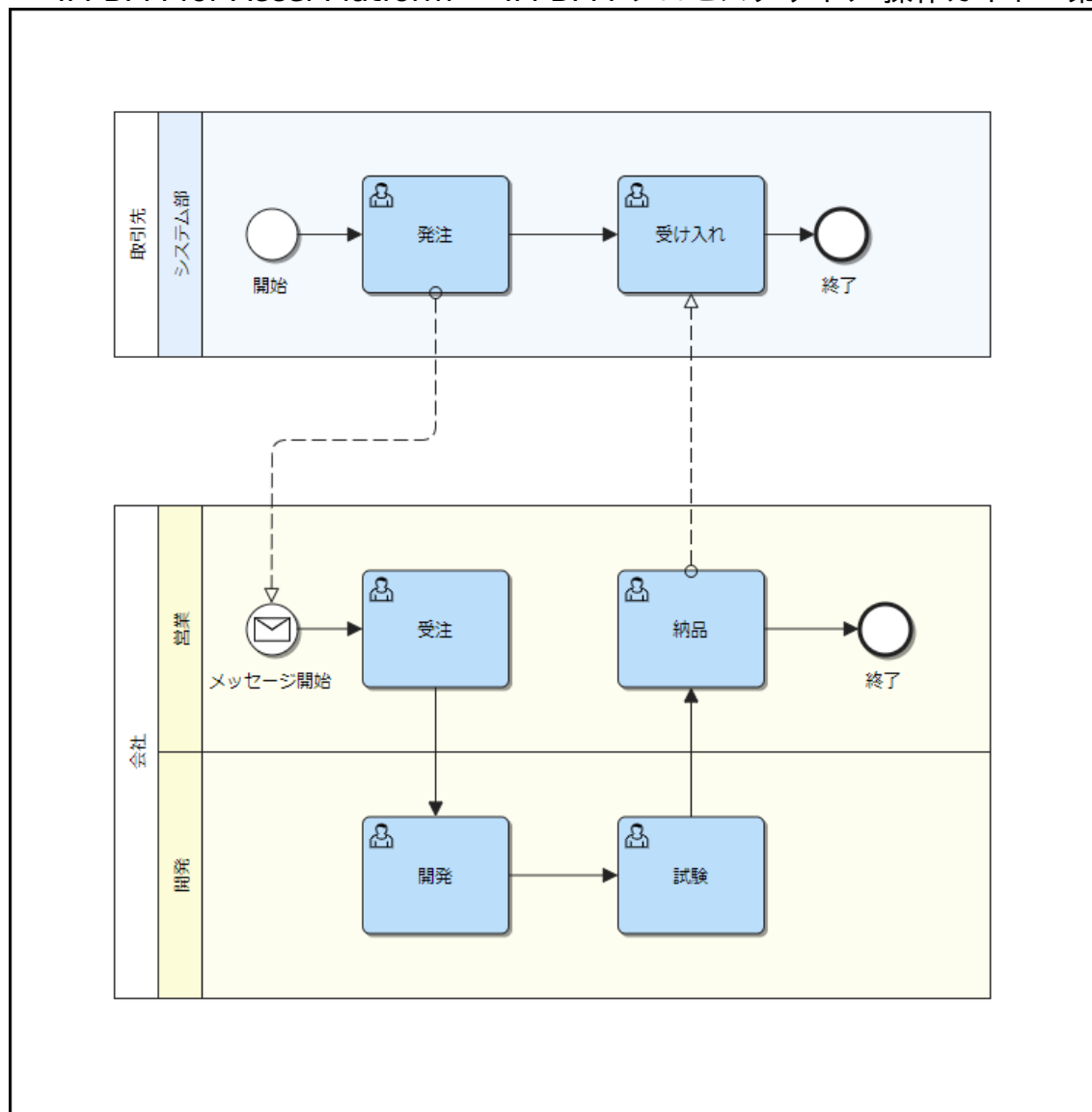
たとえば1つのプロセス定義に対して、同じ会社の2つの部門が登場するとき、設計者は下記の図のように「会社」というプールを作成し、レーンを2つ配置して部門を表現します。



1つのファイル内に複数個のプールを配置することも可能です。

この時、各プール内部のプロセス定義は、それぞれ別のプロセス定義として扱われます。

[メッセージフロー](#) を利用することで、プール間の関係性を表現することも可能です。



i コラム

プールの内部は、その外部とは独立したプロセス定義として扱われます。

プール内部のプロセス定義の設定は、ファイル全体のプロパティではなく、プールのプロパティより設定が可能です。

開始イベント

開始イベントは、プロセス定義の実行開始箇所と条件を表します。

プロセス定義には、開始イベントを設定する必要があります。

開始イベントは、開始条件によって以下の5つに分類されます。

開始イベント

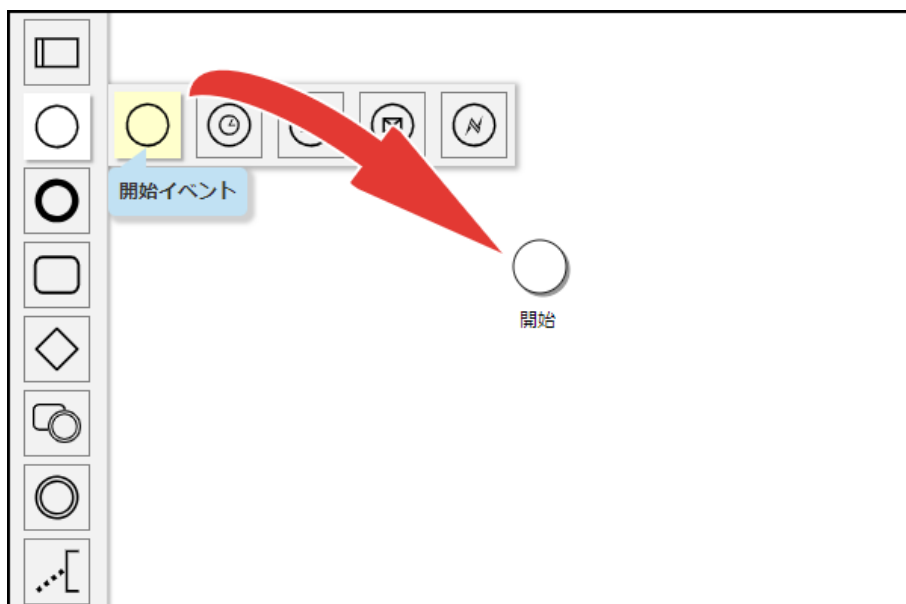
プロセス定義を開始するイベントです。

設定可能な項目は以下のとおりです。

- [基本情報](#)
- [メインコンフィグ](#)
- [説明](#)
- [実行リスナ](#)
- [フォーム](#)
- [関連ドキュメント](#)
- [表現](#)

開始イベントの配置

1. 「パレット」から、「」にカーソルを合わせます。
2. 「パレット」の右側に現れる一覧から、「」をドラッグ&ドロップの操作でキャンバス上に配置します。



基本情報の設定

基本情報の設定について解説します。

1. エディタ上で設定を行いたいフローエレメントをクリックします。
2. プロパティエリアから「基本情報」タブを選択します。

プロパティの詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
ID	必須	任意の文字列を設定します。 英数字と一部の記号のみ使用できます。	フローエレメントを一意に特定するためのIDを設定します。
名前	任意	任意の文字列を設定します。	フローエレメントの名前を設定します。 プロセス定義で表示されます。
実行モード			非同期実行を行うための設定です。
制御モード			排他制御を行うための設定です。

メインコンフィグの設定

開始イベントのメインコンフィグの設定について解説します。

基本情報	メインコンフィグ	説明	リスナ
フォーム	関連ドキュメント	表現	

イニシエータ ?

フォームキー ?

項目名	必須/任意	入力形式	説明
イニシエータ	任意	任意の文字列を設定します。	プロセス定義を開始したユーザのユーザコードを、プロセスの変数に設定した文字列で登録します。
フォームキー	任意	任意の文字列を設定します。	呼び出すアプリケーションと画面IDを設定します。 例1 : formaのアプリケーション 「application_id」を呼び出す場合 → forma:application_id 例2 : スクラッチ開発した画面 「http://screen/url」を呼び出す 場合 → forward:http://screen/url

タイマ開始イベント

指定した日時や繰り返しの設定など、スケジュールで開始するイベントです。

設定可能な項目は以下のとおりです。

- [基本情報](#)
- [メインコンフィグ](#)
- [説明](#)
- [実行リスナ](#)
- [表現](#)

タイマ開始イベントの配置

1. 「パレット」から、「」にカーソルを合わせます。
2. 「パレット」の右側に現れる一覧から、「」をドラッグ&ドロップの操作でキャンバス上に配置します。



基本情報の設定

基本情報の設定について解説します。

1. エディタ上で設定を行いたいフローエレメントをクリックします。
2. プロパティエリアから「基本情報」タブを選択します。

プロパティの詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
ID	必須	任意の文字列を設定します。 英数字と一部の記号のみ使用できます。	フローエレメントを一意に特定するためのIDを設定します。
名前	任意	任意の文字列を設定します。	フローエレメントの名前を設定します。 プロセス定義で表示されます。
実行モード			非同期実行を行うための設定です。
制御モード			排他制御を行うための設定です。

メインコンフィグの設定

タイマ開始イベントのメインコンフィグの設定について解説します。

基本情報

メインコンフィグ

説明

リスナ

表現

時間指定の種別

?

☐ 日付
☒ 周期
☐ 期間

周期*

?

R3/PT10H

#{}

日付計算方法

?

☐ システム日付で計算
☒ 業務日付で計算

タイムゾーン*

?

システムタイムゾーンを使用する

▼

カレンダーID*

?

システムカレンダーIDを使用する▼

☒ カスタムカレンダーロジックを使用する

?

カスタムカレンダーロジック

?

☐ Javaクラス
☐ スクリプトファイル
☒ IM-LogicDesigner

フローID*

?

🔍 フロー定義検索

test

利用するバージョン

?

☐ 最新バージョンを利用
☒ 入力したバージョンを利用

バージョン番号*

?

1|

項目名	必須/任意	入力形式	説明
時間指定の種別			時間を指定する種別を選択します。
日付	必須	日付形式の文字列を設定します。 EL式による設定が可能です。	「時間指定の種別」で「日付」を選択した場合に設定します。 開始する日付を設定します。 例：2016年1月1日12時開始 → 2016-01-01T12:00:00 指定日に1回のみ開始されます。
周期	必須	周期形式の文字列を設定します。 EL式による設定が可能です。	「時間指定の種別」で「周期」を選択した場合に設定します。 開始する周期を設定します。 例：10時間毎に3回開始 → R3/PT10H 指定方法により複数回開始されます。
期間	必須	期間形式の文字列を設定します。 EL式による設定が可能です。	「時間指定の種別」で「期間」を選択した場合に設定します。 開始するまでの期間を設定します。 例：10日後開始 → P10D プロセス定義をデプロイしたときから指定した期間が経過したとき1回のみ開始されます。
日付計算方法			- システム日付で計算 システムで定義されている休日を考慮せずにタイムイベントの実行がスケジュールされます。 - 業務日付で計算 システムで定義されている休日を考慮し、休日にはタイムイベントの実行がスケジュールされなくなります。
タイムゾーン			タイムイベントのスケジュールを行う際のタイムゾーンを指定します。
カレンダーID			業務日付でタイムイベントのスケジュールを行う際に、休日の定義を参照するカレンダーを指定します。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
カスタムカレンダーロジックを使用する			ユーザコードまたはLogicDesignerを使用して、システムが計算したスケジュールの編集を行います。 繰り返し指定などにより、複数回スケジュールの計算を行う必要がある場合、二回目以降のスケジュールの計算時に、一回目のスケジュール日時を再計算するため、ユーザコードの振る舞はべき等である必要があります。 これは、リトライなどが発生した場合などに前回のスケジュールの正確な実行時間が取得できない場合があります。
カスタムカレンダーロジック	必須	呼び出すクラスを設定します。	スケジュールの編集を行うロジックの種類を選択します。「Javaクラス」、「スクリプトファイル」、「IM-LogicDesigner」より選択できます。
Javaクラス	必須	Javaクラスを設定します。	システムにデプロイされているJavaクラスを呼び出し、スケジュールの編集を行います。 カスタムロジックタイプで「Javaクラス」を選択した場合に入力します。
スクリプトファイル	必須	実行するスクリプトファイルを { IM-Juggling プロジェクト }/classes からの相対パス形式で指定します。 例： { IM-Juggling プロジェクト }/classes/sample/foo.js を実行する場合→sample/foo.js	システムにデプロイされている <i>im-javascript</i> のスクリプトファイルを呼び出し、スケジュールの編集を行います。 カスタムロジックタイプで「スクリプトファイル」を選択した場合に入力します。
フローID	必須	フロー定義IDを設定します。IM-LogicDesignerのフロー定義IDを指定します。	カスタムロジックタイプで「IM-LogicDesigner」を選択した場合に入力します。 「フロー定義検索」ボタンでフロー定義の検索ができます。
利用するバージョン			タイプで「IM-LogicDesigner」を選択した場合に選択します。 - 最新バージョンを利用 - ロジックフローの最新バージョンを使用します。 - 入力したバージョンを利用 - 指定したロジックフローのバージョンを使用します。
バージョン番号	必須	ロジックフローのバージョン番号を設定します。	カスタムロジックタイプで「IM-LogicDesigner」を選択し、「利用するバージョン」で「入力したバージョンを利用」を選択した場合に入力します。 ロジックフローのバージョン番号を指定します。



コラム

Javaクラスについて

「Javaクラス」で指定するクラスは、下記のInterfaceを実装する必要があります。

- jp.co.intra_mart.activiti.engine.impl.calendar.custom.logic.execute.CustomBusinessCalendarLogicJavaClass

i コラム

スクリプトファイルについて

スクリプトファイルは以下の形式で記述されている必要があります。

関数名 : `run(input)`

戻り値 : `rescheduledDate` ※編集後のスケジュール日時

スクリプトファイルの `input` には下記の情報が設定されます。

```
{
  "processDefinitionId" : "PROCESS_TIMER_START_EVENT_019:1:8guoz28v37c25xa",
  "processInstanceId" : null,
  "executionId" : null,
  "activityId" : "timer-start-event_1",
  "calendarId" : "JPN_CAL",
  "calcStartDate" : new Date(1687945754602),
  "dueDate" : new Date(1687946354602),
  "businessKey" : null,
  "description" : "R3/PT10M",
  "timeZone" : "Asia/Tokyo",
  "processDefinitionKey" : "PROCESS_TIMER_START_EVENT_019"
}
```

`processDefinitionId` : プロセス定義ID

`processInstanceId` : プロセスインスタンスID、タイマ開始イベントの場合は、`null` が設定されます。

`executionId` : エグゼキューションID、タイマ開始イベントの場合は、`null` が設定されます。

`activityId` : タイマイベントのアクティビティID

`calendarId` : カレンダーID

`calcStartDate` : 計算の基準となる日時。アクティビティへの到達日時が設定されます。

`dueDate` : システムがあらかじめ計算したスケジュール日時

`businessKey` : 業務キー

`description` : 周期または期間に設定されたスケジュール指定文字列

`timeZone` : タイムゾーン

`processDefinitionKey` : プロセス定義キー

以下はシステムが計算したスケジュール時刻が18時以降であった場合、次の営業日の9時に再スケジュールするスクリプトのサンプルです。

```
function run(input) {
  var calendarService = new bpm.BusinessCalendarService();
  var rescheduledDate = input.dueDate;
  if (calendarService.isAfter(input.dueDate,18,input.timeZone).data) {
    var nextBusinessDay = calendarService.getNextBusinessDay(input.dueDate,input.timeZone,input.calendarId).data;
    rescheduledDate = calendarService.editClock(nextBusinessDay,9,input.timeZone).data;
  }
  return {
    rescheduledDate : rescheduledDate
  };
}
```

i コラム

IM-LogicDesignerの入力値/出力値のjson定義

IM-LogicDesignerの入力値

calcStartDate、dueDateは読み込んだのち、IM-LogicDesignerの「入出力設定」にてDate型へ変更してください。

```
{
  "processDefinitionKey": "",
  "processDefinitionId": "",
  "businessKey": "",
  "processInstancelId": "",
  "executionId": "",
  "activityId": "",
  "timeZone": "",
  "calendarId": "",
  "description": "",
  "calcStartDate": null,
  "dueDate": null
}
```

IM-LogicDesignerの出力値

読み込んだのち、IM-LogicDesignerの「入出力設定」にてDate型へ変更してください。

```
{
  "rescheduledDate": null
}
```

! 注意

「日付計算方法」、および「カスタムカレンダーロジック」は、2023 Autumn(Hollyhock)以降のバージョンから設定できます。

シグナル開始イベント

シグナルを受信する事で、プロセス定義を開始するイベントです。

設定可能な項目は以下のとおりです。

- [基本情報](#)
- [メインコンフィグ](#)
- [説明](#)
- [実行リスナ](#)
- [表現](#)

シグナル開始イベントの配置

1. 「パレット」から、「」にカーソルを合わせます。
2. 「パレット」の右側に現れる一覧から、「」をドラッグ＆ドロップの操作でキャンバス上に配置します。



基本情報の設定

基本情報の設定について解説します。

1. エディタ上で設定を行いたいフローエレメントをクリックします。
2. プロパティエリアから「基本情報」タブを選択します。

プロパティの詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
ID	必須	任意の文字列を設定します。 英数字と一部の記号のみ使用できます。	フローエレメントを一意に特定するためのIDを設定します。
名前	任意	任意の文字列を設定します。	フローエレメントの名前を設定します。 プロセス定義で表示されます。
実行モード			非同期実行を行うための設定です。
制御モード			排他制御を行うための設定です。

メインコンフィグの設定

シグナル開始イベントのメインコンフィグの設定について解説します。

基本情報 **メインコンフィグ** 説明 リスナ

表現

参照シグナル * ?

signal01 (ID:signal01) ▼

項目名	必須/任意	入力形式	説明
参照シグナル	必須		受信するシグナルを選択します。 選択したシグナルを受信すると、プロセス定義が開始されます。 シグナルの設定については、「 メッセージ&シグナル 」を参照してください。

メッセージ開始イベント

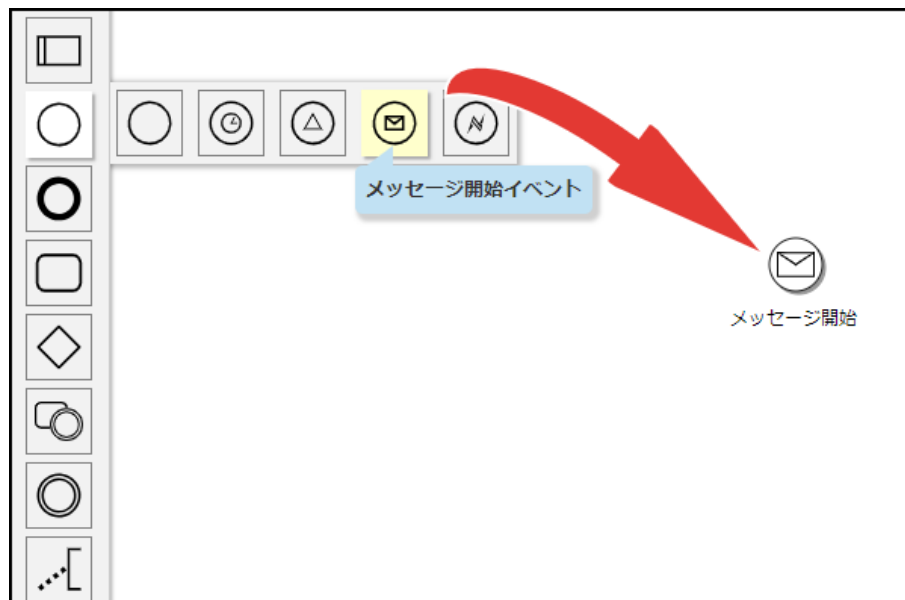
メッセージを受信する事で、プロセス定義を開始するイベントです。

設定可能な項目は以下のとおりです。

- [基本情報](#)
- [メインコンフィグ](#)
- [説明](#)
- [実行リスナ](#)
- [表現](#)

メッセージ開始イベントの配置

1. 「パレット」から、「」にカーソルを合わせます。
2. 「パレット」の右側に現れる一覧から、「」をドラッグ&ドロップの操作でキャンバス上に配置します。



基本情報の設定

基本情報の設定について解説します。

1. エディタ上で設定を行いたいフローエレメントをクリックします。
2. プロパティエリアから「基本情報」タブを選択します。

プロパティの詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
ID	必須	任意の文字列を設定します。 英数字と一部の記号のみ使用できます。	フローエレメントを一意に特定するためのIDを設定します。
名前	任意	任意の文字列を設定します。	フローエレメントの名前を設定します。 プロセス定義で表示されます。
実行モード			非同期実行を行うための設定です。
制御モード			排他制御を行うための設定です。

メインコンフィグの設定

メッセージ開始イベントのメインコンフィグの設定について解説します。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
参照メッセージ	必須		受信するメッセージを選択します。 選択したメッセージを受信すると、プロセス定義が開始されます。 メッセージの設定については、「 メッセージ&シグナル 」を参照してください。

エラー開始イベント

メインのプロセス定義からエラーを受信し、イベントサブプロセスを開始するイベントです。
イベントサブプロセスでのみ使用が可能です。

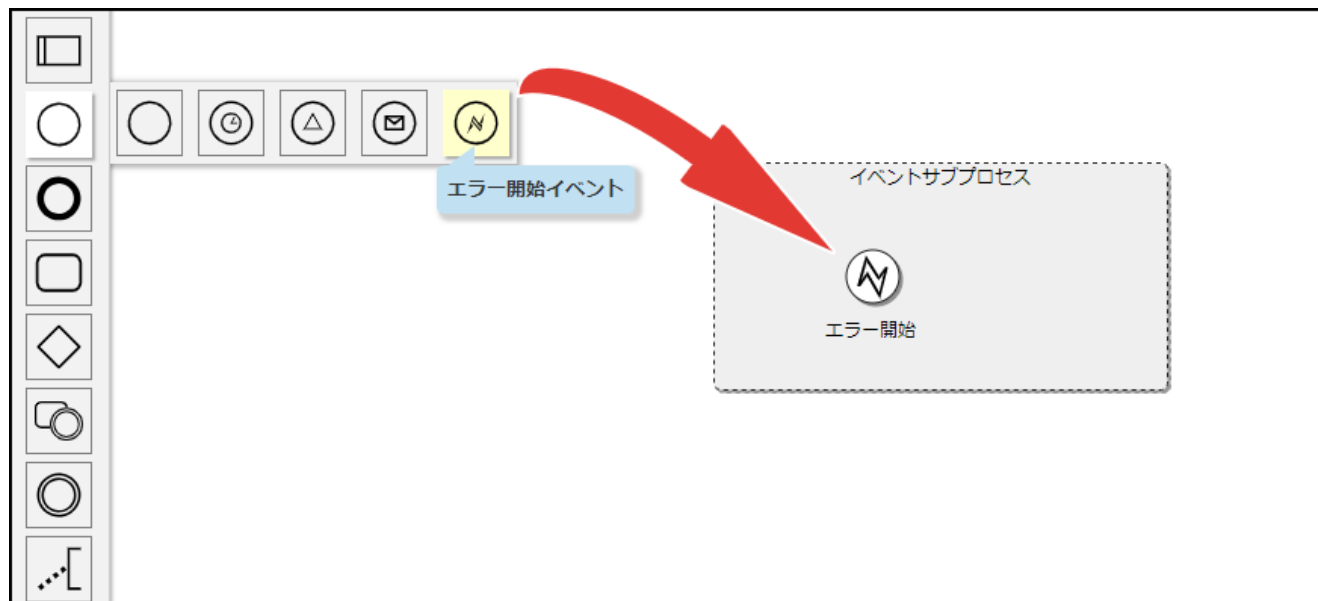
設定可能な項目は以下のとおりです。

- [基本情報](#)
- [メインコンフィグ](#)
- [説明](#)
- [実行リスナ](#)
- [表現](#)

エラー開始イベントの配置

エラー開始イベントの配置には、事前に [イベントサブプロセス](#) を配置している必要があります。

1. 「パレット」から、「」にカーソルを合わせます。
2. 「パレット」の右側に現れる一覧から、「」をドラッグ&ドロップの操作でイベントサブプロセスの内部に配置します。



基本情報の設定

基本情報の設定について解説します。

1. エディタ上で設定を行いたいフローエレメントをクリックします。
2. プロパティエリアから「基本情報」タブを選択します。



プロパティの詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
ID	必須	任意の文字列を設定します。 英数字と一部の記号のみ使用できます。	フローエレメントを一意に特定するためのIDを設定します。
名前	任意	任意の文字列を設定します。	フローエレメントの名前を設定します。 プロセス定義で表示されます。
実行モード			非同期実行を行うための設定です。
制御モード			排他制御を行うための設定です。

エラー開始イベントのメインコンフィグの設定について解説します。



The screenshot shows the 'Main Config' tab of an event configuration window. The 'Error Code' field is highlighted with a red asterisk and contains the text 'error01'. A help icon (?) is visible next to the field.

項目名	必須/任意	入力形式	説明
エラーコード	必須	任意の文字列を設定します。	設定したエラーコードのエラーが発生すると、イベントサブプロセスが開始されます。

終了イベント

終了イベントとは、プロセス定義の終了箇所や実行結果を表したものです。

開始イベント1つに対して終了イベントが複数存在する場合があります。

複数に分岐したプロセス定義において、どれか1つでも終了イベントに到達した場合でも、並行で動作しているタスク等に関しては継続して処理が進みます。

終了イベントは、終了した結果として何を行うかによって以下の3つに分類されます。

終了イベント

プロセス定義を完了させる終了イベントです。

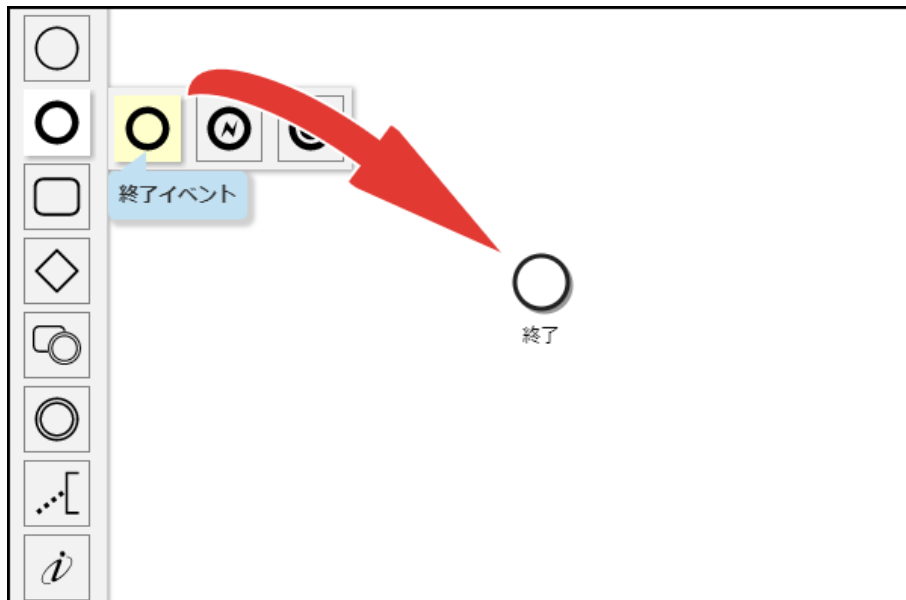
サブプロセスで使用された場合は、親のプロセス定義に処理が戻ります。

設定可能な項目は以下のとおりです。

- [基本情報](#)
- [説明](#)
- [実行リスナ](#)
- [表現](#)

終了イベントの配置

1. 「パレット」から、「」にカーソルを合わせます。
2. 「パレット」の右側に現れる一覧から、「」をドラッグ&ドロップの操作でキャンバス上に配置します。



基本情報の設定

基本情報の設定について解説します。

1. エディタ上で設定を行いたいフローエレメントをクリックします。
2. プロパティエリアから「基本情報」タブを選択します。

プロパティの詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
ID	必須	任意の文字列を設定します。 英数字と一部の記号のみ使用できます。	フローエレメントを一意に特定するためのIDを設定します。
名前	任意	任意の文字列を設定します。	フローエレメントの名前を設定します。 プロセス定義で表示されます。
実行モード			非同期実行を行うための設定です。
制御モード			排他制御を行うための設定です。

エラー終了イベント

エラーコードを送信する終了イベントです。

このエラーコードはエラー開始イベント、または、エラー境界イベントで受信する事ができます。

エラー終了イベントを配置した場合には必ずそのエラーコードを受信するエラー開始イベントを配置する必要があります。

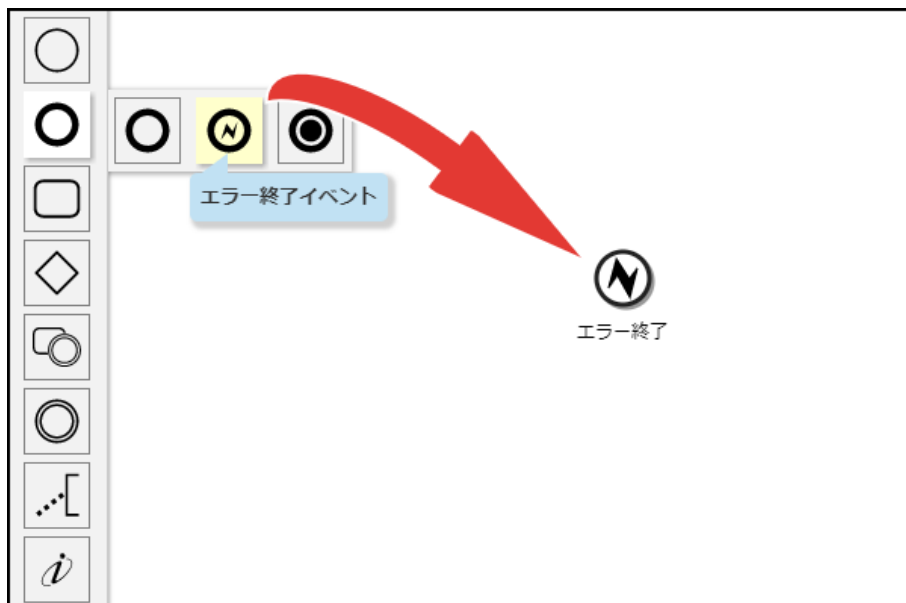
コールアクティビティを利用している場合には、呼び出し元の親プロセス定義側で受信する事もできます。

設定可能な項目は以下のとおりです。

- [基本情報](#)
- [メインコンフィグ](#)
- [説明](#)
- [実行リスナ](#)
- [表現](#)

エラー終了イベントの配置

1. 「パレット」から、「」にカーソルを合わせます。
2. 「パレット」の右側に現れる一覧から、「」をドラッグ&ドロップの操作でキャンバスに配置します。



基本情報の設定

基本情報の設定について解説します。

1. エディタ上で設定を行いたいフローエレメントをクリックします。
2. プロパティエリアから「基本情報」タブを選択します。



プロパティの詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
ID	必須	任意の文字列を設定します。 英数字と一部の記号のみ使用できます。	フローエレメントを一意に特定するためのIDを設定します。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
名前	任意	任意の文字列を設定します。	フローエレメントの名前を設定します。 プロセス定義で表示されます。
実行モード			非同期実行を行うための設定です。
制御モード			排他制御を行うための設定です。

メインコンフィグの設定

エラー終了イベントのメインコンフィグの設定について解説します。

The screenshot shows the 'Main Config' tab for an error end event. The 'Error Code' field is labeled 'エラーコード*' and contains the text 'error01'. There is a help icon (?) next to the field.

項目名	必須/任意	入力形式	説明
エラーコード	必須	任意の文字列を設定します。	エラー終了イベントに到達すると、エラーコードが設定されているエラー開始イベント、または、エラー境界イベントが開始します。エラーコードを受信するエラー開始イベント、または、エラー境界イベントがない場合、ランタイム側でエラーが発生します。

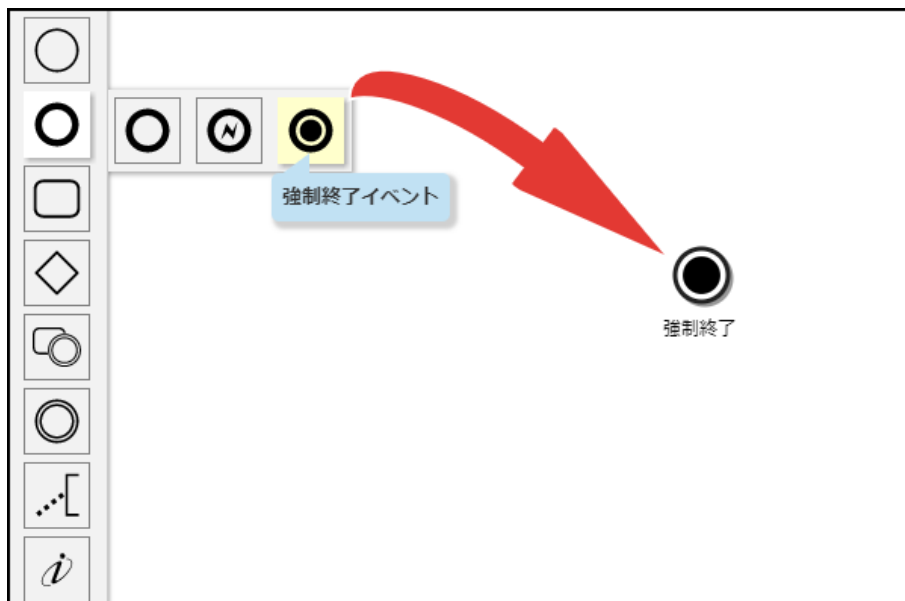
強制終了イベント

該当のプロセスを直ちに停止し、終了するイベントです。

サブプロセス内に配置した場合も、サブプロセス内のプロセスが並行しているものも含めて完了とみなして、親プロセスの次のタスクやイベントへと続きます。

強制終了イベントの配置

- 「パレット」から、「」にカーソルを合わせます。
- 「パレット」の右側に現れる一覧から、「」をドラッグ&ドロップの操作でキャンバス上に配置します。



設定可能な項目は以下のとおりです。

- [基本情報](#)

- [メインコンフィグ](#)
- [説明](#)
- [実行リスナ](#)
- [表現](#)

メインコンフィグの設定

強制終了イベントのメインコンフィグの設定について解説します。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
関連するプロセスもすべて含めて強制終了する			チェックを入れた場合、強制終了イベント到達時に関連したプロセスも自動的に終了させます。 チェックを入れていない場合、強制終了イベントが所属しているプロセスのみを終了します。

基本情報の設定

基本情報の設定について解説します。

1. エディタ上で設定を行いたいフローエレメントをクリックします。
2. プロパティエリアから「基本情報」タブを選択します。

プロパティの詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
ID	必須	任意の文字列を設定します。 英数字と一部の記号のみ使用できます。	フローエレメントを一意に特定するためのIDを設定します。
名前	任意	任意の文字列を設定します。	フローエレメントの名前を設定します。 プロセス定義で表示されます。
実行モード			非同期実行を行うための設定です。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
制御モード			排他制御を行うための設定です。

タスク

プロセス定義の中での最小単位の業務・アクションを表します。

タスクは、作業内容によって以下の8つに分類されます。

アブストラクトタスク

アブストラクトタスクは、業務フローとして表現のみのタスクとして利用されます。

設定可能な項目は以下のとおりです。

- [基本情報](#)
- [説明](#)
- [実行リスナ](#)
- [マルチインスタンス](#)
- [関連ドキュメント](#)
- [表現](#)

アブストラクトタスクの配置

1. 「パレット」から、「」にカーソルを合わせます。
2. 「パレット」の右側に現れる一覧から、「」をドラッグ&ドロップの操作でキャンバス上に配置します。



基本情報の設定

基本情報の設定について解説します。

1. エディタ上で設定を行いたいフローエレメントをクリックします。
2. プロパティエリアから「基本情報」タブを選択します。

基本情報

説明

リスナ

マルチインスタンス

関連ドキュメント

表現

ID *

XXXXXXXX-XXXX_1

名前

XXX_1

デフォルトフロー

実行モード

☒ 同期
☐ 非同期

制御モード

☒ 排他
☐ 非排他

☒ オプショナル

☐ 実行中のタスクを複数追加可能にする

タスク追加時のパラメータ

+

 追加

↑

 上へ

↓

 下へ

🗑

 選択済みの項目を削除

選択	編集	表示名	変数名	入力タイプ	列挙ID
☐		XXXX_1	xx_1	enum	XXXXXXXXXXXX_1

プロパティの詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
ID	必須	任意の文字列を設定します。 英数字と一部の記号のみ使用できます。	フローエレメントを一意に特定するためのIDを設定します。
名前	任意	任意の文字列を設定します。	フローエレメントの名前を設定します。 プロセス定義で表示されます。
デフォルトフロー			同じフローエレメントから複数のシーケンスフローが 接続されている場合に表示されます。 他のシーケンスフローの条件式が、全てfalseと評価さ れている場合に進行するシーケンスフローの設定で す。 「通常」の場合という意味ではなく、「それ以外」の 場合を表します。
実行モード			非同期実行を行うための設定です。
制御モード			排他制御を行うための設定です。
オプショナル			チェックを入れた場合、オプショナルタスクとして扱 われます。 オプショナルタスクは、シーケンスフローの始点・終 点にできないなど、いくつかの制約があります。 詳細は「 IM-BPM 仕様書 」 - 「 オプショナルタスク 」 - 「 制約 」を参照してください。
実行中のタスクを 複数追加可能にす る			チェックを入れた場合、実行中のタスクが既に追加済 みであっても、再度追加できます。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
タスク追加時のパラメータ			タスク追加時に設定できるパラメータ情報を定義します。 定義したパラメータ情報は、タスク追加時に追加したタスクからのみ参照できるエグゼキューション変数に格納されます。 チェックを入れて、「上へ」「下へ」ボタンをクリックすることで順番を変えられます。 「編集」リンク、または、「追加」リンクをクリックすると、「タスク追加時のパラメータ」ダイアログが表示されます。

「タスク追加時のパラメータ」ダイアログ

「タスク追加」画面で表示されるタスクの順番を変えます。

タスク追加時のパラメータ

表示名 * ?

xx_1

変数名 * ?

xxx_1

入力タイプ * ?

列挙値 ▼

列挙ID * ?

列挙型検索

xxxxxxxxxxx_1

決定 取り消し

項目名	必須/任意	説明
表示名	必須	任意の文字列を設定します。 オプションタスク追加時に表示される入力フォームで対象の業務項目を表示する際のラベルに使用されます。
変数名	必須	変数を一意に特定するためのキーを定義します。 エグゼキューション変数の変数名として利用されます。
入力タイプ	必須	業務項目の入力方法のタイプを設定します。
列挙ID	必須	入力タイプに「列挙値」を設定した場合に表示されます。 IM-Repositoryの列挙型IDを指定します。

コラム

入力タイプに設定できるものは以下の通りです。

- string : 文字列
- alpha : 英字
- alphanumeric : 英数字
- numeric : 数字
- date : 日付
- boolean : 真偽値
- textarea : 複数行の文字列
- user : ユーザ検索
- users : ユーザ検索（複数）
- department : 組織検索
- enum#%IM-Repositoryの列挙型のID% : 列挙値

人によって実行されなければならないタスクです。

このタスクは担当者となったユーザが処理を完了させるまで、プロセスが進みません。

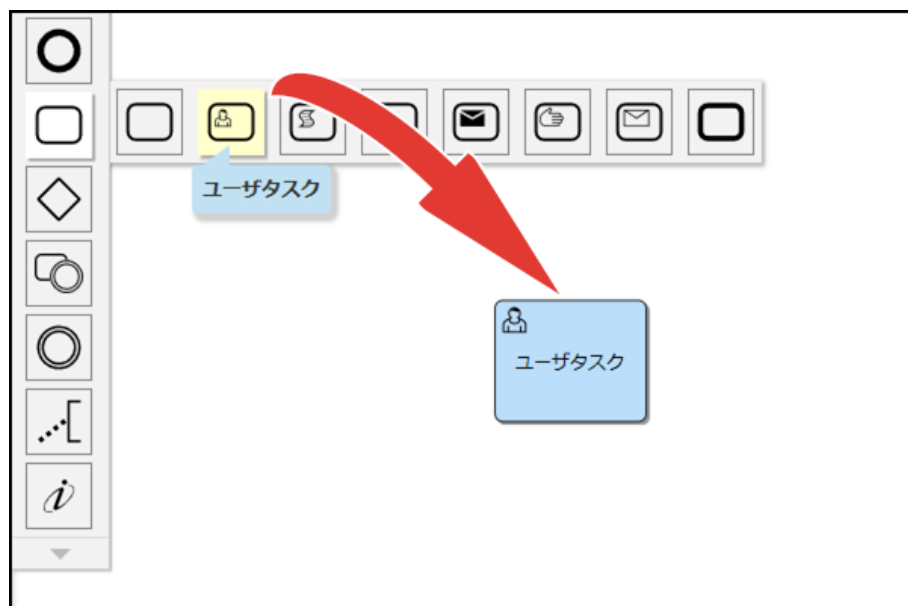
IM-BPM for Accel PlatformのRuntimeでは、「タスク一覧」画面にタスクが表示されます。

設定可能な項目は以下のとおりです。

- [基本情報](#)
- [メインコンフィグ](#)
- [説明](#)
- [フォーム](#)
- [実行リスナ](#)
- [タスクリスナ](#)
- [マルチインスタンス](#)
- [関連ドキュメント](#)
- [表現](#)

ユーザタスクの配置

1. 「パレット」から、「」にカーソルを合わせます。
2. 「パレット」の右側に現れる一覧から、「」をドラッグ&ドロップの操作でキャンバス上に配置します。



基本情報の設定

基本情報の設定について解説します。

1. エディタ上で設定を行いたいフローエレメントをクリックします。
2. プロパティエリアから「基本情報」タブを選択します。

プロパティの詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
ID	必須	任意の文字列を設定します。 英数字と一部の記号のみ使用できます。	フローエレメントを一意に特定するためのIDを設定します。
名前	任意	任意の文字列を設定します。 EL式による設定が可能です。	フローエレメントの名前を設定します。 プロセス定義で表示されます。
デフォルトフロー			同じフローエレメントから複数のシーケンスフローが 接続されている場合に表示されます。 他のシーケンスフローの条件式が、全てfalseと評価さ れている場合に進行するシーケンスフローの設定で す。 「通常」の場合という意味ではなく、「それ以外」の 場合を表します。
別名	任意	任意の文字列を設定します。 EL式による設定が可能です。	フローエレメントの別名を設定します。
実行モード			非同期実行を行うための設定です。
制御モード			排他制御を行うための設定です。
オプショナル			チェックを入れた場合、オプショナルタスクとして扱 われます。 オプショナルタスクは、シーケンスフローの始点・終 点にできないなど、いくつかの制約があります。 詳細は「 IM-BPM 仕様書 」 - 「 オプショナルタスク 」 - 「 制約 」を参照してください。
実行中のタスクを 複数追加可能にす る			チェックを入れた場合、実行中のタスクが既に追加済 みであっても、再度追加できます。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
タスク追加時のパラメータ			タスク追加時に設定できるパラメータ情報を定義します。 定義したパラメータ情報は、タスク追加時に追加したタスクからのみ参照できるエグゼキューション変数に格納されます。 チェックを入れて、「上へ」「下へ」ボタンをクリックすることで順番を変えられます。 「編集」リンク、または、「追加」リンクをクリックすると、「タスク追加時のパラメータ」ダイアログが表示されます。

「タスク追加時のパラメータ」ダイアログ

「タスク追加」画面で表示されるタスクの順番を変えます。

項目名	必須/任意	説明
表示名	必須	任意の文字列を設定します。 オプションタスク追加時に表示される入力フォームで対象の業務項目を表示する際のラベルに使用されます。
変数名	必須	変数を一意に特定するためのキーを定義します。 エグゼキューション変数の変数名として利用されます。
入力タイプ	必須	業務項目の入力方法のタイプを設定します。
列挙ID	必須	入力タイプに「列挙値」を設定した場合に表示されます。 IM-Repositoryの列挙型IDを指定します。

コラム

入力タイプに設定できるものは以下の通りです。

- string : 文字列
- alpha : 英字
- alphanumeric : 英数字
- numeric : 数字
- date : 日付
- boolean : 真偽値
- textarea : 複数行の文字列
- user : ユーザ検索
- users : ユーザ検索（複数）
- department : 組織検索
- enum#%IM-Repositoryの列挙型のID% : 列挙値

ユーザタスクのメインコンフィグの設定について解説します。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
担当者	任意	ユーザは、ユーザコードで設定します。 EL式による設定が可能です。	タスクの担当者になるユーザを設定します。 設定されたユーザは、タスクに到達したときに自動的に担当者として割り振られます。 「ユーザ検索」でユーザの検索ができます。
処理対象ユーザ	任意	ユーザは、ユーザコードで設定します。 複数設定する場合は、ユーザ毎にカンマで区切ることで設定可能です。 EL式による設定が可能です。	タスクを振り分ける権限を持つユーザを設定します。 「ユーザ検索」でユーザの検索ができます。
処理対象グループ	任意	グループはロールIDで設定し、対象となるユーザは指定したロールを保持するユーザです。 複数設定する場合は、グループ毎にカンマで区切ることで設定可能です。 EL式による設定が可能です。	タスクを振り分ける権限を持つグループを設定します。 「ロール検索」でロールの検索ができます。
フォームキー	任意	任意の文字列を設定します。 EL式による設定が可能です。	呼び出すアプリケーションと画面IDを設定します。 例1: formaのアプリケーション 「application_id」を呼び出す場合 → forma:application_id 例2: スクラッチ開発した画面 「http://screen/url」を呼び出す場合 → forward:http://screen/url

項目名	必須/任意	入力形式	説明
期限	任意	日付形式で期限を設定します。 EL式による設定が可能です。	ユーザタスクの期限を設定します。 例：2016年1月1日12時を期限に設定する場合 → 2016-01-01T12:00:00
優先度	任意	任意の数値を設定します。 EL式による設定が可能です。	タスクの優先度を設定します。 ソートや検索条件としても使用できます。
カテゴリ	任意	任意の文字列を設定します。 EL式による設定が可能です。	ユーザタスクのカテゴリを設定します。
スキップ条件	任意	EL式を設定します。	タスクを自動的に終了する条件を設定します。 記入した「スキップ条件」がtrueと評価された場合、このタスクは完了した状態となり、次のタスク、または、イベントへと自動的に遷移します。 falseと評価された場合、担当者となったユーザがタスクを完了する必要があります。 「スキップ条件」は参照できるスコープ内の変数 「_ACTIVITY_SKIP_EXPRESSION_ENABLED」に、true が設定されている場合のみ有効です。

i コラム

スキップ条件を有効にする変数を、データオブジェクトのデータプロパティで設定する場合、以下の設定を行います。

- ID：任意
- 名前：_ACTIVITY_SKIP_EXPRESSION_ENABLED
- 型：boolean
- 値：true

データプロパティ

ID *

名前 *

型
 boolean ▼

詳細は、「IM-BPM プロセスデザイナー 操作ガイド (データプロパティの設定)」を参照してください。

値

決定 取り消し

データオブジェクトの詳細は「[データオブジェクト](#)」を参照してください。

スクリプトタスク

設定されたスクリプトを自動的に実行するタスクです。

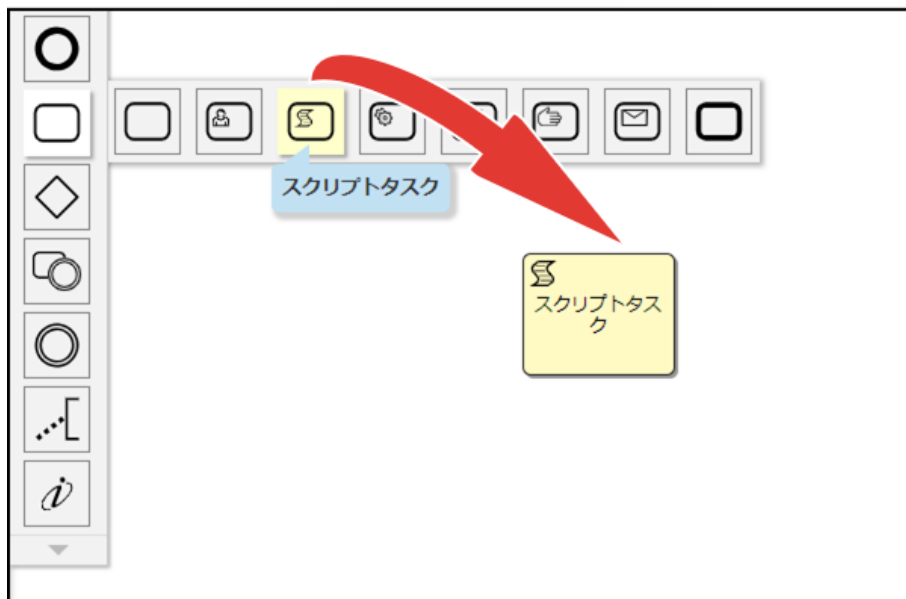
intra-martのスクリプト開発モデルを利用した実装が可能です。

設定可能な項目は以下のとおりです。

- [基本情報](#)
- [メインコンフィグ](#)
- [説明](#)
- [実行リスナ](#)
- [マルチインスタンス](#)
- [表現](#)

スクリプトタスクの配置

1. 「パレット」から、「」にカーソルを合わせます。
2. 「パレット」の右側に現れる一覧から、「」をドラッグ&ドロップの操作でキャンバス上に配置します。



基本情報の設定

基本情報の設定について解説します。

1. エディタ上で設定を行いたいフローエレメントをクリックします。
2. プロパティエリアから「基本情報」タブを選択します。

選択	編集	表示名	変数名	入力タイプ	列挙ID
☐		xxx_1	XXX_1	enum	xxxxxxxxxxx_1

プロパティの詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
-----	-------	------	----

項目名	必須/任意	入力形式	説明
ID	必須	任意の文字列を設定します。 英数字と一部の記号のみ使用できます。	フローエレメントを一意に特定するためのIDを設定します。
名前	任意	任意の文字列を設定します。 EL式による設定が可能です。	フローエレメントの名前を設定します。 プロセス定義で表示されます。
デフォルトフロー			同じフローエレメントから複数のシーケンスフローが接続されている場合に表示されます。 他のシーケンスフローの条件式が、全てfalseと評価されている場合に進行するシーケンスフローの設定です。 「通常」の場合という意味ではなく、「それ以外」の場合を表します。
実行モード			非同期実行を行うための設定です。
制御モード			排他制御を行うための設定です。
オプション			チェックを入れた場合、オプションタスクとして扱われます。 オプションタスクは、シーケンスフローの始点・終点にできないなど、いくつかの制約があります。 詳細は「 IM-BPM 仕様書 」 - 「 オプションタスク 」 - 「 制約 」を参照してください。
実行中のタスクを複数追加可能にする			チェックを入れた場合、実行中のタスクが既に追加済みであっても、再度追加できます。
タスク追加時のパラメータ			タスク追加時に設定できるパラメータ情報を定義します。 定義したパラメータ情報は、タスク追加時に追加したタスクからのみ参照できるエグゼキューション変数に格納されます。 チェックを入れて、「上へ」「下へ」ボタンをクリックすることで順番を変えられます。 「編集」リンク、または、「追加」リンクをクリックすると、「タスク追加時のパラメータ」ダイアログが表示されます。

「タスク追加時のパラメータ」ダイアログ

「タスク追加」画面で表示されるタスクの順番を変えます。

タスク追加時のパラメータ

表示名 *

xx_1

?

変数名 *

xxx_1

?

入カタイプ *

列挙値

?

列挙ID *

列挙型検索

xxxxxxxxxxx_1

?

決定

取り消し

項目名	必須/任意	説明
表示名	必須	任意の文字列を設定します。 オプションタスク追加時に表示される入力フォームで対象の業務項目を表示する際のラベルに使用されます。
変数名	必須	変数を一意に特定するためのキーを定義します。 エグゼキューション変数の変数名として利用されます。
入力タイプ	必須	業務項目の入力方法のタイプを設定します。
列挙ID	必須	入力タイプに「列挙値」を設定した場合に表示されます。 IM-Repositoryの列挙型IDを指定します。



コラム

入力タイプに設定できるものは以下の通りです。

- string : 文字列
- alpha : 英字
- alphanumeric : 英数字
- numeric : 数字
- date : 日付
- boolean : 真偽値
- textarea : 複数行の文字列
- user : ユーザ検索
- users : ユーザ検索（複数）
- department : 組織検索
- enum#%IM-Repositoryの列挙型のID% : 列挙値

メインコンフィグの設定

スクリプトタスクのメインコンフィグの設定について解説します。

基本情報

メインコンフィグ

説明

リスナ

マルチインスタンス

表現

スクリプト言語

im_javascript

?

スクリプトファイル

?

スクリプト *

?

編集

```
function run(variables, execution, entity) {
  entity.setVariable('foo', 'FOO');
}
```

結果変数名

?

項目名	必須/任意	入力形式	説明
スクリプト言語			現在変更はできません。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
スクリプトファイル	任意	スクリプトファイルのファイル名を設定します。	実行するスクリプトファイルを { IM-Juggling プロジェクト }/classes からの相対パス形式で指定します。 例：{ IM-Juggling プロジェクト }/classes/sample/foo.js を実行する場合 →sample/foo.js
スクリプト	必須	実行するスクリプトを設定します。	実行はサーバ側で行われます。 スクリプトの編集を行う場合は、「スクリプトファイル」の値を削除する必要があります。 「スクリプトファイル」の値が入力されている場合は、「スクリプト」に記述したプログラムは実行されません。 「編集」で編集ダイアログが開きます。
結果変数名	任意	任意の文字列を設定します。	実行結果を保存するための変数を設定します。 例：結果変数名を「result」と設定した場合、スクリプトの戻り値が変数名「result」のプロセスインスタンス変数として設定されます。



コラム

スクリプトファイルを使用する場合、IM-Juggling を利用してWARファイルに組み込みます。

- 以下の手順で IM-Juggling プロジェクトにスクリプトファイルを追加してください。
 1. IM-Juggling でプロジェクトを開く
 2. ProjectNavigator 上の {プロジェクト名}/classes 配下にスクリプトファイルを格納する。

サービスタスク

任意の処理を呼び出すタスクです。

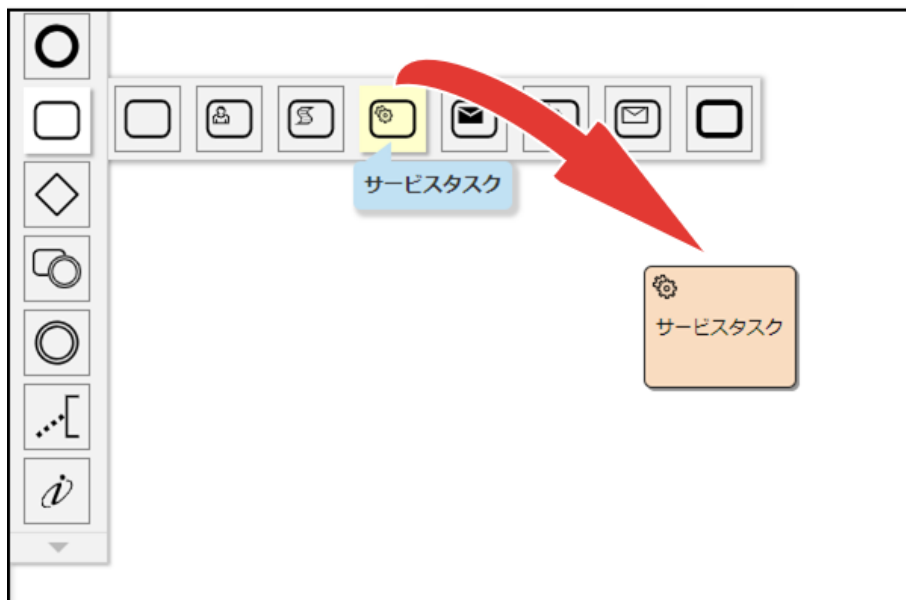
このタスクは処理の完了と同時にタスクも完了します。

設定可能な項目は以下のとおりです。

- [基本情報](#)
- [メインコンフィグ](#)
- [説明](#)
- [実行リスナ](#)
- [マルチインスタンス](#)
- [表現](#)

サービスタスクの配置

1. 「パレット」から、「」にカーソルを合わせます。
2. 「パレット」の右側に現れる一覧から、「」をドラッグ&ドロップの操作でキャンバス上に配置します。



基本情報の設定

基本情報の設定について解説します。

1. エディタ上で設定を行いたいフローエレメントをクリックします。
2. プロパティエリアから「基本情報」タブを選択します。

選択	編集	表示名	変数名	入力タイプ	列挙ID
☐	☒	xxx_1	XXX_1	enum	xxxxxxxxxxx_1

プロパティの詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
ID	必須	任意の文字列を設定します。 英数字と一部の記号のみ使用できます。	フローエレメントを一意に特定するためのIDを設定します。
名前	任意	任意の文字列を設定します。 EL式による設定が可能です。	フローエレメントの名前を設定します。 プロセス定義で表示されます。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
デフォルトフロー			同じフローエレメントから複数のシーケンスフローが接続されている場合に表示されます。 他のシーケンスフローの条件式が、全てfalseと評価されている場合に進行するシーケンスフローの設定です。 「通常」の場合という意味ではなく、「それ以外」の場合を表します。
実行モード			非同期実行を行うための設定です。
制御モード			排他制御を行うための設定です。
オプションル			チェックを入れた場合、オプションルタスクとして扱われます。 オプションルタスクは、シーケンスフローの始点・終点にできないなど、いくつかの制約があります。 詳細は「IM-BPM 仕様書」 - 「オプションルタスク」 - 「制約」を参照してください。
実行中のタスクを複数追加可能にする			チェックを入れた場合、実行中のタスクが既に追加済みであっても、再度追加できます。
タスク追加時のパラメータ			タスク追加時に設定できるパラメータ情報を定義します。 定義したパラメータ情報は、タスク追加時に追加したタスクからのみ参照できるエグゼキューション変数に格納されます。 チェックを入れて、「上へ」「下へ」ボタンをクリックすることで順番を変えられます。 「編集」リンク、または、「追加」リンクをクリックすると、「タスク追加時のパラメータ」ダイアログが表示されます。

「タスク追加時のパラメータ」ダイアログ

「タスク追加」画面で表示されるタスクの順番を変えます。

タスク追加時のパラメータ

表示名 * ?

xx_1

変数名 * ?

xxx_1

入力タイプ * ?

列挙値 ▼

列挙ID * ?

列挙型検索

xxxxxxxxxx_1

決定 取り消し

項目名	必須/任意	説明
表示名	必須	任意の文字列を設定します。 オプションルタスク追加時に表示される入力フォームで対象の業務項目を表示する際のラベルに使用されます。
変数名	必須	変数を一意に特定するためのキーを定義します。 エグゼキューション変数の変数名として利用されます。

項目名	必須/任意	説明
入力タイプ	必須	業務項目の入力方法のタイプを設定します。
列挙ID	必須	入力タイプに「列挙値」を設定した場合に表示されます。 IM-Repositoryの列挙型IDを指定します。

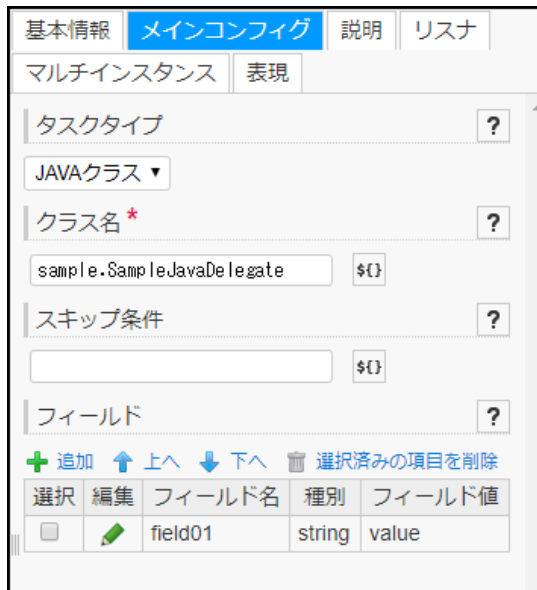
コラム

入力タイプに設定できるものは以下の通りです。

- string : 文字列
- alpha : 英字
- alphanumeric : 英数字
- numeric : 数字
- date : 日付
- boolean : 真偽値
- textarea : 複数行の文字列
- user : ユーザ検索
- users : ユーザ検索（複数）
- department : 組織検索
- enum#%IM-Repositoryの列挙型のID% : 列挙値

メインコンフィグの設定

サービスタスクのメインコンフィグの設定について解説します。



項目名	必須/任意	入力形式	説明
タスクタイプ			呼び出すタスクのタイプを選択します。 「JAVAクラス」、「式」、「デリゲート」の3種類があります。
クラス名	必須	呼び出すJAVAクラス名を設定します。 EL式による設定が可能です。	タスクタイプで「JAVAクラス」を選択した場合に入力します。 下記のInterfaceのいずれかを実装する必要があります。 - org.activiti.engine.delegate.JavaDelegate - jp.co.intra_mart.activiti.engine.impl.pvm.delegate.ActivityBehavior
式	必須	EL式を設定します。	タスクタイプで「式」を選択した場合に入力します。
デリゲート	必須	EL式を設定します。	タスクタイプで「デリゲート」を選択した場合に入力します。 スコープに設定されているデリゲートクラスのキーを指定します。
結果変数名	任意	任意の文字列を設定します。	タスクタイプで「式」を選択した場合に入力します。 実行結果を保存するための変数を設定します。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
スキップ条件	任意	EL式を設定します。	タスクを自動的に終了する条件を設定します。 記入した「スキップ条件」がtrueと評価された場合、このタスクは設定されたサービスを実行せずに次のタスク、または、イベントへと遷移します。 falseと評価された場合、設定されたサービスを実行してタスクを完了します。 「スキップ条件」は参照できるスコープ内の変数 「<code>ACTIVITY_SKIP_EXPRESSION_ENABLED</code>」に、<code>true</code> が設定されている場合のみ有効です。
フィールド			JAVAクラスのフィールドに値をセットするための設定です。 「追加」で新しくフィールドを追加します。 「」でフィールドを編集します。 「上へ」および「下へ」でフィールドを並び替えます。 並び替えたいフィールドを選択した後、「上へ」および「下へ」をクリックしてください。 「選択済みの項目を削除」で選択済みのフィールドを削除します。 削除したいフィールドを選択した後、「選択済みの項目を削除」をクリックしてください。

設定の詳細については「[フィールドの設定](#)」を参照してください。

i コラム

スキップ条件を有効にする変数を、データオブジェクトのデータプロパティで設定する場合、以下の設定を行います。

- ID : 任意
- 名前 : `ACTIVITY_SKIP_EXPRESSION_ENABLED`
- 型 : `boolean`
- 値 : `true`



データプロパティ

ID *

名前 *

型

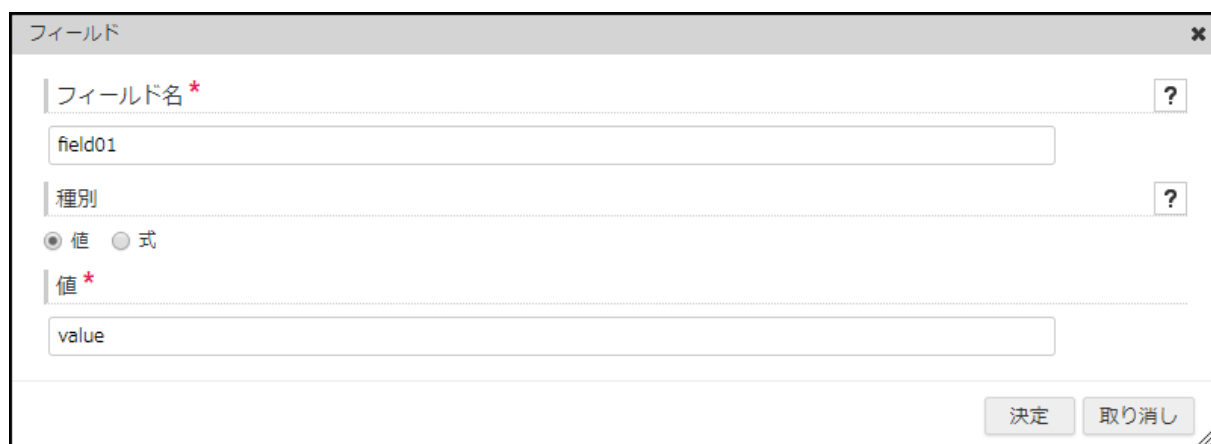
詳細は、「IM-BPM プロセスデザイナー 操作ガイド (データプロパティの設定)」を参照してください。

値

決定 取り消し

データオブジェクトの詳細は「[データオブジェクト](#)」を参照してください。

フィールドの設定



フィールド

フィールド名 *

種別
 ☒ 値 ☐ 式

値 *

決定 取り消し

設定項目の詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
フィールド名	必須	任意の文字列を設定します。	フィールドの変数名を設定します。
種別			フィールドの変数値の種別を選択します。
値	必須	任意の文字列を設定します。	種別で「値」を選択した場合に入力します。 フィールドの値を設定します。
式	必須	EL式を設定します。	フィールドの値を式で設定します。 種別で「式」を選択した場合に入力します。 「編集」をクリックすると、編集ダイアログが開きます。
「決定」ボタン			フィールドを作成します。
「取り消し」ボタン			フィールドの作成をキャンセルし、ダイアログを閉じます。

メールタスク

設定した内容でメールの送信を行うタスクです。

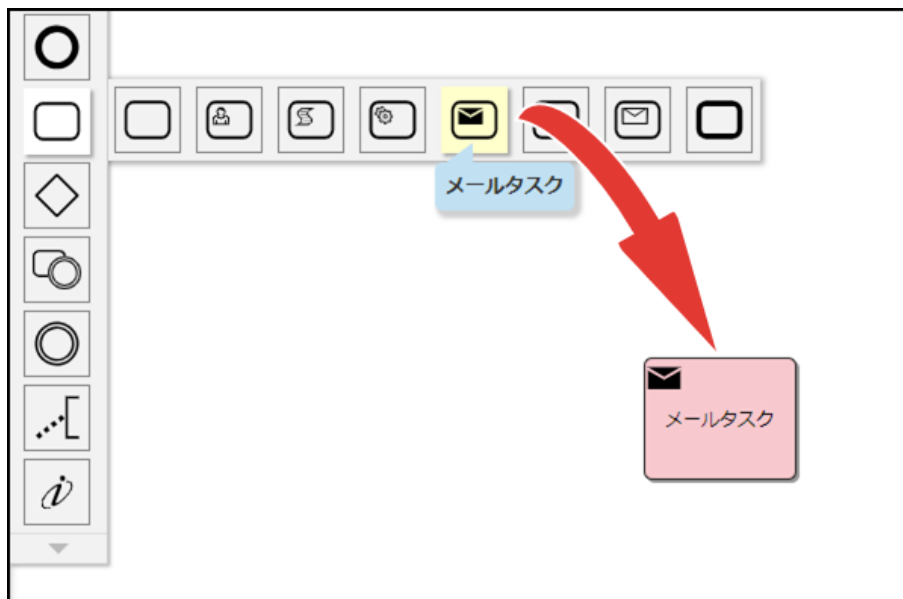
このタスクはサービスタスク同様、自動的にタスクを完了します。

設定可能な項目は以下のとおりです。

- [基本情報](#)
- [メインコンフィグ](#)
- [説明](#)
- [実行リスナ](#)
- [マルチインスタンス](#)
- [表現](#)

メールタスクの配置

1. 「パレット」から、「」にカーソルを合わせます。
2. 「パレット」の右側に現れる一覧から、「」をドラッグ&ドロップの操作でキャンバス上に配置します。



基本情報の設定

基本情報の設定について解説します。

1. エディタ上で設定を行いたいフローエレメントをクリックします。
2. プロパティエリアから「基本情報」タブを選択します。

基本情報

メインコンフィグ

説明

リスナ

マルチインスタンス

表現

ID *

XXXXXXXX-XXX_1

名前

XXXXXXXXXX_1

デフォルトフロー

実行モード

☒ 同期
☐ 非同期

制御モード

☒ 排他
☐ 非排他

☒ オプショナル

☐ 実行中のタスクを複数追加可能にする

タスク追加時のパラメータ

+ 追加

↑ 上へ

↓ 下へ

🗑️ 選択済みの項目を削除

選択	編集	表示名	変数名	入力タイプ	列挙ID
☐		xxx_1	XXX_1	enum	XXXXXXXXXXXXXX_1

プロパティの詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
ID	必須	任意の文字列を設定します。 英数字と一部の記号のみ使用できます。	フローエレメントを一意に特定するためのIDを設定します。
名前	任意	任意の文字列を設定します。 EL式による設定が可能です。	フローエレメントの名前を設定します。 プロセス定義で表示されます。
デフォルトフロー			同じフローエレメントから複数のシーケンスフローが 接続されている場合に表示されます。 他のシーケンスフローの条件式が、全てfalseと評価さ れている場合に進行するシーケンスフローの設定で す。 「通常」の場合という意味ではなく、「それ以外」の 場合を表します。
実行モード			非同期実行を行うための設定です。
制御モード			排他制御を行うための設定です。
オプショナル			チェックを入れた場合、オプショナルタスクとして扱 われます。 オプショナルタスクは、シーケンスフローの始点・終 点にできないなど、いくつかの制約があります。 詳細は「 IM-BPM 仕様書 」 - 「 オプショナルタスク 」 - 「 制約 」を参照してください。
実行中のタスクを 複数追加可能にす る			チェックを入れた場合、実行中のタスクが既に追加済 みであっても、再度追加できます。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
タスク追加時のパラメータ			タスク追加時に設定できるパラメータ情報を定義します。 定義したパラメータ情報は、タスク追加時に追加したタスクからのみ参照できるエグゼキューション変数に格納されます。 チェックを入れて、「上へ」「下へ」ボタンをクリックすることで順番を変えられます。 「編集」リンク、または、「追加」リンクをクリックすると、「タスク追加時のパラメータ」ダイアログが表示されます。

「タスク追加時のパラメータ」ダイアログ

「タスク追加」画面で表示されるタスクの順番を変えます。

項目名	必須/任意	説明
表示名	必須	任意の文字列を設定します。 オプションタスク追加時に表示される入力フォームで対象の業務項目を表示する際のラベルに使用されます。
変数名	必須	変数を一意に特定するためのキーを定義します。 エグゼキューション変数の変数名として利用されます。
入力タイプ	必須	業務項目の入力方法のタイプを設定します。
列挙ID	必須	入力タイプに「列挙値」を設定した場合に表示されます。 IM-Repositoryの列挙型IDを指定します。

コラム

入力タイプに設定できるものは以下の通りです。

- string : 文字列
- alpha : 英字
- alphanumeric : 英数字
- numeric : 数字
- date : 日付
- boolean : 真偽値
- textarea : 複数行の文字列
- user : ユーザ検索
- users : ユーザ検索（複数）
- department : 組織検索
- enum#%IM-Repositoryの列挙型のID% : 列挙値

メールタスクのメインコンフィグの設定について解説します。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
To	必須	メールアドレスを設定します。 EL式による設定が可能です。 送信先を複数指定する場合は、送信先毎にカンマで区切ることで設定可能です。	送信先のメールアドレスを設定します。
Form	任意	メールアドレスを設定します。 EL式による設定が可能です。	送信者のメールアドレスを設定します。 設定されていない場合、デフォルト設定のメールアドレスが使用されます。
件名	任意	任意の文字列を設定します。 EL式による設定が可能です。	メールの件名を設定します。
Cc	任意	メールアドレスを設定します。 EL式による設定が可能です。 送信先を複数指定する場合は、送信先毎にカンマで区切ることで設定可能です。	Ccで送信するメールアドレスを設定します。
Bcc	任意	メールアドレスを設定します。 EL式による設定が可能です。 送信先を複数指定する場合は、送信先毎にカンマで区切ることで設定可能です。	Bccで送信するメールアドレスを設定します。
本文	必須	任意の文字列を設定します。	メールの本文を記述します。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
エラーを無視する			チェックを入れた場合、このタスクで発生したエラーを無視し次のフローエレメントに遷移します。
エラー変数名	任意	任意の文字列を設定します。	「エラーを無視する」にチェックを入れた状態でエラーが発生した場合、そのエラー内容を登録する変数名を設定します。

マニュアルタスク

人の手による処理が、部分的に必要なタスクです。

ユーザタスクとの違いは、担当者の振り分けの必要がなく、到達後すぐにタスクを完了します。

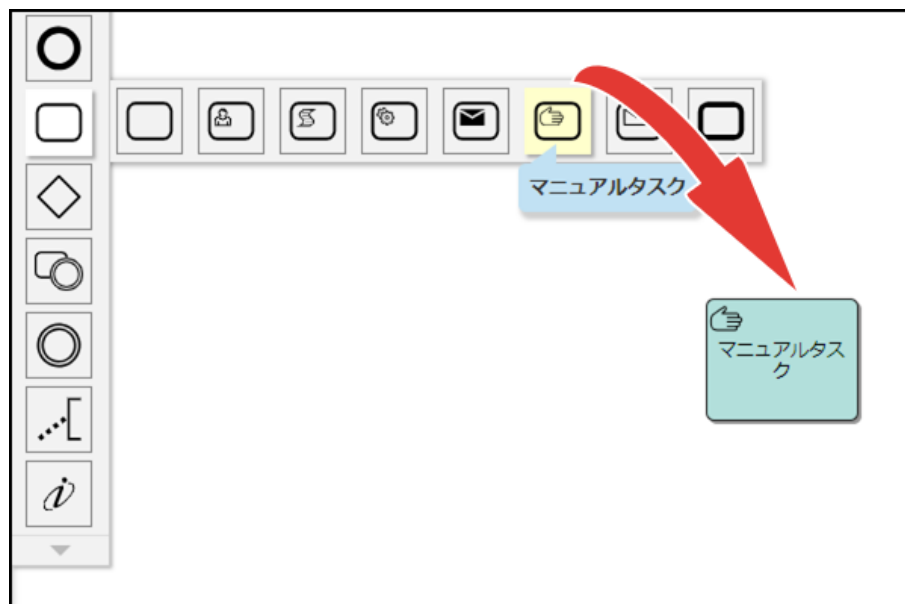
マニュアルタスクは、業務フローとして表現が必要ですが、実際にシステムとして実行する必要のないタスクとして利用されます。

設定可能な項目は以下のとおりです。

- [基本情報](#)
- [説明](#)
- [実行リスナ](#)
- [マルチインスタンス](#)
- [関連ドキュメント](#)
- [表現](#)

マニュアルタスクの配置

1. 「パレット」から、「」にカーソルを合わせます。
2. 「パレット」の右側に現れる一覧から、「」をドラッグ&ドロップの操作でキャンバス上に配置します。



基本情報の設定

基本情報の設定について解説します。

1. エディタ上で設定を行いたいフローエレメントをクリックします。
2. プロパティエリアから「基本情報」タブを選択します。

基本情報

説明

リスナ

マルチインスタンス

関連ドキュメント

表現

ID *

XXXXXXXX-XXXX_1

名前

XXX_1

デフォルトフロー

実行モード

☒ 同期
☐ 非同期

制御モード

☒ 排他
☐ 非排他

☒ オプションル

☐ 実行中のタスクを複数追加可能にする

タスク追加時のパラメータ

+

 追加

↑

 上へ

↓

 下へ

🗑

 選択済みの項目を削除

選択	編集	表示名	変数名	入力タイプ	列挙ID
☐		XXXX_1	xx_1	enum	XXXXXXXXXXXX_1

プロパティの詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
ID	必須	任意の文字列を設定します。 英数字と一部の記号のみ使用できます。	フローエレメントを一意に特定するためのIDを設定します。
名前	任意	任意の文字列を設定します。 EL式による設定が可能です。	フローエレメントの名前を設定します。 プロセス定義で表示されます。
デフォルトフロー			同じフローエレメントから複数のシーケンスフローが 接続されている場合に表示されます。 他のシーケンスフローの条件式が、全てfalseと評価さ れている場合に進行するシーケンスフローの設定で す。 「通常」の場合という意味ではなく、「それ以外」の 場合を表します。
実行モード			非同期実行を行うための設定です。
制御モード			排他制御を行うための設定です。
オプションル			チェックを入れた場合、オプションルタスクとして扱 われます。 オプションルタスクは、シーケンスフローの始点・終 点にできないなど、いくつかの制約があります。 詳細は「IM-BPM 仕様書」 - 「オプションルタスク」 - 「制約」を参照してください。
実行中のタスクを 複数追加可能にす る			チェックを入れた場合、実行中のタスクが既に追加済 みであっても、再度追加できます。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
タスク追加時のパラメータ			タスク追加時に設定できるパラメータ情報を定義します。 定義したパラメータ情報は、タスク追加時に追加したタスクからのみ参照できるエグゼキューション変数に格納されます。 チェックを入れて、「上へ」「下へ」ボタンをクリックすることで順番を変えられます。 「編集」リンク、または、「追加」リンクをクリックすると、「タスク追加時のパラメータ」ダイアログが表示されます。

「タスク追加時のパラメータ」ダイアログ

「タスク追加」画面で表示されるタスクの順番を変えます。

項目名	必須/任意	説明
表示名	必須	任意の文字列を設定します。 オプションタスク追加時に表示される入力フォームで対象の業務項目を表示する際のラベルに使用されます。
変数名	必須	変数を一意に特定するためのキーを定義します。 エグゼキューション変数の変数名として利用されます。
入力タイプ	必須	業務項目の入力方法のタイプを設定します。
列挙ID	必須	入力タイプに「列挙値」を設定した場合に表示されます。 IM-Repositoryの列挙型IDを指定します。

コラム

入力タイプに設定できるものは以下の通りです。

- string : 文字列
- alpha : 英字
- alphanumeric : 英数字
- numeric : 数字
- date : 日付
- boolean : 真偽値
- textarea : 複数行の文字列
- user : ユーザ検索
- users : ユーザ検索（複数）
- department : 組織検索
- enum#%IM-Repositoryの列挙型のID% : 列挙値

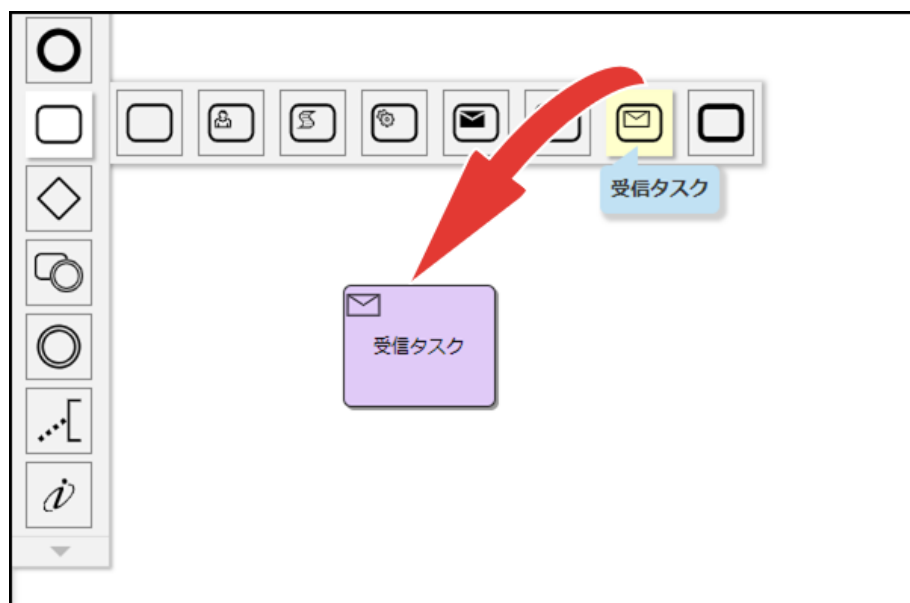
メッセージの受信を待って実行されるタスクです。

設定可能な項目は以下のとおりです。

- [基本情報](#)
- [説明](#)
- [実行リスナ](#)
- [マルチインスタンス](#)
- [表現](#)

受信タスクの配置

1. 「パレット」から、「」にカーソルを合わせます。
2. 「パレット」の右側に現れる一覧から、「」をドラッグ&ドロップの操作でキャンバス上に配置します。



基本情報の設定

基本情報の設定について解説します。

1. エディタ上で設定を行いたいフローエレメントをクリックします。
2. プロパティエリアから「基本情報」タブを選択します。

プロパティの詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
ID	必須	任意の文字列を設定します。 英数字と一部の記号のみ使用できます。	フローエレメントを一意に特定するためのIDを設定します。
名前	任意	任意の文字列を設定します。 EL式による設定が可能です。	フローエレメントの名前を設定します。 プロセス定義で表示されます。
デフォルトフロー			同じフローエレメントから複数のシーケンスフローが 接続されている場合に表示されます。 他のシーケンスフローの条件式が、全てfalseと評価さ れている場合に進行するシーケンスフローの設定で す。 「通常」の場合という意味ではなく、「それ以外」の 場合を表します。
実行モード			非同期実行を行うための設定です。
制御モード			排他制御を行うための設定です。
オプション			チェックを入れた場合、オプションタスクとして扱 われます。 オプションタスクは、シーケンスフローの始点・終 点にできないなど、いくつかの制約があります。 詳細は「 IM-BPM 仕様書 」 - 「 オプションタスク 」 - 「 制約 」を参照してください。
実行中のタスクを 複数追加可能にす る			チェックを入れた場合、実行中のタスクが既に追加済 みであっても、再度追加できます。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
タスク追加時のパラメータ			タスク追加時に設定できるパラメータ情報を定義します。 定義したパラメータ情報は、タスク追加時に追加したタスクからのみ参照できるエグゼキューション変数に格納されます。 チェックを入れて、「上へ」「下へ」ボタンをクリックすることで順番を変えられます。 「編集」リンク、または、「追加」リンクをクリックすると、「タスク追加時のパラメータ」ダイアログが表示されます。

「タスク追加時のパラメータ」ダイアログ

「タスク追加」画面で表示されるタスクの順番を変えます。

項目名	必須/任意	説明
表示名	必須	任意の文字列を設定します。 オプションタスク追加時に表示される入力フォームで対象の業務項目を表示する際のラベルに使用されます。
変数名	必須	変数を一意に特定するためのキーを定義します。 エグゼキューション変数の変数名として利用されます。
入力タイプ	必須	業務項目の入力方法のタイプを設定します。
列挙ID	必須	入力タイプに「列挙値」を設定した場合に表示されます。 IM-Repositoryの列挙型IDを指定します。

コラム

入力タイプに設定できるものは以下の通りです。

- string : 文字列
- alpha : 英字
- alphanumeric : 英数字
- numeric : 数字
- date : 日付
- boolean : 真偽値
- textarea : 複数行の文字列
- user : ユーザ検索
- users : ユーザ検索（複数）
- department : 組織検索
- enum#%IM-Repositoryの列挙型のID% : 列挙値

外部に定義されたプロセス定義を参照実行します。

サブプロセスとの違いは、異なるプロセス定義ファイルに定義されたプロセス定義を呼び出すことができます。

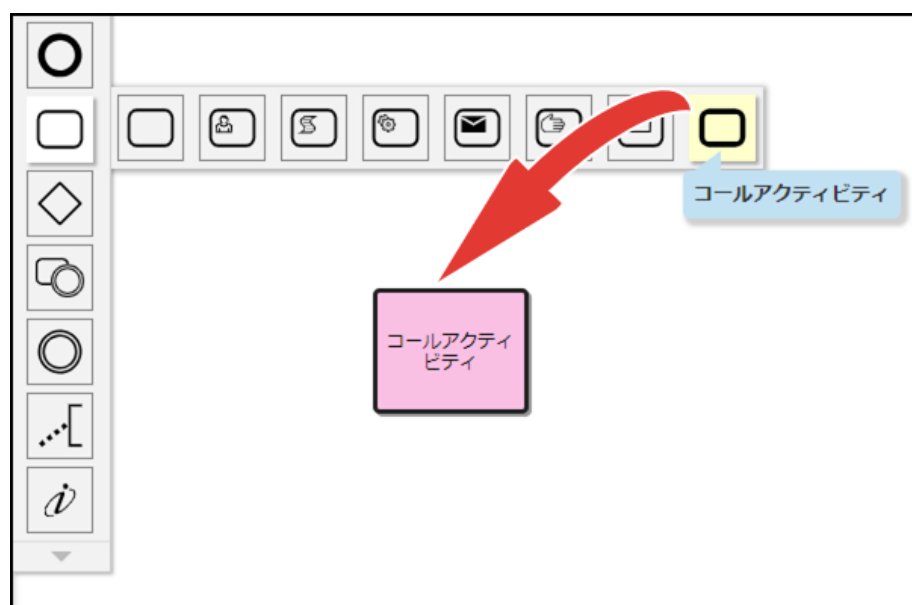
そのため、複数のプロセスで共通の処理がある場合、共通処理のフローを記述したプロセス定義ファイルを作成し、他のプロセスからコールアクティビティを使って呼び出すことができます。

設定可能な項目は以下のとおりです。

- [基本情報](#)
- [メインコンフィグ](#)
- [説明](#)
- [実行リスナ](#)
- [マルチインスタンス](#)
- [表現](#)

コールアクティビティの配置

1. 「パレット」から、「」にカーソルを合わせます。
2. 「パレット」の右側に現れる一覧から、「」をドラッグ&ドロップの操作でキャンバス上に配置します。



基本情報の設定

基本情報の設定について解説します。

1. エディタ上で設定を行いたいフローエレメントをクリックします。
2. プロパティエリアから「基本情報」タブを選択します。

プロパティの詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
ID	必須	任意の文字列を設定します。 英数字と一部の記号のみ使用できます。	フローエレメントを一意に特定するためのIDを設定します。
名前	任意	任意の文字列を設定します。 EL式による設定が可能です。	フローエレメントの名前を設定します。 プロセス定義で表示されます。
デフォルトフロー			同じフローエレメントから複数のシーケンスフローが 接続されている場合に表示されます。 他のシーケンスフローの条件式が、全てfalseと評価さ れている場合に進行するシーケンスフローの設定で す。 「通常」の場合という意味ではなく、「それ以外」の 場合を表します。
実行モード			非同期実行を行うための設定です。
制御モード			排他制御を行うための設定です。
オプション			チェックを入れた場合、オプションタスクとして扱 われます。 オプションタスクは、シーケンスフローの始点・終 点にできないなど、いくつかの制約があります。 詳細は「 IM-BPM 仕様書 」 - 「 オプションタスク 」 - 「 制約 」を参照してください。
実行中のタスクを 複数追加可能にす る			チェックを入れた場合、実行中のタスクが既に追加済 みであっても、再度追加できます。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
タスク追加時のパラメータ			タスク追加時に設定できるパラメータ情報を定義します。 定義したパラメータ情報は、タスク追加時に追加したタスクからのみ参照できるエグゼキューション変数に格納されます。 チェックを入れて、「上へ」「下へ」ボタンをクリックすることで順番を変えられます。 「編集」リンク、または、「追加」リンクをクリックすると、「タスク追加時のパラメータ」ダイアログが表示されます。

「タスク追加時のパラメータ」ダイアログ

「タスク追加」画面で表示されるタスクの順番を変えます。

項目名	必須/任意	説明
表示名	必須	任意の文字列を設定します。 オプションタスク追加時に表示される入力フォームで対象の業務項目を表示する際のラベルに使用されます。
変数名	必須	変数を一意に特定するためのキーを定義します。 エグゼキューション変数の変数名として利用されます。
入力タイプ	必須	業務項目の入力方法のタイプを設定します。
列挙ID	必須	入力タイプに「列挙値」を設定した場合に表示されます。 IM-Repositoryの列挙型IDを指定します。

コラム

入力タイプに設定できるものは以下の通りです。

- string : 文字列
- alpha : 英字
- alphanumeric : 英数字
- numeric : 数字
- date : 日付
- boolean : 真偽値
- textarea : 複数行の文字列
- user : ユーザ検索
- users : ユーザ検索（複数）
- department : 組織検索
- enum#%IM-Repositoryの列挙型のID% : 列挙値

コールアクティビティのメインコンフィグの設定について解説します。

基本情報

メインコンフィグ

説明

リスナ

マルチインスタンス

表現

呼び出し対象 *

processKey1

?

利用するバージョン

?

☐ 最新バージョンを利用
 ☒ 入力したバージョンを利用

バージョン番号 *

3

?

☐ 業務キーを継承する

?

業務キー

?

☐ 参照可能な変数を継承する

?

入力パラメータ

?

+

 追加

🗑️

 選択済みの項目を削除

選択	編集	ソース種別	ソース	ターゲット変数名
☐		source	input01	input01

出力パラメータ

?

+

 追加

🗑️

 選択済みの項目を削除

選択	編集	ソース種別	ソース	ターゲット変数名
☐		source	output01	output01

項目名	必須/任意	入力形式	説明
呼び出し対象	必須	プロセス定義キーを設定します。 EL式による設定が可能です。	呼び出す対象のプロセスを指定します。 「」でプロジェクトの検索ができます。
利用するバージョン			- 最新バージョンを利用 呼び出し対象の最新バージョンを使用します。 - 入力したバージョンを利用 指定した呼び出し対象のバージョンを使用します。
バージョン番号	必須	呼び出し対象のバージョン番号を設定します。 EL式による設定が可能です。	「入力したバージョンを利用」にチェックを入れた場合に入力します。
業務キーを継承する			チェックを入れた場合、呼び出し元プロセスの業務キーを呼び出し先のプロセスに引き継ぎます。
業務キー	任意	任意の文字列を設定します。 EL式による設定が可能です。	業務キーを設定します。
参照可能な変数を継承する			チェックを入れた場合、呼び出し元プロセスの変数を呼び出し先のプロセスにすべて引き継ぎます。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
入力パラメータ			呼び出し先プロセスに渡すパラメータを設定します。 「追加」で新しく入力パラメータを追加します。 「」で入力パラメータを編集します。 「上へ」および「下へ」で入力パラメータを並び替えます。 並び替えたい入力パラメータを選択した後、「上へ」および「下へ」をクリックしてください。 「選択済みの項目を削除」で選択済みの入力パラメータを削除します。 削除したい入力パラメータを選択した後、「選択済みの項目を削除」をクリックしてください。 設定の詳細については、入力パラメータの設定を参照してください。
出力パラメータ			呼び出し先プロセスに渡すパラメータを設定します。 「追加」で新しく出力パラメータを追加します。 「」で出力パラメータを編集します。 「上へ」および「下へ」で出力パラメータを並び替えます。 並び替えたい出力パラメータを選択した後、「上へ」および「下へ」をクリックしてください。 「選択済みの項目を削除」で選択済みの出力パラメータを削除します。 削除したい出力パラメータを選択した後、「選択済みの項目を削除」をクリックしてください。 詳細については、出力パラメータの設定を参照してください。

**注意**

「利用するバージョン」について | 「利用するバージョン」、「バージョン番号」は、2023 Autumn(Hollyhock)以降のバージョンから設定できます。

入力パラメータの設定

入力パラメータ

ソース種別

☒ 変数
☐ 式

ソース変数名 *

variable01

ターゲット変数名 *

variable02

決定

取り消し

入力パラメータの設定項目の詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
ソース種別			呼び出し元プロセスのソース種別を選択します。
ソース変数名	必須	任意の文字列を設定します。	「ソース種別」で「変数」を選択した場合に設定します。 呼び出し元プロセスの変数名を設定します。
ソース式	必須	EL式を設定します。	「ソース種別」で「式」を選択した場合に設定します。 値を式で設定します。
ターゲット変数名	必須	任意の文字列を設定します。	呼び出し先プロセスの変数名を設定します。

出力パラメータの設定

出力パラメータの設定項目の詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
ソース種別			呼び出し先プロセスのソース種別を選択します。
ソース変数名	必須	任意の文字列を設定します。	「ソース種別」で「変数」を選択した場合に設定します。 呼び出し先プロセスの変数名を設定します。
ソース式	必須	EL式を設定します。	「ソース種別」で「式」を選択した場合に設定します。 値を式で設定します。 スコープは呼び出し先プロセスです。
ターゲット変数名	必須	任意の文字列を設定します。	呼び出し元プロセスの変数名を設定します。

ゲートウェイ

ゲートウェイはプロセス定義の分岐・結合に利用します。

ゲートウェイを使用することで複数のタスクを同時並行で処理することや、特定の条件を評価することによってプロセスを変更することを可能にします。

ゲートウェイは分岐・結合の条件によって、4つに分類されます。

パラレルゲートウェイ

パラレルゲートウェイは、無条件で同時並行に分岐し、シーケンスフローが次の処理に進む事を表します。

結合の際には、全てのシーケンスフローの到着を待ってプロセス定義の実行が継続されます。

- パラレルゲートウェイで分岐を行うためには、パラレルゲートウェイから複数のアクティビティにシーケンスフローを接続する必要があります。
- パラレルゲートウェイで結合を行うためには、複数のアクティビティからパラレルゲートウェイにシーケンスフローを接続する必要があります。

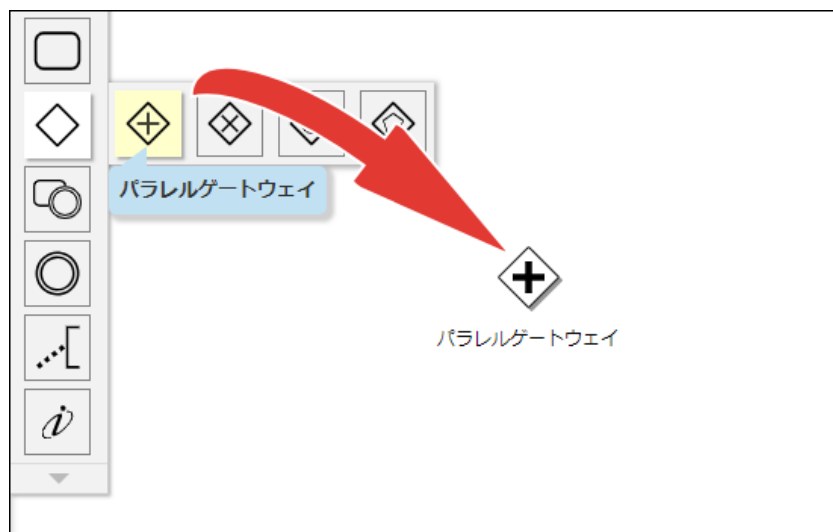
設定可能な項目は以下のとおりです。

- [基本情報](#)
- [説明](#)
- [実行リсна](#)

- 表現

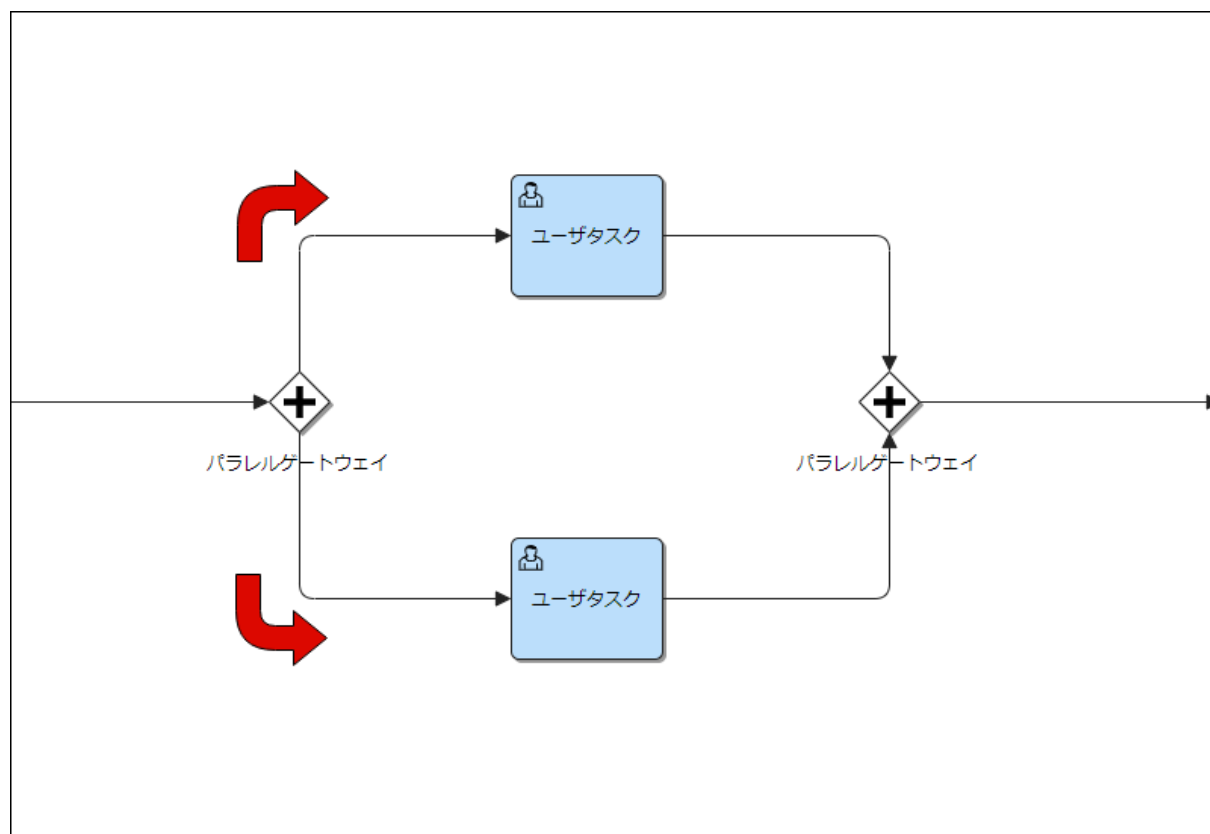
パラレルゲートウェイの配置

1. 「パレット」から、「」にカーソルを合わせます。
2. 「パレット」の右側に現れる一覧から、「」をドラッグ&ドロップの操作でキャンバス上に配置します。

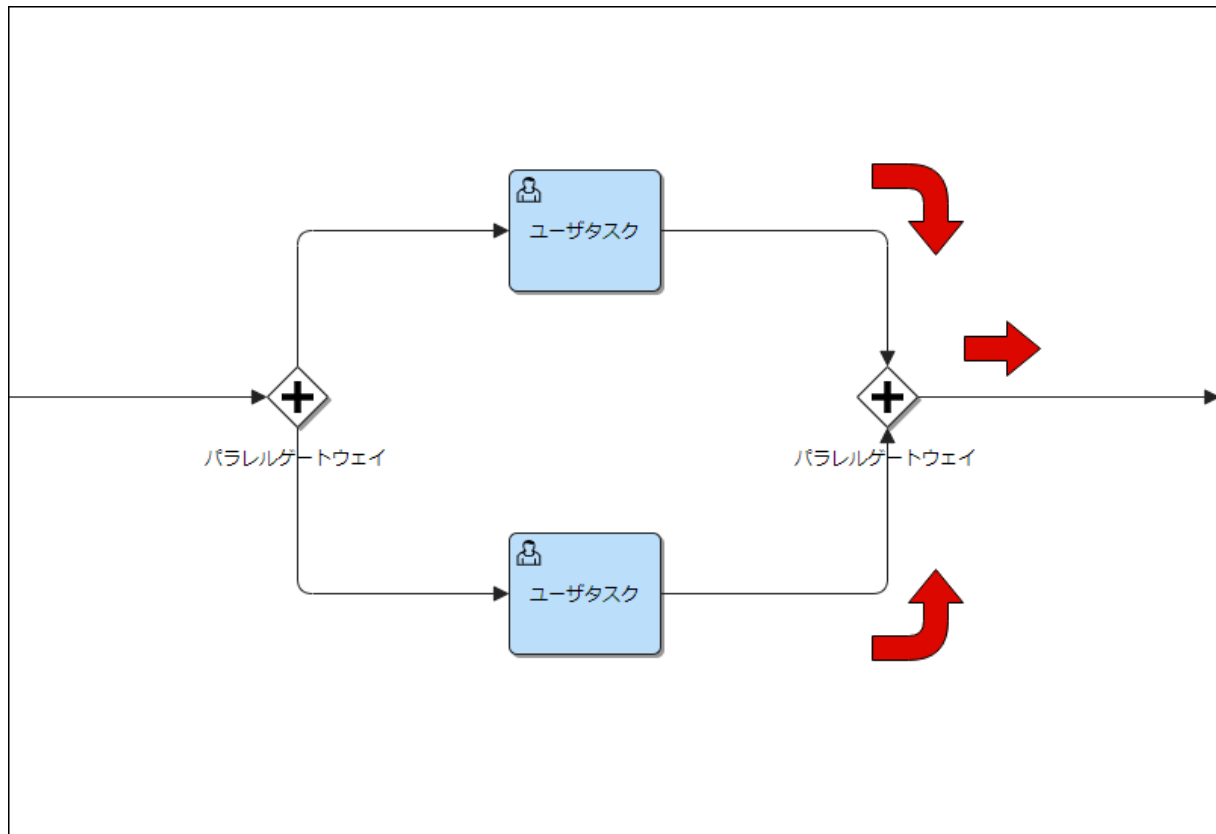


パラレルゲートウェイによる分岐と結合

- 次のようにパラレルゲートウェイで分岐を行った場合、分岐先の各タスクにシーケンスフローが進みます。



- パラレルゲートウェイで結合を行った場合、分岐先の各タスクのシーケンスフローの到着を待って次のシーケンスフローに進みます。



基本情報の設定

基本情報の設定について解説します。

1. エディタ上で設定を行いたいフローエレメントをクリックします。
2. プロパティエリアから「基本情報」タブを選択します。

プロパティの詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
ID	必須	任意の文字列を設定します。 英数字と一部の記号のみ使用できます。	フローエレメントを一意に特定するためのIDを設定します。
名前	任意	任意の文字列を設定します。	フローエレメントの名前を設定します。 プロセス定義で表示されます。

排他ゲートウェイ

条件式を評価する事で分岐先を決定できます。

条件式を評価するためには、接続されている「シーケンスフロー」に条件式の設定が必要です。

最初にtrueと評価される1つのシーケンスフローだけが継続して次の処理に進む事を表します。

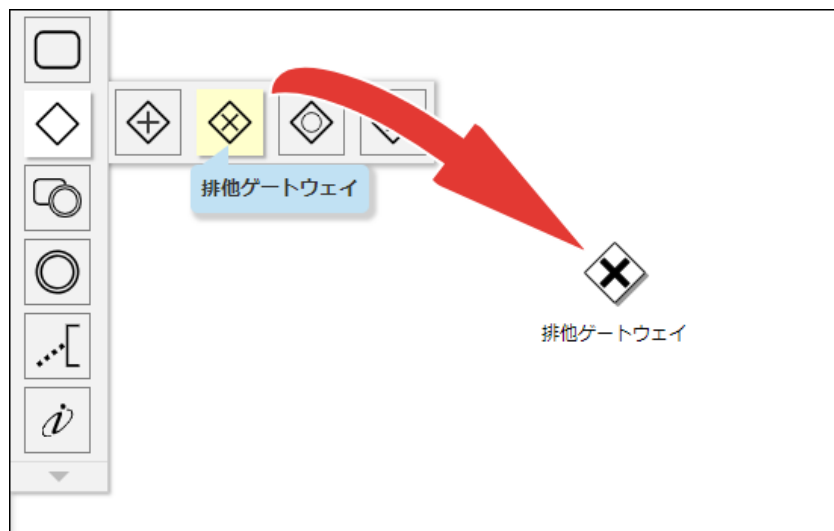
- 排他ゲートウェイで分岐を行うためには、排他ゲートウェイから複数のアクティビティにシーケンスフローを接続する必要があります。
- 排他ゲートウェイで結合を行うためには、複数のアクティビティから排他ゲートウェイにシーケンスフローを接続する必要があります。

設定可能な項目は以下のとおりです。

- 基本情報
- 説明
- 実行リスナ
- 表現

排他ゲートウェイの配置

1. 「パレット」から、にカーソルを合わせます。
2. 「パレット」の右側に現れる一覧から、をドラッグ&ドロップの操作でキャンバス上に配置します。

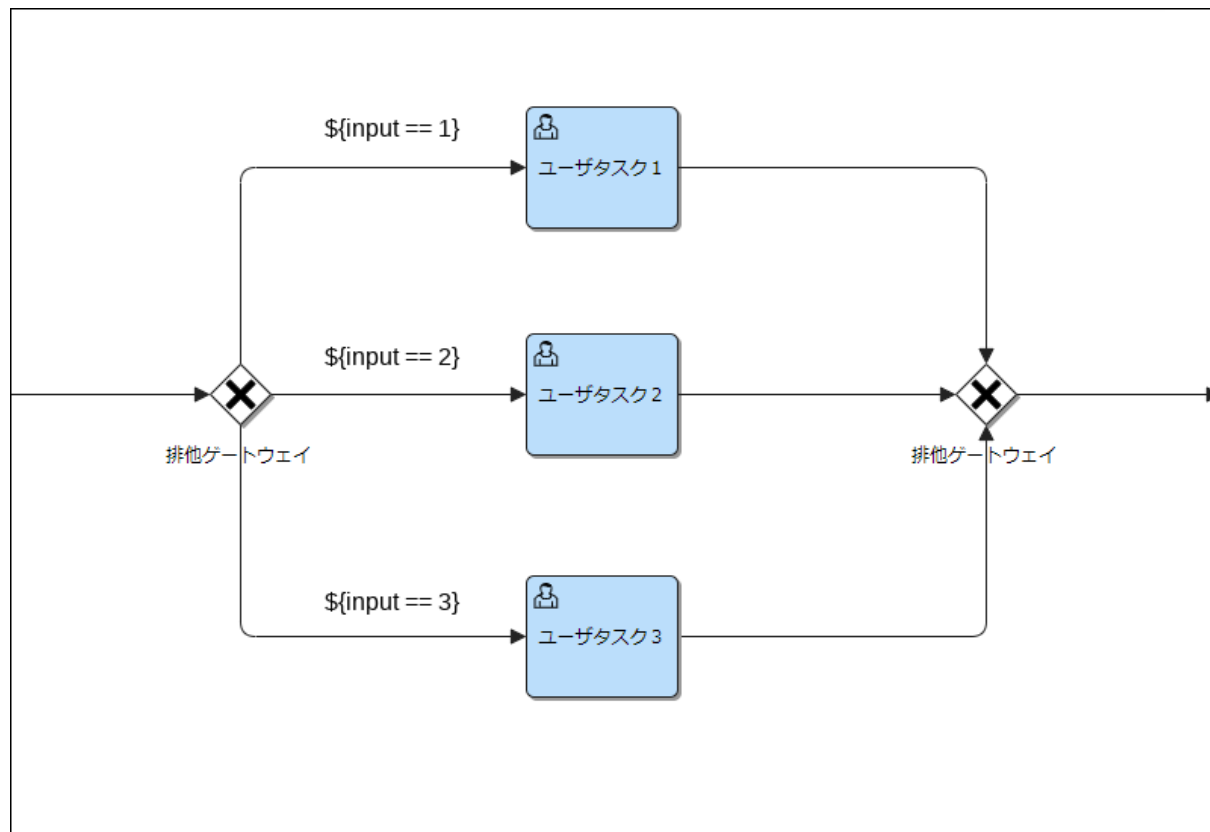


排他ゲートウェイによる分岐と結合

- 次のように、排他ゲートウェイから分岐するそれぞれのシーケンスフローに条件が定義されているものとします。

変数「input」の値を評価する条件です。

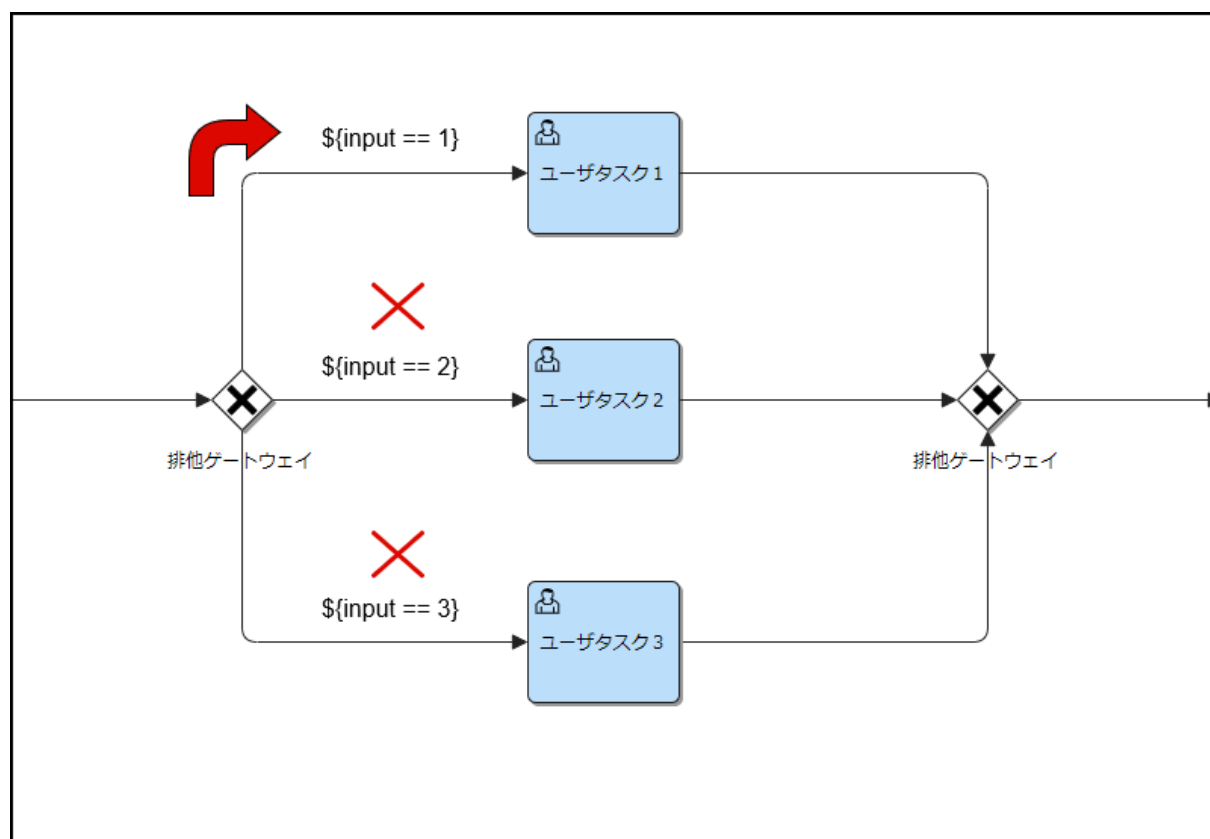
シーケンスフロー	条件
ユーザタスク 1 へのシーケンスフロー	$\{input == 1\}$
ユーザタスク 2 へのシーケンスフロー	$\{input == 2\}$
ユーザタスク 3 へのシーケンスフロー	$\{input == 3\}$



- 排他ゲートウェイでは接続されているシーケンスフローに定義されている条件を評価し、trueと評価された1つのシーケンスフローに進みます。

複数の条件がtrueと評価される場合、最初にtrueと評価されたシーケンスフローに進みます。

変数「input」の値が1の場合は、次のように進みます。



基本情報の設定

基本情報の設定について解説します。

1. エディタ上で設定を行いたいフローエレメントをクリックします。

2. プロパティエリアから「基本情報」タブを選択します。

プロパティの詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
ID	必須	任意の文字列を設定します。 英数字と一部の記号のみ使用できます。	フローエレメントを一意に特定するためのIDを設定します。
名前	任意	任意の文字列を設定します。	フローエレメントの名前を設定します。 プロセス定義で表示されます。
デフォルトフロー			同じフローエレメントから複数のシーケンスフローが接続されている場合に表示されます。 他のシーケンスフローの条件式が、全てfalseと評価されている場合に進行するシーケンスフローの設定です。 「通常」の場合という意味ではなく、「それ以外」の場合を表します。

包括ゲートウェイ

条件式を評価する事で分岐先を決定できます。

条件式を評価するためには、接続されている「[シーケンスフロー](#)」に条件式の設定が必要です。

排他ゲートウェイとの違いは、trueと評価されるシーケンスフローに対して1つの分岐先に決定せず、同時並行で次の処理に進むことができます。

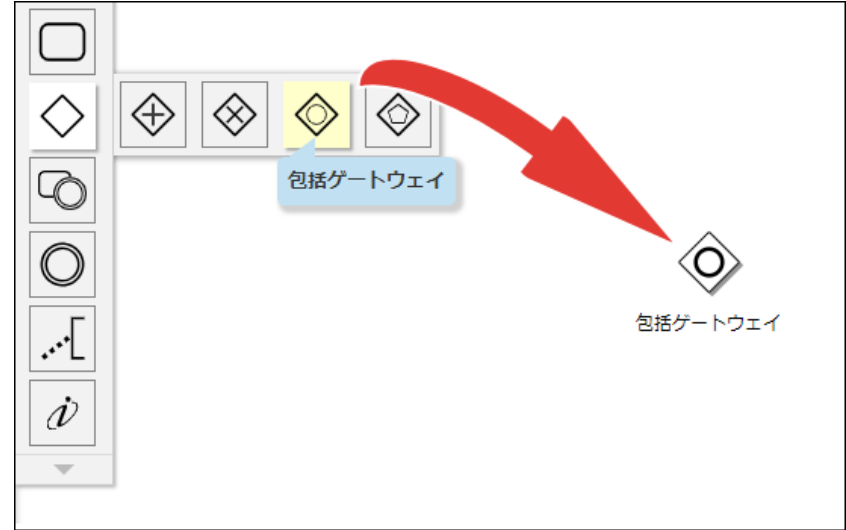
- 包括ゲートウェイで分岐を行うためには、包括ゲートウェイから複数のアクティビティにシーケンスフローを接続する必要があります。
- 包括ゲートウェイで結合を行うためには、複数のアクティビティから包括ゲートウェイにシーケンスフローを接続する必要があります。

設定可能な項目は以下のとおりです。

- [基本情報](#)
- [説明](#)
- [実行リスナ](#)
- [表現](#)

包括ゲートウェイの配置

1. 「パレット」から、「129

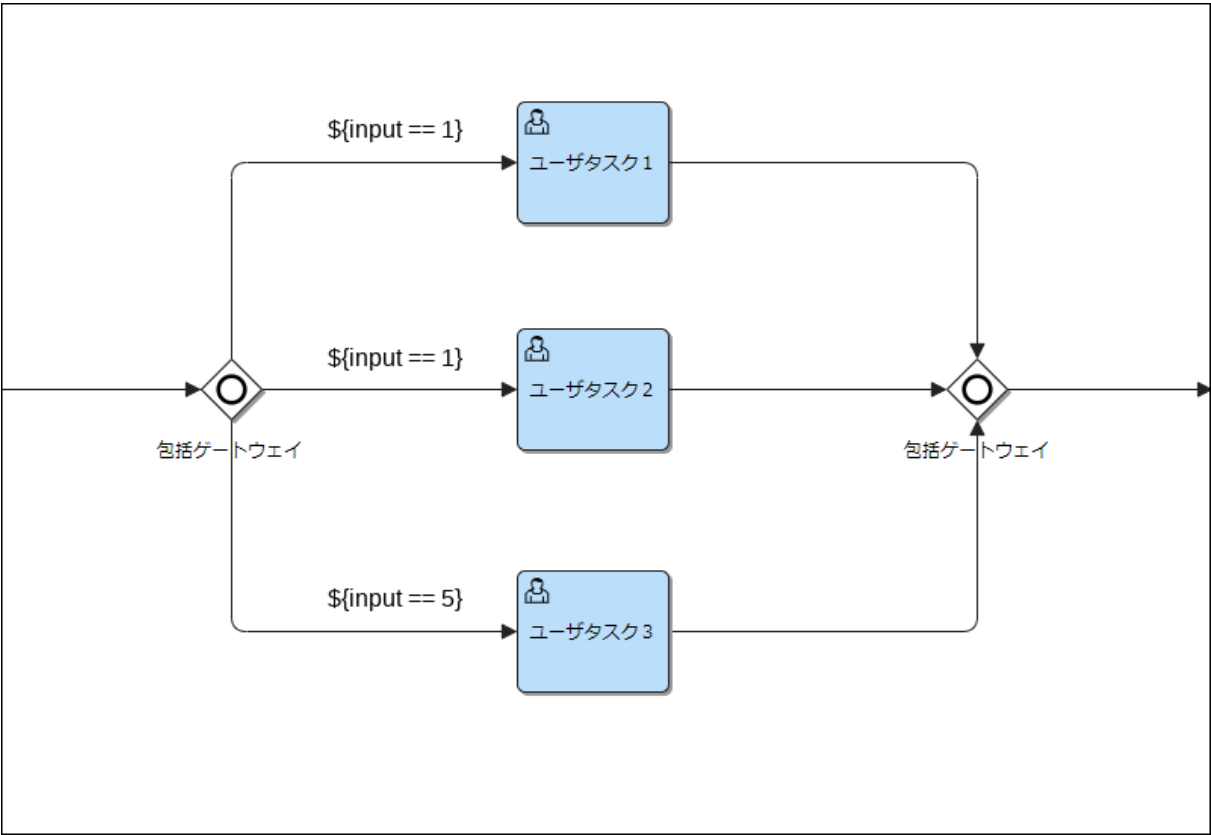


包括ゲートウェイによる分岐と結合

- 次のように、包括ゲートウェイから分岐するそれぞれのシーケンスフローに条件が定義されているものとします。

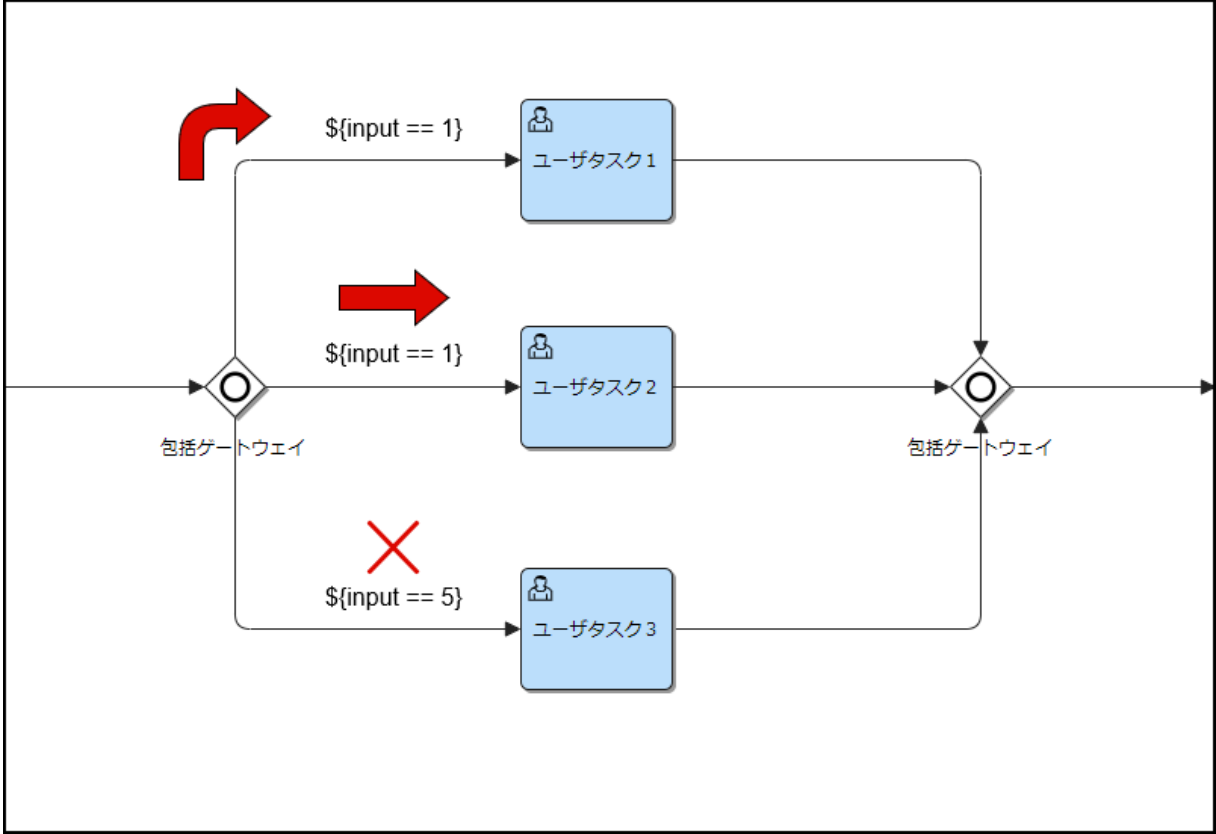
変数「input」の値を評価する条件です。

シーケンスフロー	条件
ユーザタスク 1 へのシーケンスフロー	<code>\${input == 1}</code>
ユーザタスク 2 へのシーケンスフロー	<code>\${input == 1}</code>
ユーザタスク 3 へのシーケンスフロー	<code>\${input == 5}</code>



- 包括ゲートウェイでは接続されているシーケンスフローに定義されている条件を評価し、trueと評価されるシーケンスフローが並行に進みます。

変数「input」の値が1の場合は、次のように進みます。



基本情報の設定

基本情報の設定について解説します。

- 1. エディタ上で設定を行いたいフローエレメントをクリックします。
- 2. プロパティエリアから「基本情報」タブを選択します。

プロパティの詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
ID	必須	任意の文字列を設定します。 英数字と一部の記号のみ使用できます。	フローエレメントを一意に特定するためのIDを設定します。
名前	任意	任意の文字列を設定します。	フローエレメントの名前を設定します。 プロセス定義で表示されます。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
デフォルトフロー			同じフローエレメントから複数のシーケンスフローが接続されている場合に表示されます。 他のシーケンスフローの条件式が、全てfalseと評価されている場合に進行するシーケンスフローの設定です。 「通常」の場合という意味ではなく、「それ以外」の場合を表します。

イベントゲートウェイ

イベントに対して条件を評価する事で分岐先を決定できます。
 中間イベントのキャッチイベントに接続されている必要があります。
 キャッチイベントの詳細については「[中間イベント](#)」を参照してください。

イベントゲートウェイは他のゲートウェイと分岐の仕方が異なり、シーケンスフローで接続したキャッチイベントの状態を評価します。
 接続先のキャッチイベントが実行状態になった時に、trueと評価します。
 最初にtrueと評価された1つのシーケンスフローだけを継続して次の処理に進む事を表します。
 イベントゲートウェイで分岐を行うためには、イベントゲートウェイから複数のキャッチイベントにシーケンスフローを接続する必要があります。

設定可能な項目は以下のとおりです。

- [基本情報](#)
- [説明](#)
- [実行リスナ](#)
- [表現](#)

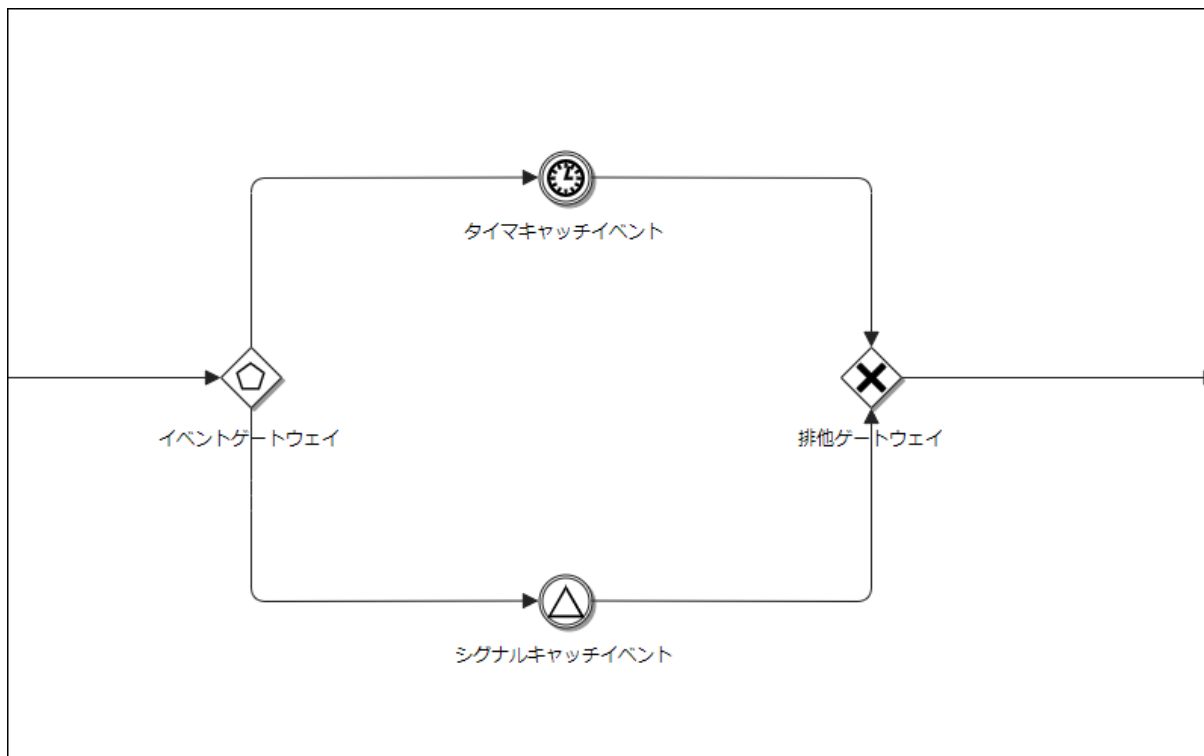
イベントゲートウェイの配置

1. 「パレット」から、「」にカーソルを合わせます。
2. 「パレット」の右側に現れる一覧から、「」をドラッグ&ドロップの操作でキャンバス上に配置します。



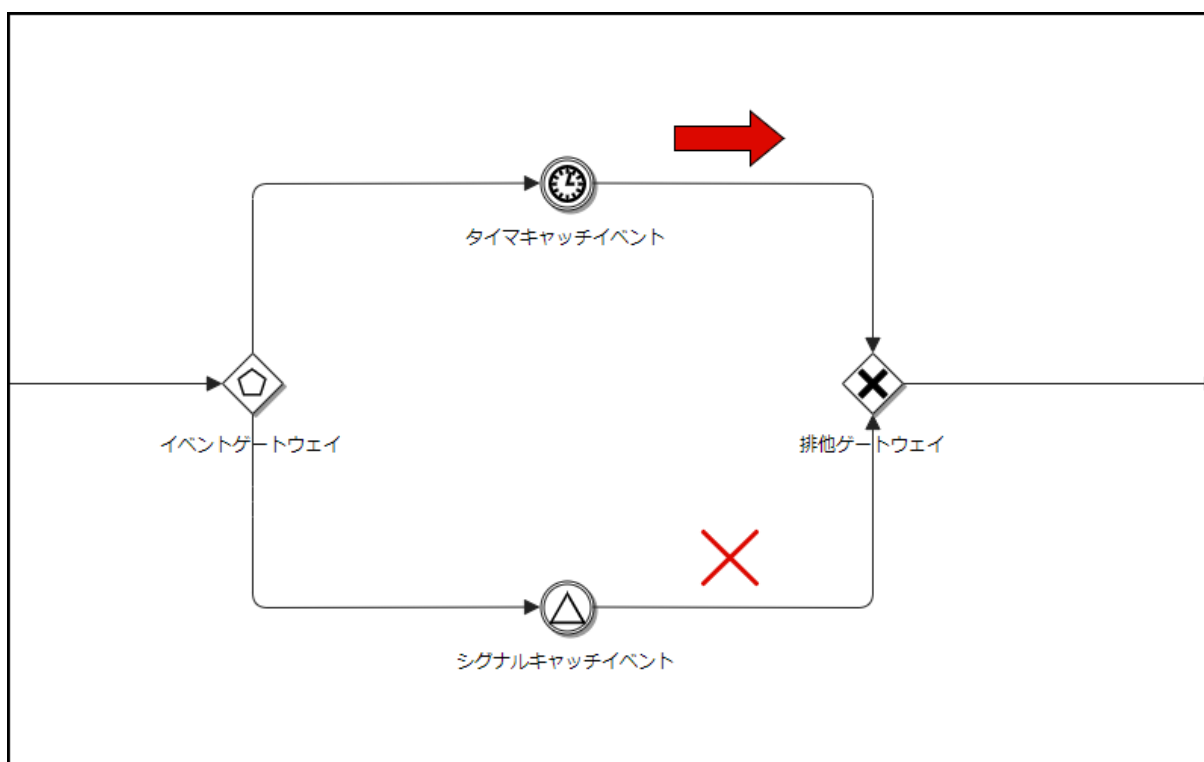
イベントゲートウェイによる分岐

- 次のようにイベントゲートウェイで分岐を行う場合には、キャッチイベントを配置しシーケンスフローで接続している必要があります。
 - ここでは[タイマキャッチイベント](#)と[シグナルキャッチイベント](#)に接続しています。

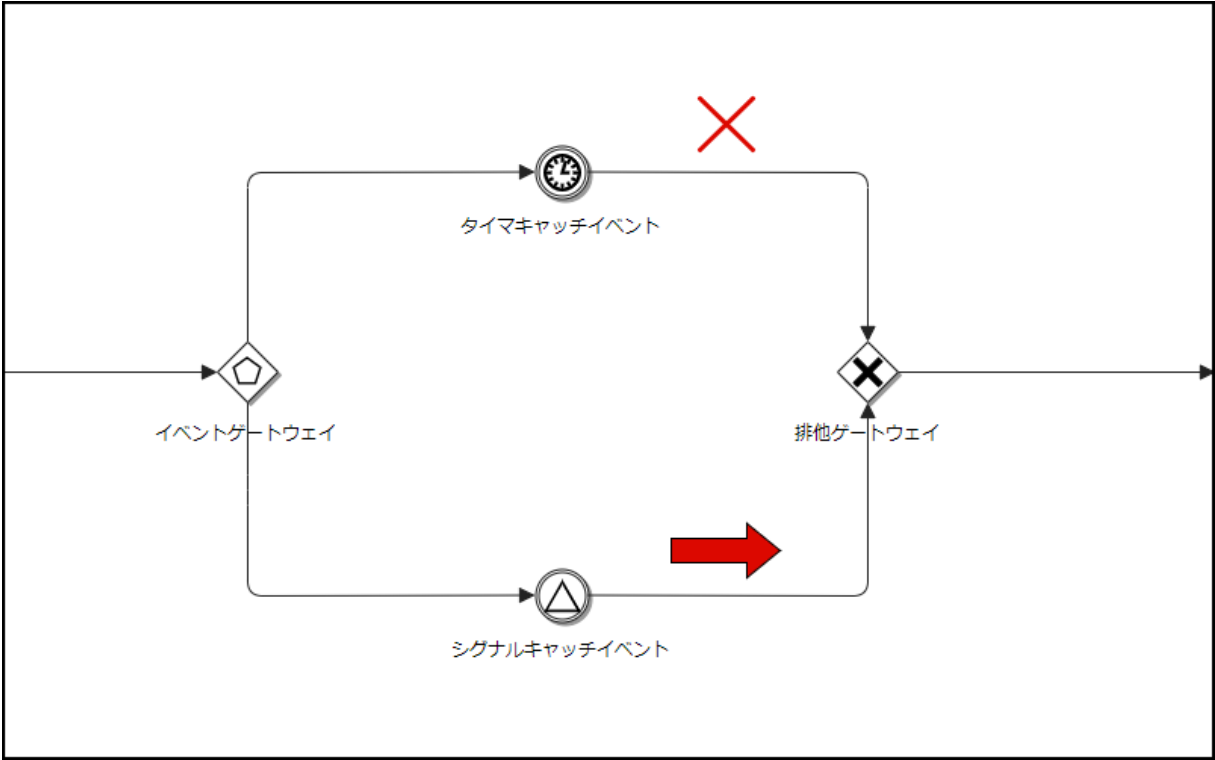


イベントゲートウェイに到達すると、**タイマキャッチイベント**と**シグナルキャッチイベント**がそれぞれ待機状態になります。

- **タイマキャッチイベント**に設定された期間が経過すると、**シグナルキャッチイベント**の処理は中断され**タイマキャッチイベント**からのシーケンスフローだけが次に進みます。



- **タイマキャッチイベント**に設定された期間が経過するより早く**シグナルキャッチイベント**がシグナルを受信した場合は、**タイマキャッチイベント**の処理が中断され**シグナルキャッチイベント**からのシーケンスフローだけが次に進みます。



基本情報の設定

基本情報の設定について解説します。

- 1. エディタ上で設定を行いたいフローエレメントをクリックします。
- 2. プロパティエリアから「基本情報」タブを選択します。

基本情報

メインコンフィグ

説明

リスナ

ID *

XXXXXXXX-XXXX

名前

プロパティの詳細は以下のとおりです。

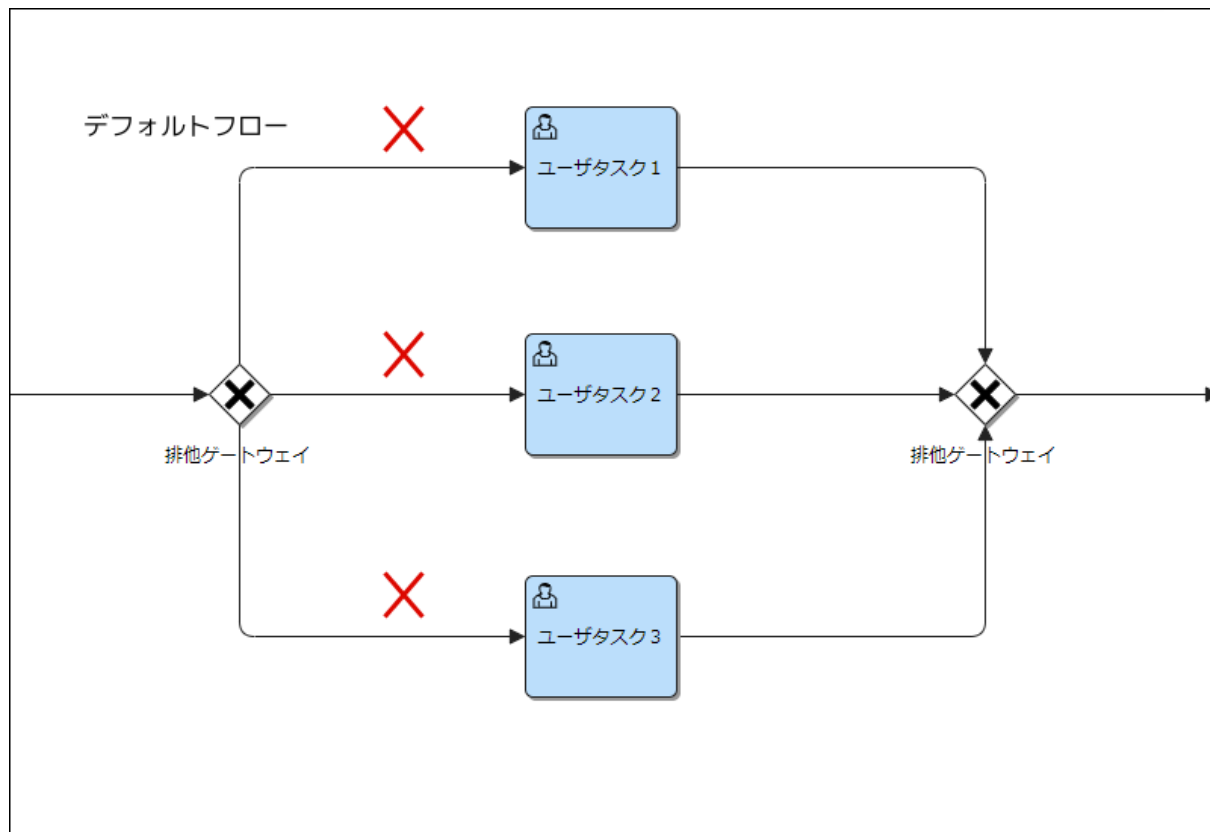
項目名	必須/任意	入力形式	説明
ID	必須	任意の文字列を設定します。 英数字と一部の記号のみ使用できます。	フローエレメントを一意に特定するためのIDを設定します。
名前	任意	任意の文字列を設定します。	フローエレメントの名前を設定します。 プロセス定義で表示されます。

デフォルトフロー

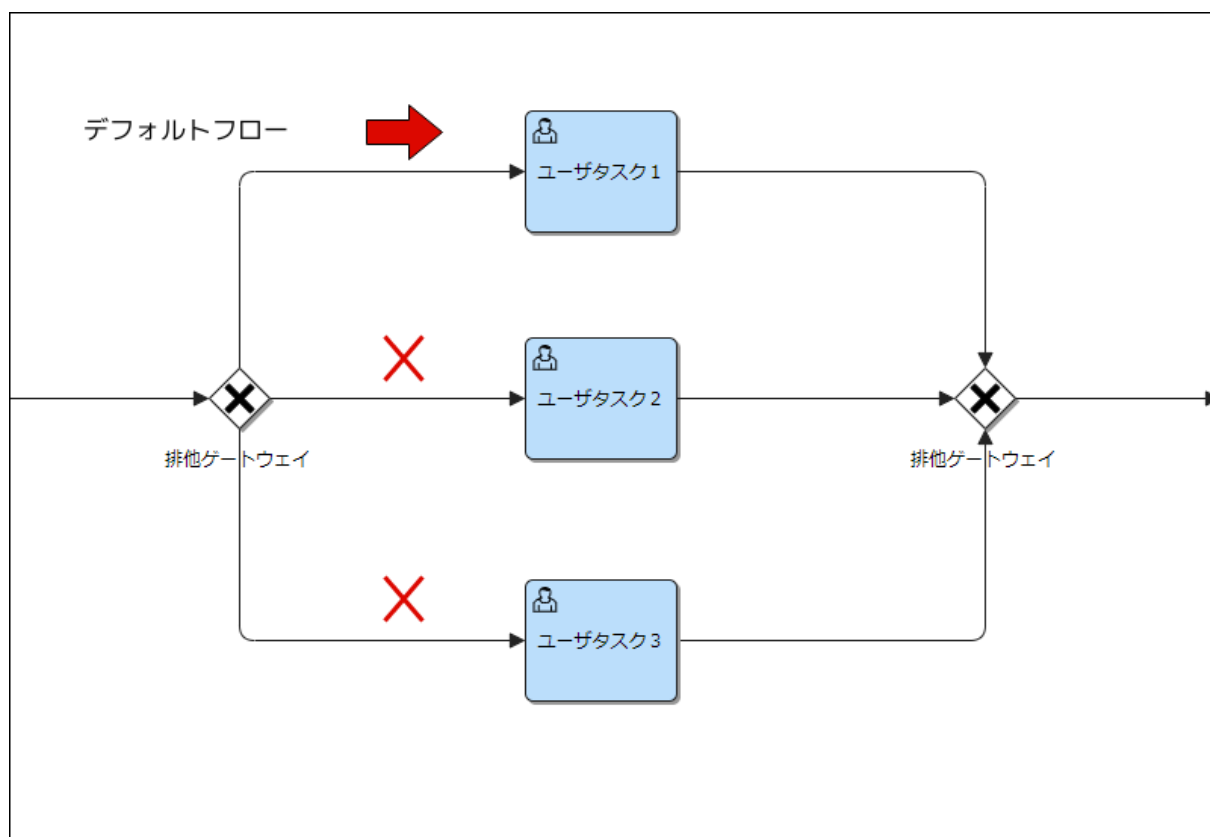
分岐を行う際に、デフォルトフローの設定ができます。
デフォルトフローは、分岐を行う際に接続されているシーケンスフローにおいて、設定された条件がすべてfalseと評価された場合に進行するシーケンスフローです。
デフォルトフローを設定していない場合は、全てのシーケンスフローで条件がfalseと評価された場合、プロセスはそれ以上進む事ができなくなりエラーが発生します。

デフォルトフローによる分岐

- 1. ゲートウェイの分岐に接続された全てのシーケンスフローの条件がfalseと評価された場合、プロセスはそれ以上進む事ができません。
 - ここでは排他ゲートウェイによる分岐を行っています。



2. デフォルトフローが設定されていると、そのシーケンスフローの条件がfalseと評価された場合でも次の処理に進む事ができます。



境界イベント

境界イベントは、接続しているアクティビティの処理中にイベントを受信した場合に起動します。

境界イベントを設定したアクティビティでイベントを受信した際、境界イベントから引かれたシーケンスフローにフローを進行させます。その際にアクティビティを中断させるか中断させないかは設定で変更できます。

境界イベントは、発生するイベントの種類によって以下の4つに分類されます。

タイマ境界イベントは、設定した時間情報を元にイベントを受信する境界イベントです。
 指定時間が経過する、または、特定の日時になった場合に、タイマ境界イベントから引かれたシーケンスフローへとフローを進行させます。

設定可能な項目は以下のとおりです。

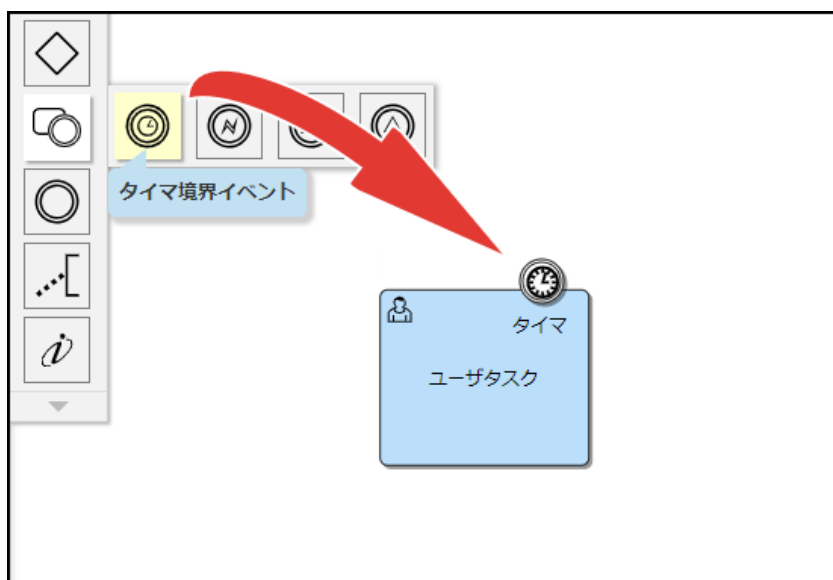
- [基本情報](#)
- [メインコンフィグ](#)
- [説明](#)
- [実行リスナ](#)
- [表現](#)

タイマ境界イベントの配置

タイマ境界イベントを配置するためには、事前にタイマ境界イベントが接続可能なアクティビティを配置しておく必要があります。
 接続可能なアクティビティは以下の通りです。

アクティビティ名	パレット
アブストラクトタスク	タスク
ユーザタスク	タスク
スクリプトタスク	タスク
サービスタスク	タスク
メールタスク	タスク
マニュアルタスク	タスク
受信タスク	タスク
ビジネスルールタスク	タスク
コールアクティビティ	タスク
サブプロセス	コンテナ
IM-LogicDesignerタスク	intra-mart
申請タスク	intra-mart
起票タスク	intra-mart

1. 「パレット」から、「」にカーソルを合わせます。
2. 「パレット」の右側に現れる一覧から、「」をドラッグ&ドロップの操作で接続可能なアクティビティの内部に配置します。
 - ここではユーザタスクに対してタイマ境界イベントを定義しています。



基本情報の設定について解説します。

1. エディタ上で設定を行いたいフローエレメントをクリックします。
2. プロパティエリアから「基本情報」タブを選択します。

基本情報

メインコンフィグ

説明

リスナ

ID *

XXXXXXXXXX-XXXX_I

名前

プロパティの詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
ID	必須	任意の文字列を設定します。 英数字と一部の記号のみ使用できます。	フローエレメントを一意に特定するためのIDを設定します。
名前	任意	任意の文字列を設定します。	フローエレメントの名前を設定します。 プロセス定義で表示されます。

メインコンフィグの設定

タイマ境界イベントのメインコンフィグの設定について解説します。

入力方式は、日付と時刻の表記に関する国際規格であるISO 8601の形式に則って記述する必要があります。
具体的な記述方法については、以下の説明欄を参照してください。

基本情報	メインコンフィグ	説明	リスナ	表現
☒ アクティビティの取消 ?				
時間指定の種別 ?				
☐ 日付 ☐ 周期 ☒ 期間				
期間* ?				
PT10H {}				
日付計算方法 ?				
☐ システム日付で計算 ☒ 業務日付で計算				
タイムゾーン* ?				
式でタイムゾーンを設定する ▼				
タイムゾーン(EL式)* ?				
\${TIMEZONE} {}				
カレンダーID* ?				
式でカレンダーIDを設定する ▼				
カレンダーID(EL式)* ?				
\${CALENDARID} {}				
☒ カスタムカレンダーロジックを使用する ?				
カスタムカレンダーロジック ?				
☐ Javaクラス ☐ スクリプトファイル ☒ IM-LogicDesigner				
フローID* ?				
🔍 フロー定義検索 test				
利用するバージョン ?				
☐ 最新バージョンを利用 ☒ 入力したバージョンを利用				
バージョン番号* ?				
1				

項目名	必須/任意	入力形式	説明
アクティビティの取消			チェックを入れた場合、タイマ境界イベントが開始したときに、接続しているアクティビティを終了します。
時間指定の種別			時間を指定する種別を選択します。
日付	必須	日付形式の文字列を設定します。 EL式による設定が可能です。	「時間指定の種別」で「日付」を選択した場合に設定します。 開始する日付を設定します。 例：2016年1月1日12時開始 → 2016-01-01T12:00:00 指定日付に1回のみ受信されます。
周期	必須	周期形式の文字列を設定します。 EL式による設定が可能です。	「時間指定の種別」で「周期」を選択した場合に設定します。 開始する周期を設定します。 例：10時間毎に3回開始 → R3/PT10H 「アクティビティの取消」にチェックが入っていない場合に複数回受信されます。 「アクティビティの取消」にチェックが入っていない場合は、アクティビティがイベントを受信しても終了しないため、次の周期のイベントを受信できます。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
期間	必須	期間形式の文字列を設定します。 EL式による設定が可能です。	「時間指定の種別」で「期間」を選択した場合に設定します。 開始するまでの期間を設定します。 例：10日後開始 → P10D タイマ境界イベントに到達したときから指定した期間が経過したとき1回のみ開始されます。
日付計算方法			■ システム日付で計算 システムで定義されている休日を考慮せずにタイマイイベントの実行がスケジュールされます。 ■ 業務日付で計算 システムで定義されている休日を考慮し、休日にはタイマイイベントの実行がスケジュールされなくなります。
タイムゾーン			タイマイイベントのスケジュールを行う際のタイムゾーンを指定します。
タイムゾーン(EL式)	必須		タイムゾーンで「式でタイムゾーンを設定する」を選択した場合に入力します。 EL式による設定が可能です。
カレンダーID			業務日付でタイマイイベントのスケジュールを行う際に、休日の定義を参照するカレンダーを指定します。
カレンダーID(EL式)	必須		カレンダーIDで「式でカレンダーIDを設定する」を選択した場合に入力します。 EL式による設定が可能です。
カスタムカレンダーロジックを使用する			ユーザコードまたはLogicDesignerを使用して、システムが計算したスケジュールの編集を行います。 繰り返し指定などにより、複数回スケジュールの計算を行う必要がある場合、二回目以降のスケジュールの計算時に、一回目のスケジュール日時を再計算するため、ユーザコードの振る舞はべき等である必要があります。 これは、リトライなどが発生した場合などに前回のスケジュールの正確な実行時間が取得できない場合があるためです。
カスタムカレンダーロジック	必須	呼び出すクラスを設定します。	スケジュールの編集を行うロジックの種類を選択します。 「Javaクラス」、「スクリプトファイル」、「IM-LogicDesigner」より選択できます。
Javaクラス	必須	Javaクラスを設定します。	システムにデプロイされているJavaクラスを呼び出し、スケジュールの編集を行います。 カスタムロジックタイプで「Javaクラス」を選択した場合に入力します。
スクリプトファイル	必須	実行するスクリプトファイルを { IM-Juggling プロジェクト }/classes からの相対パス形式で指定します。 例：{ IM-Juggling プロジェクト }/classes/sample/foo.js を実行する場合→sample/foo.js	システムにデプロイされているim-javascriptのスクリプトファイルを呼び出し、スケジュールの編集を行います。 カスタムロジックタイプで「スクリプトファイル」を選択した場合に入力します。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
フローID	必須	フロー定義IDを設定します。 IM-LogicDesignerのフロー定義IDを指定します。	カスタムロジックタイプで「IM-LogicDesigner」を選択した場合に入力します。 「フロー定義検索」ボタンでフロー定義の検索ができます。
利用するバージョン			タイプで「IM-LogicDesigner」を選択した場合に選択します。 - 最新バージョンを利用 ロジックフローの最新バージョンを使用します。 - 入力したバージョンを利用 指定したロジックフローのバージョンを使用します。
バージョン番号	必須	ロジックフローのバージョン番号を設定します。	カスタムロジックタイプで「IM-LogicDesigner」を選択し、「利用するバージョン」で「入力したバージョンを利用」を選択した場合に入力します。 ロジックフローのバージョン番号を指定します。



コラム

Javaクラスについて

「Javaクラス」で指定するクラスは、下記のInterfaceを実装する必要があります。

- jp.co.intra_mart.activiti.engine.impl.calendar.custom.logic.execute.CustomBusinessCalendarLogicJavaClass

i コラム

スクリプトファイルについて

スクリプトファイルは以下の形式で記述されている必要があります。

関数名 : `run(input)`

戻り値 : `rescheduledDate` ※編集後のスケジュール日時

スクリプトファイルの `input` には下記の情報が設定されます。

```
{
  "processDefinitionId" : "PROCESS_TIMER_START_EVENT_019:1:8guoz28v37c25xa",
  "processInstanceId" : null,
  "executionId" : null,
  "activityId" : "timer-start-event_1",
  "calendarId" : "JPN_CAL",
  "calcStartDate" : new Date(1687945754602),
  "dueDate" : new Date(1687946354602),
  "businessKey" : null,
  "description" : "R3/PT10M",
  "timeZone" : "Asia/Tokyo",
  "processDefinitionKey" : "PROCESS_TIMER_START_EVENT_019"
}
```

`processDefinitionId` : プロセス定義ID

`processInstanceId` : プロセスインスタンスID、タイマ開始イベントの場合は、`null` が設定されます。

`executionId` : エグゼキューションID、タイマ開始イベントの場合は、`null` が設定されます。

`activityId` : タイマイベントのアクティビティID

`calendarId` : カレンダーID

`calcStartDate` : 計算の基準となる日時。アクティビティへの到達日時が設定されます。

`dueDate` : システムがあらかじめ計算したスケジュール日時

`businessKey` : 業務キー

`description` : 周期または期間に設定されたスケジュール指定文字列

`timeZone` : タイムゾーン

`processDefinitionKey` : プロセス定義キー

以下はシステムが計算したスケジュール時刻が18時以降であった場合、次の営業日の9時に再スケジュールするスクリプトのサンプルです。

```
function run(input) {
  var calendarService = new bpm.BusinessCalendarService();
  var rescheduledDate = input.dueDate;
  if (calendarService.isAfter(input.dueDate,18,input.timeZone).data) {
    var nextBusinessDay = calendarService.getNextBusinessDay(input.dueDate,input.timeZone,input.calendarId).data;
    rescheduledDate = calendarService.editClock(nextBusinessDay,9,input.timeZone).data;
  }
  return {
    rescheduledDate : rescheduledDate
  };
}
```

i コラム

IM-LogicDesignerの入力値/出力値のjson定義

IM-LogicDesignerの入力値

calcStartDate、dueDateは読み込んだのち、IM-LogicDesignerの「入出力設定」にてDate型へ変更してください。

```
{
  "processDefinitionKey": "",
  "processDefinitionId": "",
  "businessKey": "",
  "processInstanceId": "",
  "executionId": "",
  "activityId": "",
  "timeZone": "",
  "calendarId": "",
  "description": "",
  "calcStartDate": null,
  "dueDate": null
}
```

IM-LogicDesignerの出力値

読み込んだのち、IM-LogicDesignerの「入出力設定」にてDate型へ変更してください。

```
{
  "rescheduledDate": null
}
```

! 注意

「日付計算方法」、および「カスタムカレンダーロジック」は、2023 Autumn(Hollyhock)以降のバージョンから設定できません。

エラー境界イベント

エラー境界イベントは、接続されたアクティビティ内でのエラーを受信する境界イベントです。

エラー境界イベントを設定したアクティビティ内で、発生したエラーコードを比較して合致した場合、エラー境界イベントから引かれたシーケンスフローへとフローを進行させます。

設定可能な項目は以下のとおりです。

- [基本情報](#)
- [メインコンフィグ](#)
- [説明](#)
- [実行リスナ](#)
- [表現](#)

エラー境界イベントの配置

エラー境界イベントを配置するためには、事前にエラー境界イベントが接続可能なアクティビティを配置しておく必要があります。

接続可能なアクティビティは以下の通りです。

アクティビティ名	パレット
アブストラクトタスク	タスク
サービスタスク	タスク
メールタスク	タスク
コールアクティビティ	タスク
サブプロセス	コンテナ
IM-LogicDesignerタスク	intra-mart

1. 「パレット」から、 にカーソルを合わせます。

2. 「パレット」の右側に現れる一覧から、「

- ここではサービスタスクに対してエラー境界イベントを定義しています。



基本情報の設定

基本情報の設定について解説します。

1. エディタ上で設定を行いたいフローエレメントをクリックします。
2. プロパティエリアから「基本情報」タブを選択します。

プロパティの詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
ID	必須	任意の文字列を設定します。 英数字と一部の記号のみ使用できます。	フローエレメントを一意に特定するためのIDを設定します。
名前	任意	任意の文字列を設定します。	フローエレメントの名前を設定します。 プロセス定義で表示されます。

メインコンフィグの設定

エラー境界イベントのメインコンフィグの設定について解説します。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
エラーコード	必須	任意の文字列を設定します。	設定したアクティビティで受信するエラーコードを設定します。 エラーコードを指定しなかった場合、設定したアクティビティで発生したすべてのエラーイベントを受信します。

メッセージ境界イベント

メッセージ境界イベントは接続されたアクティビティ内から送信されたメッセージを受信する境界イベントです。

メッセージ境界イベントで設定したメッセージと同じ名前のメッセージを受信した場合、メッセージ境界イベントから引かれたシーケンスフローへとフローを進行させます。

また、メッセージ境界イベントがメッセージを受信した際に、通常のプロセスの継続、または、中止を設定できます。

設定可能な項目は以下のとおりです。

- [基本情報](#)
- [メインコンフィグ](#)
- [説明](#)
- [実行リスナ](#)
- [表現](#)

メッセージ境界イベントの配置

メッセージ境界イベントを配置するためには、事前にメッセージ境界イベントが接続可能なアクティビティを配置しておく必要があります。

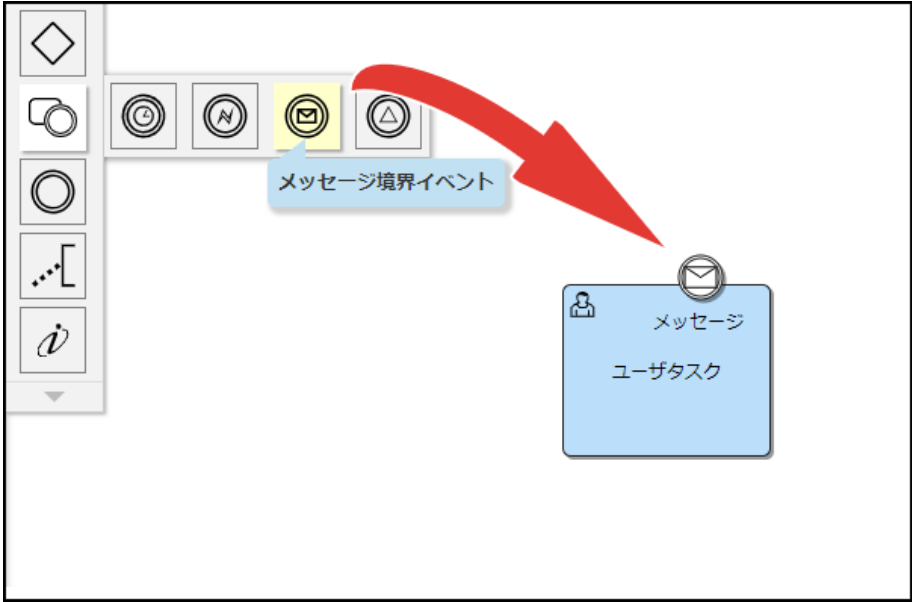
接続可能なアクティビティは以下の通りです。

アクティビティ名	パレット
アブストラクトタスク	タスク
ユーザタスク	タスク
スクリプトタスク	タスク
サービスタスク	タスク
メールタスク	タスク
マニュアルタスク	タスク
受信タスク	タスク
ビジネスルールタスク	タスク
コールアクティビティ	タスク
サブプロセス	コンテナ
IM-LogicDesignerタスク	intra-mart
申請タスク	intra-mart
起票タスク	intra-mart

1. 「パレット」から、 にカーソルを合わせます。

2. 「パレット」の右側に現れる一覧から、 をドラッグ&ドロップの操作で接続可能なアクティビティの内部に配置します。

- ここではユーザタスクに対してメッセージ境界イベントを定義しています。



基本情報の設定

基本情報の設定について解説します。

- 1. エディタ上で設定を行いたいフローエレメントをクリックします。
- 2. プロパティエリアから「基本情報」タブを選択します。

基本情報

メインコンフィグ

説明

リスナ

ID *

XXXXXXXX-XXXX

名前

プロパティの詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
ID	必須	任意の文字列を設定します。 英数字と一部の記号のみ使用できます。	フローエレメントを一意に特定するためのIDを設定します。
名前	任意	任意の文字列を設定します。	フローエレメントの名前を設定します。 プロセス定義で表示されます。

メインコンフィグの設定

メッセージ境界イベントのメインコンフィグの設定について解説します。

基本情報

メインコンフィグ

説明

リスナ

表現

☒ アクティビティの取消

?

参照メッセージ *

?

message01 (ID:message01)

項目名	必須/任意	入力形式	説明
アクティビティの取消			チェックを入れた場合、メッセージ境界イベントが開始したときに、接続しているアクティビティを終了します。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
参照メッセージ	必須		受信するメッセージを選択します。 選択したメッセージを受信すると、メッセージ境界イベントから引かれたシーケンスフローへとフローを進行させます。 メッセージの設定については、「メッセージ&シグナル」を参照してください。

シグナル境界イベント

シグナル境界イベントは接続されたアクティビティ内から送信されたシグナルを受信する境界イベントです。

シグナル境界イベントで設定したシグナルを受信した場合、シグナル境界イベントから引かれたシーケンスフローへとフローを進行させます。

また、シグナル境界イベントがシグナルを受信した際、通常のプロセスの継続、中止を設定できます。

設定可能な項目は以下のとおりです。

- [基本情報](#)
- [メインコンフィグ](#)
- [説明](#)
- [実行リスナ](#)
- [表現](#)

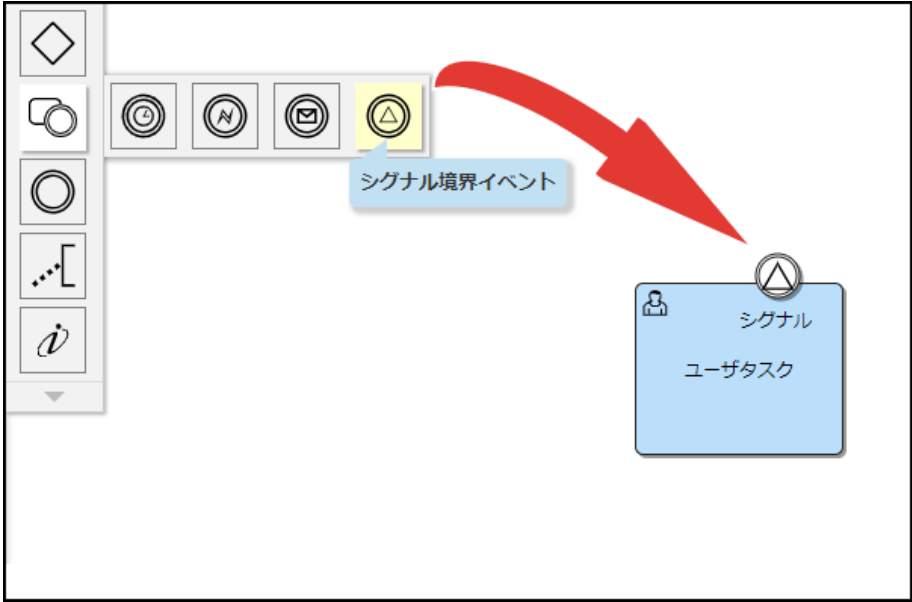
シグナル境界イベントの配置

シグナル境界イベントを配置するためには、事前にシグナル境界イベントが接続可能なアクティビティを配置しておく必要があります。

接続可能なアクティビティは以下の通りです。

アクティビティ名	パレット
アブストラクトタスク	タスク
ユーザタスク	タスク
スクリプトタスク	タスク
サービスタスク	タスク
メールタスク	タスク
マニュアルタスク	タスク
受信タスク	タスク
ビジネスルールタスク	タスク
コールアクティビティ	タスク
サブプロセス	コンテナ
IM-LogicDesignerタスク	intra-mart
申請タスク	intra-mart
起票タスク	intra-mart

1. 「パレット」から、 にカーソルを合わせます。
2. 「パレット」の右側に現れる一覧から、 をドラッグ&ドロップの操作で接続可能なアクティビティの内部に配置します。
 - ここではユーザタスクに対してシグナル境界イベントを定義しています。



基本情報の設定

基本情報の設定について解説します。

- 1. エディタ上で設定を行いたいフローエレメントをクリックします。
- 2. プロパティエリアから「基本情報」タブを選択します。

基本情報

メインコンフィグ

説明

リスナ

ID *

XXXXXXXX-XXXX_1

名前

プロパティの詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
ID	必須	任意の文字列を設定します。 英数字と一部の記号のみ使用できます。	フローエレメントを一意に特定するためのIDを設定します。
名前	任意	任意の文字列を設定します。	フローエレメントの名前を設定します。 プロセス定義で表示されます。

メインコンフィグの設定

シグナル境界イベントのメインコンフィグの設定について解説します。

基本情報

メインコンフィグ

説明

リスナ

表現

☒ アクティビティの取消

?

参照シグナル *

?

signal01 (ID:signal01) ▼

項目名	必須/任意	入力形式	説明
アクティビティの取消			チェックを入れた場合、シグナル境界イベントが開始したときに、接続しているアクティビティを終了します。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
参照シグナル	必須		受信するシグナルを選択します。 選択したシグナルを受信すると、シグナル境界イベントから引かれたシーケンスフローへとフローを進行させます。 シグナルの設定については、「メッセージ&シグナル」を参照してください。

中間イベント

進行中のプロセス定義で、発生するイベントを表します。

中間イベントはイベント発生起因となるトリガーに反応したり、設定したりするためのフローエレメントです。

中間イベントは、発生するイベントの種類によって5つに分類されます。

タイマキャッチイベント

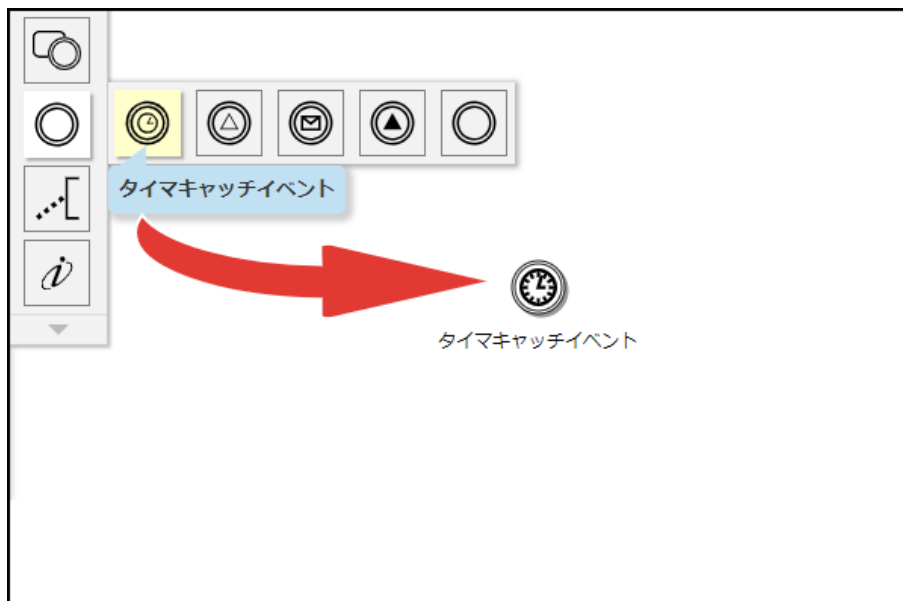
指定された時間が経過するか特定の日時になるまで、プロセスの実行を停止する中間イベントです。

設定可能な項目は以下のとおりです。

- [基本情報](#)
- [メインコンフィグ](#)
- [説明](#)
- [実行リスナ](#)
- [表現](#)

タイマキャッチイベントの配置

1. 「パレット」から、「」にカーソルを合わせます。
2. 「パレット」の右側に現れる一覧から、「」をドラッグ&ドロップの操作でキャンバス上に配置します。



基本情報の設定

基本情報の設定について解説します。

1. エディタ上で設定を行いたいフローエレメントをクリックします。
2. プロパティエリアから「基本情報」タブを選択します。

基本情報

メインコンフィグ

説明

リスナ

フォーム

関連ドキュメント

表現

ID *

xxxx-event_1

?

名前

XX

実行モード

☒ 同期

☐ 非同期

?

制御モード

☒ 排他

☐ 非排他

?

プロパティの詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
ID	必須	任意の文字列を設定します。 英数字と一部の記号のみ使用できます。	フローエレメントを一意に特定するためのIDを設定します。
名前	任意	任意の文字列を設定します。	フローエレメントの名前を設定します。 プロセス定義で表示されます。
実行モード			非同期実行を行うための設定です。
制御モード			排他制御を行うための設定です。

メインコンフィグの設定

タイマキャッチイベントのメインコンフィグの設定について解説します。

入力方式は、日付と時刻の表記に関する国際規格であるISO 8601の形式に則って記述する必要があります。
具体的な記述方法については、以下の説明欄を参照してください。

基本情報	メインコンフィグ	説明	リスナ	表現
時間指定の種別 ?				
☐ 日付 ☒ 周期 ☐ 期間				
周期 * ?				
R3/PT10H #{}				
日付計算方法 ?				
☐ システム日付で計算 ☒ 業務日付で計算				
タイムゾーン * ?				
式でタイムゾーンを設定する ▼				
タイムゾーン(EL式) * ?				
#{TIMEZONE} #{}				
カレンダーID * ?				
式でカレンダーIDを設定する ▼				
カレンダーID(EL式) * ?				
#{CALENDARID} #{}				
☒ カスタムカレンダーロジックを使用する ?				
カスタムカレンダーロジック ?				
☐ Javaクラス ☐ スクリプトファイル ☒ IM-LogicDesigner				
フローID * ?				
🔍 フロー定義検索 test				
利用するバージョン ?				
☐ 最新バージョンを利用 ☒ 入力したバージョンを利用				
バージョン番号 * ?				
1				

項目名	必須/任意	入力形式	説明
時間指定の種別			時間を指定する種別を選択します。
日付	必須	日付形式の文字列を設定します。 EL式による設定が可能です。	「時間指定の種別」で「日付」を選択した場合に設定します。 開始する日付を設定します。 例：2016年1月1日12時開始 → 2016-01-01T12:00:00 指定日付に1回のみ受信されます。
周期	必須	周期形式の文字列を設定します。 EL式による設定が可能です。	「時間指定の種別」で「周期」を選択した場合に設定します。 タイマキャッチイベントの性質上、繰り返し設定を行っても1回のみしか受信されず、それ以降は受信されません。 そのため、「期間」と同じ動作になるため、「期間」を使用してください。
期間	必須	期間形式の文字列を設定します。 EL式による設定が可能です。	「時間指定の種別」で「期間」を選択した場合に設定します。 開始するまでの期間を設定します。 例：10日後開始 → P10D タイマキャッチイベントに到達したときから指定した期間が経過したとき1回のみ開始されます。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
日付計算方法			- システム日付で計算 システムで定義されている休日を考慮せずにタイマイメントの実行がスケジュールされます。 - 業務日付で計算 システムで定義されている休日を考慮し、休日にはタイマイメントの実行がスケジュールされなくなります。
タイムゾーン			タイマイメントのスケジュールを行う際のタイムゾーンを指定します。
タイムゾーン(EL式)	必須		タイムゾーンで「式でタイムゾーンを設定する」を選択した場合に入力します。 EL式による設定が可能です。
カレンダーID			業務日付でタイマイメントのスケジュールを行う際に、休日の定義を参照するカレンダーを指定します。
カレンダーID(EL式)	必須		カレンダーIDで「式でカレンダーIDを設定する」を選択した場合に入力します。 EL式による設定が可能です。
カスタムカレンダーロジックを使用する			ユーザコードまたはLogicDesignerを使用して、システムが計算したスケジュールの編集を行います。 繰り返し指定などにより、複数回スケジュールの計算を行う必要がある場合、二回目以降のスケジュールの計算時に、一回目のスケジュール日時を再計算するため、ユーザコードの振る舞はべき等である必要があります。 これは、リトライなどが発生した場合などに前回のスケジュールの正確な実行時間が取得できない場合があるためです。
カスタムカレンダーロジック	必須	呼び出すクラスを設定します。	スケジュールの編集を行うロジックの種類を選択します。 「Javaクラス」、「スクリプトファイル」、「IM-LogicDesigner」より選択できます。
Javaクラス	必須	Javaクラスを設定します。	システムにデプロイされているJavaクラスを呼び出し、スケジュールの編集を行います。 カスタムロジックタイプで「Javaクラス」を選択した場合に入力します。
スクリプトファイル	必須	実行するスクリプトファイルを { IM-Juggling プロジェクト }/classes からの相対パス形式で指定します。 例：{ IM-Juggling プロジェクト }/classes/sample/foo.js を実行する場合→sample/foo.js	システムにデプロイされている <i>im-javascript</i> のスクリプトファイルを呼び出し、スケジュールの編集を行います。 カスタムロジックタイプで「スクリプトファイル」を選択した場合に入力します。
フローID	必須	フロー定義IDを設定します。 IM-LogicDesignerのフロー定義IDを指定します。	カスタムロジックタイプで「IM-LogicDesigner」を選択した場合に入力します。 「フロー定義検索」ボタンでフロー定義の検索ができます。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
利用するバージョン			タイプで「IM-LogicDesigner」を選択した場合に選択します。 - 最新バージョンを利用 ロジックフローの最新バージョンを使用します。 - 入力したバージョンを利用 指定したロジックフローのバージョンを使用します。
バージョン番号	必須	ロジックフローのバージョン番号を設定します。	カスタムロジックタイプで「IM-LogicDesigner」を選択し、「利用するバージョン」で「入力したバージョンを利用」を選択した場合に入力します。 ロジックフローのバージョン番号を指定します。



コラム

Javaクラスについて

「Javaクラス」で指定するクラスは、下記のInterfaceを実装する必要があります。

- jp.co.intra_mart.activiti.engine.impl.calendar.custom.logic.execute.CustomBusinessCalendarLogicJavaClass

i コラム

スクリプトファイルについて

スクリプトファイルは以下の形式で記述されている必要があります。

関数名 : `run(input)`

戻り値 : `rescheduledDate` ※編集後のスケジュール日時

スクリプトファイルの `input` には下記の情報が設定されます。

```
{
  "processDefinitionId" : "PROCESS_TIMER_START_EVENT_019:1:8guoz28v37c25xa",
  "processInstanceId" : null,
  "executionId" : null,
  "activityId" : "timer-start-event_1",
  "calendarId" : "JPN_CAL",
  "calcStartDate" : new Date(1687945754602),
  "dueDate" : new Date(1687946354602),
  "businessKey" : null,
  "description" : "R3/PT10M",
  "timeZone" : "Asia/Tokyo",
  "processDefinitionKey" : "PROCESS_TIMER_START_EVENT_019"
}
```

`processDefinitionId` : プロセス定義ID

`processInstanceId` : プロセスインスタンスID、タイマ開始イベントの場合は、`null` が設定されます。

`executionId` : エグゼキューションID、タイマ開始イベントの場合は、`null` が設定されます。

`activityId` : タイマイイベントのアクティビティID

`calendarId` : カレンダーID

`calcStartDate` : 計算の基準となる日時。アクティビティへの到達日時が設定されます。

`dueDate` : システムがあらかじめ計算したスケジュール日時

`businessKey` : 業務キー

`description` : 周期または期間に設定されたスケジュール指定文字列

`timeZone` : タイムゾーン

`processDefinitionKey` : プロセス定義キー

以下はシステムが計算したスケジュール時刻が18時以降であった場合、次の営業日の9時に再スケジュールするスクリプトのサンプルです。

```
function run(input) {
  var calendarService = new bpm.BusinessCalendarService();
  var rescheduledDate = input.dueDate;
  if (calendarService.isAfter(input.dueDate,18,input.timeZone).data) {
    var nextBusinessDay = calendarService.getNextBusinessDay(input.dueDate,input.timeZone,input.calendarId).data;
    rescheduledDate = calendarService.editClock(nextBusinessDay,9,input.timeZone).data;
  }
  return {
    rescheduledDate : rescheduledDate
  };
}
```

i コラム

IM-LogicDesignerの入力値/出力値のjson定義

IM-LogicDesignerの入力値

calcStartDate、dueDateは読み込んだのち、IM-LogicDesignerの「入出力設定」にてDate型へ変更してください。

```
{
  "processDefinitionKey": "",
  "processDefinitionId": "",
  "businessKey": "",
  "processInstanceId": "",
  "executionId": "",
  "activityId": "",
  "timeZone": "",
  "calendarId": "",
  "description": "",
  "calcStartDate": null,
  "dueDate": null
}
```

IM-LogicDesignerの出力値

読み込んだのち、IM-LogicDesignerの「入出力設定」にてDate型へ変更してください。

```
{
  "rescheduledDate": null
}
```

! 注意

「日付計算方法」、および「カスタムカレンダーロジック」は、2023 Autumn(Hollyhock)以降のバージョンから設定できます。

シグナルキャッチイベント

シグナルを受信する中間イベントです。

実行のトリガーとなるシグナルに特定の相手はいません。

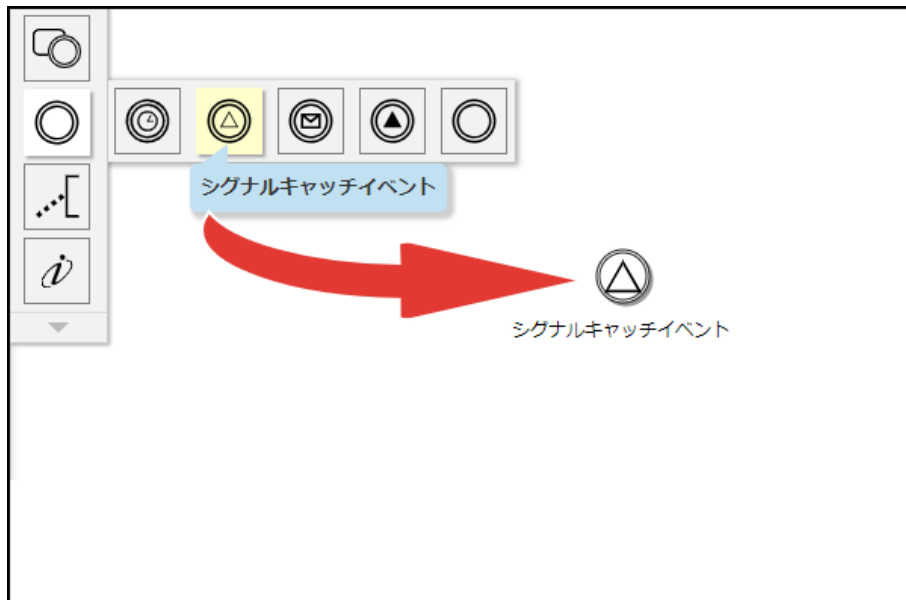
同一のシグナルを受信するシグナルキャッチイベントが複数のプロセス定義にまたがっていた場合でも、定義されたシグナルを受信すると一斉に動作を開始します。

設定可能な項目は以下のとおりです。

- [基本情報](#)
- [メインコンフィグ](#)
- [説明](#)
- [実行リスナ](#)
- [表現](#)

シグナルキャッチイベントの配置

1. 「パレット」から、 にカーソルを合わせます。
2. 「パレット」の右側に現れる一覧から、 をドラッグ&ドロップの操作でキャンバス上に配置します。



基本情報の設定

基本情報の設定について解説します。

1. エディタ上で設定を行いたいフローエレメントをクリックします。
2. プロパティエリアから「基本情報」タブを選択します。

プロパティの詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
ID	必須	任意の文字列を設定します。 英数字と一部の記号のみ使用できます。	フローエレメントを一意に特定するためのIDを設定します。
名前	任意	任意の文字列を設定します。	フローエレメントの名前を設定します。 プロセス定義で表示されます。
実行モード			非同期実行を行うための設定です。
制御モード			排他制御を行うための設定です。

メインコンフィグの設定

シグナルキャッチイベントのメインコンフィグの設定について解説します。

基本情報 | **メインコンフィグ** | 説明 | リスナ

表現

参照シグナル* ?

signal01 (ID:signal01) ▼

項目名	必須/任意	入力形式	説明
参照シグナル	必須		受信するシグナルを選択します。 選択したシグナルを受信すると、このイベントが実行されます。 シグナルの設定については、「 メッセージ&シグナル 」を参照してください。

メッセージキャッチイベント

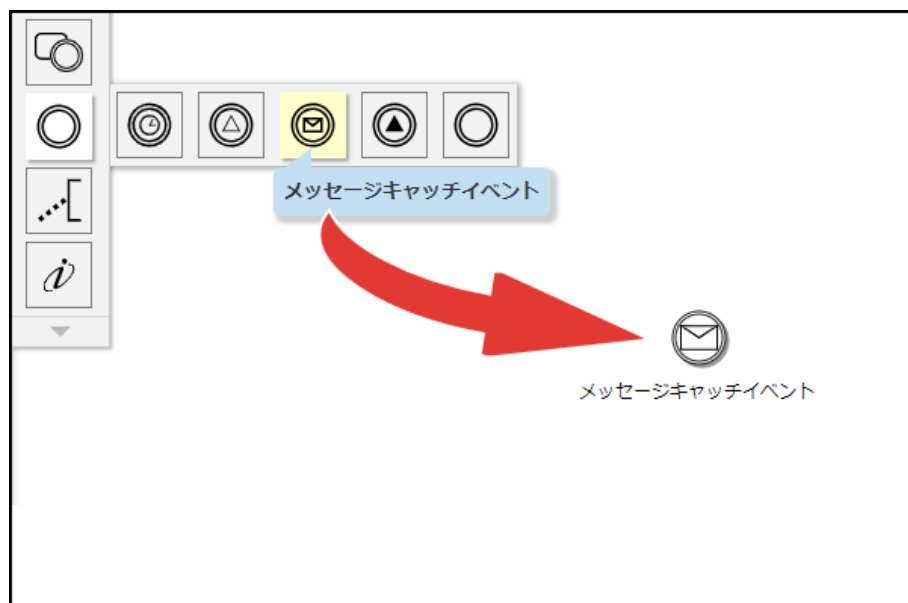
指定された名前のメッセージを受信する中間イベントです。

設定可能な項目は以下のとおりです。

- [基本情報](#)
- [メインコンフィグ](#)
- [説明](#)
- [実行リスナ](#)
- [表現](#)

メッセージキャッチイベントの配置

1. 「パレット」から、「」にカーソルを合わせます。
2. 「パレット」の右側に現れる一覧から、「」をドラッグ&ドロップの操作でキャンバス上に配置します。



基本情報の設定

基本情報の設定について解説します。

1. エディタ上で設定を行いたいフローエレメントをクリックします。
2. プロパティエリアから「基本情報」タブを選択します。

プロパティの詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
ID	必須	任意の文字列を設定します。 英数字と一部の記号のみ使用できます。	フローエレメントを一意に特定するためのIDを設定します。
名前	任意	任意の文字列を設定します。	フローエレメントの名前を設定します。 プロセス定義で表示されます。
実行モード			非同期実行を行うための設定です。
制御モード			排他制御を行うための設定です。

メインコンフィグの設定

メッセージキャッチイベントのメインコンフィグの設定について解説します。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
参照メッセージ	必須		受信するメッセージを選択します。 選択したメッセージを受信すると、このイベントが実行されます。 メッセージの設定については、「 メッセージ&シグナル 」を参照してください。

シグナルスローイベント

シグナルをブロードキャストする中間イベントです。

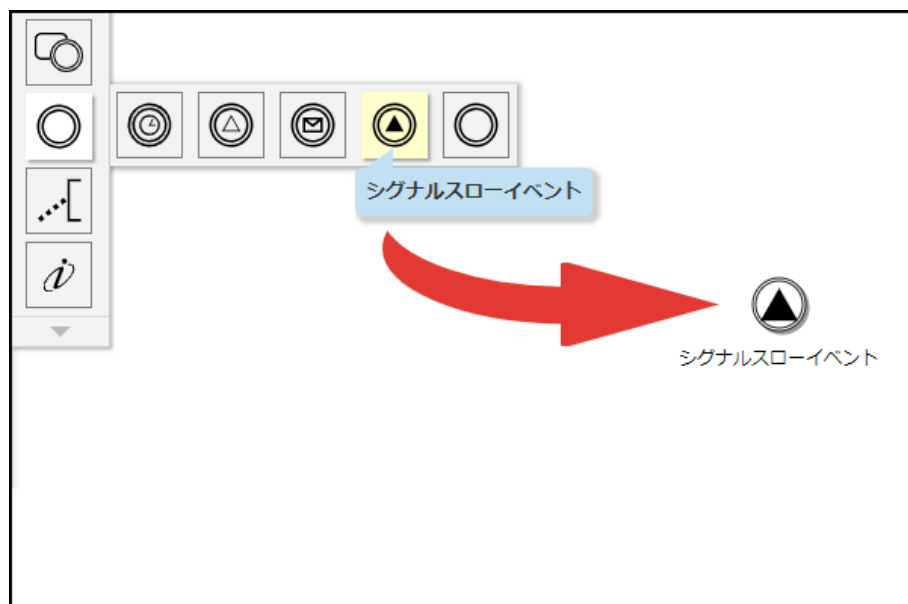
[シグナルキャッチイベント](#)にも記述したように、シグナルをこのイベントで送信すると、異なるプロセスにいるシグナルキャッチイベントもシグナルを受信します。

そのためシグナルは、送信者と受信者の関係が「1対多」です。

設定可能な項目は以下のとおりです。

- [基本情報](#)
- [メインコンフィグ](#)
- [説明](#)
- [実行リスナ](#)
- [表現](#)

1. 「パレット」から、「」にカーソルを合わせます。
2. 「パレット」の右側に現れる一覧から、「」をドラッグ&ドロップの操作でキャンバス上に配置します。



基本情報の設定

基本情報の設定について解説します。

1. エディタ上で設定を行いたいフローエレメントをクリックします。
2. プロパティエリアから「基本情報」タブを選択します。

プロパティの詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
ID	必須	任意の文字列を設定します。 英数字と一部の記号のみ使用できます。	フローエレメントを一意に特定するためのIDを設定します。
名前	任意	任意の文字列を設定します。	フローエレメントの名前を設定します。 プロセス定義で表示されます。
実行モード			非同期実行を行うための設定です。
制御モード			排他制御を行うための設定です。

メインコンフィグの設定

シグナルスローイベントのメインコンフィグの設定について解説します。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
参照シグナル	必須		送信するシグナルを選択します。 選択したシグナルが設定された「シグナル開始イベント」または、「シグナルキャッチイベント」が実行されます。

無処理イベント

イベントの種類を示さない場合に利用されます。

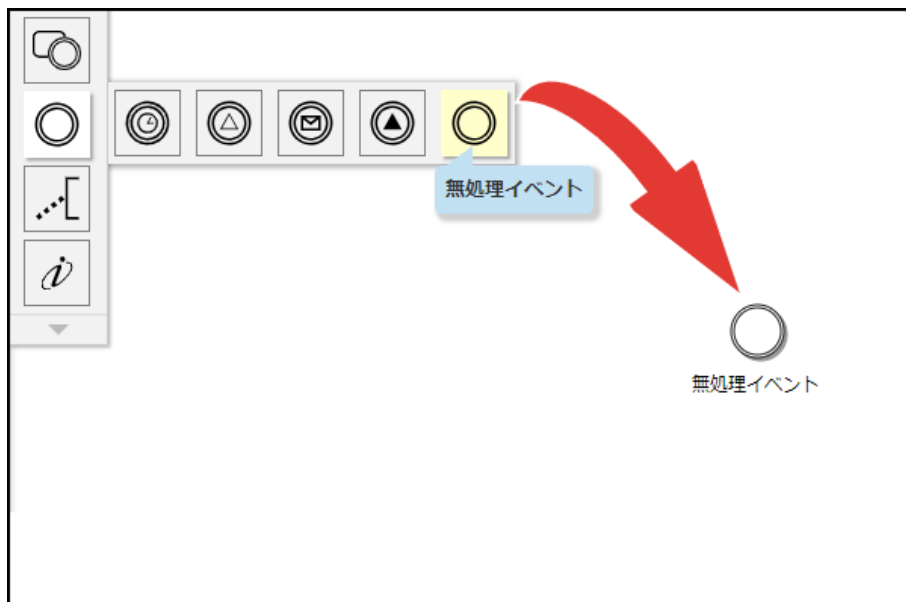
プロセス定義の途中で何らかの出来事が生じ、状態や状況が変化することを表します。

設定可能な項目は以下のとおりです。

- [基本情報](#)
- [説明](#)
- [実行リスナ](#)
- [表現](#)

無処理イベントの配置

1. 「パレット」から、「」にカーソルを合わせます。
2. 「パレット」の右側に現れる一覧から、「」をドラッグ&ドロップの操作でキャンバス上に配置します。



基本情報の設定

基本情報の設定について解説します。

1. エディタ上で設定を行いたいフローエレメントをクリックします。
2. プロパティエリアから「基本情報」タブを選択します。

プロパティの詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
ID	必須	任意の文字列を設定します。 英数字と一部の記号のみ使用できます。	フローエレメントを一意に特定するためのIDを設定します。
名前	任意	任意の文字列を設定します。	フローエレメントの名前を設定します。 プロセス定義で表示されます。
実行モード			非同期実行を行うための設定です。
制御モード			排他制御を行うための設定です。

アーティファクト

アーティファクトとは、プロセス定義をよりわかりやすくするために補助的に利用するオブジェクトです。

アーティファクトは、プロセス定義中のオブジェクトと関連コネクタで紐付けされます。

システム上でのフローの実行に影響はありません。

以下の3種類のアーティファクトが設定可能です。

注釈

プロセス定義中に配置されたオブジェクトに対して、補助的な説明を行うために利用されるアーティファクトです。

プロセス定義のフロー中にあるオブジェクトに対して、注釈を関連コネクタで接続し、関連付けを破線で示します。

また、プロセス定義全体や特定のプール、レーンに配置する場合は、対象となるプロセスの内部に注釈を配置することで紐付けます。

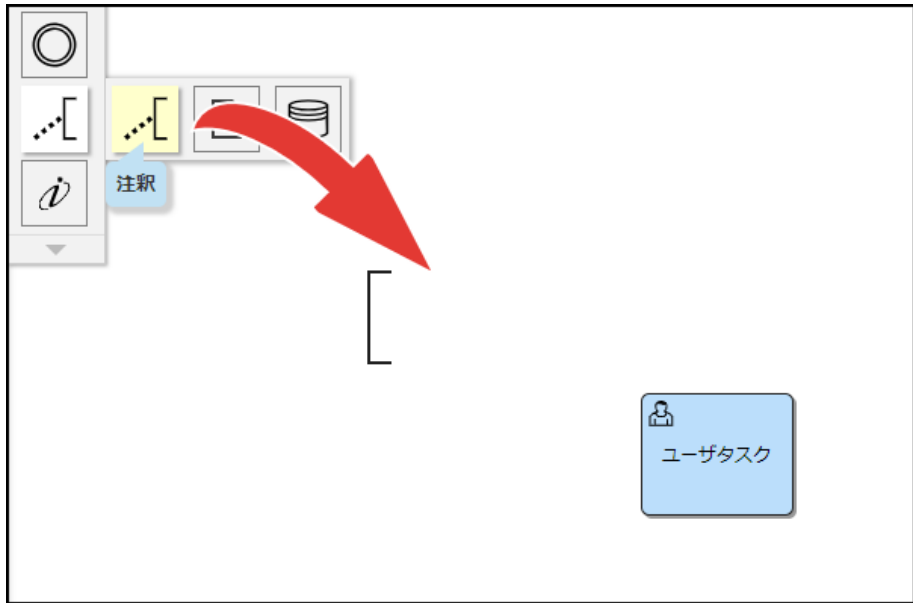
設定可能な項目は以下のとおりです。

- [基本情報](#)
- [メインコンフィグ](#)

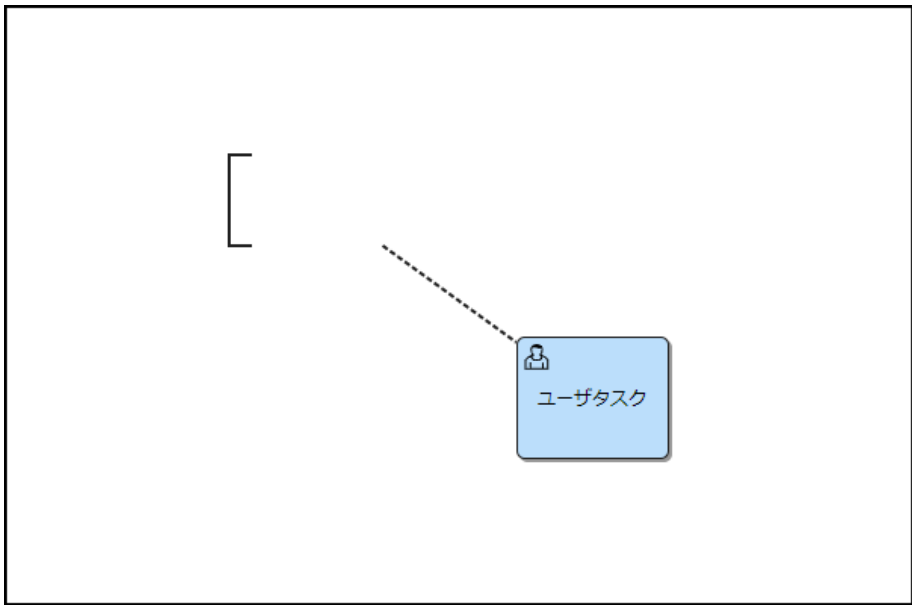
注釈の配置

フロー中にあるタスク、イベント、ゲートウェイは同様の方法で注釈の設定ができます。

1. 「パレット」から、「」にカーソルを合わせます。
2. 「パレット」の右側に現れる一覧から、「」をドラッグ&ドロップの操作でキャンバス上に配置します。



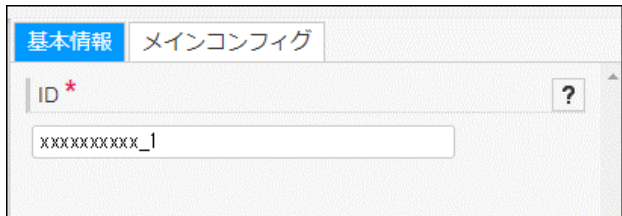
3. 配置した注釈と注釈を行いたいアクティビティを関連コネクタで接続します。
- ここではユーザタスクに対して注釈を定義しています。



基本情報の設定

基本情報の設定について解説します。

1. エディタ上で設定を行いたいフローエレメントをクリックします。
2. プロパティエリアから「基本情報」タブを選択します。



プロパティの詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
ID	必須	任意の文字列を設定します。 英数字と一部の記号のみ使用できます。	フローエレメントを一意に特定するためのIDを設定します。

メインコンフィグの設定

注釈のメインコンフィグの設定について解説します。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
説明	任意	任意の文字列を設定します。	注釈の内容を記載します。 「編集」で編集ダイアログが開きます。

データオブジェクト

プロセス定義中にあるタスク、サブプロセス、コールアクティビティ（この後、これらを総称してアクティビティとします）と関連する成果物を示すアーティファクトです。

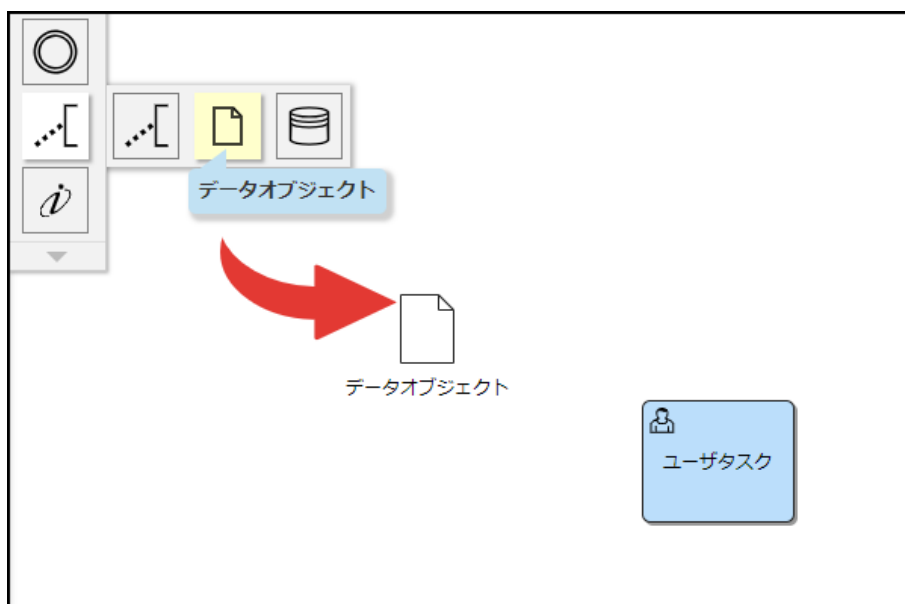
データオブジェクトとアクティビティを関連コネクタで接続し、関連付けを矢印の破線で示します。

設定可能な項目は以下のとおりです。

- [基本情報](#)
- [説明](#)

データオブジェクトの配置

1. 「パレット」から、「」にカーソルを合わせます。
2. 「パレット」の右側に現れる一覧から、「」をドラッグ&ドロップの操作でキャンバス上に配置します。



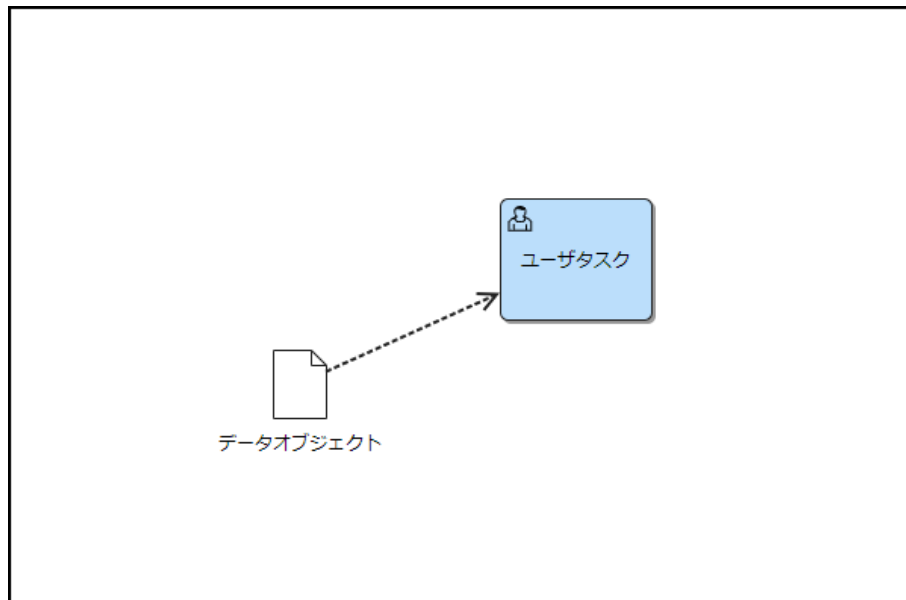
データオブジェクトの矢印の方向

データオブジェクトを関連コネクタで紐付けした際の矢印の方向は、以下のような意味を持ちます。

- データオブジェクトからアクティビティへと関連コネクタを引く

アクティビティで定義されたタスクを実行する際に、あらかじめ必要となる成果物を示します。

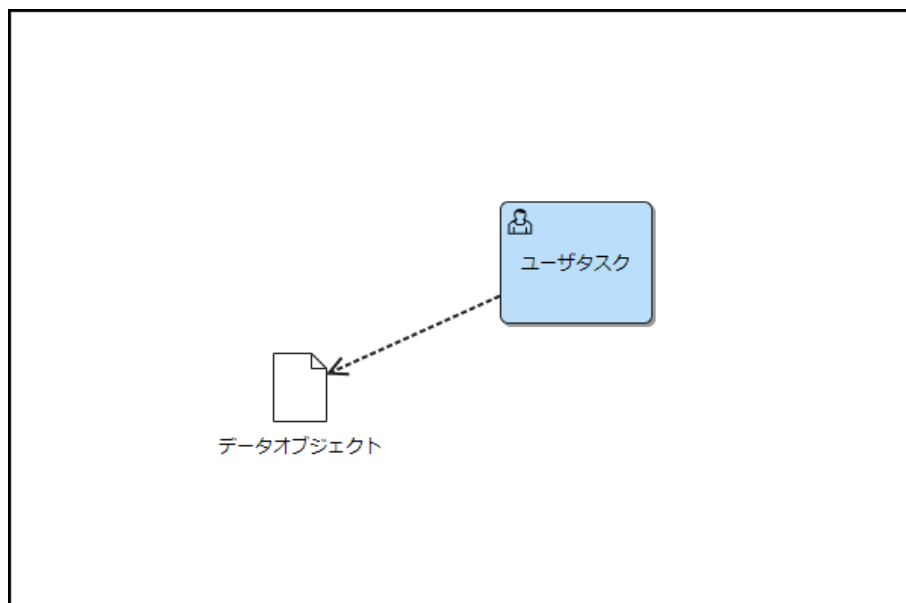
ここでは、ユーザタスクを実行する際に、あらかじめ必要となる成果物をデータオブジェクトで表現しています。



- アクティビティからデータオブジェクトへと関連コネクタを引く

アクティビティを遂行した結果、生成される成果物を示します。

ここでは、ユーザタスクから成果物が生成されることをデータオブジェクトで表現しています。



基本情報の設定

基本情報の設定について解説します。

1. エディタ上で設定を行いたいフローエレメントをクリックします。
2. プロパティエリアから「基本情報」タブを選択します。

The screenshot shows the 'Basic Information' (基本情報) tab selected in the property editor. It contains two input fields: 'ID *' with a placeholder 'xxxxxxxx-xxxx_1' and a question mark icon, and '名前 *' (Name) with a placeholder 'xxxxxxxx-xxxx'.

プロパティの詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
ID	必須	任意の文字列を設定します。 英数字と一部の記号のみ使用できます。	フローエレメントを一意に特定するためのIDを設定します。
名前	必須	任意の文字列を設定します。	フローエレメントの名前を設定します。 プロセス定義で表示されます。

データストア

プロセス定義中にあるタスク、サブプロセス、コールアクティビティ（この後、これらを総称してアクティビティとします）と関連するプロセス外のデータとのやり取りを示すアーティファクトです。

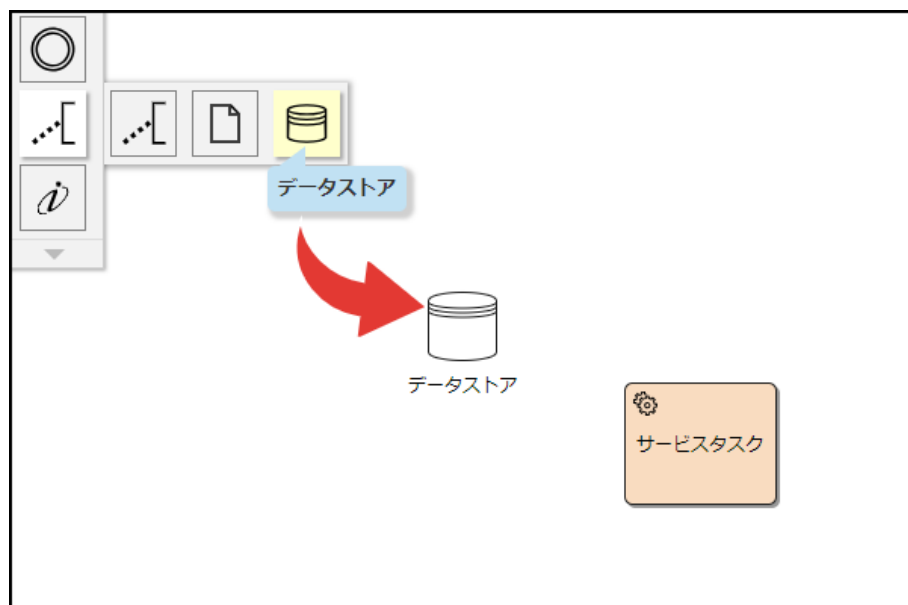
データストアとアクティビティを関連コネクタで接続し、関連付けを矢印の破線で示します。

設定可能な項目は以下のとおりです。

- [基本情報](#)
- [説明](#)

データストアの配置

1. 「パレット」から、「」にカーソルを合わせます。
2. 「パレット」の右側に現れる一覧から、「」をドラッグ&ドロップの操作でキャンバス上に配置します。



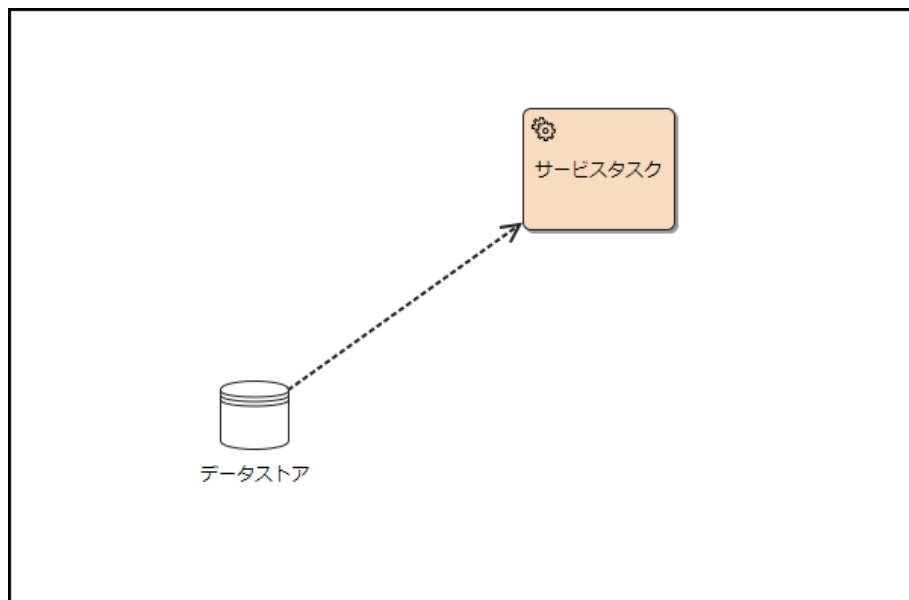
データストアの矢印の方向

データストアを関連コネクタで紐付けした際の矢印の方向は、以下のような意味を持ちます。

- データストアからアクティビティへと関連コネクタを引く

アクティビティで定義されたタスクを実行する際に、データを読み込むことを示します。

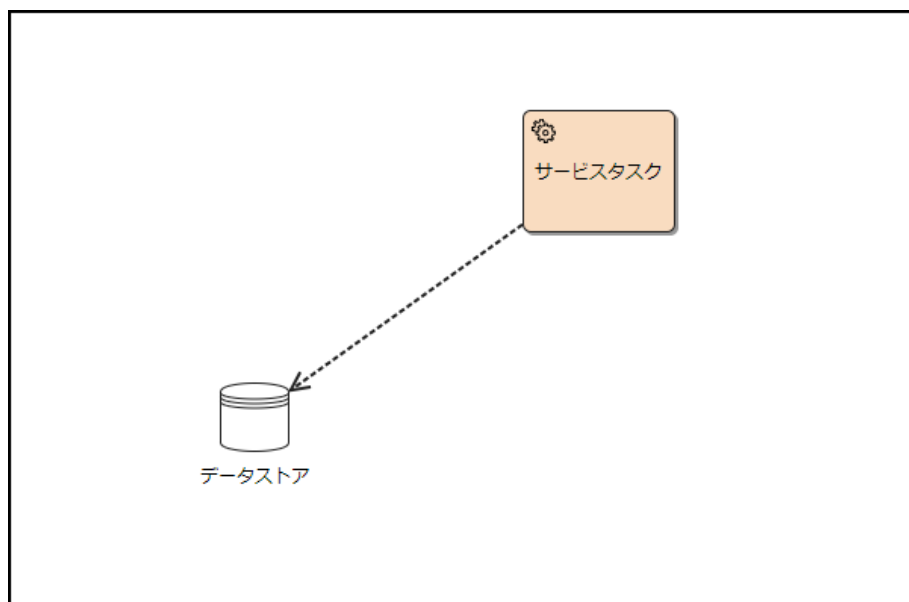
ここでは、サービスタスクを実行する際に、データを読み込むことをデータストアで表現しています。



- アクティビティからデータストアへと関連コネクタを引く

アクティビティを遂行した結果、データを書き込むことを示します。

ここでは、サービスタスクからデータを書き込むことをデータストアで表現しています。



基本情報の設定

基本情報の設定について解説します。

1. エディタ上で設定を行いたいフローエレメントをクリックします。
2. プロパティエリアから「基本情報」タブを選択します。

プロパティの詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
ID	必須	任意の文字列を設定します。 英数字と一部の記号のみ使用できます。	フローエレメントを一意に特定するためのIDを設定します。
名前	任意	任意の文字列を設定します。	フローエレメントの名前を設定します。 プロセス定義で表示されます。

intra-mart

intra-martで独自拡張したタスクです。

ここに配置されているタスクは、intra-martのアプリケーションと連動したタスクを設定できます。

対象となるタスクは、以下の3つです。

- IM-LogicDesigner

IM-LogicDesignerタスク

IM-LogicDesignerの機能呼び出すタスクです。

このタスクに到達すると、タスク中に設定された情報からIM-LogicDesignerで定義されたロジックフローの処理を行います。

IM-LogicDesignerタスクは、ロジックフローが実行完了になった段階でタスクも終了となり、次のフローエレメントへと遷移します。

設定可能な項目は以下のとおりです。

- [基本情報](#)
- [メインコンフィグ](#)
- [説明](#)
- [実行リスナ](#)
- [マルチインスタンス](#)
- [表現](#)

IM-LogicDesignerタスクの配置

1. 「パレット」から、「

基本情報の設定

基本情報の設定について解説します。

1. エディタ上で設定を行いたいフローエレメントをクリックします。
2. プロパティエリアから「基本情報」タブを選択します。

The screenshot shows the '基本情報' (Basic Information) tab of the IM-BPM configuration interface. It contains several input fields and checkboxes for configuring a flow element. The 'ID' field is marked as required. Below it are fields for '名前' (Name) and 'デフォルトフロー' (Default Flow). The '実行モード' (Execution Mode) section has radio buttons for '同期' (Synchronous) and '非同期' (Asynchronous). The '制御モード' (Control Mode) section has radio buttons for '排他' (Exclusive) and '非排他' (Non-exclusive). There is a checked checkbox for 'オプション' (Optional). Below these are checkboxes for '実行中のタスクを複数追加可能にする' (Allow multiple tasks to be added during execution) and 'タスク追加時のパラメータ' (Parameters when adding tasks). At the bottom, there is a table with columns: '選択' (Select), '編集' (Edit), '表示名' (Display Name), '変数名' (Variable Name), '入力タイプ' (Input Type), and '列挙ID' (List ID). The table contains one row with values: 'xxx_1', 'XXX_1', 'enum', and 'xxxxxxxxxxx_1'.

プロパティの詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
ID	必須	任意の文字列を設定します。 英数字と一部の記号のみ使用できます。	フローエレメントを一意に特定するためのIDを設定します。
名前	任意	任意の文字列を設定します。 EL式による設定が可能です。	フローエレメントの名前を設定します。 プロセス定義で表示されます。
デフォルトフロー			同じフローエレメントから複数のシーケンスフローが接続されている場合に表示されます。 他のシーケンスフローの条件式が、全てfalseと評価されている場合に進行するシーケンスフローの設定です。 「通常」の場合という意味ではなく、「それ以外」の場合を表します。
実行モード			非同期実行を行うための設定です。
制御モード			排他制御を行うための設定です。
オプション			チェックを入れた場合、オプションタスクとして扱われます。 オプションタスクは、シーケンスフローの始点・終点にできないなど、いくつかの制約があります。 詳細は「 IM-BPM 仕様書 」 - 「 オプションタスク 」 - 「 制約 」を参照してください。
実行中のタスクを複数追加可能にする			チェックを入れた場合、実行中のタスクが既に追加済みであっても、再度追加できます。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
タスク追加時のパラメータ			タスク追加時に設定できるパラメータ情報を定義します。 定義したパラメータ情報は、タスク追加時に追加したタスクからのみ参照できるエグゼキューション変数に格納されます。 チェックを入れて、「上へ」「下へ」ボタンをクリックすることで順番を変えられます。 「編集」リンク、または、「追加」リンクをクリックすると、「タスク追加時のパラメータ」ダイアログが表示されます。

「タスク追加時のパラメータ」ダイアログ

「タスク追加」画面で表示されるタスクの順番を変えます。

タスク追加時のパラメータ

表示名 *

xx_1

変数名 *

xxx_1

入力タイプ *

列挙値

列挙ID *

列挙型検索

xxxxxxxxxx_1

決定

取り消し

項目名	必須/任意	説明
表示名	必須	任意の文字列を設定します。 オプションタスク追加時に表示される入力フォームで対象の業務項目を表示する際のラベルに使用されます。
変数名	必須	変数を一意に特定するためのキーを定義します。 エグゼキューション変数の変数名として利用されます。
入力タイプ	必須	業務項目の入力方法のタイプを設定します。
列挙ID	必須	入力タイプに「列挙値」を設定した場合に表示されます。 IM-Repositoryの列挙型IDを指定します。



コラム

入力タイプに設定できるものは以下の通りです。

- string : 文字列
- alpha : 英字
- alphanumeric : 英数字
- numeric : 数字
- date : 日付
- boolean : 真偽値
- textarea : 複数行の文字列
- user : ユーザ検索
- users : ユーザ検索（複数）
- department : 組織検索
- enum#%IM-Repositoryの列挙型のID% : 列挙値

メインコンフィグの設定

IM-LogicDesignerタスクのメインコンフィグの設定について解説します。

基本情報

メインコンフィグ

説明

リスナ

マルチインスタンス

表現

フローID *

?

フロー定義検索

sample-notice-to-imbox-for-i

{}

利用するバージョン

?

最新バージョンを利用

● 入力したバージョンを利用

バージョン番号 *

?

1

{}

入力データ

?

+

追加

✖

選択済みの項目を削除

選択	編集	名前	値
☐		input01	value

☐ 結果変数を格納する

?

結果変数名

?

項目名	必須/任意	入力形式	説明
フローID	必須	IM-LogicDesignerのフロー定義IDを設定します。 EL式による設定が可能です。	「フロー定義検索」でフロー定義の検索ができます。
利用するバージョン			▪ 最新バージョンを利用 ロジックフローの最新バージョンを使用します。 ▪ 入力したバージョンを利用 指定したロジックフローのバージョンを使用します。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
バージョン番号	必須	ロジックフローのバージョン番号を設定します。 EL式による設定が可能です。	「入力したバージョンを利用」にチェックを入れた場合に入力します。
入力データ			ロジックフローに渡す入力値を設定します。 「追加」で新しく入力データを追加します。 「」で入力データを編集します。 「選択済みの項目を削除」で選択済みの入力データを削除します。 削除したい入力データを選択した後、「選択済みの項目を削除」をクリックしてください。 設定の詳細については「入力データの設定」を参照してください。
結果変数名を格納する			チェックを入れた場合、「結果変数名」に設定した変数へロジックフローの実行結果を格納します。
結果変数名	任意	任意の文字列を設定します。	「結果変数名を格納する」にチェックを入れた状態で「結果変数名」に入力が無い場合 ロジックフローの実行結果で返却された変数を、そのままプロセスの変数に格納します。 「結果変数名を格納する」にチェックを入れた状態で「結果変数名」に入力がある場合 結果変数名に設定された変数名のマップに、ロジックフローの実行結果で返却された変数を格納します。 「結果変数名を格納する」にチェックを入れていない場合 ここで入力された値は扱われません。

入力データの設定

入力データ

名前 *

input01

?

値

value

\${}

決定

取り消し

設定項目の詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
名前	必須	任意の文字列を設定します。	入力データのキーを設定します。
値	任意	任意の文字列を設定します。 EL式による設定が可能です。	入力データの値を設定します。
「決定」ボタン			入力データを作成します。
「取り消し」ボタン			入力データの作成をキャンセルし、ダイアログを閉じます。

- IM-Workflow、IM-FormaDesigner for Accel Platform、IM-BIS for Accel Platform

申請タスク

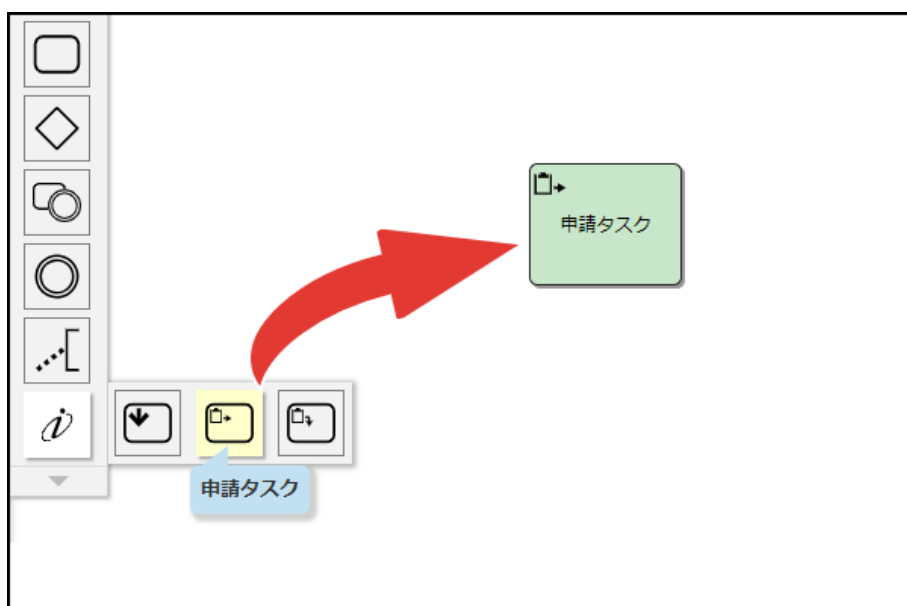
IM-Workflow、IM-FormaDesigner for Accel Platform、IM-BIS for Accel Platformのいずれかのフローを申請するタスクです。

設定可能な項目は以下のとおりです。

- [基本情報](#)
- [メインコンフィグ](#)
- [説明](#)
- [実行リスナ](#)
- [表現](#)

申請タスクの配置

1. 「パレット」から、「」にカーソルを合わせます。
2. 「パレット」の右側に現れる一覧から、「」をドラッグ&ドロップの操作でキャンバス上に配置します。



基本情報の設定

基本情報の設定について解説します。

1. エディタ上で設定を行いたいフローエレメントをクリックします。
2. プロパティエリアから「基本情報」タブを選択します。

プロパティの詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
ID	必須	任意の文字列を設定します。 英数字と一部の記号のみ使用できます。	フローエレメントを一意に特定するためのIDを設定します。
名前	任意	任意の文字列を設定します。 EL式による設定が可能です。	フローエレメントの名前を設定します。 プロセス定義で表示されます。
デフォルトフロー			同じフローエレメントから複数のシーケンスフローが接続されている場合に表示されます。 他のシーケンスフローの条件式が、全てfalseと評価されている場合に進行するシーケンスフローの設定です。 「通常」の場合という意味ではなく、「それ以外」の場合を表します。
実行モード			非同期実行を行うための設定です。
制御モード			排他制御を行うための設定です。
オプション			チェックを入れた場合、オプションタスクとして扱われます。 オプションタスクは、シーケンスフローの始点・終点にできないなど、いくつかの制約があります。 詳細は「 IM-BPM 仕様書 」 - 「 オプションタスク 」 - 「 制約 」を参照してください。
実行中のタスクを複数追加可能にする			チェックを入れた場合、実行中のタスクが既に追加済みであっても、再度追加できます。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
タスク追加時のパラメータ			タスク追加時に設定できるパラメータ情報を定義します。 定義したパラメータ情報は、タスク追加時に追加したタスクからのみ参照できるエグゼキューション変数に格納されます。 チェックを入れて、「上へ」「下へ」ボタンをクリックすることで順番を変えられます。 「編集」リンク、または、「追加」リンクをクリックすると、「タスク追加時のパラメータ」ダイアログが表示されます。

「タスク追加時のパラメータ」ダイアログ

「タスク追加」画面で表示されるタスクの順番を変えます。

タスク追加時のパラメータ

表示名 *

xx_1

変数名 *

xxx_1

入力タイプ *

列挙値

列挙ID *

列挙型検索

xxxxxxxxxx_1

決定

取り消し

項目名	必須/任意	説明
表示名	必須	任意の文字列を設定します。 オプションタスク追加時に表示される入力フォームで対象の業務項目を表示する際のラベルに使用されます。
変数名	必須	変数を一意に特定するためのキーを定義します。 エグゼキューション変数の変数名として利用されます。
入力タイプ	必須	業務項目の入力方法のタイプを設定します。
列挙ID	必須	入力タイプに「列挙値」を設定した場合に表示されます。 IM-Repositoryの列挙型IDを指定します。



コラム

入力タイプに設定できるものは以下の通りです。

- string : 文字列
- alpha : 英字
- alphanumeric : 英数字
- numeric : 数字
- date : 日付
- boolean : 真偽値
- textarea : 複数行の文字列
- user : ユーザ検索
- users : ユーザ検索（複数）
- department : 組織検索
- enum#%IM-Repositoryの列挙型のID% : 列挙値

メインコンフィグの設定

申請タスクのメインコンフィグの設定について解説します。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
アプリケーション			申請タスクで利用するアプリケーションを選択します。 選択できるアプリケーションは以下のとおりです。 ▪ IM-Workflow → Formaを利用しないワークフロー ▪ IM-Workflow（申請画面：IM-FormaDesigner）→ コンテンツ定義にIM-FormaDesignerを利用したワークフロー ▪ IM-BIS → IM-BISのワークフロー

項目名	必須/任意	入力形式	説明
前処理ユーザプログラムのクラス名	任意	JAVAクラスを設定します。 EL式による設定が可能です。	より詳細な設定を行いたい場合に設定します。 利用するアプリケーションによって実装するインタフェースが異なります。 - IM-Workflow - jp.co.intra_mart.activiti.engine.delegate.ImWorkflowApplyPreprocess - IM-FormaDesigner - jp.co.intra_mart.activiti.engine.delegate.ImFormaApplyPreprocess - IM-BIS - jp.co.intra_mart.activiti.engine.delegate.ImBisApplyPreprocess
フローID	必須	IM-WorkflowのフローIDを設定します。 EL式による設定が可能です。	「フロー定義検索」でフロー定義を検索できます。
ユーザデータID	任意	任意の文字列を設定します。 EL式による設定が可能です。	アプリケーションに紐づく一意となるIDを設定します。
案件番号	任意	IM-Workflow案件の番号を設定します。 EL式による設定が可能です。	案件番号を設定します。
案件名	必須	IM-Workflowの案件名を設定します。 EL式による設定が可能です。	案件名を設定します。
申請基準日	任意	ISO8601フォーマットで設定します。 例：2017-04-01 EL式による設定が可能です。	案件の申請基準日を設定します。 指定なかった場合は、現在日が設定されます。

申請実行者コード *

ユーザ検索
aoyagi
\${}

申請権限者コード *

ユーザ検索
aoyagi
\${}

権限者組織

組織検索
会社コード
\${}

組織セットコード
\${}

組織コード
\${}

起票コメント
\${}

項目名	必須/任意	入力形式	説明
申請実行者コード	必須	ユーザは、ユーザコードで設定します。 EL式による設定が可能です。	申請を実行するユーザを設定します。 「ユーザ検索」でユーザの検索ができます。
申請権限者コード	必須	ユーザは、ユーザコードで設定します。 EL式による設定が可能です。	申請権限者のユーザを設定します。 「ユーザ検索」でユーザの検索ができます。
権限者組織			権限者組織を設定します。 「組織検索」で組織を検索できます。
会社コード	任意	会社は、会社コードで設定します。 EL式による設定が可能です。	権限会社を設定します。
組織セットコード	任意	組織セットは、組織セットコードを設定します。 EL式による設定が可能です。	権限者組織セットを設定します。
組織コード	任意	組織は、組織コードで設定します。 EL式による設定が可能です。	権限者組織の組織を設定します。
起票コメント	任意	任意の文字列を設定します。 EL式による設定が可能です。	起票コメントを設定します。

The screenshot shows a configuration panel for a task. It includes sections for '優先度' (Priority) with a dropdown and a numeric input, 'タスク終了時の起票案件の操作' (Action when task ends) with a dropdown set to 'terminate', a checkbox for '参照可能な変数を継承する' (Inherit referable variables), and '入力データ' (Input data) with a table to add, edit, or delete items. Below these are fields for '案件の処理結果を格納する変数名' (Variable name to store case processing result) and '案件のユーザデータを格納する変数名' (Variable name to store case user data), each with a dropdown and a numeric input.

項目名	必須/任意	入力形式	説明
優先度	任意	「9」、「5」、「1」のいずれかの数値を設定します。 EL式による設定が可能です。	案件の優先度を設定します。 優先度は以下のいずれかを数値で設定します。 優先度が「高」の場合、「9」を設定してください。 優先度が「通常」の場合、「5」を設定してください。 優先度が「低」の場合、「1」を設定してください。
タスク終了時の起票案件の操作			タスクが終了した際の、起票案件の継続処理を選択します。 「terminate」を選択した場合、タスク終了と同時に起票案件の処理も終了します。 「continue」を選択した場合、タスクが終了しても起票案件の処理は継続します。
参照可能な変数を継承する			チェックをいれた場合、呼び出し元プロセスの変数を申請時に入力データとしてすべて引き継ぎます。
入力データ			申請時にフローに渡す入力データを定義します。 「追加」で新しく入力データを追加します。 「」で入力データを編集します。 「選択済みの項目を削除」で選択済みの入力データを削除します。 削除したい入力データを選択した後、「選択済みの項目を削除」をクリックしてください。 設定の詳細については「入力データの設定」を参照してください。
案件の処理結果を格納する変数名	任意	任意の文字列を設定します。 EL式による設定が可能です。	設定した変数名で案件の処理結果の情報を格納します。 保存される値の詳細については、「「案件の処理結果を格納する変数名」に保存される値」を参照してください。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
案件のユーザデータを格納する			チェックをいれた場合、案件内のユーザデータをBPMのプロセスに返却します。 IM-Workflowの場合は、案件プロパティが返却されます。 IM-FormaDesigner、IM-BISの場合は、アプリケーションデータが返却されます。
案件のユーザデータを格納する変数名	任意	任意の文字列を設定します。	「案件のユーザデータを格納する」にチェックを入れた状態で「案件のユーザデータを格納する変数名」に入力が無い場合 案件内のユーザデータをそのままプロセスの変数に格納します。 「案件のユーザデータを格納する」にチェックを入れた状態で「案件のユーザデータを格納する変数名」に入力がある場合 案件のユーザデータを格納する変数名に設定された変数名のマップに案件内のユーザデータを格納します。 「案件のユーザデータを格納する」にチェックを入れていない場合 ここで入力された値は扱われません。

「案件の処理結果を格納する変数名」に保存される値

ワークフローの終了結果によって「案件の処理結果を格納する変数名」に保存される値が大きく変わります。

1. 通常に案件が終了した場合

キー	データ型	補足
locale	Object	
processDate	String	
systemMatterId	String	
userId	String	
contentsId	String	
contentsVersionId	String	
routeId	String	
routeVersionId	String	
flowId	String	
flowVersionId	String	
actFlag	String	
lastAuthUserCd	String	
lastExecUserCd	String	
lastNodeType	String	
lastProcessNodeId	String	
lastNodeName	String	
lastResultStatus	String	discontinue、approveend、mattercomplete、deny、matterhandleのいずれかが返却されます。

2. 案件削除でワークフロー自体が削除された場合

キー	データ型	補足
locale	Object	
systemMatterId	String	
userId	String	
lastResultStatus	String	activedeleteが返却されます。

3. BPM側で終了した場合

キー	データ型	補足
systemMatterId	String	
userId	String	
lastResultStatus	String	null値が返却されます。

入力データの設定

設定項目の詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
名前	必須	任意の文字列を設定します。	入力データのキーを設定します。
値	任意	任意の文字列を設定します。 EL式による設定が可能です。	入力データの値を設定します。
「決定」ボタン			入力データを作成します。
「取り消し」ボタン			入力データの作成をキャンセルし、ダイアログを閉じます。

起票タスク

IM-Workflow、IM-FormaDesigner for Accel Platform、IM-BIS for Accel Platformのいずれかのフローを起票するタスクです。

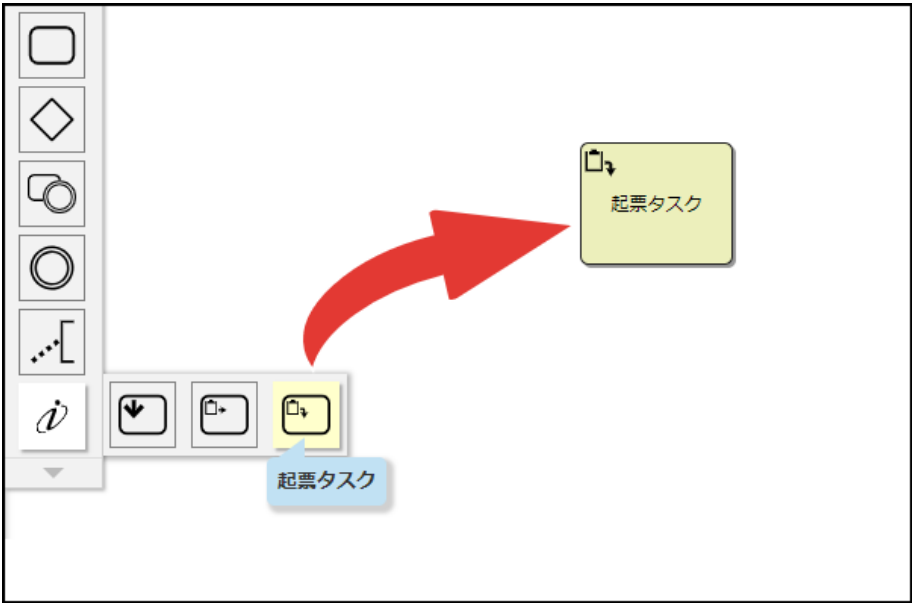
設定可能な項目は以下のとおりです。

- [基本情報](#)
- [メインコンフィグ](#)
- [説明](#)
- [実行リスナ](#)
- [表現](#)

起票タスクの配置

1. 「パレット」から、「」にカーソルを合わせます。

2. 「パレット」の右側に現れる一覧から、「」をドラッグ&ドロップの操作でキャンバス上に配置します。



基本情報の設定

基本情報の設定について解説します。

1. エディタ上で設定を行いたいフローエレメントをクリックします。
2. プロパティエリアから「基本情報」タブを選択します。

基本情報

メインコンフィグ

説明

リスナ

表現

ID *

XXXXX-XXXX_1

名前

XXXXX_1

デフォルトフロー

実行モード

同期

非同期

制御モード

排他

非排他

オプション

実行中のタスクを複数追加可能にする

タスク追加時のパラメータ

+

追加

↑

上へ

↓

下へ

✕

選択済みの項目を削除

選	編	表示名	変数名	入力タイプ	列挙ID
択	集				
☐	☒	XXX_1	xx_1	enum	xxxxxxxxxx_1

プロパティの詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
ID	必須	任意の文字列を設定します。 英数字と一部の記号のみ使用できま す。	フローエレメントを一意に特定するためのIDを設定 します。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
名前	任意	任意の文字列を設定します。 EL式による設定が可能です。	フローエレメントの名前を設定します。 プロセス定義で表示されます。
デフォルトフロー			同じフローエレメントから複数のシーケンスフローが接続されている場合に表示されます。 他のシーケンスフローの条件式が、全てfalseと評価されている場合に進行するシーケンスフローの設定です。 「通常」の場合という意味ではなく、「それ以外」の場合を表します。
実行モード			非同期実行を行うための設定です。
制御モード			排他制御を行うための設定です。
オプション			チェックを入れた場合、オプションタスクとして扱われます。 オプションタスクは、シーケンスフローの始点・終点にできないなど、いくつかの制約があります。 詳細は「IM-BPM 仕様書」 - 「オプションタスク」 - 「制約」を参照してください。
実行中のタスクを複数追加可能にする			チェックを入れた場合、実行中のタスクが既に追加済みであっても、再度追加できます。
タスク追加時のパラメータ			タスク追加時に設定できるパラメータ情報を定義します。 定義したパラメータ情報は、タスク追加時に追加したタスクからのみ参照できるエグゼキューション変数に格納されます。 チェックを入れて、「上へ」「下へ」ボタンをクリックすることで順番を変えられます。 「編集」リンク、または、「追加」リンクをクリックすると、「タスク追加時のパラメータ」ダイアログが表示されます。

「タスク追加時のパラメータ」ダイアログ

「タスク追加」画面で表示されるタスクの順番を変えます。

タスク追加時のパラメータ

表示名 *

xx_1

?

変数名 *

xxx_1

?

入力タイプ *

列挙値

▼

?

列挙ID *

列挙型検索

xxxxxxxxxx_1

?

決定

取り消し

項目名	必須/任意	説明
-----	-------	----

項目名	必須/任意	説明
表示名	必須	任意の文字列を設定します。 オプションタスク追加時に表示される入力フォームで対象の業務項目を表示する際のラベルに使用されます。
変数名	必須	変数を一意に特定するためのキーを定義します。 エグゼキューション変数の変数名として利用されます。
入力タイプ	必須	業務項目の入力方法のタイプを設定します。
列挙ID	必須	入力タイプに「列挙値」を設定した場合に表示されます。 IM-Repositoryの列挙型IDを指定します。



コラム

入力タイプに設定できるものは以下の通りです。

- string : 文字列
- alpha : 英字
- alphanumeric : 英数字
- numeric : 数字
- date : 日付
- boolean : 真偽値
- textarea : 複数行の文字列
- user : ユーザ検索
- users : ユーザ検索（複数）
- department : 組織検索
- enum#%IM-Repositoryの列挙型のID% : 列挙値

メインコンフィグの設定

起票タスクのメインコンフィグの設定について解説します。

基本情報

メインコンフィグ

説明

リスナ

表現

アプリケーション

IM-Workflow

?

前処理ユーザプログラムのクラス名

#{}

?

フローID *

フロー定義検索

5ibgqyp05zqr6a5

#{}

ユーザデータID

#{}

?

案件番号

#{}

案件名 *

sample

#{}

申請基準日

#{}

?

項目名	必須/任意	入力形式	説明
アプリケーション			起票タスクで利用するアプリケーションを選択します。 選択できるアプリケーションは以下のとおりです。 - IM-Workflow → Formaを利用しないワークフロー - IM-Workflow（申請画面：IM-FormaDesigner）→ コンテンツ定義にIM-FormaDesignerを利用したワークフロー - IM-BIS → IM-BISのワークフロー
前処理ユーザプログラムのクラス名	任意	JAVAクラスを設定します。 EL式による設定が可能です。	より詳細な設定を行いたい場合に設定します。 利用するアプリケーションによって実装するインタフェースが異なります。 - IM-Workflow - jp.co.intra_mart.activiti.engine.delegate.ImWorkflowApplyPreprocess - IM-FormaDesigner - jp.co.intra_mart.activiti.engine.delegate.ImFormaApplyPreprocess - IM-BIS - jp.co.intra_mart.activiti.engine.delegate.ImBisApplyPreprocess
フローID	必須	IM-WorkflowのフローIDを設定します。 EL式による設定が可能です。	「フロー定義検索」でフロー定義を検索できます。
ユーザデータID	任意	任意の文字列を設定します。 EL式による設定が可能です。	アプリケーションに紐づく一意となるIDを設定します。
案件番号	任意	IM-Workflow案件の番号を設定します。 EL式による設定が可能です。	案件番号を設定します。
案件名	必須	IM-Workflowの案件名を設定します。 EL式による設定が可能です。	案件名を設定します。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
申請基準日	任意	ISO8601 フォー マットで 設定しま す。 例：2017- 04-01 EL式によ る設定が 可能で す。	案件の申請基準日を設定します。 指定しなかった場合は、現在日が設定されます。

起票者コード

ユーザ検索

申請ノード処理対象者

+ 追加
 選択済みの項目を削除

選択

編集

プラグイン

パラメータ

優先度

タスク終了時の起票案件の操作

terminate ▼

☐ 参照可能な変数を継承する

入力データ

+ 追加
 選択済みの項目を削除

選択

編集

名前

値

案件の処理結果を格納する変数名

☐ 案件のユーザデータを格納する

案件のユーザデータを格納する変数名

項目名	必須/任意	入力形式	説明
起票者コード	任意	ユーザは、ユーザコードで設定します。 EL式による設定が可能です。	起票者のユーザを設定します。 「ユーザ検索」でユーザの検索ができます。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
申請ノード処理対象者			申請ノード処理対象者を設定します。 「追加」で新しく申請ノード処理対象者を追加します。 「」で申請ノード処理対象者を編集します。 「選択済みの項目を削除」で選択済みの申請ノード処理対象者を削除します。 削除したい申請ノード処理対象者を選択した後、「選択済みの項目を削除」をクリックしてください。 設定の詳細については「申請ノード処理対象者の設定」を参照してください。
優先度	任意	「9」、「5」、「1」のいずれかの数値を設定します。 EL式による設定が可能です。	案件の優先度を設定します。 優先度は以下のいずれかを数値で設定します。 優先度が「高」の場合、「9」を設定してください。 優先度が「通常」の場合、「5」を設定してください。 優先度が「低」の場合、「1」を設定してください。
タスク終了時の起票案件の操作			タスクが終了した際の、起票案件の継続処理を選択します。 「terminate」を選択した場合、タスク終了と同時に起票案件の処理も終了します。 「continue」を選択した場合、タスクが終了しても起票案件の処理は継続します。
参照可能な変数を継承する			チェックをいれた場合、呼び出し元プロセスの変数を起票時に入力データとしてすべて引き継ぎます。 アプリケーションに「IM-Workflow（申請画面：IM-FormaDesigner）」および「IM-BIS」を設定した場合に表示されます。
入力データ			起票時にフローに渡す入力データを定義します。 「追加」で新しく入力データを追加します。 「」で入力データを編集します。 「選択済みの項目を削除」で選択済みの入力データを削除します。 削除したい入力データを選択した後、「選択済みの項目を削除」をクリックしてください。 設定の詳細については「入力データの設定」を参照してください。 アプリケーションに「IM-Workflow（申請画面：IM-FormaDesigner）」および「IM-BIS」を設定した場合に表示されます。
案件の処理結果を格納する変数名	任意	任意の文字列を設定します。 EL式による設定が可能です。	設定した変数名で案件の処理結果の情報を格納します。 保存される値の詳細については、「「案件のユーザーデータを格納する変数名」に保存される値」を参照してください。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
案件のユーザデータを格納する			チェックをいれた場合、案件内のユーザデータをBPMのプロセスに返却します。 IM-Workflowの場合は、案件プロパティが返却されます。 IM-FormaDesigner、IM-BISの場合は、アプリケーションデータが返却されます。
案件のユーザデータを格納する変数名	任意	任意の文字列を設定します。	「案件のユーザデータを格納する」にチェックを入れた状態で「案件のユーザデータを格納する変数名」に入力が無い場合 案件内のユーザデータをそのままプロセスの変数に格納します。 「案件のユーザデータを格納する」にチェックを入れた状態で「案件のユーザデータを格納する変数名」に入力がある場合 案件のユーザデータを格納する変数名に設定された変数名のマップに案件内のユーザデータを格納します。 「案件のユーザデータを格納する」にチェックを入れていない場合 ここで入力された値は扱われません。



コラム

起票タスクの案件のユーザデータを格納するアプリケーションがIM-FormaDesigner／IM-BISの場合、結果変数に返却されるFormaアイテムデータは、ワークフローの申請時に作成されます。
その為、申請処理を行わずに取り下げを行った場合は、Formaアイテムデータは返却されません。

「案件のユーザデータを格納する変数名」に保存される値

- ワークフローの終了結果によって「案件のユーザデータを格納する変数名」に保存される値が大きく変わります。

1. 通常に案件が終了した場合

キー	データ型	補足
locale	Object	
processDate	String	
systemMatterId	String	
userId	String	
contentsId	String	
contentsVersionId	String	
routeId	String	
routeVersionId	String	
flowId	String	
flowVersionId	String	
actFlag	String	
lastAuthUserCd	String	
lastExecUserCd	String	
lastNodeType	String	

キー	データ型	補足
lastProcessNodeId	String	
lastNodeName	String	
lastResultStatus	String	discontinue、approveend、mattercomplete、deny、matterhandleのいずれかが返却されます。

2. 案件削除でワークフロー自体が削除された場合

キー	データ型	補足
locale	Object	
systemMatterId	String	
userId	String	
lastResultStatus	String	activedeleteが返却されます。

3. BPM側で終了した場合

キー	データ型	補足
systemMatterId	String	
userId	String	
lastResultStatus	String	null値が返却されます。

申請ノード処理対象者の設定

申請ノード処理対象者

プラグイン *

ユーザ ▼

パラメータ *

aoyagi

決定

取り消し

設定項目の詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
プラグイン	必須		処理対象者のプラグインの種別を選択します。
パラメータ	必須	ユーザコードやロールIDなどを設定します。 複数設定する場合は、ユーザコードやロールID毎にカンマで区切ることで設定可能です。 EL式による設定が可能です。 EL式でコレクションを指定した場合も複数設定されます。	プラグインに対応するパラメータを設定します。
「決定」ボタン			申請ノード処理対象者を追加します。
「取り消し」ボタン			申請ノード処理対象者の追加をキャンセルし、ダイアログを閉じます。

入力データの設定

設定項目の詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
名前	必須	任意の文字列を設定します。	入力データのキーを設定します。
値	任意	任意の文字列を設定します。 EL式による設定が可能です。	入力データの値を設定します。
「決定」ボタン			入力データを作成します。
「取り消し」ボタン			入力データの作成をキャンセルし、ダイアログを閉じます。



コラム

上記の各タスクを利用する場合、各アプリケーションの基本知識を習得していることを前提とします。

- [IM-LogicDesigner仕様書](#)
- [IM-Workflow 仕様書](#)
- [IM-FormaDesigner 仕様書](#)
- [IM-BIS 仕様書](#)



コラム

これから説明する内容において使用される単語は以下の総称として説明します。

- フローエレメント：エディタ上で配置可能な全図形の総称
- アクティビティ：フローエレメントのうち各種タスク、および各種サブプロセスの総称

共通のプロパティ

本項では、プロセスエディタの各要素で共通となるプロパティの設定項目について解説します。
各要素において共通のプロパティ設定は以下のとおりです。

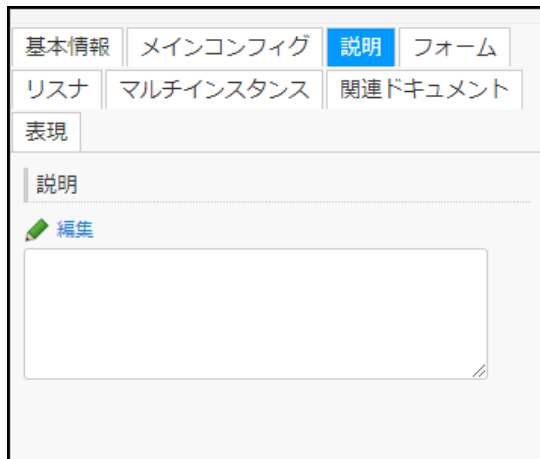
説明

フローエレメントについての説明を記載できます。

説明の設定

説明の設定について解説します。

1. エディタ上で設定を行いたいフローエレメントをクリックします。
2. プロパティエリアから「説明」タブを選択します。



プロパティの詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
説明	任意	任意の文字列を設定します。	「編集」で編集ダイアログが開きます。

データオブジェクト

プロセス定義、イベントサブプロセス、および、サブプロセスで使用可能な変数を定義できます。

ここで定義した変数情報は、スコープ開始時にスコープの変数として登録されます。

プロセスのデータオブジェクトとして設定した場合は、プロセス開始時にプロセスの変数として登録されます。

サブプロセスのデータオブジェクトとして設定した場合は、サブプロセス開始時にサブプロセス内で参照できる変数として登録されます。

データオブジェクトの設定

1. プロセスエディタの空白部分をクリックします。
2. プロパティエリアから、「データオブジェクト」タブを選択します。



- 「追加」ボタンで新しく変数を追加します。
- 「」で変数を編集します。
- 「上へ」および「下へ」で変数を並び替えます。

並び替えたい変数を選択した後、対象のをクリックしてください。

- 「選択済みの項目を削除」で選択済みの変数を削除します。

削除したい変数を選択した後、「選択済みの項目を削除」をクリックしてください。

データプロパティの設定

データプロパティ

ID * ?

data_property

名前 * ?

data_property

型

string ▼

詳細は、「IM-BPM プロセスデザイナー 操作ガイド (データプロパティの設定)」を参照してください。

値

value

決定 取り消し

図：「データプロパティ」

設定項目の詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
ID	必須	任意の文字列を設定します。 英数字と一部の記号のみ使用できます。	フローエレメントを一意に特定するためのIDを設定します。
名前	必須	任意の文字列を設定します。	変数名を設定します。
型			変数の型を選択します。 選択可能な型の種類は、string、boolean、datetime、double、int、longの6種類です。
値	任意	型に合わせた任意の値を設定します。	変数の値を設定します。

i コラム

型と値はデータプロパティの使用用途を考慮して設定します。
選択した型に応じて、値に設定できるものは以下のとおりです。

型名	入力形式	記入例
string	任意の文字列を設定します。	value, サンプル, version10.0
boolean	真(true)または偽(false)の真偽値を設定します。 小文字の半角英字を設定します。	true, false
datetime	タイムゾーンを指定した形式で日時を設定します。 日時は協定世界時(UTC)または、各国の標準時で設定します。 例：UTC、および、日本、アメリカ合衆国、中華人民共和国の標準時の形式は以下のとおりです。 UTC: yyyy-MM-dd'T'hh:mm:ss'Z' 日本：日本標準時(JST) yyyy-MM-dd'T'hh:mm:ss'+09:00' アメリカ合衆国：東部標準時(EST) yyyy-MM-dd'T'hh:mm:ss'-05:00' 中華人民共和国：中国標準時(CST) yyyy-MM-dd'T'hh:mm:ss'+08:00'	協定世界時が2019年1月1日11時00分00秒の場合、下記のように設定します。 UTC: 2019-01-01T11:00:00Z 日本：日本標準時(JST) 2019-01-01T20:00:00+09:00 アメリカ合衆国：東部標準時(EST) 2019-01-01T06:00:00-05:00 中華人民共和国：中国標準時(CST) 2019-01-01T19:00:00+08:00
double	小数を設定します。	3.14, 0.001, -0.5
int	整数を設定します。 -2,147,483,648 ~ 2,147,483,647が設定可能です。	-2147483648, 2147483647
long	整数を設定します。 -9,223,372,036,854,775,808 ~ 9,223,372,036,854,775,807が設定可能です。	-9223372036854775808, 9223372036854775807

タスクリスナ

タスクリスナの設定について解説します。

1. エディタ上で設定を行いたいフローエレメントをクリックします。
2. プロパティエリア から「リスナ」タブを選択します。



- 「追加」で新しくリスナを追加します。
- 「」でリスナを編集します。
- 「上へ」および「下へ」でリスナを並び替えます。

並び替えたいリスナを選択した後、「上へ」および「下へ」をクリックしてください。

- 「選択済みの項目を削除」で選択済みのリスナを削除します。

削除したいリスナを選択した後、「選択済みの項目を削除」をクリックしてください。

タスクリスナの設定

タスクリスナ

イベント ?

create ▼

タイプ ?

● Javaクラス ○ 式 ○ デリゲート ○ IM-LogicDesigner

サービスクラス * ?

org.activiti.engine.delegate.JavaDelegate \${}

フィールド ?

+ 追加 ↑ 上へ ↓ 下へ 🗑️ 選択済みの項目を削除

選択	編集	フィールド名	種別	フィールド値
☐		field01	string	value
☐		field02	string	value

決定 取り消し

設定項目の詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
イベント			イベントの種類を選択します。
タイプ			呼び出すタスクのタイプを選択します。 「Javaクラス」、「式」、「デリゲート」、「IM-LogicDesigner」の4種類があります。
サービスクラス	必須	Javaクラスを設定します。 EL式による設定が可能です。	タイプで「Javaクラス」を選択した場合に入力します。 呼び出すJavaクラスを設定します。 下記のInterfaceのいずれかを実装する必要があります。 - org.activiti.engine.delegate.JavaDelegate - jp.co.intra_mart.activiti.engine.impl.pvm.delegate.ActivityBehavior
式	必須	EL式を直接設定します。	タスクタイプで「式」を選択した場合に入力します。
デリゲート	必須	呼び出すクラスをEL式で設定します。	タスクタイプで「デリゲート」を選択した場合に入力します。 DIコンテナで設定されているデリゲートクラスを指定します。
フローID	必須	IM-LogicDesignerのフロー定義IDを指定します。 EL式による設定が可能です。	タイプで「IM-LogicDesigner」を選択した場合に入力します。 「フロー定義検索」ボタンでフロー定義の検索ができます。
利用するバージョン			タイプで「IM-LogicDesigner」を選択した場合に選択します。 - 最新バージョンを利用 ロジックフローの最新バージョンを使用します。 - 入力したバージョンを利用 指定したロジックフローのバージョンを使用します。 この項目にチェックを入れた状態で「バージョン番号」に指定が無い場合、デプロイエラーが発生します。
バージョン番号	必須	ロジックフローのバージョン番号を設定します。 EL式による設定が可能です。	タイプで「IM-LogicDesigner」を選択し、「利用するバージョン」で「入力したバージョンを利用」を選択した場合に入力します。 ロジックフローのバージョン番号を指定します。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
入力データ			タイプで「IM-LogicDesigner」を選択した場合に選択します。 ロジックフローに渡す入力値を設定します。 「追加」で新しく入力データを追加します。  で入力データを編集します。 「選択済みの項目を削除」で選択済みの入力データを削除します。 削除したい入力データを選択した後、「選択済みの項目を削除」をクリックしてください。 設定の詳細については「入力データの設定」を参照してください。
結果変数を格納する			タイプで「IM-LogicDesigner」を選択した場合に選択します。 この項目にチェックを入れた場合、結果変数名に指定した変数へ実行結果を格納します。
結果変数名	任意	任意の文字列を設定します。	タイプで「IM-LogicDesigner」を選択した場合に選択します。 「結果変数を格納する」にチェックを入れた状態で「結果変数名」に入力が無い場合 ロジックフローの実行結果で返却された変数を、そのままプロセスの変数に格納します。 「結果変数を格納する」にチェックを入れた状態で「結果変数名」に入力がある場合 結果変数名に設定された変数名のマップに、ロジックフローの実行結果で返却された変数を格納します。 「結果変数を格納する」にチェックを入れていない場合 ここで入力された値は扱われません。
フィールド			タイプで「IM-LogicDesigner」以外を選択した場合に選択します。 Javaクラスのフィールドに値をセットするための設定です。 「追加」で新しくフィールドを追加します。  でフィールドを編集します。 「上へ」および「下へ」でフィールドを並び替えます。 並び替えたいフィールドを選択した後、「上へ」および「下へ」をクリックしてください。 「選択済みの項目を削除」で選択済みのフィールドを削除します。 削除したいフィールドを選択した後、「選択済みの項目を削除」をクリックしてください。 設定の詳細については「フィールドの設定」を参照してください。
「決定」ボタン			タスクリスナを作成します。
「取り消し」ボタン			タスクリスナの作成をキャンセルし、ダイアログを閉じます。

入力データの設定

設定項目の詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
名前	必須	任意の文字列を設定します。	入力データのキーを設定します。
値	任意	任意の文字列を設定します。 EL式による設定が可能です。	入力データの値を設定します。
「決定」ボタン			入力データを作成します。
「取り消し」ボタン			入力データの作成をキャンセルし、ダイアログを閉じます。

フィールドの設定

設定項目の詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
フィールド名	必須	任意の文字列を設定します。	フィールドの変数名を設定します。
種別			フィールドの変数値の種別を選択します。
値	必須	任意の文字列を設定します。	種別で「値」を選択した場合に入力します。 フィールドの値を設定します。
式	必須	EL式を設定します。	種別で「式」を選択した場合に入力します。 フィールドの値をEL式で設定します。 「編集」をクリックすると、編集ダイアログが開きます。
「決定」ボタン			フィールドを作成します。
「取り消し」ボタン			フィールドの作成をキャンセルし、ダイアログを閉じます。

実行リスナ

実行リスナの設定について解説します。

1. エディタ上で設定を行いたいフローエレメントをクリックします。

2. プロパティエリア から「リスナ」タブを選択します。

- 「追加」で新しくリスナを追加します。
- 「」でリスナを編集します。
- 「上へ」および「下へ」でリスナを並び替えます。

並び替えたいリスナを選択した後、「上へ」および「下へ」をクリックしてください。

- 「選択済みの項目を削除」で選択済みのリスナを削除します。

削除したいリスナを選択した後、「選択済みの項目を削除」をクリックしてください。

実行リスナの設定

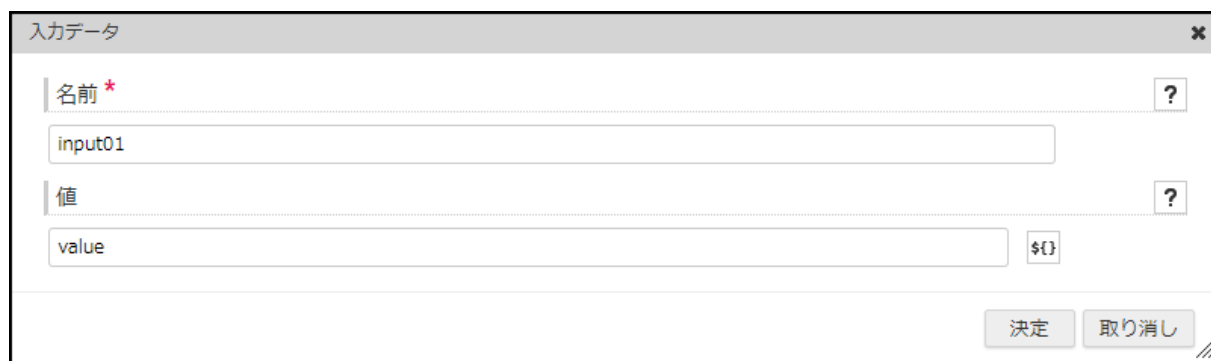
設定項目の詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
イベント			イベントの種類を選択します。
タイプ			呼び出すタスクのタイプを選択します。 「Javaクラス」、「式」、「デリゲート」、「IM-LogicDesigner」の4種類があります。
サービスクラス	必須	Javaクラスを設定します。 EL式による設定が可能です。	タイプで「Javaクラス」を選択した場合に入力します。 呼び出すJavaクラスを設定します。 下記のInterfaceのいずれかを実装する必要があります。 - org.activiti.engine.delegate.JavaDelegate - jp.co.intra_mart.activiti.engine.impl.pvm.delegate.ActivityBehavior
式	必須	EL式を直接設定します。	タスクタイプで「式」を選択した場合に入力します。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
デリゲート	必須	呼び出すクラスをEL式で設定します。	タスクタイプで「デリゲート」を選択した場合に入力します。 DIコンテナで設定されているデリゲートクラスを指定します。
フローID	必須	フロー定義IDを設定します。 IM-LogicDesignerのフロー定義IDを指定します。 EL式による設定が可能です。	タイプで「IM-LogicDesigner」を選択した場合に入力します。 「フロー定義検索」ボタンでフロー定義の検索ができます。
利用するバージョン			タイプで「IM-LogicDesigner」を選択した場合に選択します。 - 最新バージョンを利用 ロジックフローの最新バージョンを使用します。 - 入力したバージョンを利用 指定したロジックフローのバージョンを使用します。 この項目にチェックを入れた状態で「バージョン番号」に指定が無い場合、デプロイエラーが発生します。
バージョン番号	必須	ロジックフローのバージョン番号を設定します。 EL式による設定が可能です。	タイプで「IM-LogicDesigner」を選択し、「利用するバージョン」で「入力したバージョンを利用」を選択した場合に入力します。 ロジックフローのバージョン番号を指定します。
入力データ			タイプで「IM-LogicDesigner」を選択した場合に選択します。 ロジックフローに渡す入力値を設定します。 「追加」で新しく入力データを追加します。  で入力データを編集します。 「選択済みの項目を削除」で選択済みの入力データを削除します。 削除したい入力データを選択した後、「選択済みの項目を削除」をクリックしてください。 設定の詳細については「入力データの設定」を参照してください。
結果変数を格納する			タイプで「IM-LogicDesigner」を選択した場合に選択します。 この項目にチェックを入れた場合、結果変数名に指定した変数へ実行結果を格納します。
結果変数名	任意	任意の文字列を設定します。	タイプで「IM-LogicDesigner」を選択した場合に選択します。 「結果変数を格納する」にチェックを入れた状態で「結果変数名」に入力が無い場合 ロジックフローの実行結果で返却された変数を、そのままプロセスの変数に格納します。 「結果変数を格納する」にチェックを入れた状態で「結果変数名」に入力がある場合 結果変数名に設定された変数名のマップに、ロジックフローの実行結果で返却された変数を格納します。 「結果変数を格納する」にチェックを入れていない場合 ここで入力された値は扱われません。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
フィールド			タイプで「IM-LogicDesigner」以外を選択した場合に選択します。 Javaクラスのフィールドに値をセットするための設定です。 「追加」で新しくフィールドを追加します。 「」でフィールドを編集します。 「上へ」および「下へ」でフィールドを並び替えます。 並び替えたいフィールドを選択した後、「上へ」、および「下へ」をクリックしてください。 「選択済みの項目を削除」で選択済みのフィールドを削除します。 削除したいフィールドを選択した後、「選択済みの項目を削除」をクリックしてください。 設定の詳細については「フィールドの設定」を参照してください。
「決定」ボタン			実行リスナを作成します。
「取り消し」ボタン			実行リスナの作成をキャンセルし、ダイアログを閉じます。

入力データの設定



設定項目の詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
名前	必須	任意の文字列を設定します。	入力データのキーを設定します。
値	任意	任意の文字列を設定します。 EL式による設定が可能です。	入力データの値を設定します。
「決定」ボタン			入力データを作成します。
「取り消し」ボタン			入力データの作成をキャンセルし、ダイアログを閉じます。

フィールドの設定

設定項目の詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
フィールド名	必須	任意の文字列を設定します。	フィールドの変数名を設定します。
種別			フィールドの変数値の種別を選択します。
値	必須	任意の文字列を設定します。	種別で「値」を選択した場合に入力します。 フィールドの値を設定します。
式	必須	EL式を設定します。	種別で「式」を選択した場合に入力します。 フィールドの値をEL式で設定します。 「編集」をクリックすると、編集ダイアログが開きます。
「決定」ボタン			フィールドを作成します。
「取り消し」ボタン			フィールドの作成をキャンセルし、ダイアログを閉じます。

フォーム

フローエレメントのフォーム情報を設定します。

1. エディタ上で設定を行いたいフローエレメントをクリックします。
2. プロパティエリアから「フォーム」タブを選択します。

- 「追加」で新しくフォームプロパティを追加します。
- 「」でフォームプロパティを編集します。
- 「選択済みの項目を削除」で選択済みのフォームプロパティを削除します。

削除したいフォームプロパティを選択した後、「選択済みの項目を削除」をクリックしてください。

フォームプロパティの設定

フォームプロパティ

ID *

form_property

名前

form_property

型

式

変数

デフォルト

パターン

☒ 読取可能

☒ 書込可能

☐ 必須

フォーム値

+ 追加

🗑️ 選択済みの項目を削除

選択

編集

ID

名前

決定

取り消し

設定項目の詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
ID	必須	任意の文字列を設定します。	フォームプロパティを一意に特定するためのIDを設定します。
名前	任意	任意の文字列を設定します。	フォームプロパティの名前を設定します。
型	任意	任意の文字列を設定します。	フォームプロパティの型を設定します。
式	任意	任意の文字列を設定します。	フォームプロパティの式を設定します。
変数	任意	任意の文字列を設定します。	フォームプロパティの変数を設定します。
デフォルト	任意	任意の文字列を設定します。	フォームプロパティのデフォルトを設定します。
パターン	任意	任意の文字列を設定します。	フォームプロパティのパターンを設定します。
読取可能			チェックを入れた場合、フォームプロパティを読取可能にします。
書込可能			チェックを入れた場合、フォームプロパティを書込可能にします。
必須			チェックを入れた場合、フォームプロパティを必須にします。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
フォーム値			フォームの値を設定します。 「追加」で新しくフォーム値を追加します。 「」でフォーム値を編集します。 「選択済みの項目を削除」で選択済みのフォーム値の削除します。 削除したいフォーム値を選択した後、「選択済みの項目を削除」をクリックしてください。 設定の詳細については「フォーム値の設定」を参照してください。

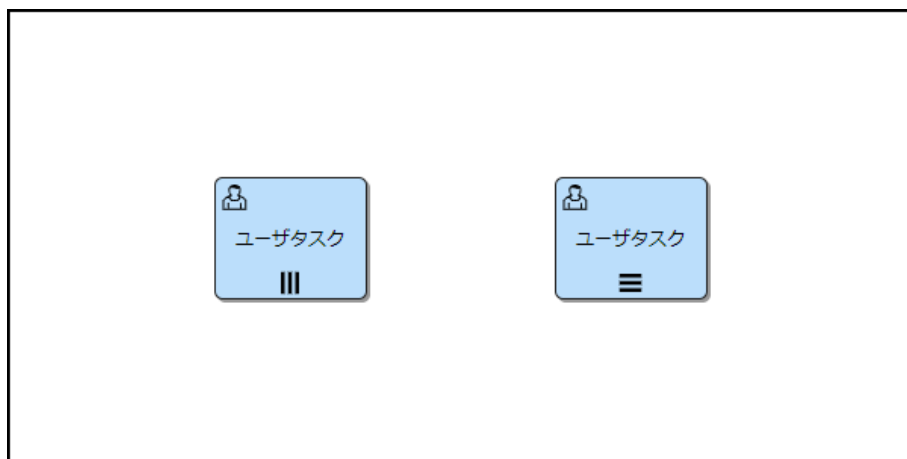
フォーム値の設定



項目名	必須/任意	入力形式	説明
ID	必須	任意の文字列を設定します。	フォーム値を一意に特定するためのIDを設定します。
名前	任意	任意の文字列を設定します。	フォーム値の名前を設定します。

マルチインスタンス

マルチインスタンスを設定したフローエレメントは複数回実行されます。
 順次実行・並行実行の2種類の実行方法があります。
 設定すると、フローエレメントの下部に三本線が表示されます。



左：並列実行、右：順次実行

マルチインスタンスの設定

マルチインスタンスの設定について解説します。

- エディタ上で設定を行いたいフローエレメントをクリックします。
- プロパティエリアから「マルチインスタンス」タブを選択します。

プロパティの詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
繰り返しの種別			繰り返しの種別を選択します。 「ループ回数」、「配列」の2種類があります。
ループ回数	任意	任意の数値を設定します。 EL式による設定が可能です。	繰り返しの種別で「ループ回数」を選択した場合に入力します。 ループ回数を設定します。
配列	任意	任意の文字列を設定します。 EL式による設定が可能です。	繰り返しの種別で「配列」を選択した場合に入力します。 配列の変数を設定します。 設定された配列の要素数分マルチインスタンスが実行されます。
要素変数	任意	任意の文字列を設定します。	繰り返しの種別で「配列」を選択した場合に入力します。 サービスタスク等でRuntime側で実行する際に、実行時に持つ変数を定義できます。 ここで定義した変数は、 <code>jp.co.intra_mart.activiti.engine.impl.pvm.delegate.ActivityBehavior</code> の実装時に利用できます。
順次実行			チェックを入れた場合、順次実行で繰り返しを行います。
終了条件		EL式を設定します。	終了条件の式を設定します。 ループ毎に式の評価を行い、trueと評価された場合、残りのインスタンスを破棄しプロセス定義の実行を継続します。

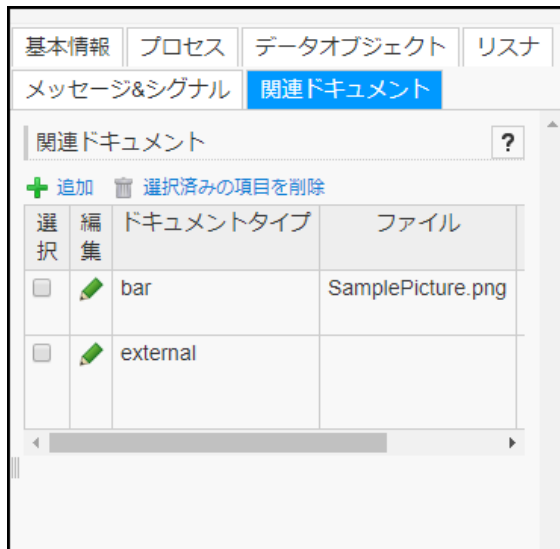
関連ドキュメント

プロセスや特定のイベント、タスクに関連するドキュメントを設定できます。
ドキュメントファイルを指定する方法と、外部のサイトを指定する2種類の方法があります。

関連ドキュメントの設定

関連ドキュメントの設定について解説します。

1. エディタ上で設定を行いたいフローエレメントをクリックします。
2. プロパティエリアから「関連ドキュメント」タブを選択します。



- 「追加」で新しく関連ドキュメントを追加します。
- 「」で関連ドキュメントを編集します。
- 「選択済みの項目を削除」で選択済みの関連ドキュメントを削除します。

削除したい関連ドキュメントを選択した後、「選択済みの項目を削除」をクリックしてください。

設定項目の詳細は以下のとおりです。

項目名	必須/任意	入力形式	説明
ドキュメントタイプ			関連ドキュメントの形式を設定します。 「内部ファイル」にした場合、関連ドキュメントをダウンロードして閲覧します。 「外部URL」にした場合、指定したサイトを閲覧します。
ファイル	必須	関連ドキュメントにあたるファイルリソースを設定します。	ドキュメントタイプで「内部ファイル」を選択した場合に入力します。 関連ドキュメントのソースを指定します。 「ドキュメント検索」ボタンでプロジェクトにアップロードされたファイルを選択できます。
URL	必須	外部サイトのリンク先をURL形式で設定します。	ドキュメントタイプで「外部URL」を選択した場合に入力します。 関連ドキュメントにあたる外部サイトのリンク先を指定します。
表示名	任意	任意の文字列を設定します。	ブラウザ上で表示されるリンクの表示名を指定します。 未入力にした場合、「ファイル」および「URL」で指定した値がそのまま画面上に表示されます。

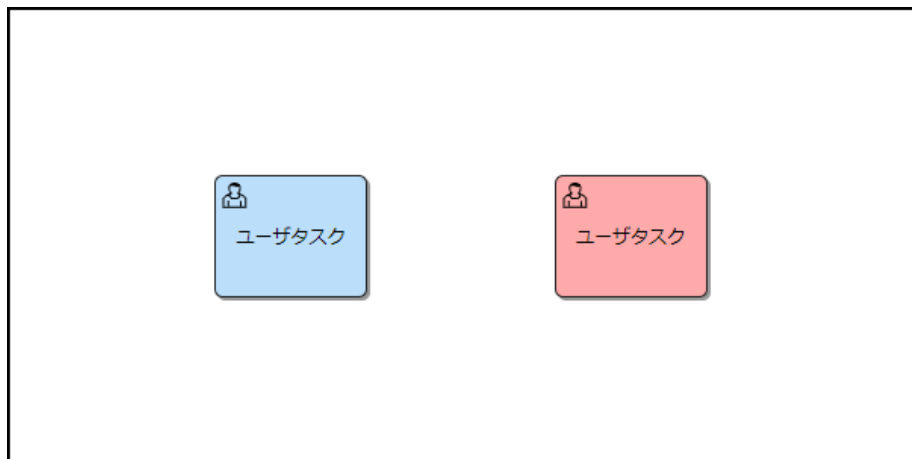
表現の設定

表現の設定について解説します。

1. エディタ上で設定を行いたいフローエレメントをクリックします。
2. プロパティエリアから「表現」タブを選択します。



- カラーコードで色を指定できます。
- パレットからは任意の色の選択・作成が行えます。
- 設定を行うとプロセス定義上で、フローエレメントの色が変更されます。
 - ここではユーザタスクに赤色を設定しています。



左：設定前、右：設定後

これらは複数の要素にまたがって個別に設定可能な項目です。

エディタ上にあるそれぞれの要素にフォーカスを当てたときに、プロパティエリアにあるタブを選択する事で設定を行う事ができます。

プロセスデザイナー（デスクトップ版）とは、IM-BPMのモデリングツールです。
サーバ環境を構築することなく、クライアントPC上でBPMN2.0に対応したダイアグラムを作成できます。

プロセスデザイナー（デスクトップ版）を取得する

「[intra-mart 製品情報サイトのダウンロードライブラリ](#)」より、クライアント環境にあわせた プロセスデザイナー のリンクをクリックします。

 [intra-mart Accel Series ダウンロードライブラリ](#)

🔔 IM-Noticeブローカーは、🔒 [Product files](#) を参照してください。

ドキュメント（ドキュメントライブラリ）一式 [↑Top](#)

[ドキュメントライブラリ](#) 上の各製品のドキュメントをまとめてダウンロードできます。

🔔 PDF版のドキュメントはオフライン等で閲覧するために補助的に提供しています。正規ドキュメントのHTML版と異なり正常に閲覧できない部分があります。正規ドキュメントのHTML版を閲覧頂く事を推奨します。

- 🔗 本文中のレイアウトの崩れや、ハイパーリンクをクリックしても遷移しない部分があります。
- 🔗 引用形式で記載している説明が完全に表示されていない部分があります。

🔔 トップページコンテンツはWeb上での利用を前提としています。Webサーバへの設定を行ってください。

 ドキュメント一式 (HTML/PDF/EXCEL) [日本語]

IM-BPM for Accel Platform

プロセスデザイナー [↑Top](#)

IM-BPMのモデリングツールです。サーバ環境を構築することなく、クライアントPC上でBPMN2.0に対応したダイアグラムを作成できます。
プロセスデザイナーは無償でご利用いただけます。

 [im_bpm_process_designer-5.0.1-win.zip](#) [Windows 64bit版]

Copyright © 2014 NTT DATA INTRAMART CORPORATION

プロセスデザイナー（デスクトップ版）をインストールする

クライアントPC上にインストールします。

Windows

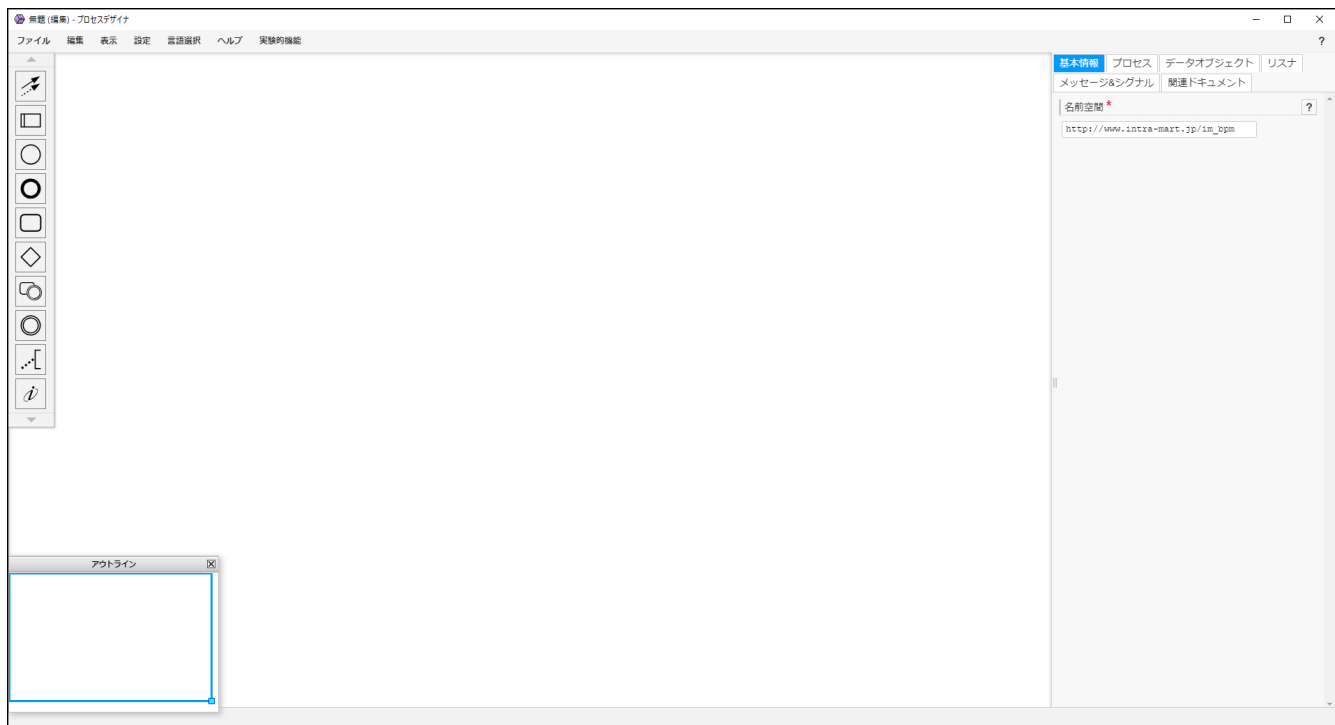
1. 取得したzipファイルを解凍します。
2. 解凍したファイルから、「`im_bpm_process_designer.exe`」を実行します。

プロセスデザイナー（デスクトップ版）を使用する

1. プロセスデザイナー（デスクトップ版）を実行すると「利用規約」が表示されます。



2. プロセスデザイナー（デスクトップ版）が使用できます。





コラム

作成したダイアグラムは、IM-BPMにアップロードできます。

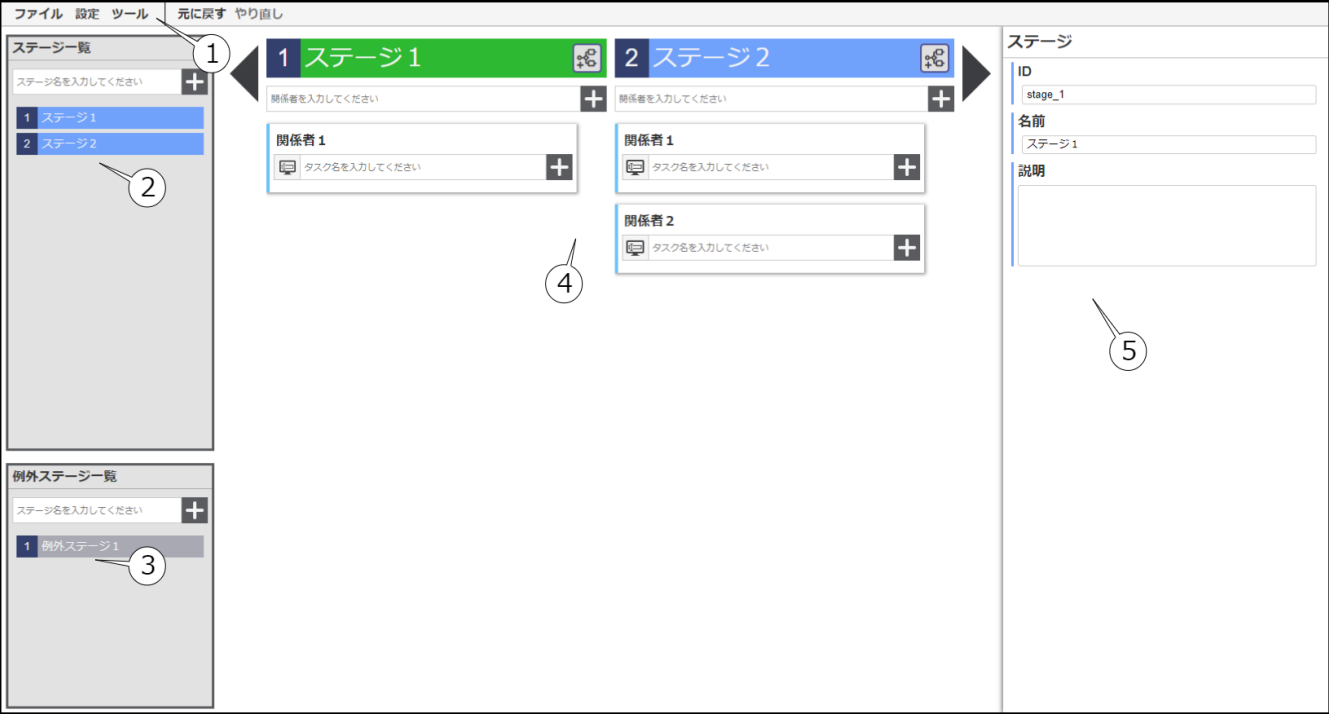
詳細は「[プロセス定義/ケース定義の管理](#)」 - 「[プロセス定義/ケース定義のアップロード](#)」を参照してください。

ここではIM-BPMのケースエディタで扱う画面の機能について説明します。

基本機能

本項では、ケースエディタの基本機能について解説します。

ケースエディタの詳細



図：「ケースエディタ」

項目名（番号）	説明
ヘッダメニュー（1）	ケースエディタの操作や設定を行うメニューです。 詳細については、「 ヘッダメニューの詳細 」を参照してください。
ステージ一覧（2）	ステージの一覧です。 ステージをここから追加します。 詳細については、「 ステージ 」を参照してください。
例外ステージ一覧（3）	例外ステージの一覧です。 例外ステージをここから追加します。 詳細については、「 例外ステージ 」を参照してください。
ステージ詳細（4）	ステージ、および、例外ステージの詳細です。 関係者、タスクの追加や編集を行います。
プロパティエリア（5）	各要素のプロパティを編集します。 詳細については、「 各要素とそのプロパティ 」からそれぞれの要素について参照してください。

ヘッダメニューの詳細

ケースエディタのヘッダメニューには、大きく分けて以下の3つの項目が存在します。

ファイル

ケース定義の保存や一時的なチェックができます。

名前を付けて保存

ケース定義に名前を付けて保存します。

作成したケース定義がデプロイ可能かチェックを行い、デプロイ可能と判定されるまで保存されません。

設定した「ケース定義名」が、他のケース定義で使用されている場合保存できません。

図：「名前を付けて保存」

項目名	説明
名前	ケース定義の名前を設定します。 必須項目です。
「キャンセル」ボタン	ケース定義の保存をキャンセルし、ダイアログを閉じます。
「保存」ボタン	ケース定義を保存します。

上書き保存

ケース定義の内容を上書きして保存します。

作成したケース定義がデプロイ可能かチェックを行い、デプロイ可能と判定されるまで保存されません。

名前を付けて保存（チェックなし）

ケース定義に名前を付けて保存します。

通常の名前を付けて保存との違いは、保存が可能となる最低限のチェックのみを行います。

設定項目の詳細については、「[名前を付けて保存](#)」を参照してください。

上書き保存（チェックなし）

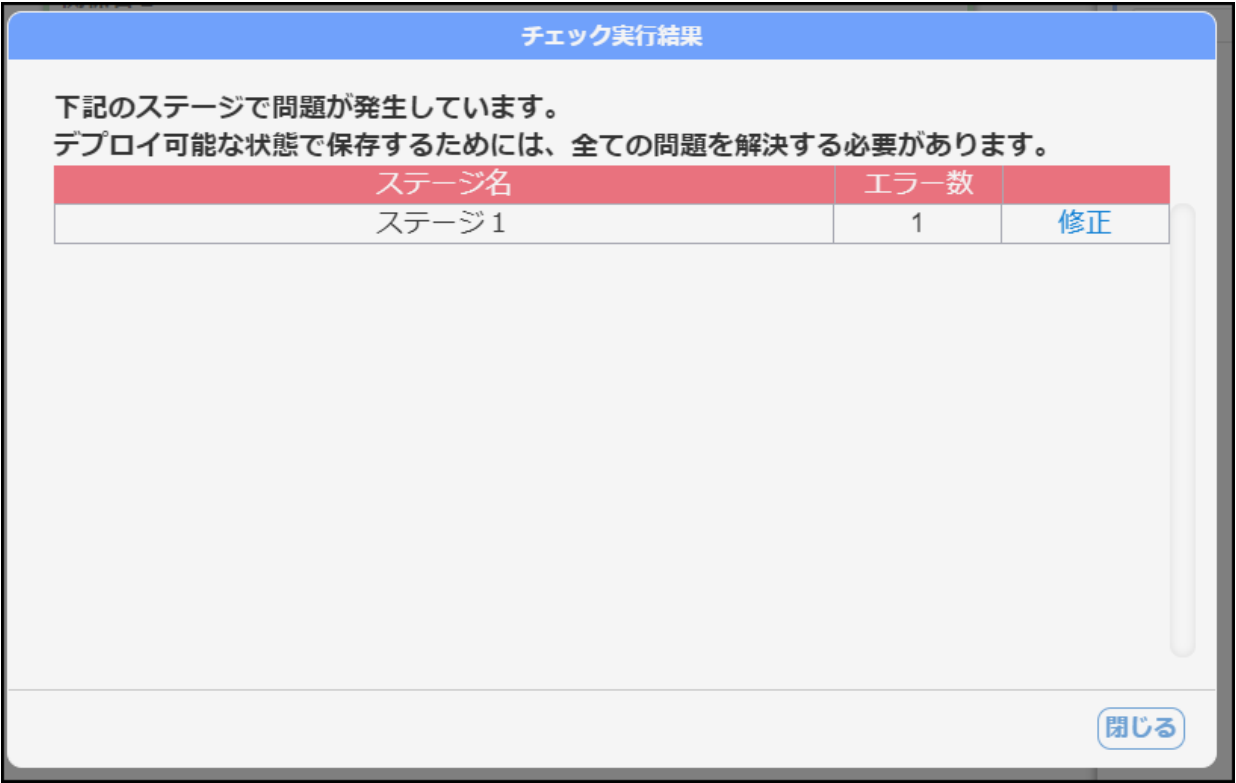
ケース定義の内容を上書きして保存します。

保存が可能となる最低限のチェックのみを行います。

チェックを実行

作成したケース定義がデプロイ可能かチェックを行います。

エラーが出ている場合は、チェック実行結果にエラーの内容が表示されます。



図：「チェック実行結果」

項目名	説明
ステージ名	ステージの名前です。
エラー数	ステージ内のエラー件数です。
修正リンク	該当のステージが開かれます。
「閉じる」ボタン	ダイアログを閉じます。

設定

ケース定義の設定ができます。

ケース定義プロパティ

ケース定義のプロパティを設定します。

図：「ケース定義プロパティ設定」

項目名	入力形式	説明
名前		ケース定義の名前が表示されます。 ここでは編集できません。
ID	任意の文字列を設定します。 英数字と一部の記号のみ使用できます。	ケース定義を一意に特定するためのIDを設定します。
説明	任意の文字列を設定します。	ケース定義についての詳細や備考を記載します。
名前空間	任意の文字列を設定します。 通常はURI形式の名前空間を設定します。	設定した名前空間がケース定義のカテゴリに設定されます。
処理対象ユーザ	ユーザは、ユーザコードで設定します。 複数設定する場合は、ユーザ毎にカンマで区切ることで設定可能です。	タスクを振り分ける権限を持つユーザを設定します。 「ユーザ検索」でユーザの検索ができます。
処理対象グループ	グループはロールIDで設定し、対象となるユーザは指定したロールを保持するユーザです。 複数設定する場合は、グループ毎にカンマで区切ることで設定可能です。	タスクを振り分ける権限を持つグループを設定します。 「ロール検索」でロールの検索ができます。
ユーザに業務キーの設定を許可しない	☐	チェックを入れた場合、プロセス開始時に業務キーの入力を許可しません。
開始時にオプションタスクの追加を行う	☐	
アドホックタスクを使用する	☐	
イニシエータ		
フォームキー		

項目名	入力形式	説明
開始時にオプションタスクの追加を行う		チェックを入れた場合、プロセス開始時に「タスク追加」画面が表示されます。 なお、この設定を有効にした場合は開始イベントの「フォームキー」の設定は無視されます。 「タスク追加」画面については、「IM-BPM ユーザ操作ガイド」 - 「タスクを追加する」を参照してください。
アドホックタスクを使用する		チェックを入れた場合、プロセス開始後の「タスク追加」画面にて、プロセスとサブプロセスに対してアドホックタスクの追加を行えます。 アドホックタスクについては、「IM-BPM 仕様書」 - 「アドホックタスク」を参照してください。
アドホックタスクのフォームキー	ticket: から始まる文字列です。	「アドホックタスクを使用する」にチェックを入れた場合に入力します。 アドホックタスクのフォームを指定します。 「チケットマスタ検索」でチケットマスタの検索ができます。
イニシエータ	任意の文字列を設定します。	プロセスを開始したユーザのユーザコードを、プロセスの変数に設定した文字列で登録します。
フォームキー	任意の文字列を設定します。	呼び出すアプリケーションと画面IDを設定します。 例1：formaのアプリケーション「application_id」を呼び出す場合 → forma:application_id 例2：スクラッチ開発した画面「http://screen/url」を呼び出す場合 → forward:http://screen/url
「閉じる」ボタン		ダイアログを閉じます。

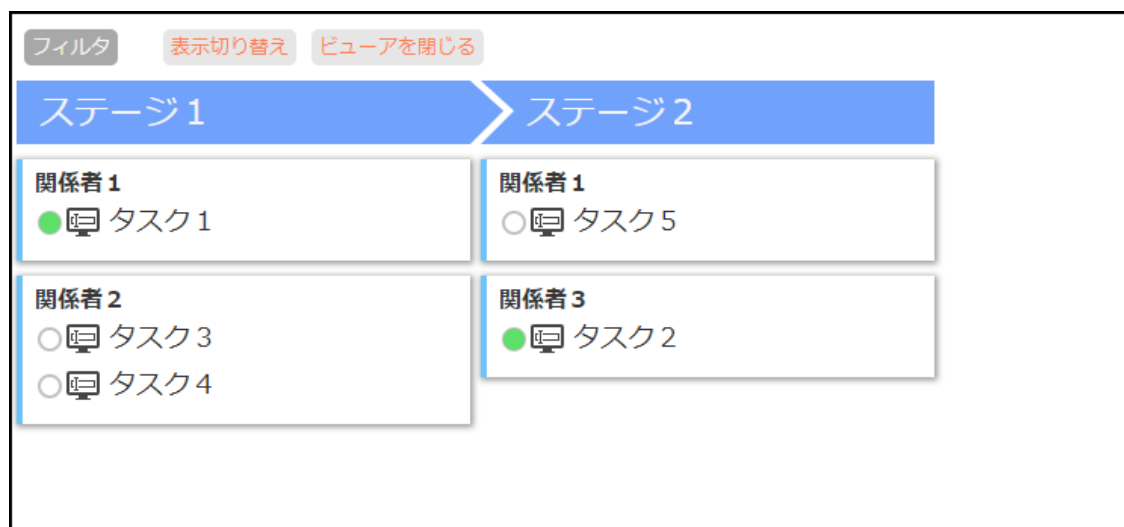
ツール

各種ツールを利用できます。

ビューア

ケース定義を全体的に表示します。

「表示切り替え」をクリックすると表示を切り替えます。





図：「ビューア」

「フィルタ」を設定することによりステージ単位で表示できます。

「ビューアを閉じる」をクリックすると「ケースエディタ」に遷移します。

元に戻す/やり直し

ケース定義の操作を元に戻したり、やり直しができます。

元に戻す

ケース定義に行った操作を元に戻します。

やり直し

元に戻した操作をやり直します。

各要素とそのプロパティ

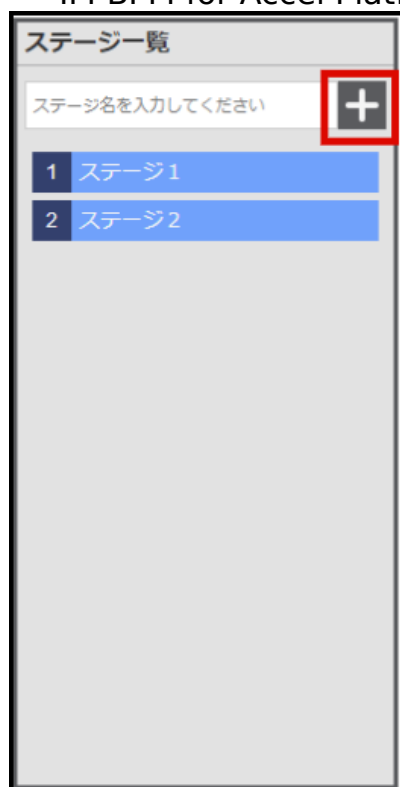
本項では、ケースエディタにおいてケース定義を表現するのに利用可能な要素について説明します。
ケースエディタでは大きく分けて以下の要素があります。

ステージ

ステージは業務を構成する一番大きな要素です。
業務で行うべきステージを順番に定義する事で、業務の流れの大枠を可視化します。
ケース定義はステージと呼ばれるプロセス定義があわさって構成されます。
1つのステージは、1つのプロセス定義として扱われます。

追加方法

ステージ一覧から、ステージ名を入力し  をクリックすることにより追加されます。
追加されたステージはステージ詳細に表示されます。



図：「ステージ一覧」

削除する場合はステージ一覧から、 をクリックすることにより削除されます。



図：「ステージ一覧」

プロパティ

ステージ詳細でプロパティを編集したいステージを選択しプロパティを表示します。

図：「プロパティエリア」

項目名	入力形式	説明
ID	任意の文字列を設定します。 英数字と一部の記号のみ使用できます。	要素を一意に特定するためのIDを設定します。
名前	任意の文字列を設定します。	ステージの名前を設定します。
説明	任意の文字列を設定します。	ステージについての詳細や備考を記載します。

例外ステージ

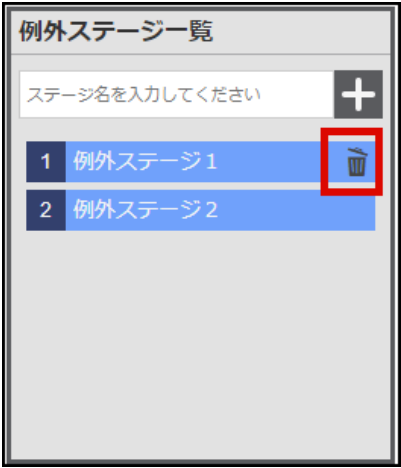
例外ステージは想定される例外的な業務を定義します。
 ケース定義はステージと呼ばれるプロセス定義があわさって構成されます。
 例外ステージも1つのステージとし、1つのプロセス定義として扱われます。

追加方法

例外ステージ一覧から、ステージ名を入力し  をクリックすることにより追加されます。
 追加された例外ステージはステージ詳細に表示されます。

図：「例外ステージ一覧」

削除する場合は例外ステージ一覧から、  をクリックすることにより削除されます。



図：「例外ステージ一覧」

プロパティ

ステージ詳細でプロパティを編集したい例外ステージを選択しプロパティを表示します。



図：「プロパティエリア」

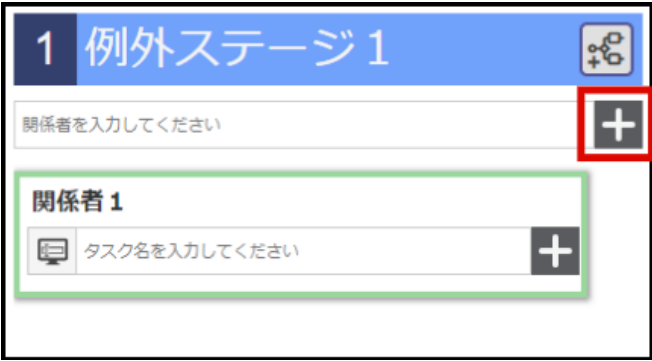
項目名	入力形式	説明
ID	任意の文字列を設定します。 英数字と一部の記号のみ使用できます。	要素を一意に特定するためのIDを設定します。
名前	任意の文字列を設定します。	例外ステージの名前を設定します。
説明	任意の文字列を設定します。	例外ステージについての詳細や備考を記載します。

関係者

関係者は人物だけでなく役割・組織も定義できます。
関係者は実際に業務を遂行する人物だけでなく業務内容の知見者・管理者を含める事ができます。
関係者はプロセス定義のレーンに相当する役割を果たします。

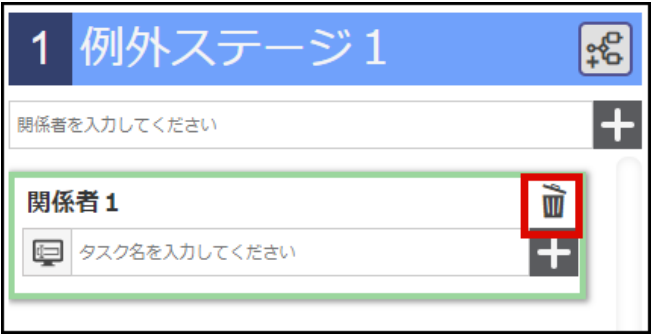
追加方法

ステージ詳細から、それぞれのステージの関係者の名前を入力し  をクリックすることにより追加されます。
追加された関係者はステージの配下に表示されます。



図：「ステージ詳細」

削除する場合は関係者の、をクリックすることにより削除されます。



図：「ステージ詳細」

プロパティ

ステージ詳細でプロパティを編集したい関係者を選択しプロパティを表示します。

関係者

ID

lane_1

名前

関係者 1

色

図：「プロパティエリア」

項目名	入力形式	説明
ID	任意の文字列を設定します。 英数字と一部の記号のみ使用できます。	要素を一意に特定するためのIDを設定します。
名前	任意の文字列を設定します。	関係者の名前を設定します。
色		パレットからは任意の色を選択します。

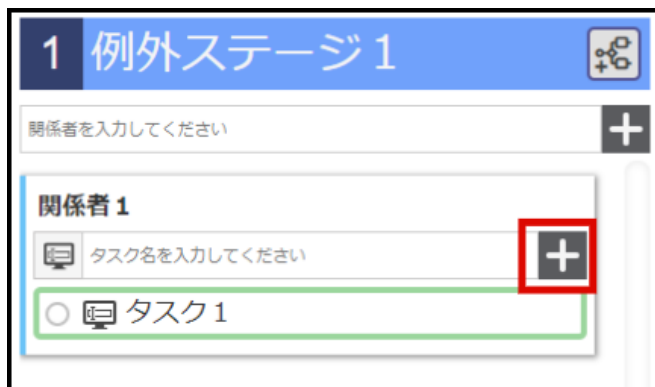
タスク

タスクはステージに内包される小さな業務の単位です。

追加方法

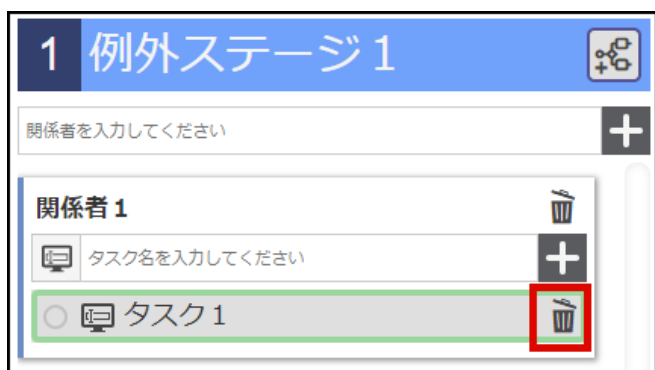
ステージ詳細から、それぞれのステージの関係者のタスクの名前を入力し  をクリックすることにより追加されます。

追加されたタスクは関係者の配下に表示されます。



図：「ステージ詳細」

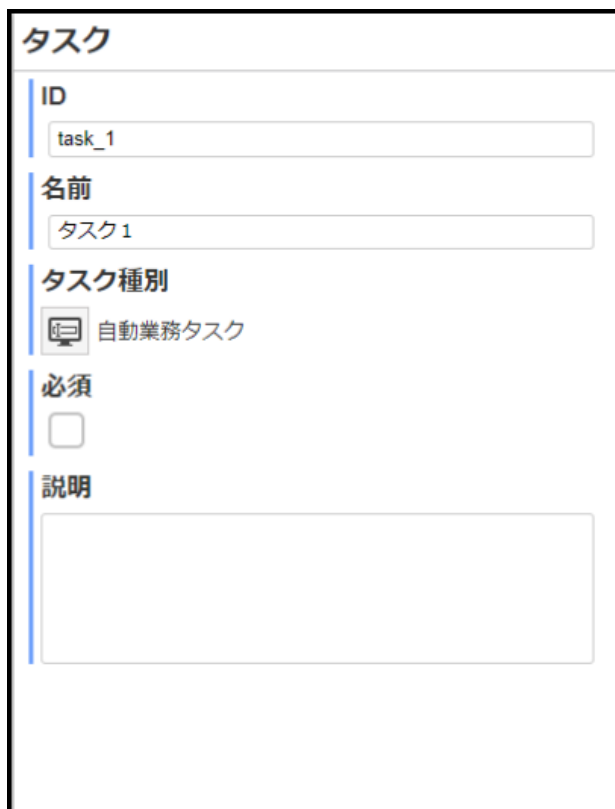
削除する場合はタスクの、  をクリックすることにより削除されます。



図：「ステージ詳細」

プロパティ

ステージ詳細でプロパティを編集したいタスクを選択しプロパティを表示します。



図：「プロパティエリア」

項目名	入力形式	説明
ID	任意の文字列を設定します。 英数字と一部の記号のみ使用できます。	要素を一意に特定するためのIDを設定します。
名前	任意の文字列を設定します。	タスクの名前を設定します。
タスク種別	アイコンから選択します。	以下の種別から選択します。  自動業務タスク  自動処理タスク  業務タスク  別ケース開始
必須		チェックを入れた場合、必須のタスクとして扱われます。 チェックを入れない場合、オプションなタスクとして扱われます。
説明	任意の文字列を設定します。	タスクについての詳細や備考を記載します。